

富津市

岩坂大台遺跡

1983

千葉県土木部
財團法人 千葉県文化財センター

—内房道路建設に伴う埋蔵文化財調査報告書—

富 津 市

岩坂大台遺跡

1983

千葉県土木部
財團法人 千葉県文化財センター

序 文

富津市内を東西に流れる湊川は、蛇行をくり返しながら小支谷を形成して東京湾に注いでいますが、その流域は、自然環境にめぐまれ、先土器時代から歴史時代の遺跡が数多く所在しています。特に流域の右岸一帯には、横穴群が多く分布し、その数は230基以上に及んでおりますが、その中には線刻の帆船の描かれていることで著名な県指定史跡大満横穴群も所在しております。

房総半島の南端に近く、東京湾に接しているこの地域は、京葉臨海工業地帯の南端に近いことなどから、千葉県では、道路網整備の一環として内房道路の建設を計画しました。

そこで、千葉県教育委員会では、道路予定地内に所在する埋蔵文化財の取扱いについて、千葉県土木部道路建設課をはじめとする関係諸機関と協議を重ねてまいりました。

その結果、予定地内の遺跡について、やむを得ず記録保存の措置を講じることとなりました。記録保存に当たっては、財団法人千葉県文化財センターが調査機関の指定を受け、昭和56年4月1日より10月31日まで調査を実施しました。

調査の結果、先土器時代の縄文、弥生時代の集落跡、歴史時代の火葬墓等を検出し、当地域における原始・古代文化の一端を明らかにすることができます。

このたび、その発掘成果を報告書「岩坂大台遺跡」として刊行するに当たり、本書が学術資料としてはもとより教育資料としても活用され、文化財保護思想の普及に貢献できればと、願ってやみません。

終りに当たり、発掘調査から報告書刊行まで種々ご指導をいただいた千葉県教育委員会をはじめ、千葉県土木部道路建設課、地元関係機関等各位のご協力にお礼申し上げるとともに、調査に協力された調査補助員の皆様に心からの謝意を表します。

昭和58年3月

財団法人 千葉県文化財センター

理事長 今井 正

第1表 報告遺構名と調査時遺構コードの対照

| 報告遺構名 | 第1号住居址 | 第2号住居址 | 第3号住居址 | 第4号住居址 | 第5号住居址 | 第6号住居址 | 第7号住居址 | 第8号住居址 |
|-------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 報告遺構名 | D-001 | D-002 | D-003 | D-004 | D-005 | D-006 | D-007 | D-008 |
| 報告遺構名 | 第9号住居址 | 第10号住居址 | 第11号住居址 | 第12号住居址 | 第13号住居址 | 第14号住居址 | 第15号住居址 | 第16号住居址 |
| 報告遺構名 | D-009 | D-010 | D-011 | D-012 | D-013 | D-014 | D-015 | D-016 |
| 報告遺構名 | 1号土塙 | 2号土塙 | 大台1号塙 | 1号火葬墓 | 2号火葬墓 | 3号火葬墓 | 4号火葬墓 | 5号火葬墓 |
| 報告遺構名 | P-001 | P-002 | M-001 | P-003 | S-001 | S-002 | S-005 | S-006 |
| 報告遺構名 | 7号火葬墓 | 8号火葬墓 | | | | | | |
| 報告遺構名 | S-003 | S-004 | | | | | | |

例　　言

1. 本書は、千葉県土木部道路建設課による内房道路建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
2. 本書に所収される内容は、富津市岩坂 440 番地他に所在する岩坂大台遺跡（遺跡コード番号 226-001・調査時岩坂遺跡より改称）についての資料報告である。同時に調査した町田遺跡（遺跡コード番号 226-002・調査時木村遺跡より改称）は付として所収した。
3. 発掘調査は、千葉県土木部道路建設課の依頼をうけ、千葉県教育委員会の要請と指導のもとに、財団法人千葉県文化財センターが実施した。調査は昭和56年4月1日から昭和56年10月31日まで実施し、整理を昭和56年11月1日から昭和57年6月30日まで行った。
4. 調査は、次の組織により実施した。

調査部長　白石竹雄

部長補佐　中山吉秀（56. 4. 1～57. 3. 31）

〃　天野　努（57. 4. 1～

班長　山田常雄（56. 4. 1～57. 3. 31）

〃　阪田正一（57. 4. 1～

調査研究員　大原正義

〃　川島利道（56. 4. 1～57. 3. 31）

5. 整理作業は、大原・川島が行った。

6. 本書の執筆は、大原・川島が行いその分担は以下のとおりである。

大原　I章、II章—第1・2・4節、III章—第2～5節、V章—第2・3節

川島　II章—第3節、III章—第1節、V章—第1節

7. 本書における遺構名と、現地における遺構コード番号については、第1表によって対照を示した。
8. 発掘調査から本書の刊行に至るまで、千葉県教育庁文化課・千葉県土木部道路建設課・天羽支所の関係者各位をはじめとして、多くの方々から御指導・御助言をいただいたことに深く謝意を表します。

目 次

序 文
例 言
目 次

| | |
|-----------------|-----|
| I 章 調査の経過と方法 | 1 |
| 第1節 調査に至る経緯 | 1 |
| 第2節 調査の方法 | 1 |
| 第3節 調査の経過 | 3 |
| II 章 遺跡とその環境 | 4 |
| 第1節 遺跡の位置と自然環境 | 4 |
| 第2節 歴史的環境 | 4 |
| 第3節 遺跡の概要 | 8 |
| 第4節 層 序 | 10 |
| III 章 遺構と遺物 | 11 |
| 第1節 先土器時代の遺構と遺物 | 11 |
| 第2節 縄文時代の遺物 | 35 |
| 第3節 弥生時代の遺構と遺物 | 37 |
| 第4節 大台一号墳 | 99 |
| 第5節 歴史時代の遺構と遺物 | 100 |
| IV 章 自然科学的調査 | 107 |
| 第1節 鉱物分析 | 107 |
| 第2節 花粉分析 | 115 |
| V 章 結 章 | 121 |
| 第1節 先土器時代に関して | 121 |
| 第2節 弥生時代に関して | 137 |
| 第3節 古墳・歴史時代に関して | 139 |
| 付 町田遺跡の調査 | 141 |
| 参考文献 | 142 |
| Summary | 143 |

表 目 次

| | |
|--------------------------|-----------|
| 第1表 報告遺構名と調査時遺構コードの対照 | |
| 第2表 周辺遺跡一覧表 | 6 |
| 第3表 先土器時代石器一覧 | 25 |
| 第4表 碓群構成礫一覧 | 26 |
| 第5表 碓群構成礫個別資料一覧 | 34 |
| 第6表 岩坂大台遺跡鉱物分析結果 | 108 |
| 第7表 花粉分析試料の層位と花粉胞子化石産出傾向 | 116 |
| 第8表 岩坂大台遺跡花粉分析結果 | 119 |

挿図目次

| | |
|------------------------------|----------|
| 第1図 遺跡周辺の地形と発掘区の設定 | 2 |
| 第2図 小グリッド分割図 | 3 |
| 第3図 先土器時代確認調査 | 3 |
| 第4図 遺跡の位置と周辺遺跡 | 5 |
| 第5図 遺構分布図 | 9 |
| 第6図 土層柱状図 | 10 |
| 第7図 先土器時代ブロック分布図 | 11 |
| 第8図 Aブロック（第1礫群）分布図 | 12 |
| 第9図 先土器時代石器(1) Aブロック1 a～1 c | 14 |
| 第10図 先土器時代石器(2) Aブロック1接合図 | 15 |
| 第11図 先土器時代石器(3) Aブロック2 | 16 |
| 第12図 先土器時代石器(4) Aブロック2接合図 | 17 |
| 第13図 先土器時代石器(5) Aブロック3 a～3 b | 18 |
| 第14図 先土器時代石器(6) Aブロック3接合図 | 19 |
| 第15図 先土器時代石器(7) Aブロック4～8 | 20 |
| 第16図 Bブロック（第2礫群）分布図 | 21 |
| 第17図 先土器時代石器(8) Bブロック9・10 | 22 |
| 第18図 A・Bブロック遺物分布図 | 23 |
| 第19図 先土器時代石器(9) その他の石器11～13 | 24 |

| | | |
|------|---------------------|----|
| 第20図 | 縄文時代の土器(1) | 35 |
| 第21図 | 縄文時代の土器(2) | 36 |
| 第22図 | 弥生時代の遺構分布図 | 37 |
| 第23図 | 第1号住居址実測図 | 38 |
| 第24図 | 第1号住居址遺物の出土状態 | 39 |
| 第25図 | 第1号住居址出土遺物 | 40 |
| 第26図 | 第2号住居址実測図 | 41 |
| 第27図 | 第2号住居址炉址実測図 | 42 |
| 第28図 | 第2号住居址出土遺物 | 42 |
| 第29図 | 第3号住居址実測図 | 43 |
| 第30図 | 第3号住居址遺物の出土状態 | 43 |
| 第31図 | 第3号住居址出土遺物 | 44 |
| 第32図 | 第4号住居址実測図 | 46 |
| 第33図 | 第4号住居址遺物の出土状態(1) | 47 |
| 第34図 | 第4号住居址遺物の出土状態(2) | 48 |
| 第35図 | 第4号住居址遺物の出土状態(3) | 49 |
| 第36図 | 第4号住居址出土遺物(1) | 50 |
| 第37図 | 第4号住居址出土遺物(2) | 51 |
| 第38図 | 第5号住居址実測図 | 53 |
| 第39図 | 第5号住居址遺物の出土状態 | 53 |
| 第40図 | 第5号住居址出土遺物(1) | 54 |
| 第41図 | 第5号住居址出土遺物(2) | 55 |
| 第42図 | 第6号住居址実測図および遺物の出土状態 | 57 |
| 第43図 | 第6号住居址炉址実測図 | 57 |
| 第44図 | 第6号住居址遺物の出土状態 | 58 |
| 第45図 | 第6号住居址出土遺物 | 58 |
| 第46図 | 第7号住居址実測図 | 60 |
| 第47図 | 第7号住居址炉址実測図 | 60 |
| 第48図 | 第7号住居址遺物の出土状態 | 61 |
| 第49図 | 第7号住居址出土遺物(1) | 62 |
| 第50図 | 第7号住居址出土遺物(2) | 63 |
| 第51図 | 第8号住居址実測図 | 65 |
| 第52図 | 第8号住居址炉址実測図 | 65 |
| 第53図 | 第8号住居址遺物の出土状態(1) | 66 |
| 第54図 | 第8号住居址遺物の出土状態(2) | 67 |

| | | |
|------|---------------------------|----|
| 第55図 | 第8号住居址出土遺物(1)..... | 68 |
| 第56図 | 第8号住居址出土遺物(2)..... | 69 |
| 第57図 | 第9号住居址実測図..... | 70 |
| 第58図 | 第9号住居址遺物の出土状態..... | 71 |
| 第59図 | 第9号住居址出土遺物..... | 72 |
| 第60図 | 第10号住居址実測図および遺物の出土状態..... | 74 |
| 第61図 | 第10号住居址出土遺物..... | 75 |
| 第62図 | 第11号住居址実測図..... | 75 |
| 第63図 | 第11号住居址遺物の出土状態..... | 76 |
| 第64図 | 第11号住居址出土遺物..... | 76 |
| 第65図 | 第12号住居址実測図..... | 78 |
| 第66図 | 第12号住居址遺物の出土状態(1)..... | 79 |
| 第67図 | 第12号住居址遺物の出土状態(2)..... | 80 |
| 第68図 | 第12号住居址遺物の出土状態(3)..... | 81 |
| 第69図 | 第12号住居址遺物の出土状態(4)..... | 82 |
| 第70図 | 第12号住居址遺物の出土状態(5)..... | 83 |
| 第71図 | 第12号住居址出土遺物(1)..... | 84 |
| 第72図 | 第12号住居址出土遺物(2)..... | 85 |
| 第73図 | 第12号住居址出土遺物(3)..... | 86 |
| 第74図 | 第13号住居址実測図..... | 89 |
| 第75図 | 第13号住居址遺物の出土状態..... | 90 |
| 第76図 | 第13号住居址出土遺物..... | 91 |
| 第77図 | 第14号住居址実測図..... | 93 |
| 第78図 | 第15号住居址実測図および遺物の出土状態..... | 94 |
| 第79図 | 第15号住居址出土遺物..... | 95 |
| 第80図 | 第16号住居址実測図..... | 96 |
| 第81図 | 第16号住居址遺物の出土状態..... | 96 |
| 第82図 | 第16号住居址出土遺物..... | 97 |
| 第83図 | 1号土塁実測図..... | 98 |
| 第84図 | 2号土塁実測図..... | 98 |
| 第85図 | 大台1号墳出土遺物..... | 99 |
| 第86図 | 大台1号墳周溝実測図..... | 99 |

| | | |
|-------|------------------|-----|
| 第87図 | 火葬墓分布図 | 100 |
| 第88図 | 1号火葬墓実測図 | 101 |
| 第89図 | 1号火葬墓骨蔵器 | 102 |
| 第90図 | 2号火葬墓実測図 | 103 |
| 第91図 | 2号火葬墓骨蔵器 | 103 |
| 第92図 | 3号火葬墓実測図 | 104 |
| 第93図 | 3号火葬墓骨蔵器 | 104 |
| 第94図 | 4号火葬墓実測図 | 105 |
| 第95図 | 5号火葬墓実測図 | 105 |
| 第96図 | 6号火葬墓実測図 | 105 |
| 第97図 | 7号火葬墓実測図 | 105 |
| 第98図 | 8号火葬墓実測図 | 106 |
| 第99図 | 岩坂大台遺跡鉱物分析組成図 | 112 |
| 第100図 | 花粉分析サンプル採取位置図 | 116 |
| 第101図 | 岩坂大台遺跡花粉分析ダイアグラム | 116 |
| 第102図 | 礫群構成礫の大きさ | 123 |
| 第103図 | 礫群構成礫の重量 | 124 |
| 第104図 | 礫群構成礫の礫面状態 | 125 |
| 第105図 | 個体別遺存状態 | 125 |
| 第106図 | 第1礫群構成礫の遺存状態別分布図 | 126 |
| 第107図 | 第2礫群構成礫の遺存状態別分布図 | 127 |
| 第108図 | 第1礫群内接合礫分布図 | 128 |
| 第109図 | 第2礫群内接合礫分布図 | 129 |
| 第110図 | 礫群間接合礫分布図 | 130 |
| 第111図 | 礫群構成資料番号1の分布 | 131 |
| 第112図 | 礫群構成資料番号2の分布 | 132 |
| 第113図 | 礫群構成資料番号3の分布 | 133 |
| 第114図 | 礫群構成資料番号4の分布 | 134 |
| 第115図 | 礫群構成資料番号5の分布 | 135 |
| 第116図 | 礫群構成資料番号6、7、8の分布 | 136 |
| 第117図 | 町田遺跡の位置 | 141 |

図版目次

岩坂大台遺跡

- 図版 一 遺跡 岩坂大台遺跡と周辺の航空写真 (1/13,000・千葉日報社提供)
- 図版 二 遺跡 A 岩坂大台遺跡周辺の航空写真 (1/6,500・千葉日報社提供)
B 遺跡遠景 (南方より)
- 図版 三 遺跡 A 層序
B 調査風景
- 図版 四 先土器時代の遺構(1) A Aブロック (第1礫群) 出土状態
B Aブロック (第1礫群) 出土状態 (南より)
C Aブロック (第1礫群) 出土状態 (部分)
- 図版 五 先土器時代の遺構(2) A Bブロック (第2礫群) 出土状態
B Bブロック (第2礫群) 出土状態 (南より)
C Bブロック (第2礫群) 出土状態 (部分)
- 図版 六 先土器時代の石器
- 図版 七 弥生時代の遺構(1) A 第1・2・3号住居址
B 第1号住居址全景
- 図版 八 弥生時代の遺構(2) A 第1号住居址遺物出土状態
B 第1号住居址遺物出土状態
C 第1号住居址遺物出土状態
- 図版 九 弥生時代の遺構(3) A 第2号住居址全景
B 第3号住居址全景
- 図版 十 弥生時代の遺構(4) A 第4号住居址全景
B 第5号住居址全景
- 図版 十一 弥生時代の遺構(5) A 第5号住居址遺物出土状況
B 第5号住居址遺物出土状況
- 図版 十二 弥生時代の遺構(6) A 第6号住居址全景
B 第6号住居址炉址土器埋設状況
- 図版 十三 弥生時代の遺構(7) A 第7号住居址全景
B 柱穴内遺物出土状況
- 図版 十四 弥生時代の遺構(8) A 第8・9号住居址

| | |
|-------------------|-------------------------------------|
| | B 第8号住居址全景 |
| 図版十五 弥生時代の遺構(9) | A 第9号住居址全景 |
| | B 第10号住居址全景 |
| 図版十六 弥生時代の遺構(10) | A 第11号住居址全景 |
| | B 第12号住居址全景 |
| 図版十七 弥生時代の遺構(11) | A 第12号住居址遺物出土状況 |
| | B 第12号住居址遺物出土状況 |
| 図版十八 弥生時代の遺構(12) | A 第9・13・14・16号住居址 |
| | B 第13号住居址全景 |
| 図版十九 弥生時代の遺構(13) | A 第14号住居址全景 |
| | B 第15号住居址全景 |
| 図版二十 弥生時代の遺構(14) | A 第15号住居址遺物出土状況 |
| | B 第16号住居址全景 |
| 図版二十一 弥生時代の遺構(15) | A 1号土塁 |
| | B 2号土塁 |
| 図版二十二 弥生時代の遺物(1) | 1-1、1-2、3-1、4-3、4-4、4-5 |
| 図版二十三 弥生時代の遺物(2) | 4-17、4-19、4-22、5-1、5-2、5-3 |
| 図版二十四 弥生時代の遺物(3) | 5-4、5-5、5-6、5-7、5-10、5-11 |
| 図版二十五 弥生時代の遺物(4) | 6-8、7-1、7-2、7-5、8-3、8-9 |
| 図版二十六 弥生時代の遺物(5) | 8-12、8-13、9-2、9-3、11-2、11-3 |
| 図版二十七 弥生時代の遺物(6) | 12-1、12-2、12-6、12-7、12-14、12-15 |
| 図版二十八 弥生時代の遺物(7) | 12-17、12-19、12-20、12-21、12-23、12-26 |
| 図版二十九 弥生時代の遺物(8) | 12-27、12-28、12-29、12-31、15-1、16-1 |
| 図版三十 弥生時代の遺物(9) | |
| 図版三十一 大台一号墳 | A 大台一号墳全景 |
| | B 周溝断面および遺物出土状況 |
| 図版三十二 歴史時代の遺構(1) | A 1号火葬墓 |
| | B 1号火葬墓 |
| 図版三十三 歴史時代の遺構(2) | A 2号火葬墓 |
| | B 3号火葬墓 |
| 図版三十四 歴史時代の遺構(3) | A 4号火葬墓 |
| | B 5号火葬墓 |
| 図版三十五 歴史時代の遺構(4) | A 7号火葬墓 |

B 8号火葬墓

図版三十六 歴史時代の遺物(骨蔵器) 1-1, 1-2, 2-1, 2-2, 3-1

図版三十七 町田遺跡

A 町田遺跡遠景

B 町田遺跡近景

I 章 調査の経過と方法

第1節 調査に至る経緯

一般国道127号線は、京葉地域から房南地域に通する産業観光上の重要幹線道路であるが、東京湾岸の狭小平地を通るものであるため拡幅も困難であり曲折も激しい。このため近年の増大する交通量に対応できず、しばしば著しい渋滞をきたしている。このため千葉県土木部は、昭和54年に内房道路の建設を計画した。これに伴い、昭和54年5月に千葉県教育文化課に「埋蔵文化財包蔵地の所在の有無及びその取り扱いについて」の照会があった。文化課では、計画路線内の埋蔵文化財包蔵地の所在確認の現地踏査を実施した。

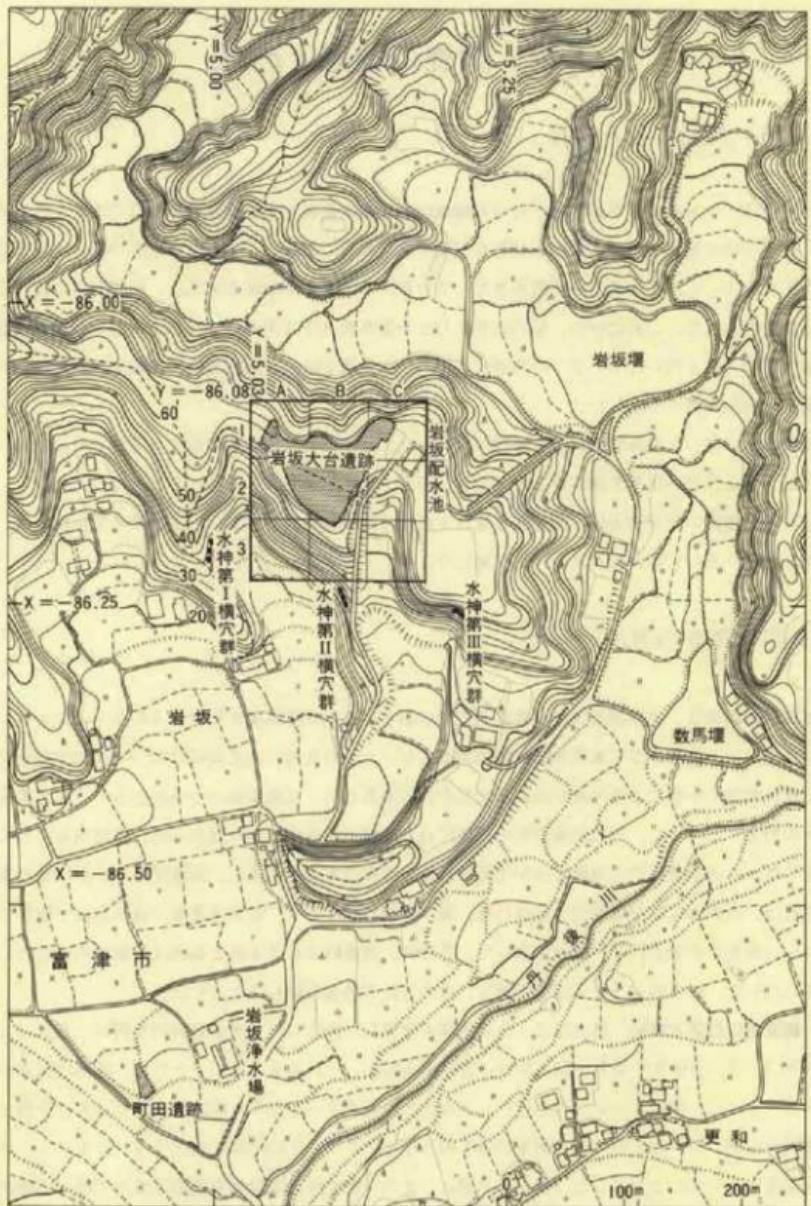
その結果に基づき関係機関による協議が重ねられ、富津市岩坂地区の岩坂大台遺跡と町田遺跡については、記録保存の措置を講ずることとなり、当センターが発掘調査に当たることになった。

岩坂大台遺跡の発掘調査は、昭和56年4月1日から同年10月31日まで、町田遺跡の発掘調査は、昭和56年10月9日から同月16日にかけて実施した。

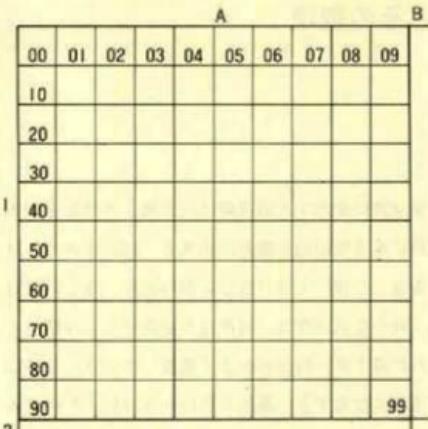
第2節 調査の方法

本遺跡の調査は、道路建設に伴う事前調査ではあるものの丘陵頂部を切断する形をとるために、調査対象地は切り通しとなり東西約80m幅の調査となった。対象地の南北両側は40°～50°の急斜面であり、東西両側も小谷による侵食が進み括れ部を形成するため、丘陵頂部の小平坦面という小地形単位をその対象としていた。対象地南西部の畑地においては土器の小破片が認められ、遺跡内容としては弥生時代から古墳時代の小規模集落が予測されるところであった。また、調査開始時における対象地の状況は、南西部1/4程が畑地で、他は杉林、雜木林、竹林であり、対象地東側の道路断面で観察できるローム面までの深さは60～80cmを測った。さらに、調査時における排土処理は対象地内で行うこととされていた。以上のような条件を考慮し、次の方針で調査を臨むこととした。

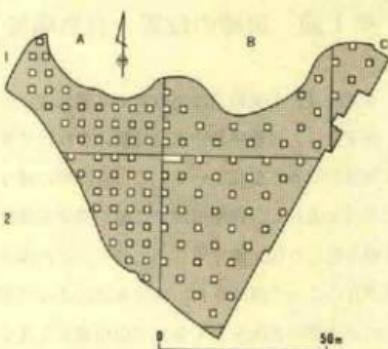
1. 調査区の設定と呼称 調査区は、公共座標を使用して設定した。調査範囲の北西外に基点(X=-8608.0, Y=503.0)を置き、50×50mの方眼網を設定、これを大グリッドとした。呼称は基点から東へA・B・C、南へ1・2・3を付し、さらにこの大グリッドを5m単位の小グリッドに分割し、北西隅から00、01、02と順に付し南東の隅を99とした。グリッドの呼称は大グリッドに小グリッドを組み合せA 1-00のようにした(第1～2図)。また、調査は排土処理を調査区域内で行う必要があったため、東西に分割して実施した。このため、A列の範囲を西区、B・C列の範囲を東区と呼称した。



第1図 遺跡周辺の地形と発掘区の設定(1/5000: 座標系: 第IX系、富津市作成の都市計画基本図に掲る)



第2図 小グリッド分割図



第3図 先土器時代確認調査

2. 発掘の順序 遺跡の大部分が山林でありローム面までの層厚が60~80cmを測ることが予測されたため発掘は以下の順序で行なうこととした。

第Ⅰ段階 調査対象地全域の予備的調査

第Ⅱ段階 東区の調査。〔II a = バックホウによる表土層の削除と上層（縄文時代以降）遺構・遺物の確認（面積の8%）。II b = 上層遺構・遺物の精査。II c = 先土器時代遺構・遺物の確認。II d = 先土器時代遺構・遺物の精査〕

第Ⅲ段階 西区の調査（第Ⅱ段階と同じ）。

3. 遺物の取りあげ 遺構内遺物および第Ⅲ層以下の遺物については、その全てを平面的位置（原則として%）とレベルを記録し収納する。I・II層の遺物については適宜範囲を区切って一括収納する。

4. 遺構・遺物番号 遺構番号は、住居址にはD、土壤にはP、溝にはM、石樋にはSを付して、原則として東から西へD-001、D-002のようにする。遺物番号は、各遺構および先土器時代の調査と遺構外の土器片の分布においては小グリッドを単位として0001から順次付して取りあげることとした（なお、この番号は遺物台帳・遺物への註記等で使用しており、本報告記載の遺構名と遺構番号の対照は第1表のとおりである。）。

第3節 調査の経過

昭和56年度事業として実施された発掘作業は、器材調達・調査補助員の募集等の諸準備を経て、4月20日に直接的な作業に着手し、10月31日に現地事務所の撤去を完了した。整理作業は、11月1日から昭和57年6月30日の期間をもって実施した。

II章 遺跡とその環境

第1節 遺跡の位置と自然環境

本遺跡は、千葉県富津市岩坂440番地他に所在する。

富津市は、房総半島の東京湾側の中程に位置し、東京湾に突出する富津岬は内湾部と外湾部を画する地理的境界となっている。この富津岬に連なり東西に走る鬼泪山・鹿野山山塊と、巣山山塊の間に間湊川が流れる。富津市関豊に源を発する湊川は、南流した後、上後付近から西へ流れ、激しい蛇行を繰り返した後、湊で東京湾に注ぐ。この湊川に沿う狭小な低地帯は、河岸段丘や部分的な沖積地と独立丘によって構成され、縄文海進によって形成された沼Ⅰ面の段丘面がよく発達している。遺跡はこの低地部の北側を画する鬼泪山山塊から連な丘陵頂部に位置する。湊川の河口からは約1.5kmである。遺跡の立地する丘陵は、北側も湊川の支流である丹後川によって開拓されコの字形に尾根が走るが、この尾根も南北から侵食され括れ部を形成している。遺跡は、この括れ部に挟まれた東西100m南北60mほどの丘頂平坦面を占めており、低地部との比高差は25~30mを測る。南・北いずれの斜面も急傾斜であるが、特に北側斜面は傾斜がきつく、現在の侵食も盛んである。

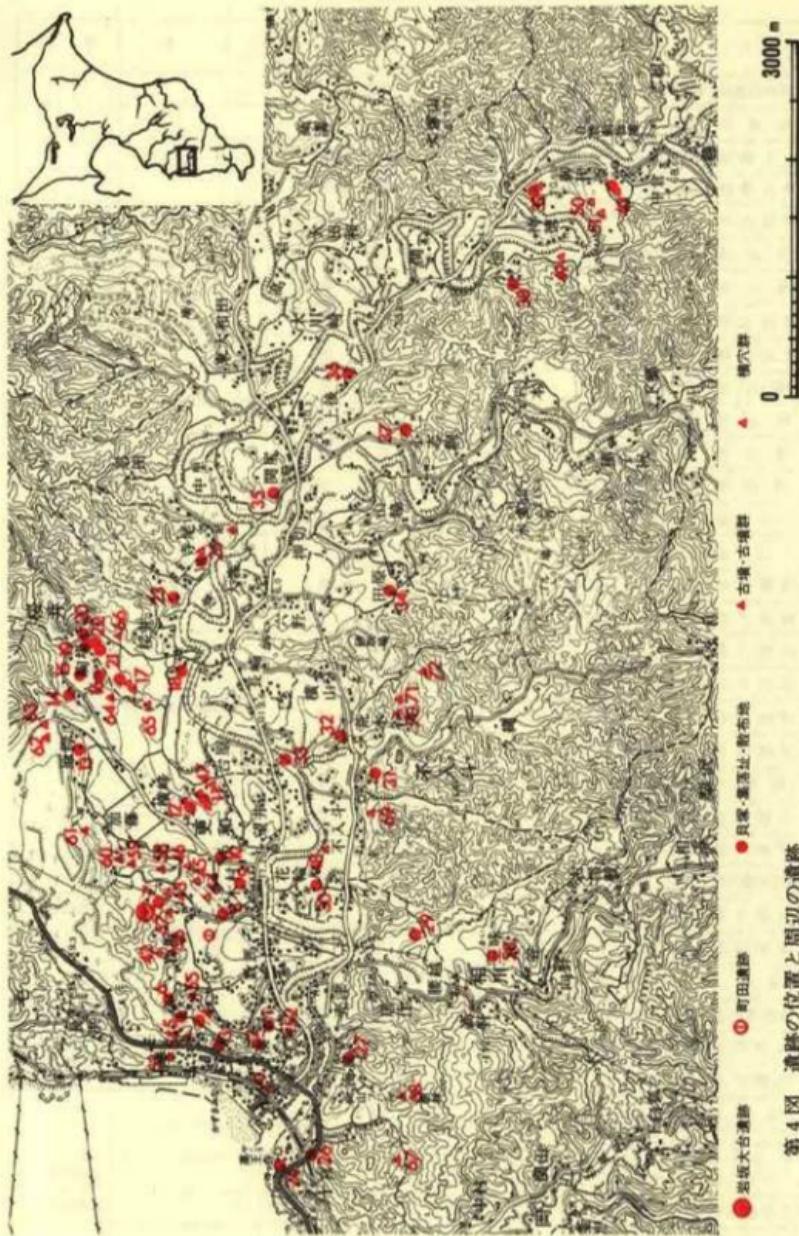
第2節 歴史的環境

本遺跡の所在する湊川流域においては、いままでに100ヶ所近くの遺跡が確認されており、そのいくつかは調査され、報告されている。

先土器時代については、天羽中学校建設に際し、その校庭部分において地点を異にし、校庭北端の台遺跡でナイフ形石器が、西端東天王台遺跡でポイントが検出されている（鈴木1976、内野1982）。本遺跡から西へ約800mしか離れておらず、湊川の沖積地に面した同一丘陵上に立地する遺跡である。

縄文時代になると確認されている遺跡の数も増し、貝塚も3ヶ所ある。そのうち豊富な骨角器が出土した富士見台貝塚（相山・金子1972）と十宮貝塚は、湊川河口の両岸に位置し、後晩期をその主体とする。湊川の河口から約4kmの位置にある不入斗貝塚には早期～中期の遺物が認められる。

また、弥生時代になると、白坂遺跡（野中1982）において宮の台期の住居址5軒が検出されており、本遺跡の主要な時期である弥生後期の遺跡としては、本遺跡と同一の丘陵尾根上の平坦面に立地する東天王台遺跡・富士見台遺跡と、湊川を隔てて位置する天神台遺跡において住居址が検出されている。この地域における弥生時代の一般的な聚落は、こうした丘陵尾根の標高30~60mの平坦部に立地していることが推測される。しかし、町田遺跡や下北原遺跡などの沖積段丘面においても弥生時代の遺物は認められており、沖積低地への進出の徵候がうかがえる。



第4図 道路の位置と周辺の遺跡

—この地図は国土地理院発行の5万分の1地図(富津)を使用したものである。—

周辺遺跡一覧表

第2表

| 番号 | 遺跡名 | 所在地 | 種別 | 時代 | 文 獻 | 備 考 |
|----|---------|---------|-----------|-------|--------------------|-------|
| 37 | 開尻天神台遺跡 | 開尻字天神台 | 貝 塚 | 縄文・弥生 | | |
| 38 | 小畠 遺跡 | 豊岡小畠 | 散布地 | 縄 文 | | |
| 39 | 塚ノ上 遺跡 | 御代原字塚ノ上 | 散布地・古墳(円) | 縄文・古墳 | | |
| 40 | 鳥井台 遺跡 | 豊岡字鳥井台 | * | 縄文・古墳 | | |
| 41 | 神明様 古墳 | 漆字仲町 | 古 墳(円) | 古 墳 | | |
| 42 | 大溝 古墳 | 岩坂字大溝 | * | 古 墳 | | |
| 43 | 水神 古墳 | 岩坂字水神 | * | 古 墳 | | |
| 44 | 祖宮原 古墳 | 更和字祖宮原 | 古 墳(円) | 古 墳 | | |
| 45 | 上北原 古墳 | 更和字上北原 | * | 古 墳 | | |
| 46 | 塚田 古墳 | 更和字塚田 | * | 古 墳 | | |
| 47 | 台原 古墳 | 台原字下横根原 | * | 古 墳 | | |
| 48 | 日渡 古墳 | 不入斗字日渡 | * | 古 墳 | | |
| 49 | 向田 古墳 | 豊岡字向田 | 古 墳(円) | 古 墳 | | |
| 50 | 中ノ台 古墳 | 豊岡字中ノ台 | * | 古 墳 | | 消滅 |
| 51 | 中ノ台 古墳 | 豊岡字中ノ台 | 古 墳 | 古 墳 | | 消滅 |
| 52 | 君井横穴群 | 數馬字君井 | 横 穴 | 古 墳 | | 7基以上 |
| 53 | 岩崎横穴群 | 漆字岩崎 | * | 古 墓 | | 2基以上 |
| 54 | 山崎横穴群 | 漆字山崎 | * | 古 墓 | | 20基以上 |
| 55 | 白坂横穴群 | 岩坂字白坂 | * | 古 墓 | | 12基以上 |
| 56 | 大溝横穴群 | 岩坂字大溝 | 横 穴 | 古 墓 | 岩坂大溝横穴群調査団 1973 | 58基以上 |
| 57 | 水神横穴群 | 岩坂字水神 | * | 古 墓 | | 8基以上 |
| 58 | 森脇横穴 | 加藤字森脇 | * | 古 墓 | | |
| 59 | 入山横穴群 | 加藤字入山 | * | 古 墓 | | 8基以上 |
| 60 | 崩下横穴群 | 加藤字崩下 | * | 古 墓 | | 7基以上 |
| 61 | 本兼寺裏横穴群 | 加藤字滝ノ谷 | * | 古 墓 | | 3基以上 |
| 62 | 砂坂横穴群 | 加藤字砂坂 | 横 穴 | 古 墓 | 高橋・渡辺1972 | 15基以上 |
| 63 | 西山横穴群 | 加藤字西山 | * | 古 墓 | 西山横穴群発掘 調査団1977 | 46基以上 |
| 64 | 小堀横穴 | 桜井字小堀 | * | 古 墓 | | |
| 65 | 牛鳴瀬横穴群 | 桜井字牛鳴瀬 | 横 穴 | 古 墓 | | 9基以上 |
| 66 | 飛谷横穴群 | 桜井字飛谷 | * | 古 墓 | | 3基以上 |
| 67 | 小芝横穴群 | 海良字小芝 | * | 古 墓 | | 2基以上 |
| 68 | 大山横穴 | 海良字大山 | * | 古 墓 | | |
| 69 | 赤ヶ谷横穴 | 不入斗字赤ヶ谷 | * | 古 墓 | | |
| 70 | 谷1号横穴群 | 不入斗字谷 | 横 穴 | 古 墓 | | 3基以上 |
| 71 | 谷2号横穴群 | 不入斗字谷 | * | 古 墓 | | 6基以上 |
| 72 | 谷3号横穴群 | 不入斗字谷 | * | 古 墓 | | |

第2表

周辺遺跡一覧表

| 番号 | 遺跡名 | 所在地 | 種別 | 時代 | 文献 | 備考 |
|----|--------|--------|-------------|-------------|----------|---------|
| 1 | 岩井遺跡 | 數馬字岩井 | 散布地 | 绳文 | | |
| 2 | 富士見台遺跡 | 澤字富士見台 | 貝塚聚落址 | 縄文・弥生・古墳・奈良 | 柏山金子1972 | |
| 3 | 天王台遺跡 | 澤字天王台 | 聚落址 | 弥生・奈良 | | |
| 4 | 東天王台遺跡 | 澤字東天王台 | 散布地 | 弥生・奈良 | | |
| 5 | 台遺跡 | 君坂字台 | * | 弥生・古墳・古代 | | |
| 6 | 白坂遺跡 | 君坂字白坂 | 聚落址 | 縄文・弥生 | | |
| 7 | 大台2号遺跡 | 君坂字大台 | 散布地 | 縄文・弥生・古墳・奈良 | | |
| 8 | 下北原遺跡 | 更和字下北原 | * | 弥生・奈良 | | |
| 9 | 丹後遺跡 | 更和字丹後 | * | 奈良 | | |
| 10 | 舟山遺跡 | 更和字舟山 | * | 縄文・奈良 | | |
| 11 | 高山遺跡 | 更和字高山 | 散布地・古墳(円)櫛穴 | 弥生・古墳・奈良 | | 櫛穴16基以上 |
| 12 | 横峰遺跡 | 更和字横峰他 | 散布地・古墳(円) | 古墳・奈良 | | |
| 13 | 加藤遺跡 | 加藤字深田 | 散布地 | 縄文 | | |
| 14 | 田十遺跡 | 桜井字田十 | * | 縄文・奈良 | | |
| 15 | 駒場3号遺跡 | 桜井字駒場 | 聚落址 | 縄文 | | |
| 16 | 桜井7号遺跡 | 桜井字桜井戸 | 散布地 | 奈良 | | |
| 17 | 児々墓遺跡 | 桜井字見々墓 | 散布地古墳(円)櫛穴 | 縄文・古墳 | | 櫛穴18基以上 |
| 18 | 西ノ台遺跡 | 桜井字西ノ台 | 散布地 | 弥生 | | |
| 19 | 駒場2号遺跡 | 桜井字駒場 | * | 奈良 | | |
| 20 | 駒場1号遺跡 | 桜井字駒場 | * | 奈良 | | |
| 21 | 桜井3号遺跡 | 桜井字ハサマ | 散布地 | 奈良 | | |
| 22 | 桜井2号遺跡 | 桜井字瓶之内 | * | 縄文 | | |
| 23 | 上ノ台遺跡 | 寺尾字上ノ台 | * | 縄文 | | |
| 24 | 十宮貝塚 | 竹岡字十宮 | 貝塚 | 縄文 | | |
| 25 | 宮花輪貝塚 | 竹岡字宮花輪 | 散布地・古墳(円) | 古墳・奈良 | | |
| 26 | 橋本遺跡 | 海良字橋本 | 散布地 | 縄文・古墳 | | |
| 27 | 天神台遺跡 | 海良字天神台 | 聚落址 | 縄文・弥生 | | |
| 28 | 三映遺跡 | 相川字三映 | 散布地 | 縄文 | | |
| 29 | 間谷遺跡 | 相川字間谷 | * | 縄文・古墳 | | |
| 30 | 花輪遺跡 | 花輪字川沼 | * | 奈良 | | |
| 31 | 荒木台遺跡 | 不入斗荒木谷 | 散布地 | 縄文・弥生 | | |
| 32 | 不入斗貝塚 | 不入斗 | 貝塚 | 縄文 | | |
| 33 | 横山* | 横山字作谷 | * | 縄文・奈良 | | |
| 34 | 野原台* | 田原字野原台 | * | 縄文 | | |
| 35 | 常城* | 開尻字常城 | * | 縄文 | | |
| 36 | 要害* | 上後字要害 | * | 縄文 | | |

古墳時代における当地域の特徴は、32群230基以上にのぼる横穴群の存在である。帆船の線刻画のあることで著名な大溝横穴群（県指定史跡・岩坂大溝横穴調査団1973）をはじめとして、そのほとんどが湊川北岸の沖積地に面した丘陵および洪積段丘の南側斜面に位置する。岩坂地区は、特にその数の集中する地域であり、本遺跡の立地する平坦面の南斜面にも水神横穴I・II・III群が位置する（第1図）。特にI号横穴群1号横穴には、大溝横穴群にみられるような帆船の線刻画が認められる。

なお、古墳時代以降の集落址はいまのところ確実な発見はないが、弥生時代とは異った立地が考えられ、あるいは現在の水田面等の低地にあるのかもしれない。

第3節 遺跡の概要

調査開始時においては、その南西部16%程の畠地に認められた土器片から、弥生時代から古墳時代にかけての小規模集落址を予測していたが、調査の結果、先土器時代から歴史時代に至る遺跡であることが明らかとなった。

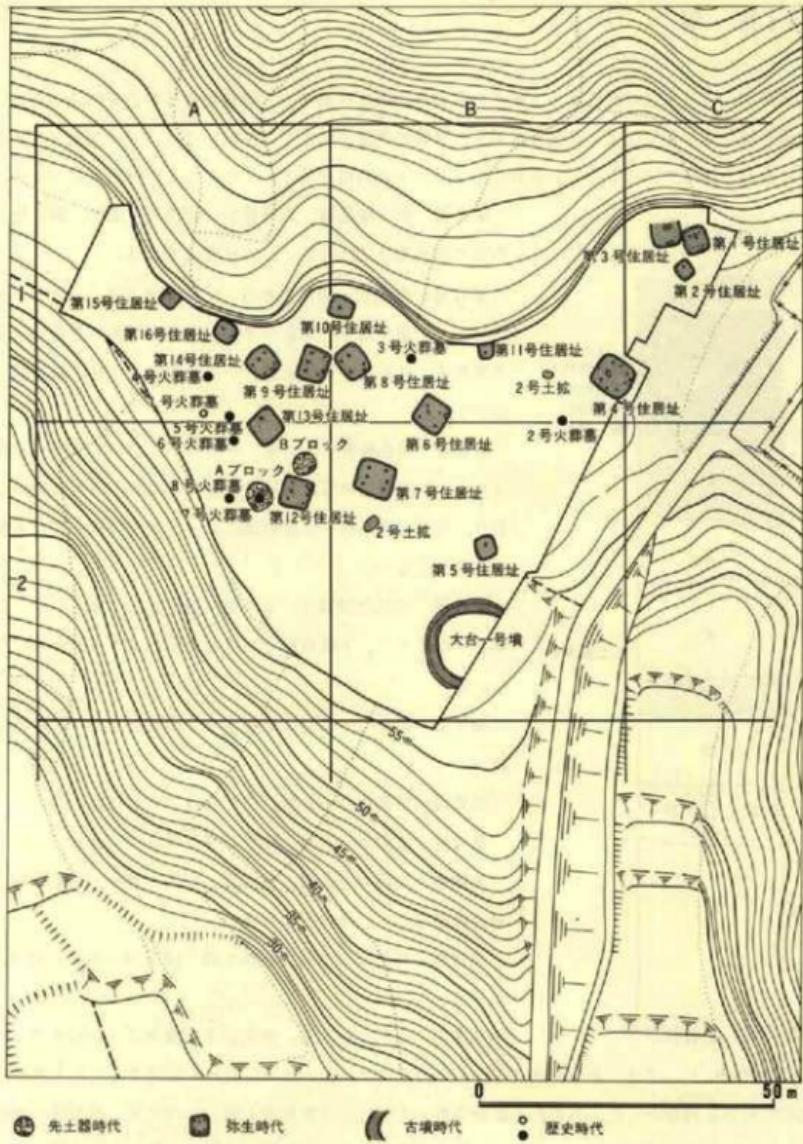
先土器時代としては、遺跡南西部第V層において、2つのブロックが検出された。各ブロックは礫群と少量の石器類によって構成され、径5m程の範囲を占め、約12mの距離に位置した。ブロック間の礫群には、接合関係が認められ、総点数324点、総重量33kgと、礫群の検出例の少ない千葉県下にあっては、最も大規模な礫群が検出された。2つのブロックから検出された石器は、数は少ないながらナイフ形石器・角錐状石器・スクレイバー・ハンマーストーンと一応の器種を揃えている。下総台地に比べて、著しく調査例の少ない房総丘陵部の先土器時代遺構の貴重な調査となった。

縄文時代としては、遺構は検出されず、縄文早前期の若干量の土器を検出したにとどまった。

弥生時代としては16軒の住居址と2基の土塙を検出した。いずれも弥生時代終末期の遺構であり、小地形単位をほぼ完掘しているところから、弥生時代終末期の小集落の構成を明らかにし得た。

古墳時代としては、大台一号墳が周溝のみながら検出された。径15.5mを測る、2m前後の周溝のみが検出されただけで、墳丘、主体部は認められなかった。遺物としても、周溝内覆土から鉄鏃が1点検出されたのみである。

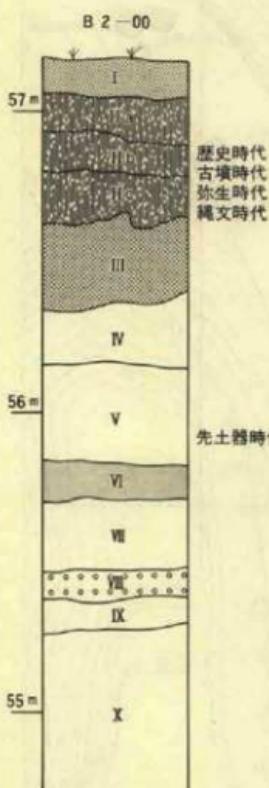
歴史時代としては、8基の火葬墓が検出された。1基は長胴の腰形土器が2個並んで正置されたもので、他の7基は石櫃を使用したものである。石櫃は、2基がその全体を残すものの他の5基は耕作等によりそのほとんどを失ない残欠として確認されたものである。石櫃内には火葬骨の小破片が残されていたものの副葬品等はない。しかし、腰形土器の年代からすると8世紀後半に比定できるものであり、この地域における横穴群と時期的には一部重なるものであり、合計8基というまとまった数とともに貴重な例といえよう。



第5図 遺構分布図 (1/1000)

第4節 層序

本遺跡は、南北を急斜面によって区切られる小平坦面に占地する。調査地自体も若干の傾斜を持つものの層序は全体としてはよく連続しており、II層の発達の変化などを除いてはほぼ一様にとらえることができる。遺跡のほぼ中心である B2-00 ブリッドの西壁を例として示し、その特徴を述べたい。



第6図 土層柱状図

第I層 表土擾乱層。黄褐色から暗褐色を呈す。調査地の南西部の畠地部分では明るく、山林部分では暗い。

第II層 黒褐色～暗褐色土層。山林部分では、a・b・cに細分でき、III aはやや明るい黒褐色土 II bは最も黒色味の強い黒褐色土。II cは暗褐色土層。一部の住居址はII c層上面で確認できた。

第III層 褐色軟質ローム層。III層以下についてはローム質ではあるが、下総台地等におけるロームとは若干様相を異にしており、以下の層名は、下総台地において通常使用している層名とは対応しない。

第IV層 暗褐色硬質ローム。第III層に比して硬くしまっているということで、下総台地におけるIV層のように硬いものではない。

第V層 褐色ローム層。IV層よりやや軟質であり、色調は明るい。

第VI層 暗褐色ローム層。やや軟質であり粘性が強い。

第VII層 褐色ローム層。粘性が強く硬質ローム状。

第VIII層 褐色ローム層。軟砂岩・泥岩を含み、部分的には礫層の様相を示す。砂粒を多く含む。

第IX層 褐色ローム層。粘性が強く硬質ローム状、VII層に類似する。

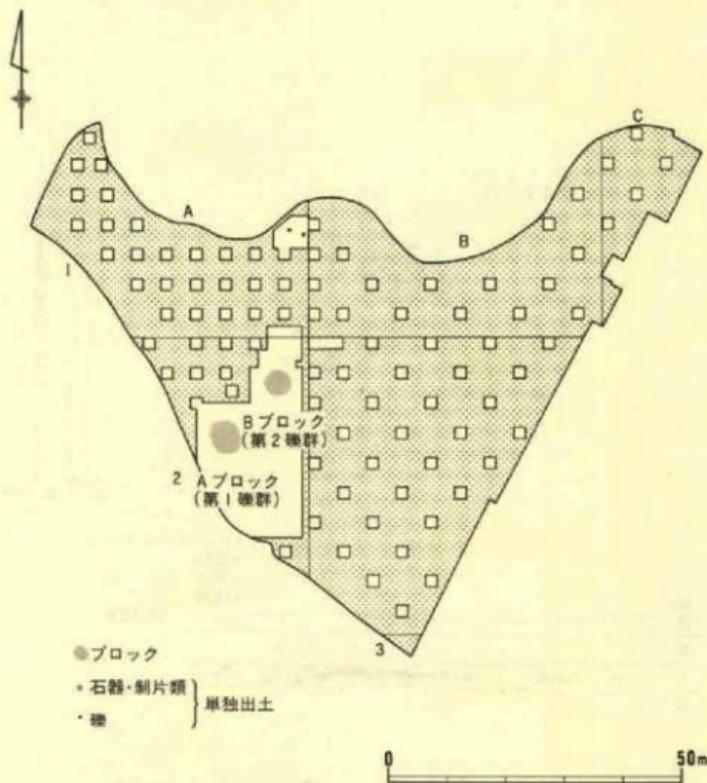
第X層 褐色ローム層。軟泥岩を少量含み、砂粒を多く含む。

第III層以下においては、その性状が下総台地の立川ロームとは肉眼観察の段階では大きく異なり、直接的に対応し得なかった。このため鉱物分析を実施した（IV章第1節）。この結果、本遺跡の堆積物は火山噴出物のみ由来するのではなく、水の影響によりよい下位の地層から供給を受けていることが明らかになった。特にVIII層以下については、その傾向が著しく、このことは現場における観察と一致する。すなわち、VIII層以下については、河川作用も考慮に入れた堆積物を、それ以上については、降下火山灰を主体としながらも水による搬入物もあるものと考えられる。

III章 遺構と遺物

第1節 先土器時代の遺構と遺物

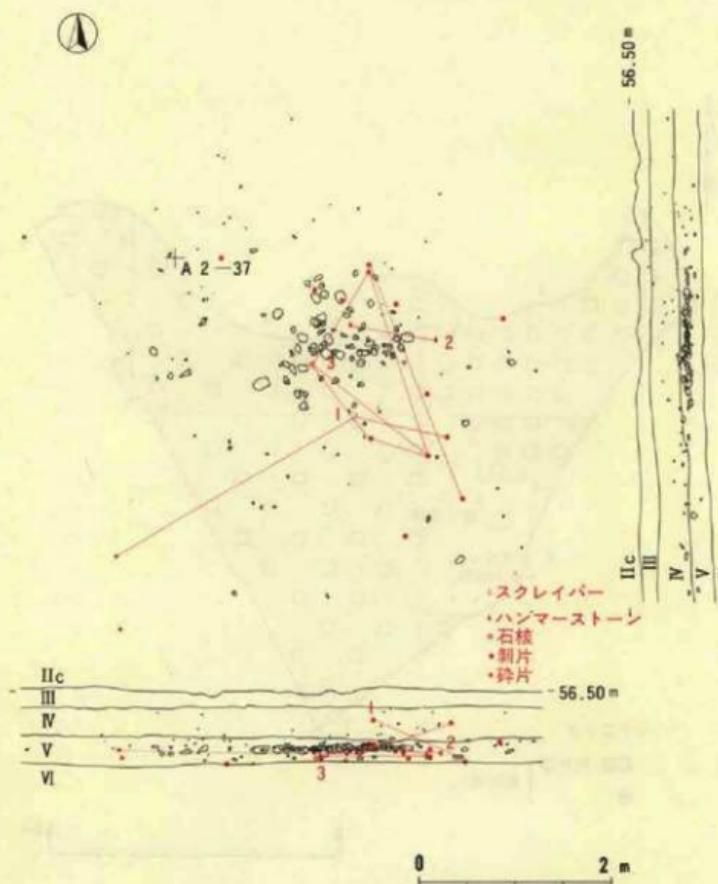
先土器時代の遺構・遺物は、遺跡西南部を中心に検出され、礫群を主体とし若干の石器類を伴うA・B 2つのブロックと、単独あるいは表採の資料である。石器総数は27点、礫群を構成する礫は総数324 点である。以下、2つのブロックを中心に、その位置、出土状況・層位と遺物について述べていきたい。



第7図 先土器時代調査区とブロック分布図(1/1000)

A ブロック（第8～15図）

位置・出土状況・層位（第8図） 遺跡西南部は急斜面により画されているが、そのすぐ内側の東南方向への非常にゆるやかな緩斜面に検出された。A 2-37グリッドを中心に径5 m程の広がりを有し、疊群とともに若干の石器が出土した。また、木炭粒も少し存在したが、この付近に特に集中していることはなかった。これらAブロックの遺物はⅢ層下部からⅤ層下部にかけて出土し、その中心はⅤ層中部から上部付近にあり、このあたりが生活面と考えられる。



第8図 Aブロック（第1疊群）分布図（1/60）

遺物（第9～15図） 石器群は、スクレイバー1点、ハンマーストーン1点（2個が接合して）、剥片12点、碎片3点、石核1点、加工痕のある礫片2点の総計21点である。

スクレイバー（第9図） 表面のほとんどを自然面から占めるかなり部厚い剥片を素材とし、先端部からその両側にかけて、裏面から急斜な調整を加え、刃部を作出している。打面は自然面と思われるが、火ハネにより失われており、打角およそ115°と思われる。安山岩。

また、これには剥片1点と碎片1点が接合している（第10図）。剥片（第9図1b）は、スクレイバーの刃部調整剥片と思われるが、やや大きなもので失敗したのかもしれない。表面には同様の刃部調整痕と思われるものがいくつか見える。碎片（第9図1c）は、火熱によりハネたものと思われ、特に打撃を加えた痕は見られない。このことは、スクレイバーが使用された後、あるいは失敗作として棄てられ、それが礫とともに焼かれたとも考えられる。

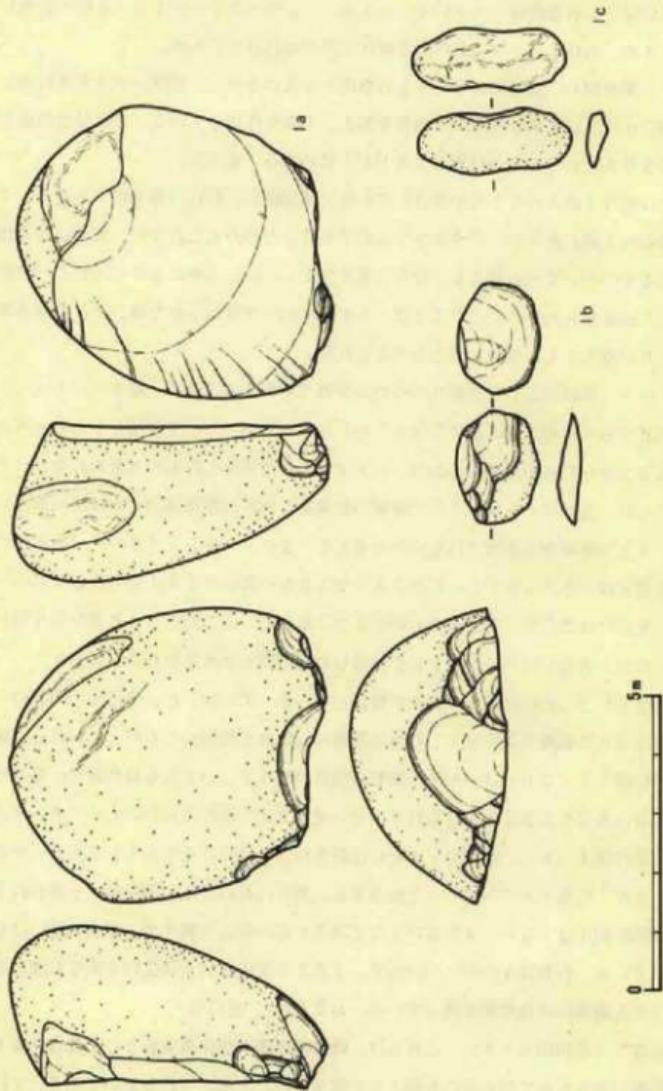
ハンマーストーン（第11図2） 先細りのやや二等辺三角形状の円礫の一端をハンマーストーンとして、また、相対する一辺の両端にかけてはストーンリタッチャーとして使用したものと考えられる。先細りの先端はこまかい打痕が集中しており、ハンマーとして使用したものと思われるが、そこから1つ剥離が認められ、これはハンマーとして使用の結果か、剥片剥離作業のためか決めがたいが、ここではハンマーとして使用中の事故ではないかと考える。また、ストーンリタッチャーとして使用されたと思われる部分は、ネズミがかじった痕のようなこまかい傷がたくさん見られる。この一端にも剥離痕があり、さらにはここから器体そのものが2つに割れているのだが、これはかなり強い打撃によって打ち割ったか、あるいはハンマーとして使用した時の割れと考えられる。砂岩。

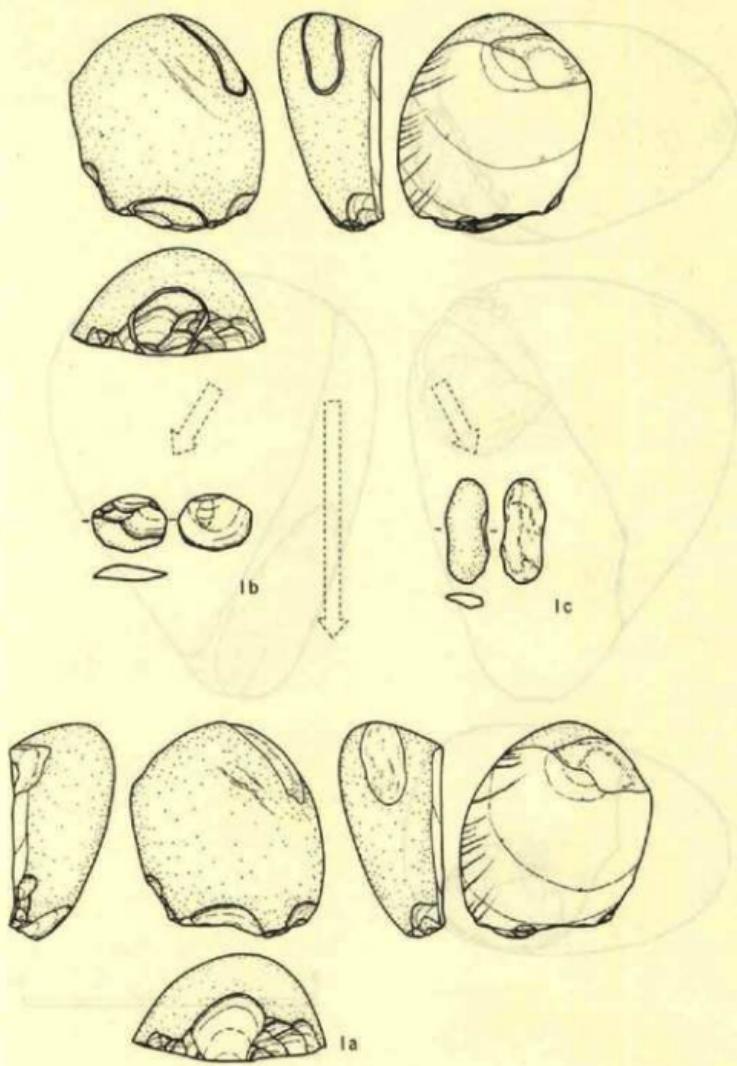
石核（第13図3a） これには3点の剥片が接合している（第14図）が、楕円形の円礫の一端から表面と裏面には交互に剥離を繰り返し、打面は既設の剥離面を利用したものと思われる。接合する3点の剥片（第13図3b～3c）は、やや不定形の幅広の剥片で、いずれも自然面を一部に残している。この石核からはあまり大きな剥片は取れず、せいぜい3cの剥片ぐらいのものであろう。凝灰岩。

剥片・碎片（第15図4～6） 本ブロックからは剥片12点、碎片3点が出土しており、そのうち剥片4点、碎片1点が、石核・スクレイバーと接合する。剥片においては、調整剥片と思われるものが多く、良好な目的的剥片は少ない。4および5などは先が広い幅広の剥片で、表面末端には自然面が残るなどよく似ている。打角は4が65°、5が75°。2点とも安山岩。6は広い平坦な打面が残る幅広の剥片で、やはり先端部には自然面が残っている。およそ70°。安山岩。

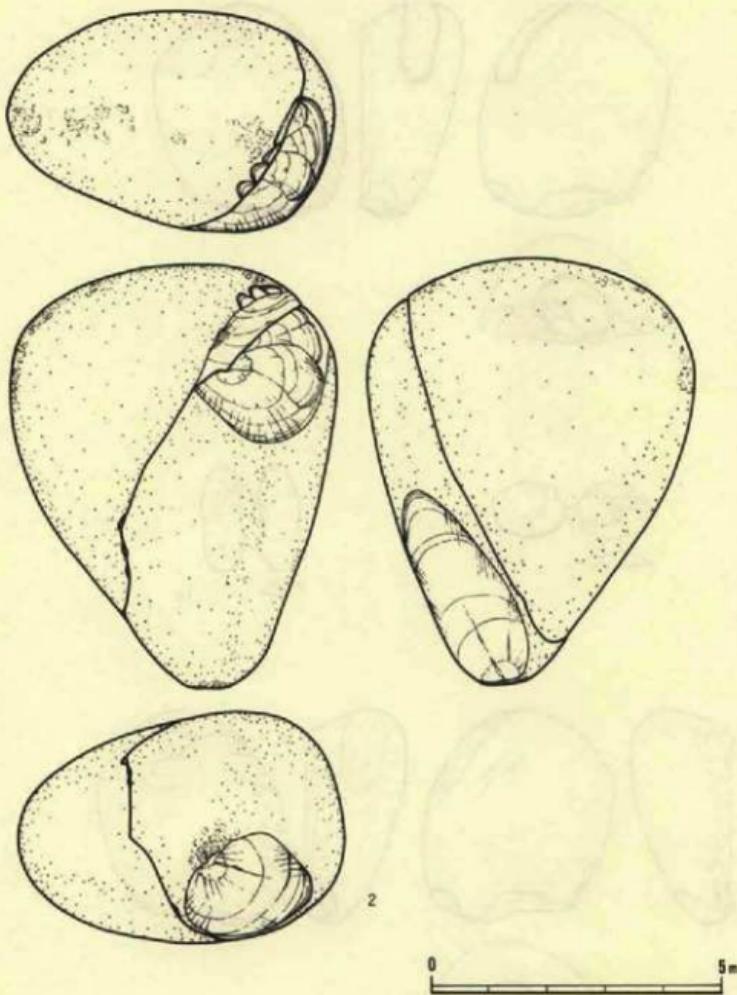
加工痕のある礫片（第15図7・8） これらは、礫群構成礫の個体別資料として接合するものの一部であるが、剥離が加えられて何らかの石器として使用されたと考えられるものである。7は礫の個体別資料18において、火熱を受けた後、破碎した礫片を素材とし、その縁辺の一部に剥離を加えてスクレイバー的なものにしている砂岩。8は個体別資料9がやはり火熱で破碎した後、一端を中心に調整を加えて、彫器的なものにしている。また、この個体別資料は、まだ完形であった時に一端に剥離を加えて1つのやや大きい剥片を取っていると思われ、その剥離痕の一部が上面右側に広く残っている。

第9図 先土器時代石器1 アプロック1a ~ 1c (1/1)

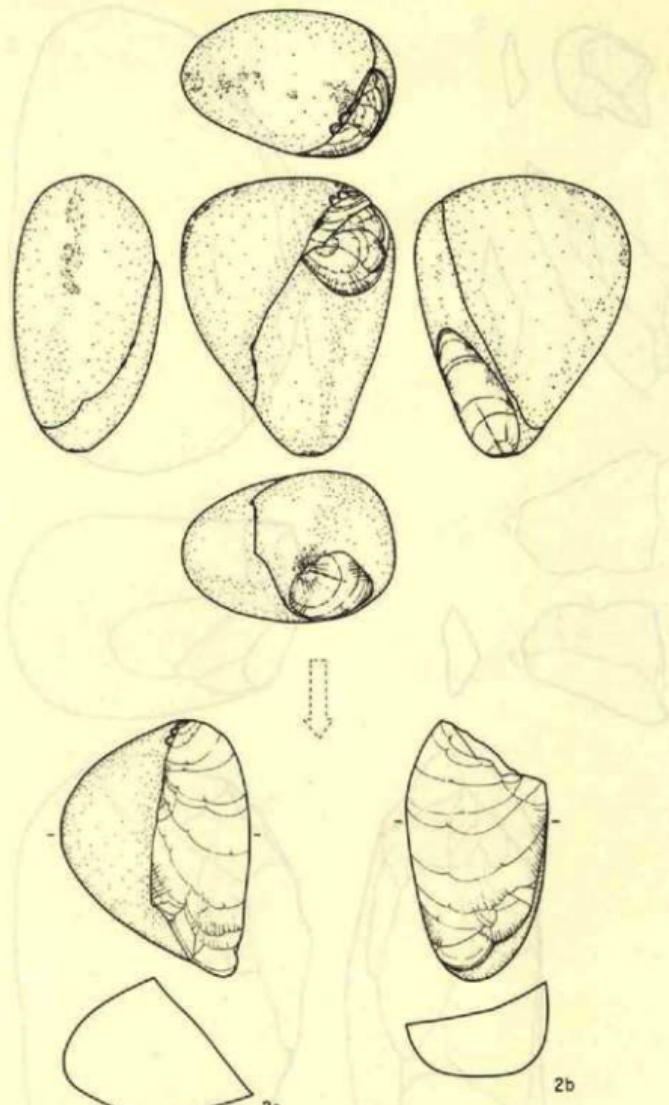




第10図 先土器時代石器 2 A ブロック 1 接合図

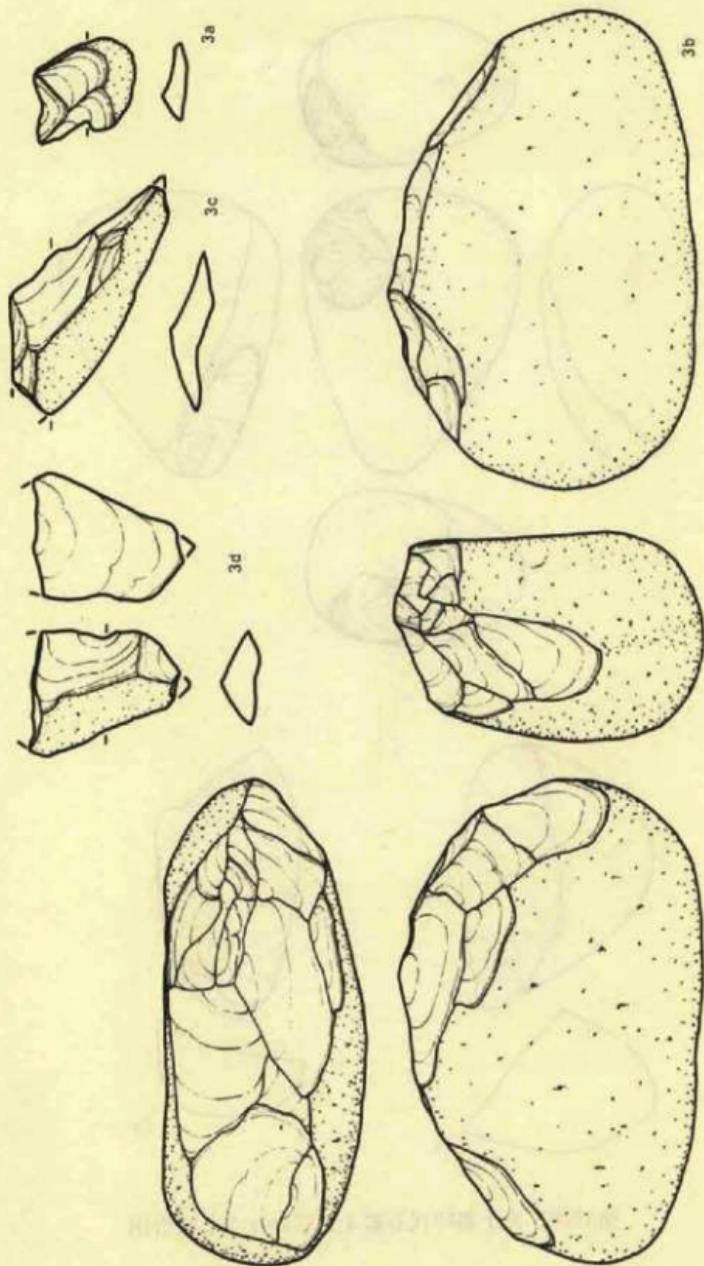


第11図 先土器時代石器3 Aブロック2 (1/1)



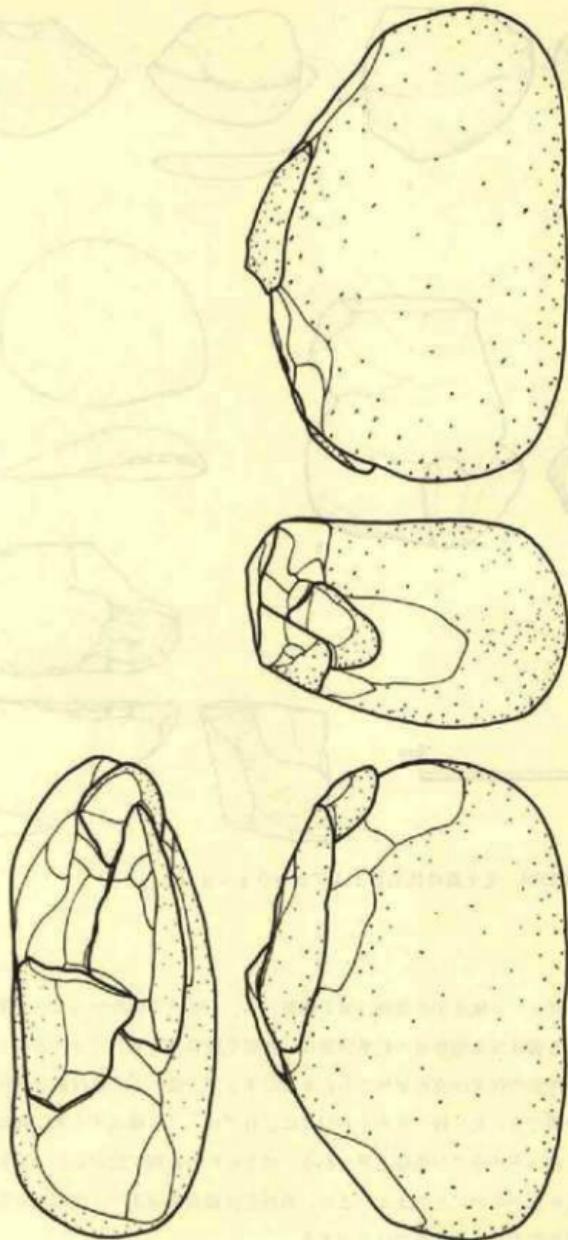
第12図 先土器時代石器 4 A ブロック 2 接合図

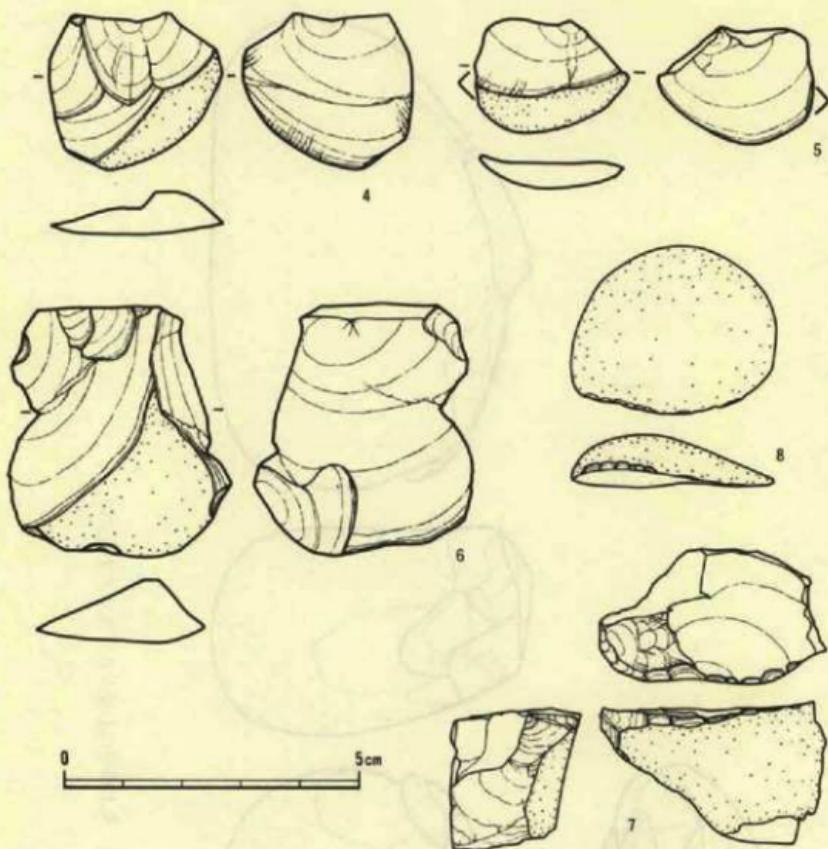
5 cm
0



第13図 先土器時代石器 5 Aブロック3a~3b (1/1)

第14圖 先土器時代石器 b A ブロック 3種合図





第15図 先土器時代石器7Aブロック4～8 (1/1)

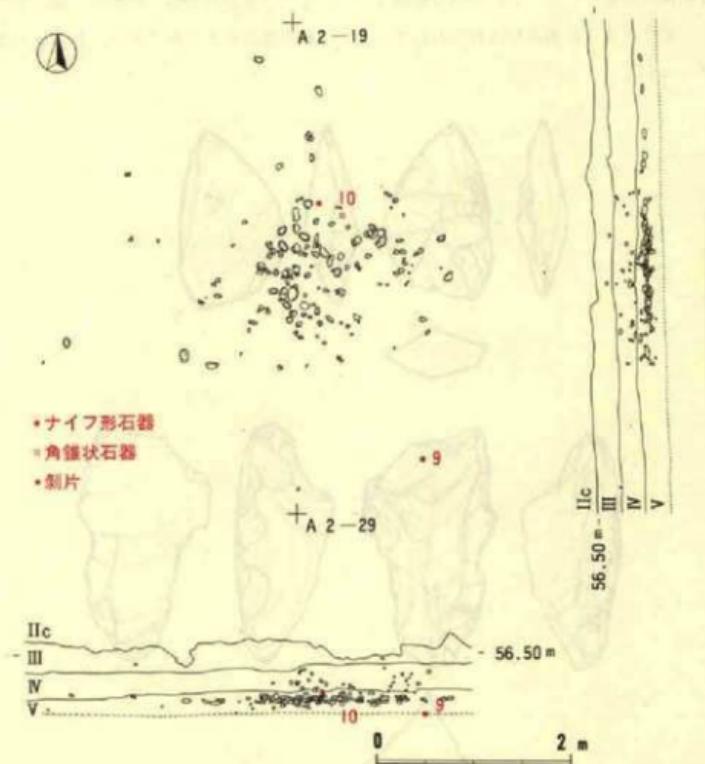
礫群 (第8図) Aブロックを構成する礫群 (第1礫群) は、172点の礫片から成り (第4表)、接合作業および肉眼による個体別識別作業の結果56個体 (判別不能資料1点) に分けることができた (第5表)。また、接合作業の結果28点が単独で存在するにすぎず、他の143点は接合関係あるいは同一個体と識別できる資料であった。特にそのうち23点は、Bブロックを構成する第2礫群の礫片と接合する資料であった。礫はその全てが焼礫と思われる。径5m程の範囲に広がるが、比較的大形の礫片が集中するのは径2m程の範囲にとどまる。また、高低差は最高55cmあり、III層からV層にわたるが、大形の礫片はV層中部の15cm程の範囲に集中する。

B ブロック（第16・17図）

位置・出土状況・層位（第16図） Aブロックの北東12m付近からAブロック同様、砾群とともにわずかな石器が出土した。ここも東南方向への非常にゆるやかな緩斜面で、Aブロック付近よりわずかに高い位置にある。A 2-18・19グリッドの填付近を中心にして径4～5mの広がりを有して、Aブロックよりは、まとまりがあるように感じられた。

また、ここでも木炭粒は少し検出されたが、Aブロック同様、この付近に特に集中している傾向は見られなかった。

出土層位はⅣ層下部からⅤ層下部で、中心はⅤ層中部から上部にあり、この付近が生活面と考えられる。

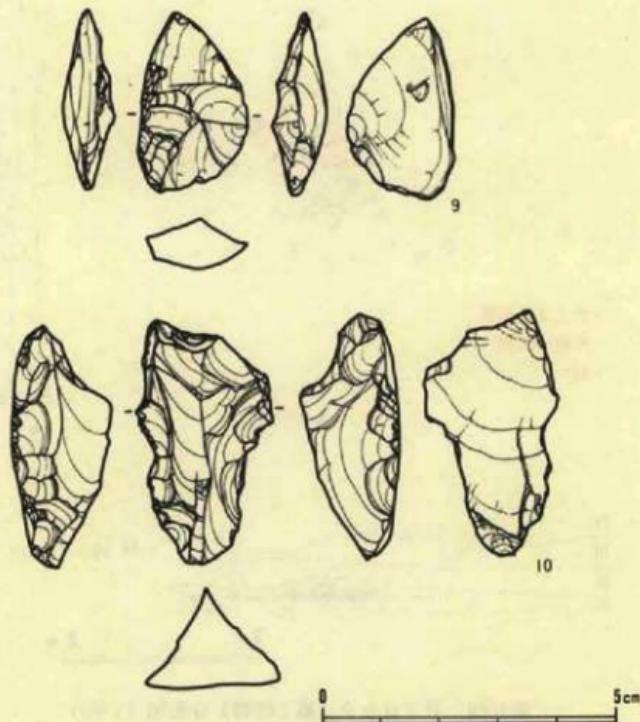


第16図 Bブロック（第2砾群）分布図（1/60）

遺物（第17図） 石器群は、ナイフ形石器1点、角錐状石器1点、剝片1点の計3点と非常に少ない内容である。

ナイフ形石器（第17図9） 素材は厚みのあるやや幅広の剝片と思われ、それを中程で折断することによって、ほぼ三角形状の器体を作り上げている。プランティングはその折断面から表面に施され、先端部側約3分の1のみ折断面のまま残されている。打面は平担で、打面調整は行われず、打点は小さいが裏面には大きなバルブが見られ、打角はおよそ 110° である。刃部は表面右上の打面側にあり、素材の剝片の縁辺をそのまま利用したものであるが、先端部表裏には若干の剥離痕がある。全体としては、厚みがあり、長さの割りには幅のあるややすんぐりとしたナイフ形石器といえる。黒曜石。

角錐状石器（第17図10） 部厚い横長の剝片を素材とし、ほぼ全周に渡って裏面から急斜な剥離を施して、全体の形状を長軸中央に稜を持つ不等辺三角形に仕上げている。各側縁はややノッチ状、あるいは歯齒状を呈し、エッジの急斜な粗雑なスクレイバーを思わせる。打面は一端に小さく残っているが、平担であり、打面調整は行なわれていない。打点部は除去されており、打角はおよそ 120° である。チャート。

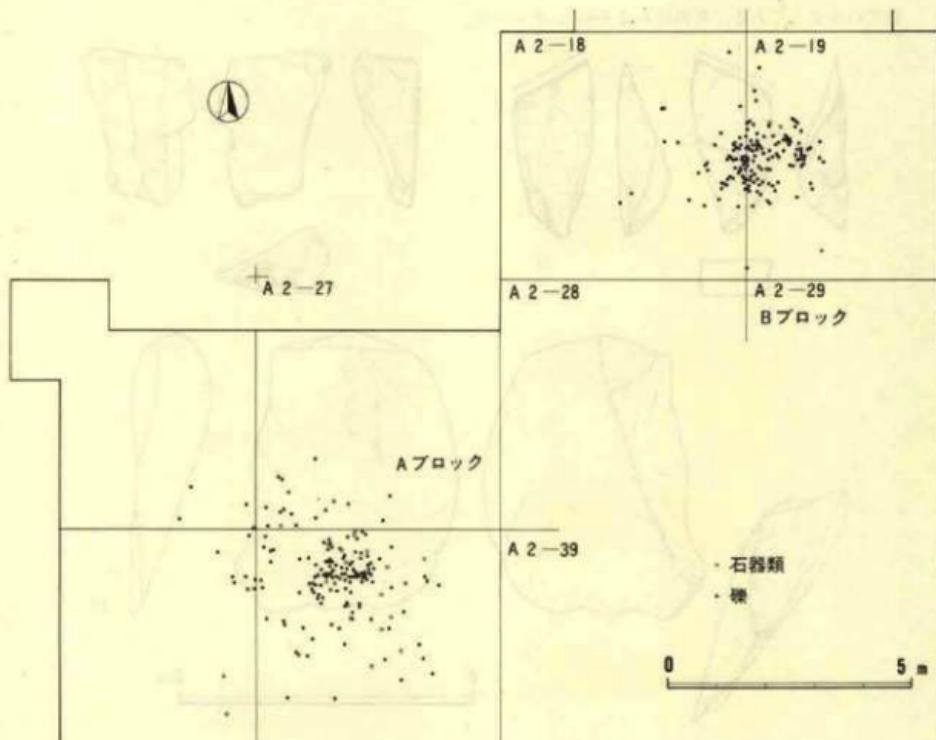


第17図 先土器時代石器8 B ブロック9・10 (1/1)

礫群（第16図） Bブロックを構成する礫群（第2礫群）は、152点の礫片から成り（第4表）、後合作業および個体別識別の結果51個体（判別不能資料5点）に分けることができた（第5表）。第1礫群と同様単独で存在するのは24点のみで、他の123点は接合関係あるいは同一個体と識別できる資料であり、第1礫群の礫片と接合する資料は44点であった。礫はそのすべてが焼礫と思われる。径4～5m程の範囲に広がるが、その集中部分は2.5×2m程の範囲で、集中性は第1礫群より高い。また、高低差は最高50cmを測るが、中心部の大形礫片はV層中部の15cm程の範囲に集中する。

AブロックとBブロックの関係（第18図）

A・B 2つのブロックは、その中心の距離は約12mを測るもの、いずれもその層位は第V層にあり、両ブロックの礫群構成礫99個体 324点のうち、8個体66点は両ブロックに分在する。このことにより、2つのブロックが同時あるいは、非常に近接した時間内に形成されたことを認めることができること。



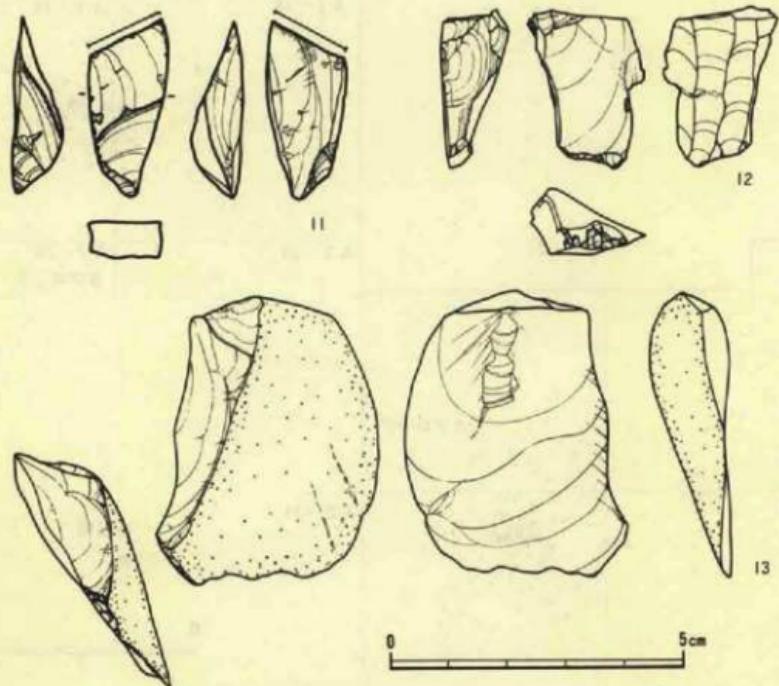
第18図 A・Bブロック遺物分布図 (1/120)

その他の石器（第19図）

A・B両ブロック以外に単独検出あるいは表探資料がある。

ナイフ形石器（第19図11） 遺跡北東部の谷が入っている付近の表土からの出土資料であるが、やや、幅広の縦長剥片の両端を折断して、ほぼ三角形状の器体を作り上げている。基部および正面左側折断面には、あたかも出っ張った部分を取り除くような調整が加えられている。また、刃部は素材の剥片の縁辺をそのまま利用したものであるが、こまかい刃こぼれが見られ、使用痕とも考えられる。黒曜石。

スクレイバー（第19図12・13） 12は、細石核の石核調整剥片の一端に刃部を付したスクレイバーである。表面には大きな剥離痕があり、素材を剥離した時のものと思われる。裏面には3条の細石刃剥離痕を持つ細石刃剥離作業面が見られ、この裏面に調整を加えてスクレイバーの刃部を作出している。側面に見られる剥離痕は細石核の調整痕ではなく、スクレイバー製作時の器体の調整痕と考えられる。チャート。 13は、A 2-48のⅢ層とⅣ層の境付近において出土したものであるが、表面に大きく自然面を残した剥片の末端に小さく刃部を付したものである。打面および石核の調整は若干行われているようである。打角はおよそ65°。チャート。



第19図 先土器時代石器9 11~13 (1/1)

第4表 先土器時代石器一覧

| 実測 箇 番 号 | 種 別 | ブロック | 遺物番号 | 石 質 | 長さ (cm) | 幅 (cm) | 厚さ (cm) | 重量 (g) | 打角 | 備 考 |
|-------------------|----------|------|------------|--------|------------|-----------|------------|-----------|------|-------------------|
| 1 a | スクレイバー | A | A 2-37- 82 | 安山岩 | 5.7 | 4.7 | 2.8 | 8.53 | 115° | 1 b, 1 c と接合 |
| b | 剥片 | A | A 2-37- 10 | " | 1.9 | 1.4 | 0.5 | 1.3 | | 1 a と接合 |
| c | 碎片 | A | A 2-36- 12 | " | 2.7 | 1.1 | 0.5 | 1.4 | | 1 a と接合 |
| 2 a | ハンマーストーン | A | A 2-37- 47 | 砂 岩 | 6.8 | 4.8 | 3.6 | 121.0 | | |
| b | | A | A 2-37- 71 | " | 6.8 | 3.9 | 2.4 | 75.0 | | |
| 3 a | 石核 | A | A 2-37- 35 | 凝灰岩 | 8.1 | 5.3 | 3.4 | 205.0 | | 3 b, 3 c, 3 d と接合 |
| b | 剥片 | A | A 2-37- 66 | " | 2.9 | 2.1 | 0.7 | 2.9 | | 3 a, 3 c と接合 |
| c | " | A | A 2-37-137 | " | 4.3 | 1.9 | 0.7 | 3.9 | 70° | 3 a, 3 b, 3 c と接合 |
| d | " | A | A 2-37- 81 | 凝灰岩 | 2.2 | 1.5 | 0.5 | 1.1 | | 3 a, 3 c と接合 |
| 4 | 加工痕のある剥片 | A | A 2-37-142 | 安山岩 | 3.0 | 2.7 | 0.7 | 5.1 | 100° | |
| 5 | " | A | A 2-37- 64 | " | 2.7 | 2.0 | 0.5 | 2.6 | 110° | |
| 6 | 剥片 | A | A 2-37- 75 | " | 4.3 | 3.7 | 1.2 | 17.5 | 105° | |
| 7 | " | A | A 2-26- 1 | 砂 岩 | 3.6 | 2.8 | 0.8 | 8.4 | | |
| 8 | " | A | A 2-37- 77 | チャート | 4.0 | 2.7 | 2.1 | 19.5 | | |
| " | | A | A 2-37- 7 | 安山岩 | 4.5 | 3.9 | 1.8 | 23.9 | | } 接合 |
| " | | A | A 2-37-138 | " | 3.9 | 2.2 | 1.4 | 9.7 | | |
| " | | A | A 2-27- 18 | " | 3.6 | 2.4 | 1.2 | 9.3 | | |
| " | | A | A 2-37- 13 | " | 2.7 | 2.5 | 1.2 | 7.9 | 120° | |
| " | | A | A 2-37-115 | " " | 2.1 | 1.7 | 0.8 | 2.8 | | |
| 碎片 | | A | A 2-36- 13 | " | 1.0 | 0.7 | 0.2 | 0.1 | | |
| 碎片 | | A | A 2-37-118 | " | 1.2 | 1.0 | 0.3 | 0.3 | | |
| 9 | ナイフ形石器 | B | A 2-19- 98 | 黒曜石 | 2.9 | 1.8 | 0.9 | 3.6 | 110° | |
| 10 | 角錐状石器 | B | A 2-19- 44 | チャート | 4.1 | 2.3 | 1.7 | 10.7 | 115° | |
| | 剥片 | B | A 2-19- 3 | " | 3.2 | 2.0 | 0.9 | 5.9 | | |
| 11 | ナイフ形石器 | その他 | B 1-76- 0 | 黒曜石 | 3.0 | 1.3 | 0.8 | | | |
| 12 | スクレイバー | その他 | B 2-43- 0 | チャート | 2.5 | 1.8 | 1.1 | 3.9 | | 細石核の残核を利用 |
| 13 | スクレイバー | その他 | A 2-48- 3 | " | 4.8 | 3.5 | 1.3 | 19.9 | 110° | |

第4表 磁群構成礫一覧

| 番号 | 埋群 | 遺物番号 | 石質 | 資料番号 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 遺在状態 | | 礫面状態(○) | |
|----|----|-----------|------|------|--------|-------|--------|-------|----------------------------|--------------------------------------|---|---|
| | | | | | | | | | 完 成 度 高 度 ○ | は ば れ 度 中 等 度 △ | 地 面 形 状 態 良 好 な 部 分 ○ | 地 面 形 状 態 良 好 な 部 分 ○ |
| 1 | 1 | A 2-26-1 | 砂岩 | 18 | 3.6 | 2.8 | 0.8 | 8.4 | × | ○ | ○ | |
| 2 | " | A 2-26-2 | " | 29 | 2.6 | 1.7 | 0.4 | 1.7 | × | ○ | | |
| 3 | " | A 2-26-3 | チャート | 11 | 3.7 | 2.5 | 1.0 | 8.4 | × | ○ | | |
| 4 | " | A 2-26-4 | 砂岩 | 1 | 5.1 | 3.6 | 2.8 | 33.8 | × | ○ | | |
| 5 | " | A 2-27-1 | " | 10 | 3.3 | 1.7 | 1.5 | 7.2 | × | ○ | | |
| 6 | " | A 2-27-2 | " | 10 | 5.1 | 4.2 | 3.0 | 61.2 | × | ○ | | |
| 7 | " | A 2-27-3 | " | 17 | 4.1 | 2.8 | 2.8 | 29.3 | × | ○ | ○ | |
| 8 | " | A 2-27-5 | チャート | 30 | 2.9 | 1.4 | 1.4 | 6.5 | × | ○ | | |
| 9 | " | A 2-27-6 | 砂岩 | 31 | 5.5 | 4.9 | 2.9 | 128.6 | △ | ○ | ○ | |
| 10 | " | A 2-27-7 | チャート | 2 | 4.3 | 3.0 | 2.6 | 29.9 | × | ○ | | |
| 11 | " | A 2-27-8 | " | 2 | 4.2 | 3.1 | 2.9 | 30.4 | × | ○ | ○ | |
| 12 | " | A 2-27-9 | " | 2 | 3.1 | 2.5 | 2.0 | 12.6 | × | ○ | | |
| 13 | " | A 2-27-10 | 凝灰岩 | 6 | 4.5 | 2.8 | 2.1 | 26.1 | × | ○ | ○ | |
| 14 | " | A 2-27-11 | チャート | 2 | 3.3 | 2.1 | 1.1 | 6.0 | × | ○ | | |
| 15 | " | A 2-27-12 | 凝灰岩 | 32 | 6.9 | 5.2 | 1.7 | 74.3 | △ | ○ | | |
| 16 | " | A 2-27-13 | チャート | 3 | 1.9 | 1.5 | 0.8 | 2.1 | × | ○ | | |
| 17 | " | A 2-27-14 | " | 2 | 4.1 | 3.1 | 1.5 | 18.0 | × | ○ | ○ | |
| 18 | " | A 2-27-15 | 凝灰岩 | 26 | 2.0 | 1.3 | 0.2 | 0.5 | × | ○ | | |
| 19 | " | A 2-27-16 | 砂岩 | 13 | 2.4 | 1.4 | 0.8 | 2.3 | × | ○ | | |
| 20 | " | A 2-27-17 | チャート | 14 | 3.4 | 2.5 | 1.2 | 6.7 | × | ○ | | |
| 21 | " | A 2-36-1 | " | 2 | 2.3 | 1.5 | 1.4 | 3.8 | × | ○ | | |
| 22 | " | A 2-36-2 | 砂岩 | 12 | 6.0 | 4.0 | 1.7 | 43.1 | × | ○ | ○ | |
| 23 | " | A 2-36-4 | " | 1 | 2.1 | 1.7 | 1.6 | 5.6 | × | ○ | | |
| 24 | " | A 2-36-5 | 凝灰岩 | 4 | 5.8 | 4.3 | 1.7 | 41.8 | × | ○ | | |
| 25 | " | A 2-36-6 | 安山岩 | 33 | 8.9 | 5.7 | 2.2 | 160.7 | ○ | ○ | ○ | |
| 26 | " | A 2-36-7 | " | 34 | 2.9 | 1.5 | 0.6 | 2.7 | × | ○ | | |
| 27 | " | A 2-36-9 | 砂岩 | 25 | 5.5 | 5.4 | 2.8 | 107.1 | × | ○ | ○ | |
| 28 | " | A 2-37-1 | " | 13 | 5.0 | 2.5 | 1.3 | 12.5 | × | ○ | ○ | ○ |
| 29 | " | A 2-37-2 | 安山岩 | 16 | 2.5 | 1.4 | 1.3 | 2.8 | × | ○ | ○ | |
| 30 | " | A 2-37-3 | チャート | 19 | 2.6 | 2.2 | 1.0 | 4.4 | × | ○ | | |
| 31 | " | A 2-37-4 | " | 11 | 5.2 | 3.3 | 1.7 | 23.3 | × | ○ | ○ | |
| 32 | " | A 2-37-5 | " | 5 | 5.3 | 2.3 | 0.5 | 5.8 | × | ○ | ○ | |
| 33 | " | A 2-37-6 | " | 14 | 3.4 | 2.2 | 0.8 | 5.7 | × | ○ | ○ | ○ |
| 34 | " | A 2-37-8 | 砂岩 | 10 | 2.9 | 2.5 | 1.3 | 10.6 | × | ○ | ○ | |
| 35 | " | A 2-37-9 | " | 13 | 3.3 | 2.9 | 2.1 | 17.9 | × | ○ | ○ | |
| 36 | " | A 2-37-11 | チャート | 9 | 2.1 | 1.6 | 0.9 | 3.4 | × | ○ | | |
| 37 | " | A 2-37-12 | " | 3 | 2.8 | 2.2 | 1.0 | 7.0 | × | ○ | | |
| 38 | " | A 2-37-14 | " | 9 | 1.3 | 1.1 | 0.4 | 0.6 | × | ○ | | |
| 39 | " | A 2-37-15 | 安山岩 | 16 | 3.9 | 2.5 | 1.2 | 8.3 | × | ○ | | |
| 40 | " | A 2-37-16 | チャート | 2 | 2.8 | 1.6 | 1.6 | 7.0 | × | ○ | | |
| 41 | " | A 2-37-17 | " | 2 | 2.5 | 2.1 | 1.2 | 5.1 | × | ○ | ○ | |

第4表 磁群構成礫一覧

| 番号 | 種類 | 遺物番号 | 石質 | 資料番号 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 遺存状態 | | 表面状態(○) | | | | |
|----|----|-----------|------|------|--------|-------|--------|-------|------|-----------|-----------|----------|----------|-----------|-----------|
| | | | | | | | | | % | はまくら # | はまくら ○ | 黒色付 # | 黒色付 ○ | ヒビ割れ # | ヒビ割れ ○ |
| 42 | 1 | A 2-37-18 | シルト | 15 | 3.6 | 2.6 | 1.1 | 15.6 | × | ○ | ○ | | | | |
| 43 | # | A 2-37-19 | チャート | 9 | 1.7 | 1.7 | 1.3 | 4.6 | × | ○ | | | | | |
| 44 | # | A 2-37-20 | " | 9 | 2.6 | 0.9 | 0.8 | 1.8 | × | ○ | | | | | |
| 45 | # | A 2-37-21 | 砂岩 | 35 | 11.2 | 5.0 | 4.5 | 223.2 | × | ○ | ○ | | | | |
| 46 | # | A 2-37-22 | チャート | 9 | 3.2 | 2.3 | 1.5 | 7.7 | × | ○ | | | | | |
| 47 | # | A 2-37-23 | 砂岩 | 25 | 11.9 | 5.1 | 3.1 | 214.9 | × | ○ | ○ | ○ | | | |
| 48 | # | A 2-37-24 | チャート | 9 | 4.2 | 3.7 | 2.6 | 52.0 | × | ○ | ○ | | | | |
| 49 | # | A 2-37-25 | " | 20 | 10.5 | 9.2 | 6.5 | 771.0 | × | ○ | ○ | ○ | | | |
| 50 | # | A 2-37-26 | 砂岩 | 24 | 5.4 | 5.0 | 1.0 | 29.6 | × | ○ | ○ | | | | |
| 51 | # | A 2-37-27 | 砂岩 | 10 | 3.3 | 3.3 | 2.9 | 32.0 | × | ○ | ○ | | | | |
| 52 | # | A 2-37-28 | チャート | 23 | 8.7 | 5.5 | 5.1 | 296.2 | × | ○ | ○ | ○ | | | |
| 53 | # | A 2-37-29 | " | 14 | 6.1 | 4.8 | 2.5 | 73.4 | × | ○ | ○ | ○ | | | |
| 54 | # | A 2-37-30 | シルト | 36 | 9.0 | 7.8 | 4.6 | 414.6 | △ | ○ | ○ | | | | ○ |
| 55 | # | A 2-37-31 | 凝灰岩 | 7 | 6.3 | 3.6 | 2.5 | 52.1 | × | ○ | ○ | | | | |
| 56 | # | A 2-37-32 | 砂岩 | 37 | 8.2 | 5.6 | 1.9 | 125.9 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| 57 | # | A 2-37-33 | " | 24 | 11.0 | 5.9 | 3.0 | 224.9 | × | ○ | ○ | ○ | | | |
| 58 | # | A 2-37-34 | 凝灰岩 | 38 | 9.1 | 6.9 | 4.3 | 382.2 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| 59 | # | A 2-37-36 | チャート | 9 | 7.4 | 4.7 | 4.5 | 162.8 | × | ○ | ○ | | | | |
| 60 | # | A 2-37-37 | シルト | 15 | 7.7 | 5.6 | 3.5 | 215.2 | × | ○ | ○ | | | | |
| 61 | # | A 2-37-38 | 砂岩 | 12 | 5.6 | 3.9 | 3.3 | 72.8 | × | ○ | | | | | |
| 62 | # | A 2-37-39 | 虫紋岩 | 28 | 13.4 | 8.9 | 4.6 | 703.0 | △ | ○ | ○ | ○ | | | |
| 63 | # | A 2-37-40 | 砂岩 | 12 | 6.0 | 4.2 | 3.3 | 97.7 | × | ○ | ○ | | | | |
| 64 | # | A 2-37-41 | チャート | 27 | 9.0 | 8.0 | 5.0 | 489.0 | △ | ○ | ○ | ○ | | | |
| 65 | # | A 2-37-42 | 砂岩 | 12 | 6.9 | 3.5 | 2.8 | 51.4 | × | ○ | | | | | |
| 66 | # | A 2-37-43 | " | 12 | 7.7 | 5.9 | 3.9 | 159.4 | × | ○ | ○ | ○ | | | |
| 67 | # | A 2-37-44 | " | 22 | 9.0 | 7.1 | 3.0 | 209.0 | × | ○ | ○ | | | | |
| 68 | # | A 2-37-45 | チャート | 9 | 4.9 | 3.5 | 2.8 | 58.6 | × | ○ | ○ | | | | |
| 69 | # | A 2-37-46 | 砂岩 | 13 | 5.4 | 3.4 | 3.2 | 79.5 | × | ○ | ○ | | | | |
| 70 | # | A 2-37-48 | 安山岩 | 39 | 7.0 | 3.4 | 1.7 | 44.8 | × | ○ | ○ | | | | |
| 71 | # | A 2-37-49 | 砂岩 | 13 | 4.0 | 3.3 | 3.0 | 36.1 | × | ○ | | | | | |
| 72 | # | A 2-37-50 | 凝灰岩 | 40 | 10.2 | 6.0 | 3.8 | 344.9 | △ | ○ | ○ | | | | |
| 73 | # | A 2-37-51 | 砂岩 | 17 | 4.4 | 3.0 | 2.6 | 39.3 | × | ○ | | | | | |
| 74 | # | A 2-37-52 | シルト | 15 | 7.4 | 5.8 | 3.0 | 160.4 | × | ○ | ○ | ○ | | | |
| 75 | # | A 2-37-53 | 砂岩 | 17 | 4.3 | 3.4 | 3.0 | 60.9 | × | ○ | ○ | ○ | | | |
| 76 | # | A 2-37-54 | 安山岩 | 16 | 4.9 | 3.1 | 2.1 | 46.6 | × | ○ | | | | | |
| 77 | # | A 2-37-55 | " | 16 | 5.1 | 3.0 | 2.0 | 29.9 | × | ○ | ○ | | | | |
| 78 | # | A 2-37-56 | 砂岩 | 18 | 6.0 | 2.6 | 2.6 | 44.8 | × | ○ | ○ | ○ | | | |
| 79 | # | A 2-37-57 | " | 13 | 3.8 | 3.3 | 2.8 | 41.3 | × | ○ | ○ | ○ | | | |
| 80 | # | A 2-37-58 | " | 12 | 6.8 | 4.1 | 4.0 | 63.1 | × | ○ | ○ | | | | |
| 81 | # | A 2-37-59 | " | 13 | 4.5 | 4.5 | 3.3 | 52.9 | × | ○ | ○ | ○ | | | |
| 82 | # | A 2-37-60 | 安山岩 | 16 | 7.2 | 6.8 | 2.9 | 156.8 | × | ○ | | | | | |

第4表 塚群構成礫一覧

| 番号 | 埋群 | 遺物番号 | 石質 | 資料番号 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 遺存状態 | | 礫面状態(○) | |
|-----|----|------------|------|------|--------|-------|--------|--------|--|--|--|--|
| | | | | | | | | | 完 好 な 状 態 ○ ○ ○ ○ ○ | 不 良 な 状 態 × ○ ○ ○ ○ | 研 磨 な 状 態 ○ ○ ○ ○ ○ | 氷 河 行 程 な 状 態 ○ ○ ○ ○ ○ |
| 83 | 1 | A 2-37-61 | チャート | 7.1 | 5.0 | | 1.8 | 94.2 | × | ○ | ○ | ○ |
| 84 | # | A 2-37-62 | 凝灰岩 | 41 | 13.2 | 8.7 | 4.8 | 799.0 | ○ | ○ | | |
| 85 | # | A 2-37-63 | " | 14 | 4.3 | 3.5 | 2.9 | 37.9 | × | ○ | ○ | ○ |
| 86 | # | A 2-37-65 | 砂岩 | 42 | 6.4 | 4.9 | 3.5 | 76.9 | △ | ○ | ○ | ○ |
| 87 | # | A 2-37-67 | " | 10 | 6.6 | 4.8 | 3.0 | 93.7 | × | ○ | ○ | ○ |
| 88 | # | A 2-37-68 | シルト | 15 | 6.5 | 6.2 | 3.6 | 92.2 | × | ○ | ○ | ○ |
| 89 | # | A 2-37-69 | 凝灰岩 | 43 | 10.6 | 4.9 | 2.5 | 181.4 | △ | ○ | ○ | ○ |
| 90 | # | A 2-37-70 | チャート | 14 | 8.2 | 5.7 | 2.3 | 86.5 | × | ○ | ○ | |
| 91 | # | A 2-37-72 | 砂岩 | 18 | 1.8 | 1.3 | 0.4 | 1.0 | × | ○ | | |
| 92 | # | A 2-37-73 | " | 44 | 2.4 | 1.6 | 0.7 | 2.7 | × | ○ | | |
| 93 | # | A 2-37-74 | チャート | 9 | 3.2 | 2.1 | 1.2 | 9.9 | × | ○ | | |
| 94 | # | A 2-37-76 | シルト | 15 | 6.9 | 5.8 | 3.0 | 166.8 | × | ○ | ○ | |
| 95 | # | A 2-37-77 | チャート | 11 | 4.0 | 2.7 | 2.1 | 19.5 | × | ○ | ○ | |
| 96 | # | A 2-37-78 | " | 5 | 3.2 | 1.2 | 0.5 | 1.6 | × | ○ | ○ | |
| 97 | # | A 2-37-79 | 砂岩 | 13 | 2.5 | 2.4 | 1.2 | 7.0 | × | ○ | | |
| 98 | # | A 2-37-80 | チャート | 11 | 4.2 | 3.6 | 1.3 | 15.9 | × | ○ | ○ | ○ |
| 99 | # | A 2-37-83 | 砂岩 | 13 | 5.3 | 4.5 | 3.1 | 113.4 | × | ○ | ○ | ○ |
| 100 | # | A 2-37-84 | " | 12 | 6.0 | 4.5 | 2.3 | 57.6 | × | ○ | ○ | ○ |
| 101 | # | A 2-37-85 | 凝灰岩 | 21 | 8.0 | 7.1 | 3.6 | 251.5 | × | ○ | ○ | ○ |
| 102 | # | A 2-37-86 | " | 21 | 5.6 | 4.6 | 2.5 | 69.7 | × | ○ | ○ | |
| 103 | # | A 2-37-87 | 砂岩 | 12 | 6.7 | 5.4 | 4.3 | 165.7 | × | ○ | ○ | ○ |
| 104 | # | A 2-37-88 | | 45 | 3.1 | 2.0 | 1.2 | 10.6 | ○ | ○ | ○ | |
| 105 | # | A 2-37-89 | チャート | 23 | 5.0 | 3.5 | 2.9 | 54.0 | × | ○ | ○ | ○ |
| 106 | # | A 2-37-90 | 砂山 | 12 | 7.6 | 5.7 | 4.2 | 137.2 | × | ○ | ○ | ○ |
| 107 | # | A 2-37-91 | チャート | 19 | 2.4 | 2.3 | 2.2 | 4.3 | × | ○ | | |
| 108 | # | A 2-37-92 | " | 19 | 9.4 | 6.0 | 4.2 | 243.5 | × | ○ | | ○ |
| 109 | # | A 2-37-93 | " | 14 | 9.0 | 8.4 | 6.3 | 435.8 | × | ○ | ○ | ○ |
| 110 | # | A 2-37-94 | 砂岩 | 10 | 5.4 | 4.2 | 3.3 | 79.0 | × | ○ | ○ | |
| 111 | # | A 2-37-95 | 凝灰岩 | 26 | 17.3 | 9.5 | 6.9 | 1885.0 | × | ○ | ○ | |
| 112 | # | A 2-37-96 | チャート | 11 | 2.4 | 1.6 | 1.2 | 4.0 | × | ○ | | |
| 113 | # | A 2-37-97 | | 45 | 2.7 | 1.3 | 0.3 | 0.9 | × | ○ | ○ | |
| 114 | # | A 2-37-98 | チャート | 20 | 2.2 | 2.2 | 1.5 | 6.8 | × | ○ | ○ | |
| 115 | # | A 2-37-99 | 砂岩 | 12 | 4.6 | 2.2 | 2.1 | 16.7 | × | ○ | | ○ |
| 116 | # | A 2-37-100 | | 46 | 4.4 | 1.6 | 1.5 | 14.0 | ○ | ○ | | |
| 117 | # | A 2-37-101 | チャート | 11 | 2.8 | 1.5 | 0.6 | 2.0 | × | ○ | ○ | |
| 118 | # | A 2-37-102 | " | 5 | 2.4 | 1.1 | 0.3 | 1.0 | × | ○ | ○ | |
| 119 | # | A 2-37-103 | | 47 | 1.9 | 1.1 | 0.7 | 1.1 | × | ○ | ○ | |
| 120 | # | A 2-37-104 | 砂岩 | 10 | 4.6 | 4.1 | 3.8 | 86.4 | × | ○ | ○ | ○ |
| 121 | # | A 2-37-105 | チャート | 11 | 4.6 | 2.6 | 1.5 | 11.0 | × | ○ | | |
| 122 | # | A 2-37-106 | " | 11 | 4.2 | 2.2 | 1.9 | 15.6 | × | ○ | ○ | ○ |
| 123 | # | A 2-37-107 | " | 9 | 2.0 | 2.0 | 1.9 | 10.8 | × | ○ | | |

第4表 磯群構成種一覧

| 番号 | 標群 | 遺物番号 | 石質 | 資料番号 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 遺存状態 | | 埋面状態(○) | | |
|-----|----|------------|------|------|--------|-------|--------|--------|-------------|------------------|-------------|-------------|-----------------------|
| | | | | | | | | | 光 型 △ | は 透 明 △ | 暗 黒 △ | 地 帶 △ | ヒ ビ 剥 離 △ |
| 124 | 1 | A 2-37-109 | 凝灰岩 | 48 | 11.0 | 8.3 | 5.4 | 707.0 | ○ | × | ○ | ○ | ○ |
| 125 | 〃 | A 2-37-110 | 砂岩 | 8 | 8.3 | 7.6 | 5.8 | 573.3 | × | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 126 | 〃 | A 2-37-111 | 凝灰岩 | 49 | 12.2 | 10.8 | 7.8 | 1447.0 | △ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 127 | 〃 | A 2-37-112 | 砂岩 | 17 | 7.0 | 4.6 | 2.9 | 92.3 | × | ○ | | | |
| 128 | 〃 | A 2-37-113 | 〃 | 50 | 7.9 | 4.7 | 2.8 | 135.1 | ○ | ○ | | | |
| 129 | 〃 | A 2-37-114 | 凝灰岩 | 51 | 10.8 | 8.0 | 4.7 | 570.4 | ○ | ○ | ○ | | |
| 130 | 〃 | A 2-37-116 | チャート | 2 | 2.8 | 1.6 | 1.1 | 6.9 | × | ○ | | | |
| 131 | 〃 | A 2-37-117 | 〃 | 11 | 5.9 | 4.0 | 2.2 | 41.0 | × | ○ | | | |
| 132 | 〃 | A 2-37-119 | 〃 | 14 | 9.6 | 6.7 | 6.6 | 406.1 | × | ○ | ○ | ○ | |
| 133 | 〃 | A 2-37-120 | 〃 | 14 | 5.5 | 4.5 | 1.5 | 34.6 | × | ○ | | | |
| 134 | 〃 | A 2-37-121 | 〃 | 14 | 4.2 | 3.8 | 1.6 | 24.9 | × | ○ | | | |
| 135 | 〃 | A 2-37-122 | 砂岩 | 10 | 5.2 | 3.4 | 3.0 | 78.6 | × | ○ | | | ○ |
| 136 | 〃 | A 2-37-123 | 〃 | 12 | 8.5 | 4.5 | 3.8 | 116.7 | × | ○ | ○ | | |
| 137 | 〃 | A 2-37-124 | 〃 | 22 | 5.8 | 2.8 | 1.6 | 28.6 | × | ○ | | | |
| 138 | 〃 | A 2-37-125 | 〃 | 10 | 4.2 | 2.5 | 2.2 | 24.4 | × | ○ | | | |
| 139 | 〃 | A 2-37-126 | 〃 | 不明 | | | | | × | ○ | | | |
| 140 | 〃 | A 2-37-127 | 〃 | 10 | 7.3 | 5.1 | 5.1 | 193.2 | × | ○ | ○ | ○ | |
| 141 | 〃 | A 2-37-128 | チャート | 9 | 2.1 | 1.7 | 1.7 | 10.7 | × | ○ | | | |
| 142 | 〃 | A 2-37-129 | 砂岩 | 13 | 3.0 | 2.4 | 2.2 | 17.7 | × | ○ | | | |
| 143 | 〃 | A 2-37-130 | チャート | 9 | 4.3 | 2.7 | 2.4 | 35.3 | × | ○ | | | |
| 144 | 〃 | A 2-37-131 | シルト | 15 | 4.5 | 2.7 | 2.7 | 25.2 | × | ○ | | | |
| 145 | 〃 | A 2-37-132 | 砂岩 | 10 | 5.3 | 4.0 | 1.8 | 39.8 | × | ○ | ○ | ○ | |
| 146 | 〃 | A 2-37-133 | チャート | 11 | 3.3 | 2.7 | 1.0 | 8.0 | × | ○ | ○ | | |
| 147 | 〃 | A 2-37-134 | 砂岩 | 10 | 5.0 | 4.1 | 3.7 | 102.5 | × | ○ | ○ | | |
| 148 | 〃 | A 2-37-135 | チャート | 9 | 5.0 | 3.6 | 3.0 | 64.3 | × | ○ | ○ | ○ | |
| 149 | 〃 | A 2-37-136 | 砂岩 | 18 | 9.5 | 6.5 | 2.4 | 166.2 | × | ○ | ○ | ○ | |
| 150 | 〃 | A 2-37-139 | チャート | 27 | 1.8 | 1.3 | 0.2 | 0.5 | × | ○ | ○ | | |
| 151 | 〃 | A 2-37-140 | 砂岩 | 10 | 3.2 | 2.5 | 1.8 | 11.1 | × | ○ | | | |
| 152 | 〃 | A 2-37-141 | 〃 | 52 | 2.3 | 2.0 | 1.3 | 5.2 | × | ○ | ○ | ○ | |
| 153 | 〃 | A 2-37-143 | 〃 | 53 | 5.7 | 4.1 | 2.4 | 78.7 | × | ○ | ○ | | |
| 154 | 〃 | A 2-37-144 | 凝灰岩 | 54 | 9.8 | 5.8 | 3.1 | 232.7 | △ | ○ | ○ | ○ | |
| 155 | 〃 | A 2-37-145 | | 55 | 4.7 | 3.9 | 2.0 | 39.1 | × | ○ | | | |
| 156 | 〃 | A 2-37-146 | チャート | 9 | 4.7 | 3.5 | 2.0 | 39.9 | × | ○ | ○ | ○ | |
| 157 | 〃 | A 2-37-147 | 〃 | 11 | 4.9 | 4.1 | 2.0 | 33.8 | × | ○ | ○ | | |
| 158 | 〃 | A 2-37-148 | 〃 | 11 | 6.8 | 3.6 | 2.6 | 88.2 | × | ○ | ○ | ○ | |
| 159 | 〃 | A 2-37-149 | 〃 | 11 | 4.6 | 2.9 | 1.8 | 24.3 | × | ○ | ○ | | |
| 160 | 〃 | A 2-37-150 | 〃 | 2 | 6.1 | 3.5 | 3.2 | 63.3 | × | ○ | ○ | ○ | |
| 161 | 〃 | A 2-37-151 | 〃 | 2 | 3.0 | 2.7 | 2.7 | 23.4 | × | ○ | ○ | ○ | |
| 162 | 〃 | A 2-37-152 | 〃 | 2 | 2.6 | 2.4 | 2.0 | 14.6 | × | ○ | ○ | | |
| 163 | 〃 | A 2-37-153 | 〃 | 9 | 4.0 | 2.6 | 1.9 | 25.1 | × | ○ | ○ | ○ | |
| 164 | 〃 | A 2-37-154 | 〃 | 3 | 2.5 | 1.6 | 1.4 | 8.5 | × | ○ | ○ | ○ | |

第4表 磯群構成礫一覧

| 番号 | 礁群 | 遺物番号 | 石質 | 資料番号 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 遺存状態 | | 表面状態(○) | |
|-----|----|------------|------|------|--------|-------|--------|--------|------------------|----------------------------|------------------|------------------|
| | | | | | | | | | 完 成 度 △ | 波 浪 形 成 度 △ | 磨 耗 度 △ | 風 化 度 △ |
| 165 | 1 | A 2-37-155 | チャート | 14 | 4.7 | 4.1 | 1.7 | 26.6 | × | ○ | ○ | |
| 166 | # | A 2-37-156 | 砂岩 | 10 | 4.0 | 3.0 | 1.1 | 16.1 | × | ○ | ○ | ○ |
| 167 | # | A 2-37-157 | チャート | 5 | 5.1 | 4.4 | 1.4 | 19.9 | × | ○ | ○ | ○ |
| 168 | # | A 2-37-158 | 砂岩 | 12 | 5.2 | 3.7 | 1.5 | 31.9 | × | ○ | ○ | |
| 169 | # | A 2-37-159 | チャート | 20 | 2.5 | 2.2 | 1.3 | 6.9 | × | ○ | ○ | |
| 170 | # | A 2-37-160 | # | 11 | 2.6 | 2.3 | 1.1 | 4.6 | × | ○ | ○ | |
| 171 | # | A 2-37-161 | 砂岩 | 56 | 3.3 | 2.2 | 1.6 | 12.2 | × | ○ | ○ | ○ |
| 172 | # | A 2-37-162 | # | 10 | 4.2 | 3.2 | 2.7 | 31.3 | × | ○ | ○ | |
| 173 | 2 | A 2-18-1 | チャート | 74 | 3.2 | 2.5 | 2.0 | 13.1 | × | ○ | ○ | |
| 174 | # | A 2-18-2 | 砂岩 | 63 | 3.7 | 2.9 | 1.8 | 21.8 | × | ○ | ○ | |
| 175 | # | A 2-18-3 | # | 61 | 3.7 | 4.2 | 2.5 | 51.2 | × | ○ | ○ | ○ |
| 176 | # | A 2-18-4 | # | 1 | 5.4 | 2.1 | 1.8 | 12.6 | × | ○ | ○ | |
| 177 | # | A 2-18-5 | 凝灰岩 | 58 | 2.7 | 4.1 | 3.7 | 79.4 | × | ○ | ○ | |
| 178 | # | A 2-18-6 | 砂岩 | 76 | 5.8 | 5.8 | 1.9 | 150.1 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 179 | # | A 2-18-7 | # | 8 | 9.5 | 4.9 | 3.6 | 186.3 | × | ○ | ○ | ○ |
| 180 | # | A 2-18-8 | 安山岩 | 71 | 7.5 | 3.0 | 2.3 | 27.1 | × | ○ | ○ | |
| 181 | # | A 2-18-9 | # | 71 | 4.2 | 4.7 | 2.9 | 190.6 | × | ○ | ○ | ○ |
| 182 | # | A 2-18-10 | 凝灰岩 | 70 | 10.4 | 6.0 | 3.4 | 256.2 | × | ○ | ○ | ○ |
| 183 | # | A 2-18-11 | 砂岩 | 59 | 10.3 | 4.5 | 3.2 | 106.0 | × | ○ | ○ | ○ |
| 184 | # | A 2-18-12 | # | 72 | 7.0 | 4.8 | 2.6 | 125.2 | × | ○ | ○ | |
| 185 | # | A 2-18-13 | 凝灰岩 | 58 | 7.2 | 5.5 | 3.9 | 118.8 | × | ○ | ○ | ○ |
| 186 | # | A 2-18-14 | チャート | 3 | 6.1 | 5.5 | 5.4 | 161.0 | × | ○ | ○ | ○ |
| 187 | # | A 2-18-15 | 砂岩 | 61 | 6.3 | 8.5 | 5.3 | 313.3 | × | ○ | ○ | ○ |
| 188 | # | A 2-18-16 | チャート | 64 | 9.2 | 5.7 | 3.3 | 123.7 | × | ○ | ○ | ○ |
| 189 | # | A 2-18-17 | 砂岩 | 61 | 6.4 | 8.1 | 4.2 | 224.1 | × | ○ | ○ | ○ |
| 190 | # | A 2-18-18 | | 77 | 8.9 | 3.1 | 2.6 | 28.6 | × | ○ | | |
| 191 | # | A 2-18-19 | 凝灰岩 | 51 | 4.3 | 5.5 | 2.4 | 67.0 | × | ○ | ○ | ○ |
| 192 | # | A 2-18-20 | # | 78 | 6.8 | 9.6 | 8.0 | 1340.0 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 193 | # | A 2-18-21 | # | 58 | 15.3 | 6.2 | 4.0 | 178.0 | × | ○ | ○ | ○ |
| 194 | # | A 2-18-22 | 砂岩 | 59 | 7.7 | 5.2 | 3.5 | 217.7 | × | ○ | ○ | |
| 195 | # | A 2-18-23 | チャート | 79 | 8.0 | 5.6 | 4.7 | 356.7 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 196 | # | A 2-18-24 | 凝灰岩 | 58 | 8.9 | 4.1 | 2.8 | 66.4 | × | ○ | ○ | |
| 197 | # | A 2-18-25 | チャート | 64 | 6.0 | 5.7 | 4.0 | 308.3 | × | ○ | ○ | ○ |
| 198 | # | A 2-18-26 | 砂岩 | 57 | 10.5 | 3.1 | 3.0 | 41.0 | × | ○ | ○ | ○ |
| 199 | # | A 2-18-27 | # | 57 | 4.4 | 2.9 | 2.9 | 43.2 | × | ○ | ○ | ○ |
| 200 | # | A 2-18-28 | 凝灰岩 | 80 | 5.0 | 6.4 | 1.9 | 116.5 | ○ | ○ | ○ | |
| 201 | # | A 2-18-29 | # | 4 | 6.3 | 3.5 | 2.5 | 31.8 | × | ○ | ○ | |
| 202 | # | A 2-18-30 | 砂岩 | 57 | 4.2 | 2.9 | 2.0 | 19.8 | × | ○ | ○ | |
| 203 | # | A 2-18-31 | チャート | 74 | 2.5 | 1.8 | 1.7 | 7.6 | × | ○ | ○ | |
| 204 | # | A 2-18-32 | 凝灰岩 | 81 | 10.4 | 6.9 | 2.4 | 262.9 | △ | ○ | ○ | ○ |
| 205 | # | A 2-18-33 | # | 82 | 12.6 | 7.9 | 3.9 | 595.4 | ○ | ○ | ○ | |

第4表 磁群構成塊一覧

| 番号 | 磁群 | 遺物番号 | 石質 | 資料番号 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 遺存状態 | | 礫面状態(○) | |
|-----|----|-----------|------|------|--------|-------|--------|-------|-----------------------|----------------------------|-----------------------|---------------------------------|
| | | | | | | | | | 完 成 形 態 ○ | は ず れ 形 態 ○ | 端 部 形 態 ○ | 黒 色 付 け 形 態 ○ |
| 206 | 2 | A 2-18-34 | 凝灰岩 | 58 | 6.4 | 3.7 | 2.3 | 55.3 | × | ○ | ○ | ○ |
| 207 | " | A 2-18-35 | " | 70 | 6.9 | 3.1 | 2.6 | 55.4 | × | ○ | ○ | |
| 208 | " | A 2-18-36 | チャート | 74 | 2.7 | 2.5 | 2.4 | 19.2 | × | ○ | ○ | ○ |
| 209 | " | A 2-18-37 | " | 3 | 5.0 | 4.0 | 3.9 | 50.9 | × | ○ | ○ | ○ |
| 210 | " | A 2-18-38 | | 83 | 2.6 | 1.7 | 1.4 | 9.0 | × | ○ | ○ | |
| 211 | " | A 2-18-39 | 砂岩 | 57 | 3.4 | 2.9 | 2.5 | 20.7 | × | ○ | ○ | ○ |
| 212 | " | A 2-18-40 | " | 57 | 4.1 | 3.0 | 2.5 | 20.7 | × | ○ | ○ | ○ |
| 213 | " | A 2-18-41 | | 84 | 8.6 | 5.2 | 2.1 | 138.2 | ○ | ○ | ○ | |
| 214 | " | A 2-18-42 | チャート | 74 | 2.5 | 1.5 | 1.1 | 4.7 | × | ○ | | |
| 215 | " | A 2-18-43 | " | 5 | 3.6 | 1.8 | 0.5 | 3.5 | × | ○ | ○ | |
| 216 | " | A 2-18-44 | 砂岩 | 1 | 3.5 | 3.4 | 2.8 | 22.4 | × | ○ | ○ | ○ |
| 217 | " | A 2-18-45 | " | 1 | 4.2 | 2.9 | 2.7 | 41.9 | × | ○ | ○ | ○ |
| 218 | " | A 2-18-46 | " | 50 | 6.8 | 3.4 | 2.2 | 57.2 | × | ○ | ○ | |
| 219 | " | A 2-18-47 | " | 1 | 3.0 | 2.7 | 2.5 | 21.1 | × | ○ | ○ | |
| 220 | " | A 2-18-48 | 安山岩 | 69 | 4.2 | 3.0 | 2.6 | 48.7 | × | ○ | ○ | |
| 221 | " | A 2-18-49 | 凝灰岩 | 58 | 6.8 | 3.2 | 1.7 | 30.1 | × | ○ | ○ | |
| 222 | " | A 2-18-50 | 砂岩 | 57 | 3.6 | 2.7 | 2.0 | 18.6 | × | ○ | ○ | ○ |
| 223 | " | A 2-18-51 | " | 57 | 4.6 | 3.6 | 1.6 | 20.7 | × | ○ | ○ | ○ |
| 224 | " | A 2-18-52 | チャート | 3 | 3.3 | 2.5 | 1.4 | 12.6 | × | ○ | ○ | |
| 225 | " | A 2-18-53 | 凝灰岩 | 58 | 3.8 | 3.1 | 1.6 | 11.6 | × | ○ | ○ | |
| 226 | " | A 2-19-1 | 砂岩 | 1 | 3.2 | 2.5 | 2.3 | 19.2 | × | ○ | ○ | ○ |
| 227 | " | A 2-19-2 | " | 1 | 3.3 | 3.0 | 2.7 | 30.5 | × | ○ | ○ | |
| 228 | " | A 2-19-4 | チャート | 60 | 5.3 | 3.7 | 3.1 | 48.7 | × | ○ | ○ | ○ |
| 229 | " | A 2-19-5 | 砂岩 | 61 | 4.3 | 2.5 | 0.6 | 7.3 | × | ○ | ○ | |
| 230 | " | A 2-19-6 | " | 1 | 2.7 | 2.0 | 1.8 | 10.3 | × | ○ | | |
| 231 | " | A 2-19-7 | 凝灰岩 | 4 | 3.1 | 2.6 | 2.0 | 17.3 | × | ○ | | |
| 232 | " | A 2-19-8 | " | 4 | 3.0 | 2.5 | 1.8 | 8.2 | × | ○ | | |
| 233 | " | A 2-19-9 | 砂岩 | 73 | 4.0 | 3.1 | 2.7 | 22.9 | × | ○ | | |
| 234 | " | A 2-19-10 | " | 57 | 3.9 | 2.1 | 2.0 | 18.3 | × | ○ | ○ | ○ |
| 235 | " | A 2-19-11 | 凝灰岩 | 4 | 1.8 | 1.7 | 1.3 | 3.8 | × | ○ | | |
| 236 | " | A 2-19-12 | 砂岩 | 57 | 2.4 | 1.4 | 1.3 | 4.7 | × | ○ | ○ | |
| 237 | " | A 2-19-13 | " | 57 | 2.1 | 1.8 | 1.4 | 4.3 | × | ○ | | |
| 238 | " | A 2-19-14 | " | 1 | 2.6 | 2.1 | 1.9 | 10.1 | × | ○ | | |
| 239 | " | A 2-19-15 | 凝灰岩 | 58 | 4.2 | 3.0 | 2.1 | 18.5 | × | ○ | ○ | |
| 240 | " | A 2-19-16 | 砂岩 | 1 | 2.6 | 2.6 | 2.5 | 23.0 | × | ○ | ○ | ○ |
| 241 | " | A 2-19-17 | " | 1 | 4.2 | 3.4 | 2.9 | 36.3 | × | ○ | ○ | ○ |
| 242 | " | A 2-19-18 | チャート | 74 | 3.0 | 2.5 | 2.3 | 20.3 | × | ○ | | |
| 243 | " | A 2-19-19 | " | 60 | 4.9 | 3.0 | 2.3 | 25.8 | × | ○ | | |
| 244 | " | A 2-19-20 | " | 3 | 4.3 | 4.2 | 2.9 | 45.5 | × | ○ | ○ | ○ |
| 245 | " | A 2-19-21 | " | 60 | 3.7 | 2.7 | 2.5 | 23.0 | × | ○ | | |
| 246 | " | A 2-19-22 | 砂岩 | 1 | 3.3 | 2.8 | 1.8 | 16.2 | × | ○ | ○ | ○ |

第4表 碳群構成礫一覧

| 番号 | 地理 | 造物番号 | 石質 | 資料番号 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 遺存状態 | | 表面状態(○) | |
|-----|----|-----------|------|------|--------|-------|--------|-------|---------------------------------|---------------------------------|------------------|-----------------------|
| | | | | | | | | | 光 合 成 形 成 物 物 | 暗 合 成 形 成 物 物 | 無 有 行 物 | ヒ ビ レ ン ス |
| 247 | 2 | A 2-19-23 | チャート | 60 | 5.3 | 3.7 | 3.2 | 58.0 | × | ○ | ○ | |
| 248 | " | A 2-19-24 | 砂岩 | 59 | 4.0 | 3.2 | 1.2 | 11.3 | × | ○ | | |
| 249 | " | A 2-19-25 | " | 1 | 1.8 | 1.6 | 1.5 | 4.7 | × | ○ | ○ | |
| 250 | " | A 2-19-26 | " | 1 | 2.0 | 1.4 | 1.1 | 3.6 | × | ○ | ○ | |
| 251 | " | A 2-19-27 | " | 1 | 4.4 | 4.0 | 2.2 | 33.7 | × | ○ | ○ | ○ |
| 252 | " | A 2-19-28 | " | 1 | 2.3 | 2.2 | 1.8 | 9.2 | × | ○ | ○ | |
| 253 | " | A 2-19-29 | | 85 | 3.2 | 2.0 | 1.3 | 6.0 | × | ○ | ○ | |
| 254 | " | A 2-19-30 | 砂岩 | 63 | 3.6 | 3.3 | 1.9 | 25.6 | × | ○ | ○ | |
| 255 | " | A 2-19-31 | " | 1 | 2.6 | 2.2 | 1.8 | 8.5 | × | ○ | ○ | |
| 256 | " | A 2-19-32 | " | 86 | 9.5 | 5.8 | 3.2 | 235.2 | ○ | ○ | ○ | |
| 257 | " | A 2-19-33 | " | 87 | 8.9 | 7.0 | 3.3 | 224.6 | × | ○ | ○ | ○ |
| 258 | " | A 2-19-34 | 凝灰岩 | 7 | 8.7 | 5.4 | 3.5 | 205.0 | × | ○ | ○ | ○ |
| 259 | " | A 2-19-35 | " | 88 | 7.3 | 6.0 | 3.7 | 241.3 | △ | ○ | ○ | |
| 260 | " | A 2-19-36 | 砂岩 | 不明 | | | | | × | ○ | | |
| 261 | " | A 2-19-37 | " | 75 | 7.0 | 5.0 | 2.6 | 86.6 | × | ○ | ○ | |
| 262 | " | A 2-19-38 | 花崗岩 | 89 | 11.2 | 7.5 | 4.6 | 461.5 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 263 | " | A 2-19-39 | 凝灰岩 | 58 | 4.4 | 2.7 | 2.6 | 24.7 | × | ○ | ○ | |
| 264 | " | A 2-19-40 | " | 90 | 7.5 | 5.7 | 4.1 | 461.5 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 265 | " | A 2-19-41 | 砂岩 | 57 | 6.5 | 4.5 | 2.3 | 25.0 | × | ○ | ○ | ○ |
| 266 | " | A 2-19-42 | 凝灰岩 | 6 | 6.3 | 4.8 | 2.8 | 68.8 | × | ○ | ○ | ○ |
| 267 | " | A 2-19-43 | チャート | 64 | 7.0 | 3.3 | 1.4 | 31.9 | × | ○ | | |
| 268 | " | A 2-19-45 | " | 74 | 2.4 | 2.4 | 2.4 | 16.6 | × | ○ | ○ | |
| 269 | " | A 2-19-46 | 砂岩 | 75 | 3.3 | 2.1 | 2.0 | 9.5 | × | ○ | ○ | |
| 270 | " | A 2-19-47 | " | 不明 | | | | | × | ○ | | |
| 271 | " | A 2-19-48 | チャート | 91 | 4.8 | 3.9 | 2.7 | 73.5 | ○ | ○ | ○ | |
| 272 | " | A 2-19-49 | 砂岩 | 75 | 1.5 | 1.3 | 1.0 | 1.8 | × | ○ | | |
| 273 | " | A 2-19-50 | " | 不明 | | | | | | | | |
| 274 | " | A 2-19-51 | 砂岩 | 61 | 7.0 | 2.7 | 1.8 | 34.8 | × | ○ | ○ | ○ |
| 275 | " | A 2-19-52 | 凝灰岩 | 58 | 6.1 | 3.0 | 3.0 | 55.9 | × | ○ | ○ | |
| 276 | " | A 2-19-53 | チャート | 3 | 4.5 | 3.9 | 2.7 | 43.7 | × | ○ | ○ | ○ |
| 277 | " | A 2-19-54 | 砂岩 | 57 | 4.9 | 3.8 | 1.9 | 33.7 | × | ○ | ○ | ○ |
| 278 | " | A 2-19-55 | " | 不明 | | | | | | | | |
| 279 | " | A 2-19-56 | " | 73 | 6.0 | 3.6 | 3.1 | 59.9 | × | ○ | ○ | ○ |
| 280 | " | A 2-19-57 | " | 61 | 6.1 | 4.6 | 2.5 | 63.8 | × | ○ | ○ | |
| 281 | " | A 2-19-58 | チャート | 60 | 4.5 | 3.8 | 2.4 | 40.6 | × | ○ | ○ | ○ |
| 282 | " | A 2-19-59 | 砂岩 | 67 | 7.8 | 7.0 | 3.2 | 191.2 | × | ○ | ○ | ○ |
| 283 | " | A 2-19-60 | 凝灰岩 | 92 | 6.0 | 4.1 | 2.7 | 84.1 | × | ○ | ○ | |
| 284 | " | A 2-19-61 | 砂岩 | 59 | 8.3 | 7.1 | 2.3 | 159.6 | × | ○ | ○ | |
| 285 | " | A 2-19-62 | 凝灰岩 | 66 | 8.0 | 4.1 | 3.0 | 113.0 | × | ○ | ○ | ○ |
| 286 | " | A 2-19-63 | " | 65 | 7.0 | 3.2 | 2.8 | 66.3 | × | ○ | ○ | |
| 287 | " | A 2-19-64 | " | 65 | 9.1 | 6.0 | 3.5 | 236.4 | × | ○ | ○ | |

第4表 磯群構成礫一覧

| 番号 | 種群 | 遺物番号 | 石 質 | 資料番号 | 長さ (cm) | 幅 (cm) | 厚さ (cm) | 重量 (g) | 遺存状態 | | 礫面状態(○) | | |
|-----|----|------------|------|------|------------|-----------|------------|-----------|------------------|-----------------------|------------------|------------------|-----------------------|
| | | | | | | | | | 完 成 形 ○ | は ば れ 形 △ | 地 盤 群 X | 黒 色 物 ■ | ヒ ビ 割 れ △ |
| 288 | 2 | A 2-19-65 | 凝灰岩 | 66 | 6.6 | 3.3 | 2.9 | 81.6 | × | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 289 | # | A 2-19-66 | " | 4 | 12.6 | 7.9 | 4.1 | 423.8 | × | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 290 | # | A 2-19-67 | 砂 岩 | 93 | 8.7 | 6.7 | 2.5 | 210.2 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 291 | # | A 2-19-68 | 凝灰岩 | 58 | 6.6 | 3.7 | 2.6 | 66.0 | × | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 292 | # | A 2-19-69 | 砂 岩 | 1 | 4.7 | 3.4 | 2.4 | 34.3 | × | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 293 | # | A 2-19-70 | " | 1 | 4.0 | 3.7 | 3.0 | 31.2 | × | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 294 | # | A 2-19-71 | " | 75 | 4.7 | 3.6 | 2.4 | 31.0 | × | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 295 | # | A 2-19-72 | " | 67 | 8.5 | 6.4 | 2.7 | 160.8 | × | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 296 | # | A 2-19-73 | 凝灰岩 | 62 | 11.6 | 5.3 | 3.0 | 258.3 | × | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 297 | # | A 2-19-74 | 砂 岩 | 94 | 12.0 | 6.6 | 3.1 | 316.3 | × | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 298 | # | A 2-19-75 | " | 63 | 8.7 | 5.1 | 2.6 | 128.2 | × | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 299 | # | A 2-19-76 | チャート | 60 | 4.6 | 4.1 | 2.6 | 40.9 | × | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 300 | # | A 2-19-77 | 凝灰岩 | 62 | 2.3 | 2.1 | 1.8 | 7.1 | × | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 301 | # | A 2-19-78 | " | 62 | 8.6 | 2.9 | 2.8 | 80.2 | × | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 302 | # | A 2-19-79 | 砂 岩 | 59 | 5.8 | 3.2 | 2.0 | 33.6 | × | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 303 | # | A 2-19-80 | " | 95 | 6.8 | 6.2 | 2.3 | 195.3 | × | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 304 | # | A 2-19-81 | チャート | 60 | 5.3 | 3.5 | 2.1 | 42.6 | × | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 305 | # | A 2-19-82 | 砂 岩 | 59 | 8.7 | 7.5 | 5.0 | 383.3 | × | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 306 | # | A 2-19-83 | 凝灰岩 | 96 | 7.6 | 6.8 | 2.6 | 181.3 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 307 | # | A 2-19-84 | " | 4 | 4.5 | 3.4 | 2.7 | 30.5 | × | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 308 | # | A 2-19-85 | チャート | 3 | 5.1 | 3.3 | 2.6 | 50.8 | × | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 309 | # | A 2-19-86 | 凝灰岩 | 4 | 2.9 | 2.6 | 1.0 | 6.8 | × | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 310 | # | A 2-19-87 | チャート | 68 | 3.2 | 3.2 | 2.7 | 44.3 | × | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 311 | # | A 2-19-88 | 凝灰岩 | 97 | 9.1 | 7.4 | 4.0 | 328.5 | × | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 312 | # | A 2-19-89 | " | 58 | 5.0 | 2.9 | 2.7 | 35.3 | × | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 313 | # | A 2-19-90 | 安山岩 | 69 | 6.9 | 4.8 | 3.2 | 129.8 | × | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 314 | # | A 2-19-91 | 凝灰岩 | 98 | 10.6 | 5.8 | 3.1 | 234.9 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 315 | # | A 2-19-92 | 砂 岩 | 1 | 4.7 | 4.6 | 3.6 | 81.0 | × | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 316 | # | A 2-19-93 | チャート | 2 | 4.3 | 3.9 | 3.2 | 62.7 | × | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 317 | # | A 2-19-94 | 凝灰岩 | 6 | 2.8 | 2.7 | 2.3 | 14.2 | × | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 318 | # | A 2-19-95 | " | 6 | 5.3 | 4.8 | 3.4 | 53.8 | × | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 319 | # | A 2-19-96 | 砂 岩 | 1 | 3.8 | 2.7 | 2.5 | 20.5 | × | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 320 | # | A 2-19-97 | " | 72 | 8.1 | 4.6 | 2.8 | 135.7 | × | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 321 | # | A 2-19-99 | 凝灰岩 | 99 | 7.2 | 5.7 | 3.0 | 175.6 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 322 | # | A 2-19-100 | 砂 岩 | 59 | 4.4 | 3.7 | 2.1 | 22.7 | × | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 323 | # | A 2-10-101 | チャート | 3 | 6.1 | 4.0 | 3.4 | 78.8 | × | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 324 | # | A 2-19-102 | " | 68 | 4.0 | 3.5 | 3.3 | 56.1 | × | ○ | ○ | ○ | ○ |

第5表 磯群構成種個体別資料一覧

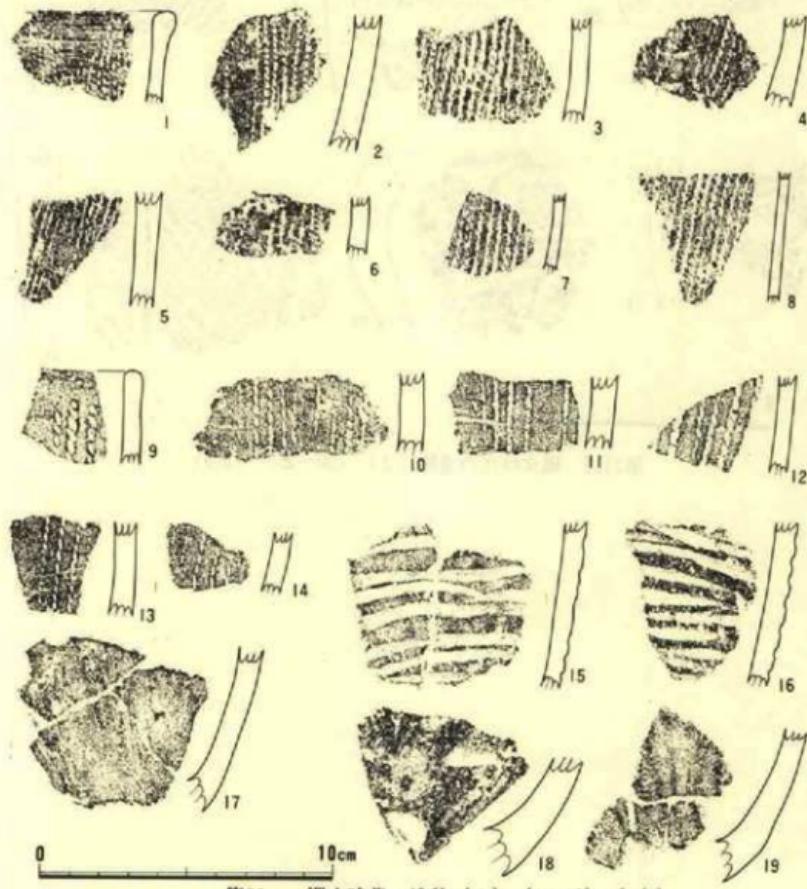
| 資料番号 | 磯群 | 石質 | 点数 | 接合数 | 復原度 | 資料番号 | 磯群 | 石質 | 点数 | 接合数 | 復原度 |
|------|-----|------|----|-----|-------|------|----|------|----|-----|-------|
| 1 | 1及2 | 砂岩 | 22 | 22 | 2/3 | 51 | 1 | 凝灰岩 | 1 | | 完形 |
| 2 | 一 | チャート | 13 | 13 | " | 52 | " | 砂岩 | 1 | | 1/3以下 |
| 3 | " | " | 10 | 9 | " | 53 | " | " | 1 | | 1/2 |
| 4 | " | 凝灰岩 | 8 | 8 | " | 54 | " | 凝灰岩 | 1 | | ほぼ完形 |
| 5 | " | チャート | 6 | 6 | " | 55 | " | " | 1 | | 1/3以下 |
| 6 | " | 凝灰岩 | 4 | 4 | " | 56 | " | 砂岩 | 1 | | 2/3 |
| 7 | " | " | 2 | 2 | 完形 | 57 | 2 | " | 13 | 13 | 1/2 |
| 8 | " | 砂岩 | 2 | 2 | 2/3 | 58 | " | 凝灰岩 | 12 | 12 | 2/3 |
| 9 | " | チャート | 16 | 14 | " | 59 | " | 砂岩 | 8 | 8 | 2/3 |
| 10 | 1 | 砂岩 | 15 | 15 | " | 60 | " | チャート | 7 | 7 | 1/2 |
| 11 | " | " | 14 | 14 | " | 61 | " | 砂岩 | 6 | 6 | 2/3 |
| 12 | " | 砂岩 | 12 | 12 | " | 62 | " | 凝灰岩 | 3 | 3 | 完形 |
| 13 | " | " | 10 | 10 | " | 63 | " | 砂岩 | 3 | 3 | 2/3 |
| 14 | " | チャート | 9 | 9 | " | 64 | " | チャート | 3 | 3 | " |
| 15 | " | シルト | 6 | 6 | " | 65 | " | 凝灰岩 | 2 | 2 | ほぼ完形 |
| 16 | " | 安山岩 | 5 | 5 | 1/2 | 66 | " | " | 2 | 2 | 完形 |
| 17 | " | 砂岩 | 4 | 4 | " | 67 | " | 砂岩 | 2 | 2 | ほぼ完形 |
| 18 | " | " | 4 | 4 | " | 68 | " | 凝灰岩 | 2 | 2 | 1/2 |
| 19 | " | チャート | 3 | 3 | 2/3 | 69 | " | 安山岩 | 2 | 2 | 完形 |
| 20 | " | " | 3 | 3 | " | 70 | " | 凝灰岩 | 2 | 2 | ほぼ完形 |
| 21 | " | 凝灰岩 | 2 | 2 | ほぼ完形 | 71 | " | 安山岩 | 2 | 2 | 2/3 |
| 22 | " | 砂岩 | 2 | 2 | 2/3 | 72 | " | 砂岩 | 2 | 2 | " |
| 23 | " | チャート | 2 | 2 | ほぼ完形 | 73 | " | " | 2 | 2 | 1/3以下 |
| 24 | " | 砂岩 | 2 | 2 | 2/3 | 74 | " | チャート | 6 | | 1/2 |
| 25 | " | " | 2 | 2 | ほぼ完形 | 75 | " | 砂岩 | 4 | | " |
| 26 | " | 凝灰岩 | 2 | 2 | 2/3 | 76 | " | " | 1 | | 完形 |
| 27 | " | チャート | 2 | 2 | ほぼ完形 | 77 | " | " | 1 | | 1/3以下 |
| 28 | " | 蛇紋岩 | 2 | 2 | ほぼ完形 | 78 | " | 凝灰岩 | 1 | | 完形 |
| 29 | " | 砂岩 | 1 | | 1/3以下 | 79 | " | チャート | 1 | | " |
| 30 | " | " | 1 | | 1/3以下 | 80 | " | 凝灰岩 | 1 | | " |
| 31 | " | 砂岩 | 1 | | ほぼ完形 | 81 | " | " | 1 | | ほぼ完形 |
| 32 | " | 凝灰岩 | 1 | | ほぼ完形 | 82 | " | " | 1 | | 完形 |
| 33 | " | 安山岩 | 1 | | 完形 | 83 | " | " | 1 | | 1/2 |
| 34 | " | " | 1 | | 1/3以下 | 84 | " | " | 1 | | 完形 |
| 35 | " | 砂岩 | 1 | | 1/3以下 | 85 | " | " | 1 | | 1/3以下 |
| 36 | " | シルト | 1 | | ほぼ完形 | 86 | " | 砂岩 | 1 | | 完形 |
| 37 | " | 砂岩 | 1 | | 完形 | 87 | " | " | 1 | | 2/3 |
| 38 | " | 凝灰岩 | 1 | | 完形 | 88 | " | 凝灰岩 | 1 | | ほぼ完形 |
| 39 | " | 安山岩 | 1 | | 1/2 | 89 | " | 花崗岩 | 1 | | 完形 |
| 40 | " | 凝灰岩 | 1 | | ほぼ完形 | 90 | " | 凝灰岩 | 1 | | " |
| 41 | " | " | 1 | | 完形 | 91 | " | チャート | 1 | | " |
| 42 | " | 砂岩 | 1 | | ほぼ完形 | 92 | " | 凝灰岩 | 1 | | 2/3 |
| 43 | " | 凝灰岩 | 1 | | ほぼ完形 | 93 | " | 砂岩 | 1 | | 完形 |
| 44 | " | 砂岩 | 1 | | 1/3以下 | 94 | " | " | 1 | | 2/3 |
| 45 | " | " | 1 | | 完形 | 95 | " | " | 1 | | 1/3以下 |
| 46 | " | " | 1 | | 完形 | 96 | " | 凝灰岩 | 1 | | 完形 |
| 47 | " | 凝灰岩 | 1 | | 1/3以下 | 97 | " | " | 1 | | 2/3 |
| 48 | " | " | 1 | | 完形 | 98 | " | " | 1 | | 完形 |
| 49 | " | " | 1 | | ほぼ完形 | 99 | " | " | 1 | | " |
| 50 | " | 砂岩 | 1 | | 完形 | | | | | | |

第2節 縄文時代の遺物

今回の調査によっては縄文時代の遺構は認められなかった。遺物もごく僅な量であり、弥生時代の遺構検出に際して出土したものである。

縄文時代早期の土器（第20図）

1～14は撚糸文の施されるもので、1～8の間隔の狭いものと、9～14の広いものがある。1～8はL Rの撚糸文が施され、色調は黄褐色を呈する。1の口縁はわずかに肥厚し、直立する。9～14はL Rの撚糸文が施され、色調は赤褐色を呈する。9の口縁は直立する。夏島式と稲荷台式。15・16は太い沈線が施され、色調は赤褐色を呈する。田戸下層式。17～19は無文の尖底部である。



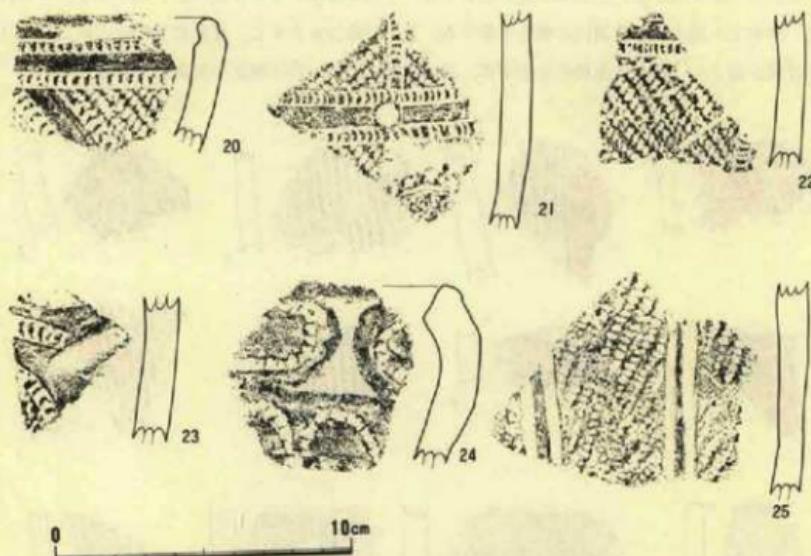
第20 縄文時代の遺物 (1) (1~19) (1/2)

縄文時代前期の土器（第21図20～24）

いずれも縄文の地文に半裁竹管による連続爪形文の施されるもので、黄褐色を呈する。諸磯a式。

縄文時代中期の土器（第21図24・25）

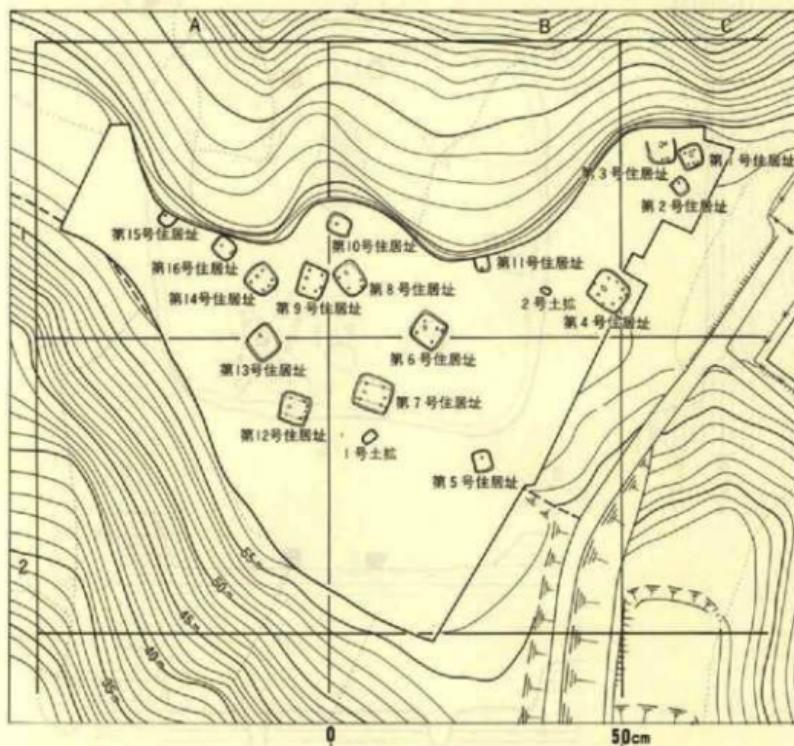
24はキャリバー形の深鉢の口縁部で、隆起文と竹管による連続爪形文で文様を構成する。色調は赤褐色で、砂粒・雲母を含む。阿玉台式。25はR Lの縄文を地文とし、2本1組の沈線が施される。色調は赤褐色を呈す。加曾利E式。



第21図 縄文時代の遺物（2）（20～25）（1/2）

第3節 弥生時代の遺構と遺物

今回の調査によって検出された弥生時代の遺構は、住居址16軒・土塙2基であり、各遺構から検出された遺物と合せ、調査によって得られた成果の主たるものである。遺構は、調査範囲の北側ほどに散在し、重複するものはない。遺跡は、南北を急斜面によって、東西を谷の侵食による括れ部によって区画される小平坦面を占めるものであり、調査範囲外の北東部に数軒の住居址の存在を予測されるが、弥生後期の小集落址のはば全容を明らかにしているものと思われる。以下、各遺構とその遺物について述べたい。遺構名は、調査時における調査順であり、原則として東から西へ付している。



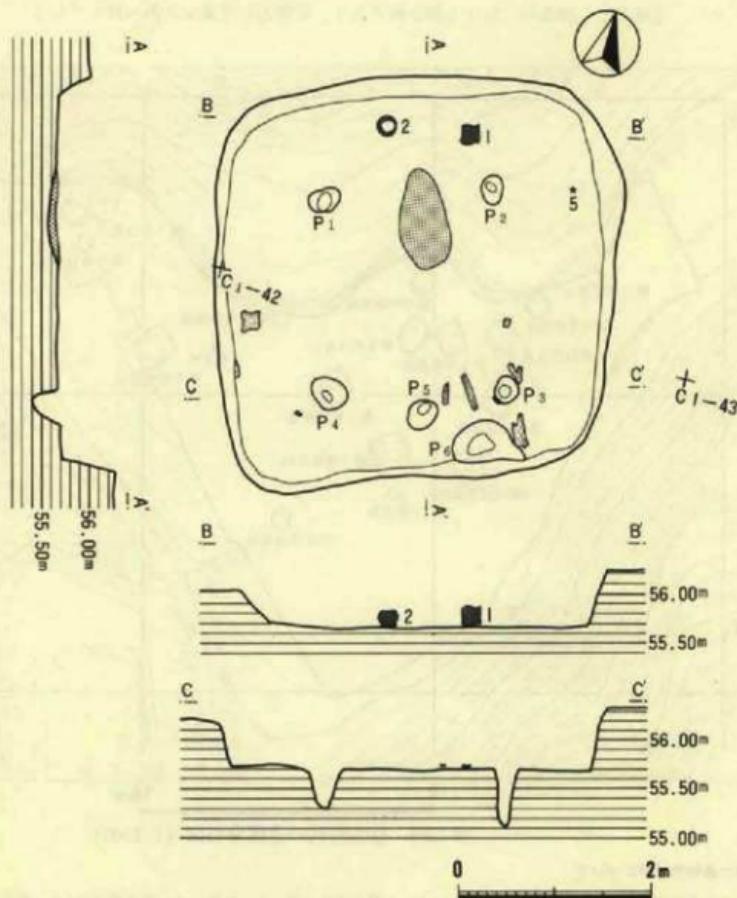
第22図 弥生時代の遺構分布図 (1/1000)

出土遺物の説明について

出土遺物についての説明は一覧によって行った。土器の法量の項、 ℓ = 口径・mb = 腹部最大径・db = 底部径 h = 器高を表わす。単位はcm。()は復元推定値であることを示す。出土状況の項、床+は床面からの垂直距離を、□×□は水平分布範囲の長軸と短軸を表わす。単位はcm。

第1号住居址（第23～25図）

調査範囲の北東隅に検出された3軒の住居址のうちの1軒で、C1-32・42グリッドに位置する。遺跡北側の谷に臨む位置にあたり、北壁から崖線まではわずかに2mを残すのみである。また、本址の南西1mに第2号住居址、西30cmに第3号住居址が位置する。軸長4.1×4.1mを測り、面積15.8m²の隅丸方形を呈する。主軸方向はN-30°-Wである。壁高は南東隅で最高66cm、北西隅で最低28cmを測る。これは本址が、侵食の進みつつある谷に臨んで位置するために、造構検出面がすでに北に傾斜

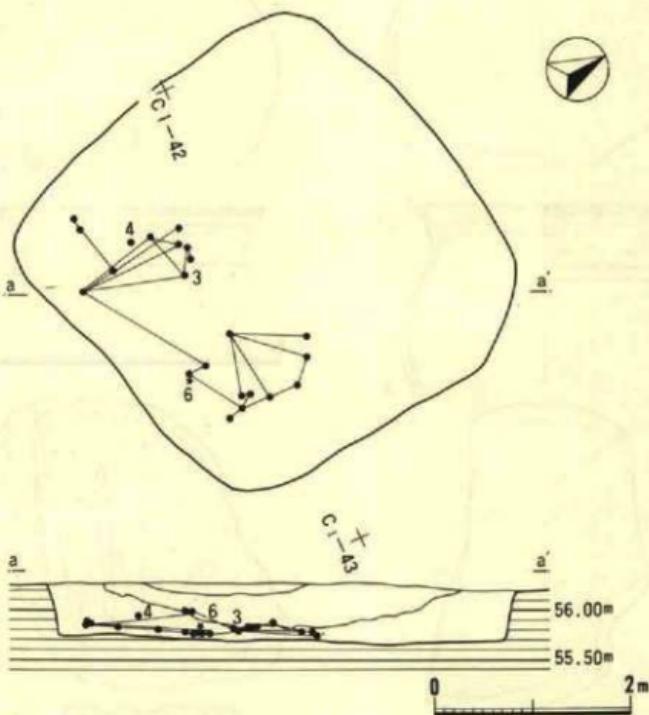


第23図 第1号住居址実測図(1/60)

していることによる。床面は水平で固く踏み固められている。柱穴は5本検出された。P1(径32×20cm・深さ47cm)・P2(径28×20cm・深さ60cm)・P3(径26×22cm・深さ48cm)・P4(径40×32cm・深さ43cm)は主柱穴で、四隅の対角線上に位置ししっかりしている。P5(径32×28cm・深さ30cm)は、主軸線上南壁下から40cm離れて位置し、南壁に向って60°程の傾斜を持つ。P6(径62×40cm・深さ13cm)は、南壁下中央よりやや東へ寄って穿たれる。

炉(径98×48cm・深さ9cm)は、主軸線上の北に偏し、主柱穴P1・P2を結ぶ線よりやや中央よりに位置する。

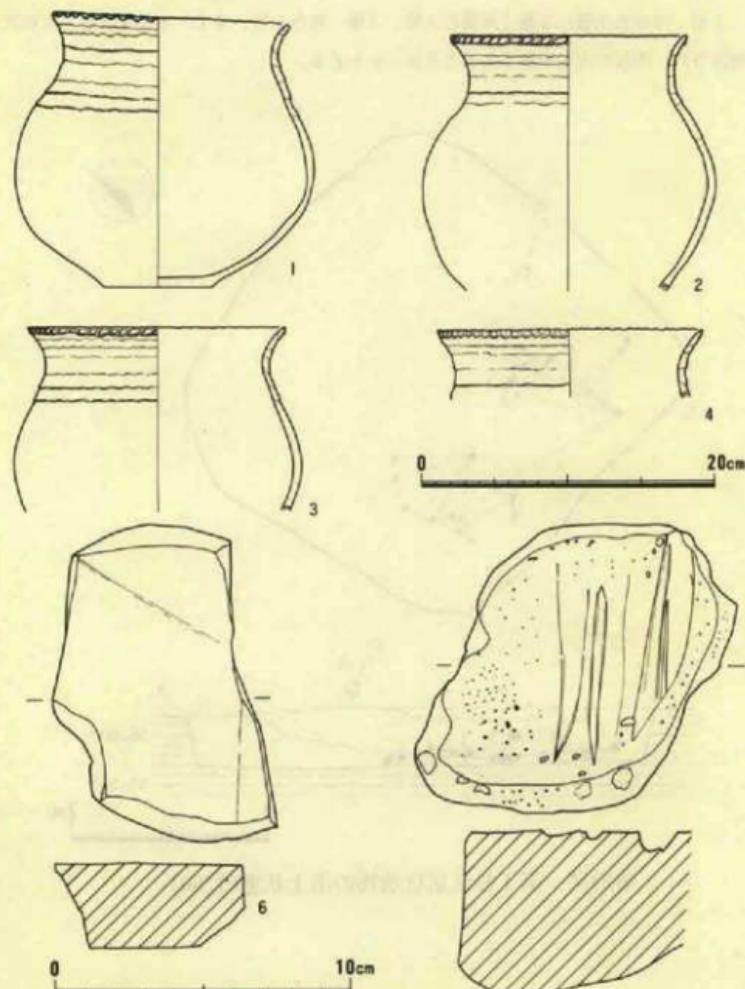
覆土 1層：暗褐色土層。2層：黒褐色土層。3層：褐色土層。焼土・木炭を含む。主柱穴からも木炭が検出され、本址が火災家屋であることがうかがえる。



第24図 第1号住居址遺物の出土状態(1/60)

遺物の出土状態

出土した遺物は、土器 116 点、軽石 1 点、砥石 1 点、小円礫 5 点である。1・2 は床面に遺棄されたもので、炉址と北壁の中間に約 80cm 離れて 1 は横倒して、2 は口縁を床面に密着させ、伏せた状態で検出された。3 は 21 点の土器片が接合したもので、南壁側 1/3 ほどの範囲に散乱、床面から 5~10cm 浮いたものを主体とする。住居址の焼失後南側から投棄されたものであろう。4 も 3 層中より出土した。5 の軽石は床面から、6 の砥石は 3 層中より出土した。



第25図 第1号住居址出土遺物 (1~4: 1/4)(5·6: 1/2)

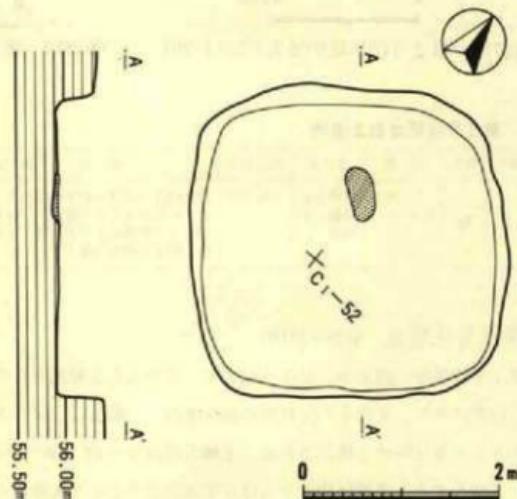
第1号住居址出土遺物

| 番号 | 器形 | 法量 | 遺存度 | 出土状況 | 形態・文様・調整等 | 胎土・焼成・色調 |
|----|----|--|-----------------------|-----------------------------------|--|------------------------------|
| 1 | 甕 | I 16.7 m b 20.5 d b 14.6 h 18.4 | 口縁上を 欠損 | 床面横置 | 最大径を胴部に持ち、球形の胴部からゆるやかに収縮する頭部。弱く外反する口縁部へと達なり。器体はやや歪む。口唇部は内側からの棒状工具による押捺で小波状を呈す。7帯の輪積痕は明瞭。ナデ調整。 | 胎土はやや粗く、砂粒を含む。焼成良好。色調は淡橙～橙色。 |
| 2 | 甕 | I 16.3 m b 20.2 | 底部欠損 | 床面倒置 | 最大径を胴部に持ち、直立ぎみの頭部から弱く外反する口縁部を持つ。口唇外端は、棒状工具による左下方へ抜くような押捺によって小波状を呈す。5帯の輪積痕は、指頭により潰され一部不明瞭。ナデ調整。 | 胎土はやや粗く、砂粒を含む。焼成良好。色調は橙色。 |
| 3 | 甕 | I [17.6] m b [21.6] | 口縁部か ら胴部の 1/4残存 | 3層主体 一部2層 床+5~10 280×120 | 最大径を胴部に持ち、ゆるやかに収縮する頭部から弱く外反する口縁部へと達なる。口唇部は棒状工具により左下方へ抜くような押捺により小波状を呈す。6帯の輪積痕は、下3帯が明瞭。ナデ調整。 | 胎土はやや粗く、石粒・砂粒を含む。焼成良好。色調は褐色。 |
| 4 | 甕 | I [18.6] | 口縁部半 残存 | 3層中 床+8 | 弱く外反する口縁部。口唇は薄く引き出され、棒状工具による上方からの押捺により小波状を呈する。5帯の輪積痕は、下2段が明瞭。ナデ調整。 | 胎土は緻密であるが砂粒を若干含む。焼成良好。色調は橙色。 |
| 5 | 鉢石 | 8.5×11.5cm、厚さ5.5cmを測り、平面部分に鋭利なもので付けられたと思われる溝状の痕が4条認められる。 | | | | |
| 6 | 砥石 | 9.5×7.0cm、厚さ2.8cmを測り、両面が砥石として使用されている。3層出土。 | | | | |

第2号住居址(第26~28図)

第1号住居址の南西1m、

C 1 - 41・42・51・52グリットに位置する。軸長3.1×3.2mを測り、面積7.7 m²の隅丸方形を呈する小形の住居址である。主軸方向はN-40°-Wである。壁は南東壁中央で壁高50cmを測り80°から垂直に近く直線的に立ち上がるのに対し、北西壁は65°~75°で立ち上がり壁高40cmを測る。床面は壁際を除きよく踏み固められ、水平かつ堅緻であった。壁溝および柱穴は認められなかった。



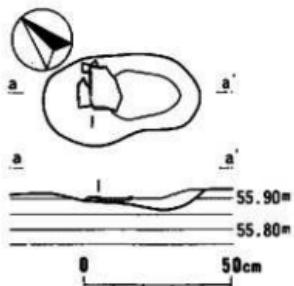
第26図 第2号住居址実測図(1/60)

炉は床面中央より北西に偏して位置し、径55×30cm、深さ7cmのもので、底面に變形土器片が敷かれていた。

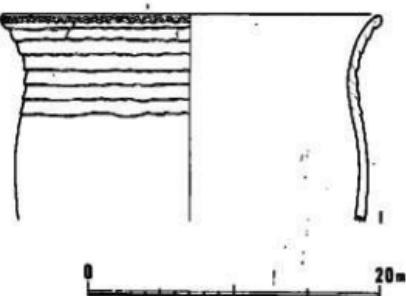
覆土 全覆土が黒褐色土、褐色土、ロームブロックの混在する土層で分層は不能であった。遺物の出土状態と合わせると埋め戻しの行われた住居址であることが認められた。

遺物の出土状態

出土した遺物は、土器13点のみで1の炉址に使用されていた變形土器の大形破片を除いては細片のみである。また、その位置も床面と覆土上面からの検出で、このことからも本住居址は埋め戻されたものと思われる。



第27図 第2号住居址炉址実測図(1/20)



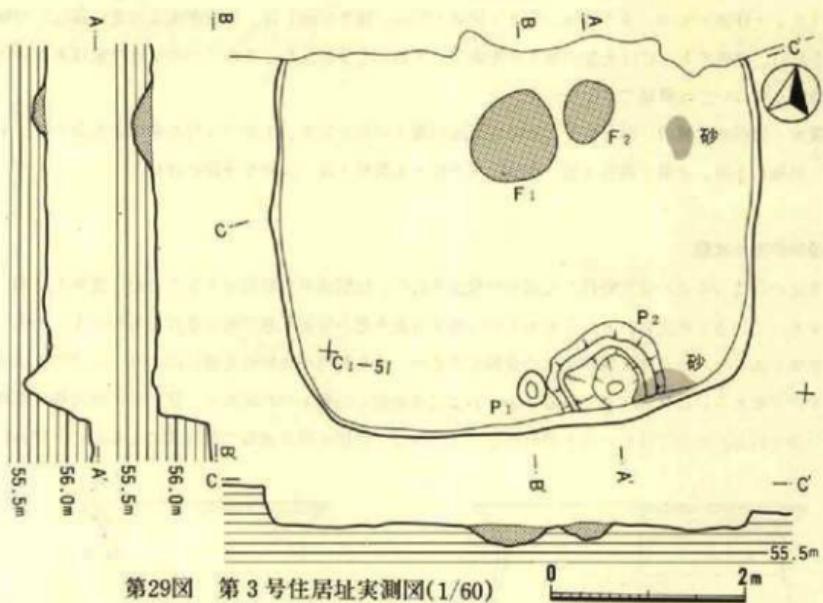
第28図 第2号住居址出土土器(1/4)

第2号住居址出土遺物

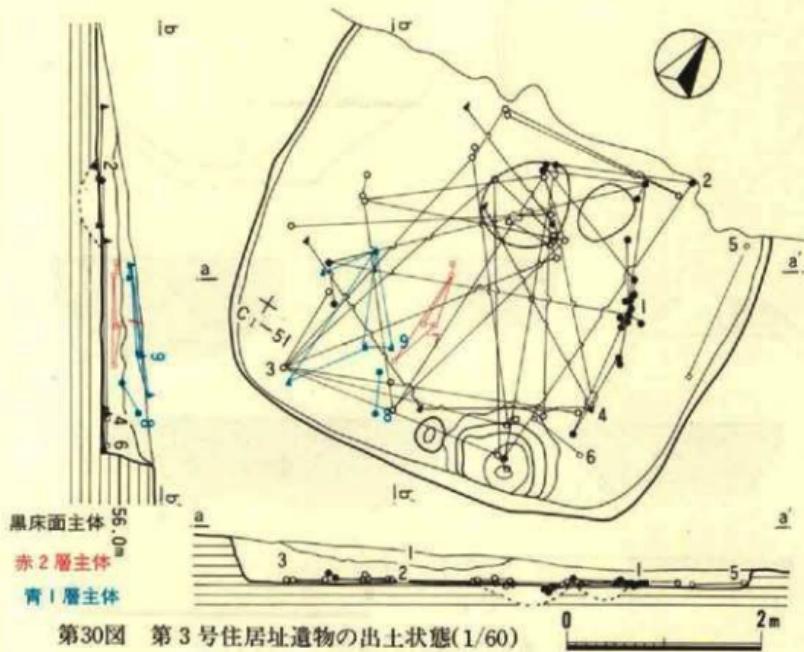
| 番号 | 器形 | 法量 | 遺存度 | 出土状況 | 形態・文様・調整等 | 粘土・地成・色調 |
|----|----|------------------------|--------------------|------|---|------------------------------|
| 1 | 變 | 1 (36.0) m b (24.0) | 口縁から 底部の土 残存 | 炉址使用 | 胴部径より口径がわずかに大きく、直立する頸部から、わずかに外反する口縁部。口唇外側は棒状工具による上下からの押抜により小波状を呈する。7帯の輪削痕は明瞭、刷毛目調整の後ナデ。 | 粘土はやや粗く、石粒を含む。焼成良好 色調は橙色。 |

第3号住居址（第29～31図）

第1号住居址の西30cm、C 1-31グリッドを主たる範囲として位置する。本址は北側の谷の崖線に臨む位置にあり、北壁から約30cm程度の部分を欠く、軸長は○×5.1mを測り、推定面積23m²程度の隅丸方形を呈する住居址と推測される。主軸方向はN-18°-Wである。壁高は南壁中央で54cmを測り北へ向って減少する。北壁は床面からほぼ垂直に立ち上がり床面から20cm程度から上部は70°前後の傾斜を示す。床面は水平で壁際30cm前後より内側は堅硬である。柱穴は南壁中央下のP 1（径36×32cm・深さ6cm）の浅いもののみで主柱穴周溝は認められなかった。貯藏穴P 2（径84×60cm・深さ24cm）は中央よりやや東に偏して南壁に接して穿たれていた。鉢状のもので、外縁に幅15cm前後、床面より3～4cmの高さのロームを固めた土手が廻る。またこの貯藏穴には底から東側にかけて砂の分布がみられた。



第29図 第3号住居址実測図(1/60)



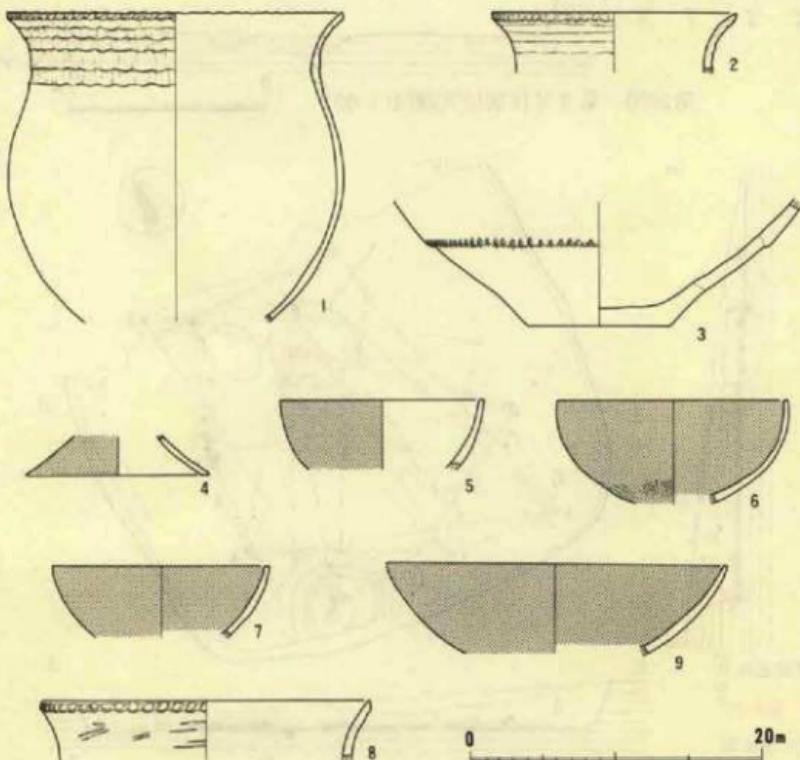
第30図 第3号住居址遺物の出土状態(1/60)

炉（F 1・径96×90cm、深さ23cm、F 2・径66×50cm、深さ9cm）は、床面中央より北に偏し二つ検出された。西側のF 1には大量の焼土が充満し、土器片も多出した。この二つの炉址の前後あるいは、同時存在については確認できなかった。

覆土 住居址北側の一部を欠くために住居址内覆土の $\frac{1}{2}$ を欠き、上半には竹の細根が充満する。1層：黒褐色土層。2層：褐色土層。全体に焼土粒・木炭粒・ローム粒を多量に含む。

遺物の出土状態

本址からは666点の弥生時代の土器片が検出された。住居址の北側部分を欠くため、遺物もその一部を失っていると考えられる。完形あるいは復元可能と思われる状態で検出されたものではなく小破片が主体であった。1～6は床面主体の資料であるが、分布範囲が住居址全面に広がり、二次的な焼成を受け赤変あるいは脆弱化していること、および床面近くの覆土の状況から、住居址の焼失後に整理的行為が行われたのではないかと思われる。7～9は、住居址埋没過程での投入によるものと思われる。



第31図 第3号住居址出土遺物(1～9)(1/4)

第3号住居址出土遺物

| 番号 | 器形 | 法量 | 遺存度 | 出土状況 | 形態・文様・調整等 | 胎土・施成・色調 |
|----|----|----------------------|------------------------------|----------------------------------|---|---------------------------------|
| 1 | 甕 | 1 (23.0) m b 24.2 | 底部およ び脚部か ら口縁部 の土欠損 | 床面主体 床+0~9 280×320 | 口径よりやや大きい径の胴部からゆるく収縮する頸部、強く外反する口縁部。口唇部外端はより軽質段階で棒状工具による上方からの押捺で小流状を呈す。6管からなる輪積模は浅く、指頭による潰しが認められる。器面は荒れており、一部変色。 | 胎土は粗く、砂粒を多く含む。施成良好。色調は淡橙色。 |
| 2 | 甕 | 1 (18.0) | 口縁部半 残存 | 床面・伊 賀窯穴内 120×340 | 強く外反する口縁部。口唇部外端の波状は簡文木座の押捺によって施される。 | 胎土は粗く、砂粒を多く含む。施成不良。色調は黄橙色。 |
| 3 | 甕 | d b 96 | 底部半 胴部下半 半残存 | 床面・伊 賀窯穴内 320×360 | 平底の底部は弱く突出し、胴部下半に段を持つ。段部には瓦状工具による切るような割込みが施される。二次施成を受けしており、器面は荒れている。 | 胎土はやや粗く、砂粒を多く含む。色調は赤橙色。 |
| 4 | 高環 | d b 114 | 脚部半 残存 | 床面・伊 賀窯穴内 床+0~4 320×340 | 脚部の大きく開く高环脚部。外面板方向、内面横方向荒磨き。外面朱彩。 | 胎土緻密。黒雲母片を含む。施成良好。 |
| 5 | 甕 | 1 (15.0) | 体部半残 存 | 床面~2 層 床面+0 ~7 140 | 大きく内湾し、口唇は平縁を呈す。器面は荒れているが下半に瓶方向の削り痕が認められる。外面朱彩。 | 胎土やや粗く、砂粒黒雲母を含む。施成良好。内面の色調は黄橙色。 |
| 6 | 甕 | 1 (14) | 体部上半 半周残存 | 床~2層 床面+0 ~24 45 | 大きく内湾し、平縁の口唇部、横方向荒磨き。内外面朱彩。 | 胎土はやや粗く、砂粒を含む。施成良好。 |
| 7 | 甕 | 1 (15) | 体部上半 半周残存 | 床~2層 +0~24 45 | 口縁が大きく開き、口唇は平縁を呈す。内外面朱彩。 | 胎土は緻密。施成良好。 |
| 8 | 甕 | 1 (15) | 口縁部半 周残存 | 2層主体 +8~16 20×120 | 口唇外端は棒状工具による上方からの押捺で小流状を呈す。外面刷毛調整、内面ナナ字調整。 | 胎土は粗く、砂粒を多く含む。施成良好。色調は淡黄橙色。 |
| 9 | 高環 | 1 (23) | 口縁部半 周残存 | 1層主体 +20~60 100×160 | 大きく開き(环部で口唇は丸縁を呈す)。器面は荒れており内外とも朱彩。 | 胎土は緻密。施成良好。 |

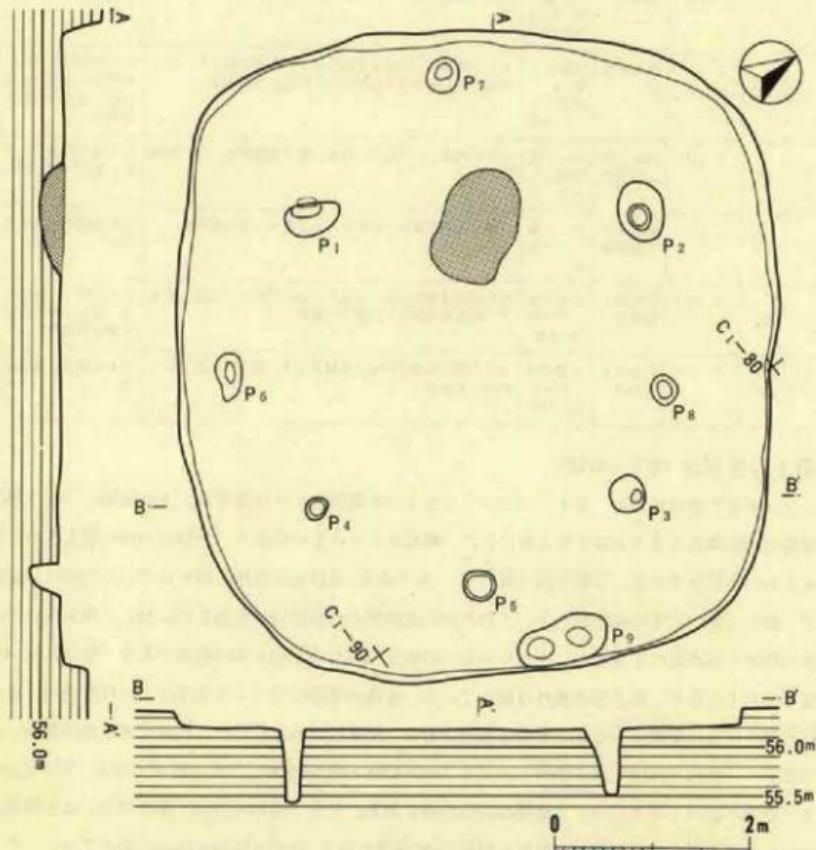
第4号住居址(第32~37図)

2号住居址の南西15.5m、B 1~89グリッドを主たる範囲として位置する。本址東側の一部は事業地域外で拡張調査により全容を明らかにした。軸長6.6×6.2mを測り、面積33.9m²の隅九方形を呈する大形の住居址である。主軸方向はN-54°-Wである。住居址が竹根に覆われていたために確認段階で、西から東へ若干の傾斜がつき、このために北西壁の壁高は42cmを測るのに対し、南東壁は25cm前後の壁高を認めるにすぎない。またロームへの掘り込みも浅く15~20cm前後である。壁は75°~80°程度で立ち上がるが、壁上部の崩れは進んでいる。床面は壁際に比べて中央部が5cm程度低い。また主柱穴間の床面は堅緻であるが、壁際は軟質である。壁溝は認められない。柱穴は8本検出され、主柱穴はP 1 (径52×32cm・深さ59cm)、P 2 (60×49cm・深さ62cm)、P 3 (径40×34cm・深さ65cm) P 4 (径22×24cm・深さ72cm)で底径は20cm前後を測る。P 5 (径30×34cm・深さ27cm)は主軸線上、炉に対して南東壁に近く位置し、壁側の傾斜は60°前後を測る。P 6 (径48×24cm・深さ7cm)、P 7

($34 \times 32\text{cm}$ ・深さ 14cm)、P 8 (径 $32 \times 28\text{cm}$ ・深さ 13cm)は主柱穴のほぼ中間で主柱穴を結ぶ線の外側壁との間にそれぞれ位置し補助柱穴と思われる。貯蔵穴P 9 (径 $40 \times 92\text{cm}$ ・深さ $17 \sim 14\text{cm}$)は中央より北に偏して南東壁に接して穿たれ、底部は二つに分かれていた。

炉は(径 $115 \times 82\text{cm}$ ・深さ 10cm)主軸上北西に偏して主柱穴の中間に位置する。

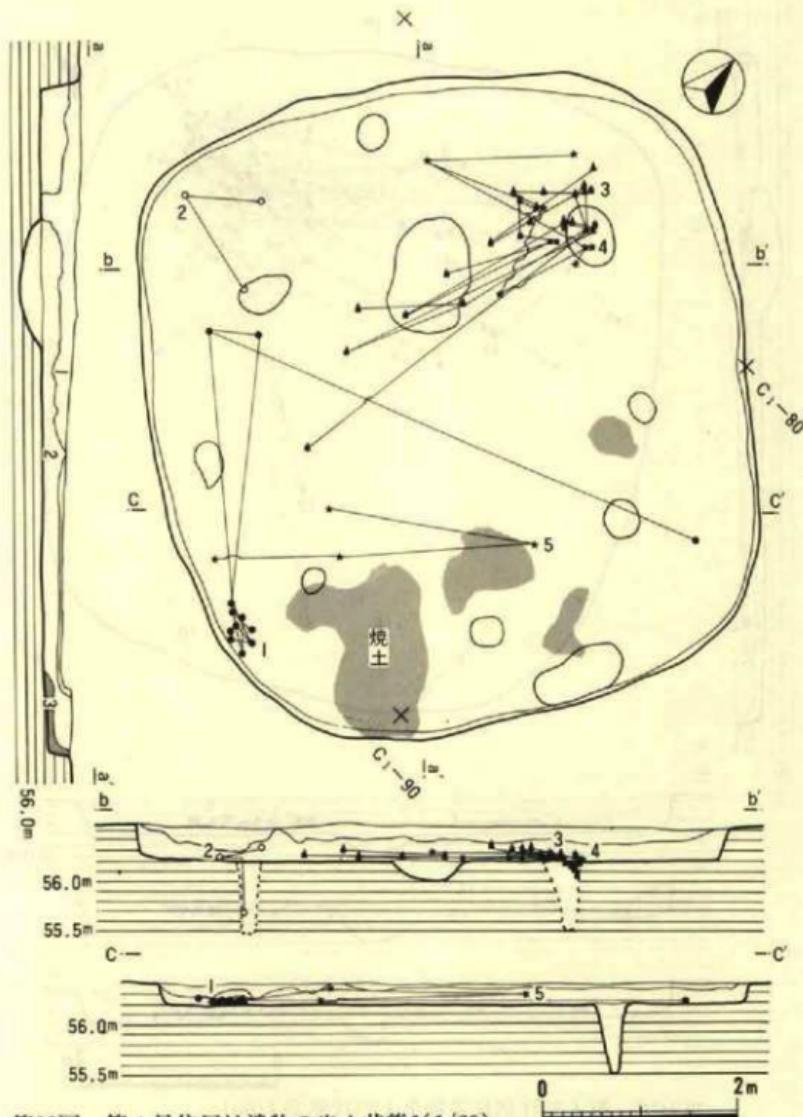
覆土 本址は竹林の中に位置したために住居址全面が竹の主根・支根に覆われており、住居址内覆土もまた、竹根が充満するという状況であった。1層：黒色土層。著しく黑色味の強い土層で竹根のためしまりなし。2層：黒褐色土層・黒色土にローム粒・木炭粒・焼土粒を含む。3層：焼土。木炭粒を多く含む焼土。焼土の量および木炭の遺存状況は良好ではないものの南東壁の一部が焼土化していることなどもあり焼失家屋と考えられる。



第32図 第4号住居址実測図(1/60)

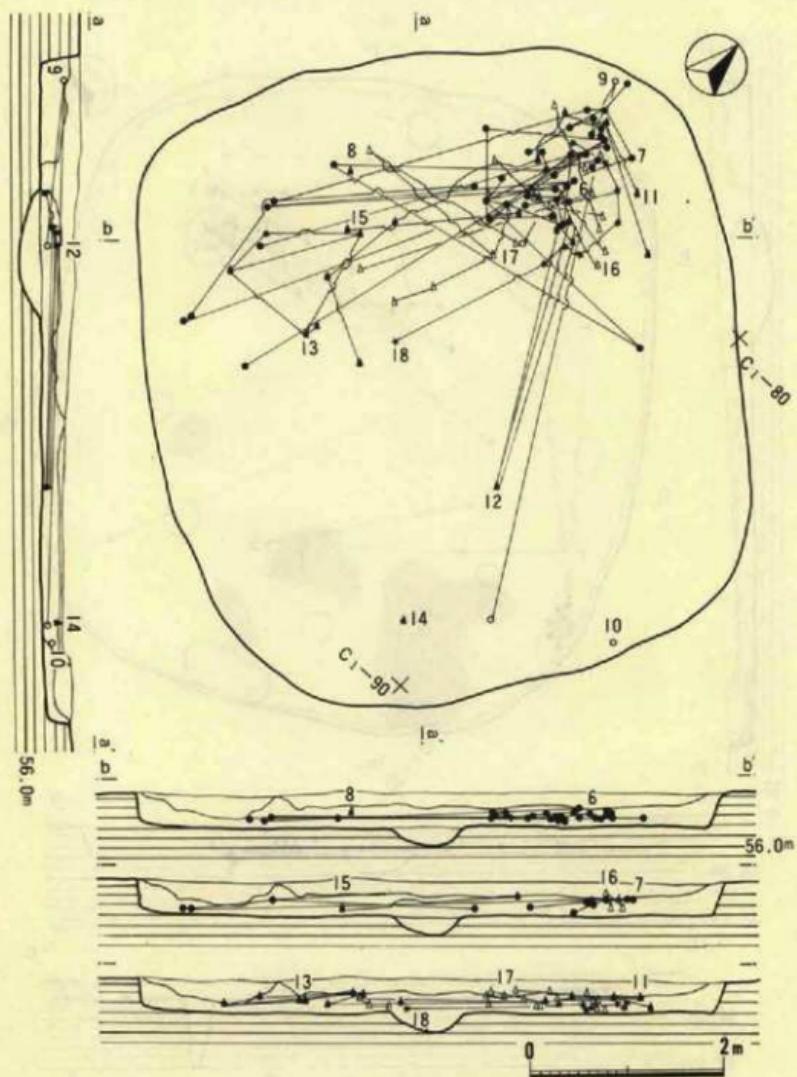
遺物の出土状態

本址からは、弥生時代の土器片 575 点が検出された。小破片が多く、完形あるいは復元可能を思わせる状態での出土資料はなかった。1～5 は、床面あるいは柱穴内から出土した資料を中心として挙げる。

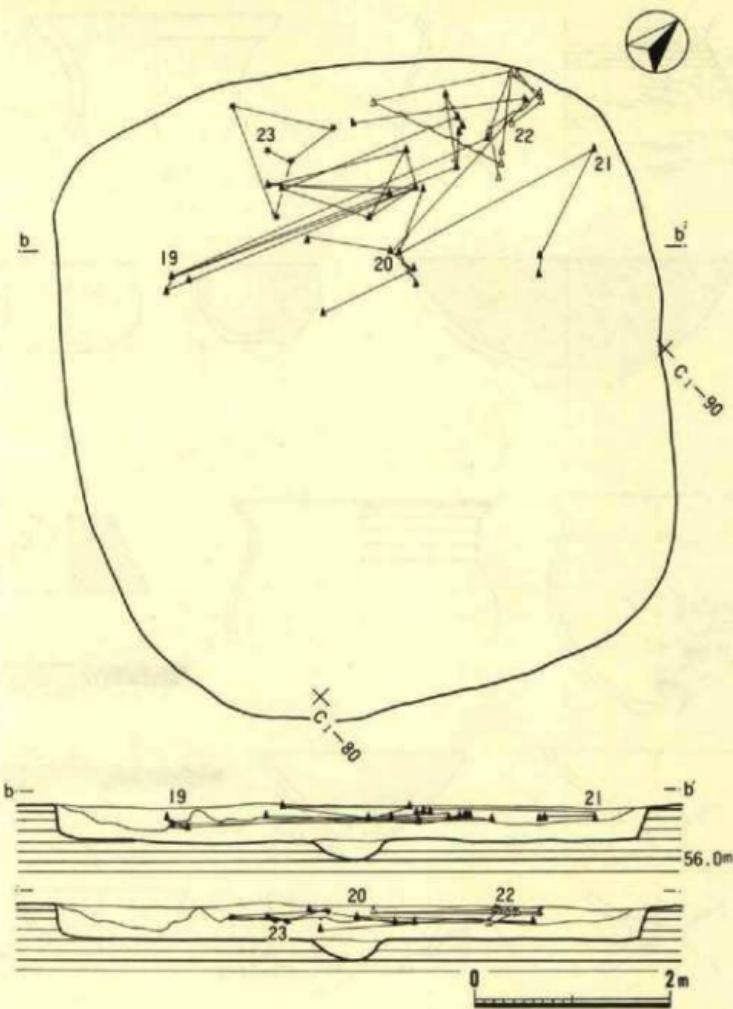


第33図 第4号住居址遺物の出土状態1(1/60)

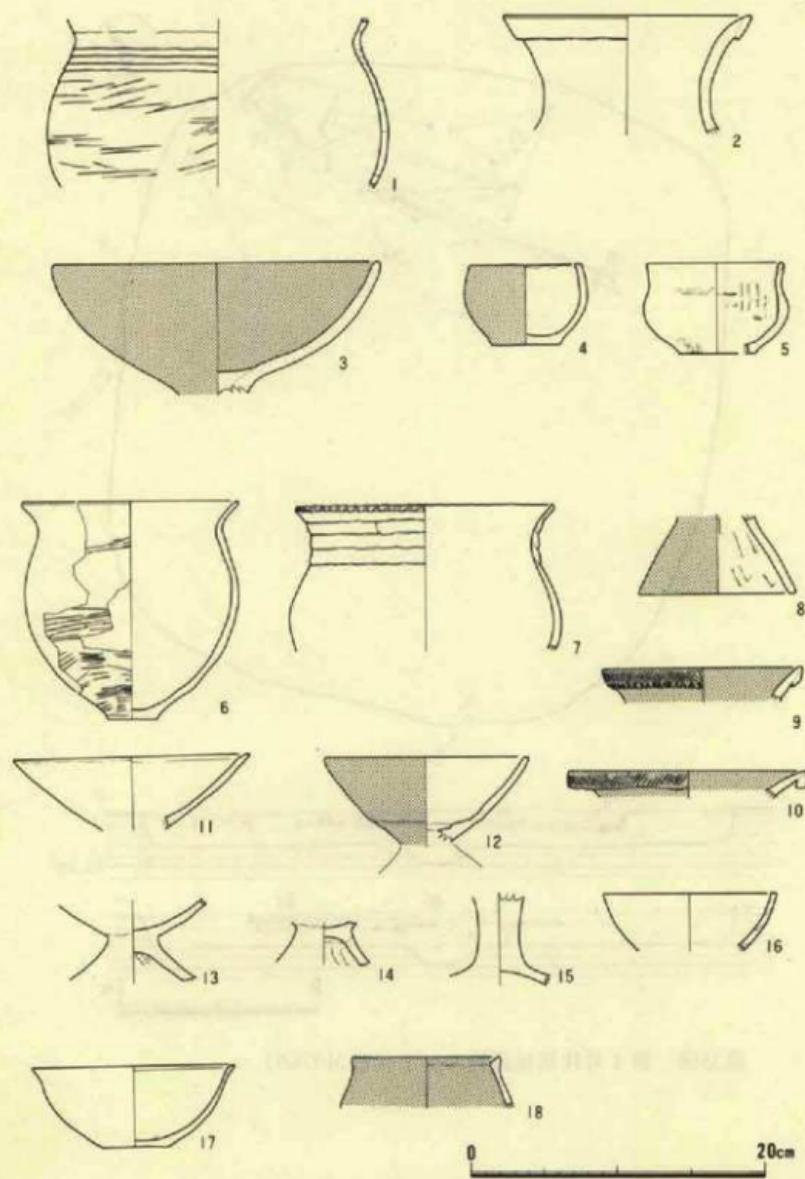
合したものである。7~18は、第2層上半を主体として出土した資料で、10・14を除いて、その接合資料の分布は広範囲におよぶものが多いが、いずれも住居址の西半に偏在し、焼土の分布範囲と重複しない。



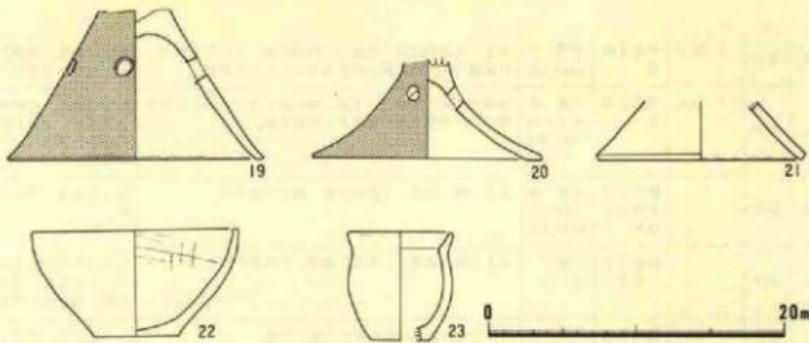
第34図 第4号住居址遺物出土の状態 2(1/60)



第35図 第4号住居址遺物の出土状態3(1/60)



第36図 第4号住居址出土遺物(1) (1~18) (1/4)



第37図 第4号住居址出土遺物(2)(19~23) (1/4)

第4号住居址出土遺物

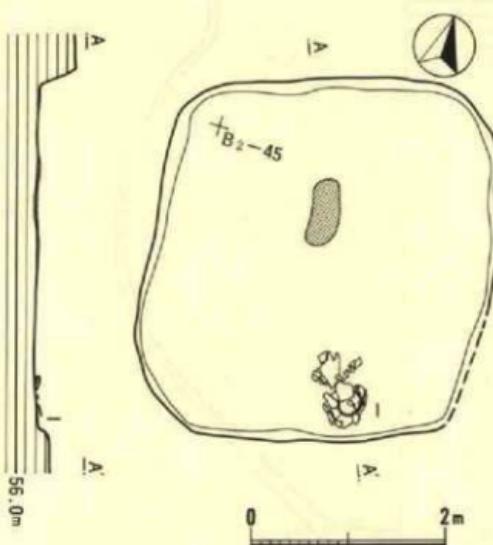
| 番号 | 器形 | 法量 | 遺存度 | 出土状況 | 形態・文様・調整等 | 胎土・焼成・色調 |
|----|----|--|--------------------|--------------------------------|---|--|
| 1 | 甕 | m b (23) | 胴部+周 残存 | 床面主体 床+0~8 320×480 | 頭部の収縮が弱い黒彩土器で、輪縁5箇のうち下3箇は幅が狭い。胴部には条線底状の刷毛目を残す。 | 胎土はやや粗く、砂粒を多く含む。焼成良好。色調はにじい 黄緑。 |
| 2 | 壺 | I (37.0) | 口縁部+ 周残存 | 床面・柱 穴内 80×100 | 二重口縁を呈する。薄く引き出された口縁に幅1.5cm厚さ 6mmほどの粘土帯を貼り合せて構成。内外面光磨き。 | 胎土は細密で、砂粒を含む。焼成良好。 |
| 3 | 高环 | I 22.0 | 环部+残 存 | 床面・柱 穴内生主 80×480 | 大きく聞く环部で口唇は丸縁を呈し、器厚が8mmと厚い 内側および外側上半横方向ナナ調整。外面下半縱方向施 墨。上面朱彩。 | 胎土緻密、石粒含む 焼成良好。 |
| 4 | 壺 | I 7.6 m b 5.4 d b 4.8 | 体部+欠 損 | 床面・柱 穴内 160×200 | 平底の底部から内湾して立ち上がり、口唇は平縁を呈す 内外側ともナナ調整。外面朱彩。 | 胎土はやや粗く、砂 粒を多く含む。焼成 良好。 |
| 5 | 壺 | I (92) m b (98) d b (52) h 61 | 1/2 残存 | 床面~2 層 床 +0~15 20×150 | 平底の底部からゆるやかに内湾して立ち上がり、脚部に 最大径を持ち、わずかに収縮する脚部を経て、直立から わずかに外度する口縁に至る。内外面とも刷毛調整の後 ナナ。 | 胎土はやや緻密。 焼成良好。色調は淡青 色。 |
| 6 | 甕 | I 14.8 m b (33.6) | 胴部+欠 損 | 2層 床 +8~22 140×400 | 薄手の外反する口縁部を持ち、口径はほぼ等しい最大径 を持つ胴部から小形のやや突出気味の底部へ収縮する。 7~8本を単位とするタタキ目に似た観るどい繩条痕が 施される。 | 胎土は砂粒を含む。 焼成良好。色調は黑 褐色。 |
| 7 | 甕 | I (7.6) m b (3.5) | 口縁部か ら胴部+ 残存 | 2層 床 +4~25 60×480 | 強く取縮する脚部から強く外反する口縁部。口唇外端は 上下からの棒状工具の押捺によって波状を呈す。4箇の 輪縁は明顯で、横の継ぎ痕の認められる部分もある。 刷毛調整の後ナナ。 | 胎土はやや粗く、砂 粒を少量含む。焼成 良好。色調は青色お よび黒褐色を呈す。 |
| 8 | 高环 | d b 10.6 | 脚部残存 | 2層 床+12 | 直線的に聞く脚部で、外面朱彩。内面剥削り。 | 胎土は緻密。焼成良 好。 |
| 9 | 壺 | I (3.6) | 口縁部+ 残存 | 2層 床 +4~24 50×560 | 二重口縁を呈し、やや外反の弱い口縁部。且しL.H.の縄文が 施され、二重口縁の下端部は且し縄文の押捺により小波 状を呈す。内外朱彩。 | 胎土は緻密で、砂粒 を含む。焼成良好。 |
| 10 | 甕 | I (62) | 口縁部+ 残存 | 2層 床+10 | 二重口縁を呈し、大きく外反する。L.H.の縄文が施され 内外朱彩。 | 胎土は緻密で多くの 石粒を含む。 |

| | | | | | | |
|----|----|-------------------------------|-----------------|--------------------------------|--|---------------------------------|
| 11 | 高環 | 1 (B.0) | 环部+残存 | 2層 床 + 5~16 140×330 | 大きく直線的に開く環部で、口縁内側に弱い隙を持つ。外側横方向、内面横方向を基本としたナデ調整。 | 胎土は緻密。焼成良好。色調は淡黄色。 |
| 12 | 高環 | 1 (B.0) | 环部+残存 | 2層 床 + 4~16 30×300 | 直線的に開く環部で、下半に弱い隙を持ち内面にも段を持つ。内面横方向の荒磨き。外側朱彩。 | 胎土は緻密。砂粒を少量含む。焼成良好。内面の色調はよい黄橙色。 |
| 13 | 高環 | | 脚部上半 + 环部+残存 | 2層 床 + 12~20 120×140 | 大きく開く脚部。环部外側面、脚部外側朱彩。 | 胎土は緻密。焼成良好。 |
| 14 | 高環 | | 脚部上半 + 残存 | 2層 床+13 | 大きく開く脚部で、内面に施削りの痕跡を残す。 | 胎土はやや緻密でスコリアを含む。焼成良好。色調は黄橙色。 |
| 15 | 高環 | | 脚部+残存 | 2層 床 + 6~20 180 | 円柱状の脚部から幅の大きく開く脚部。 | 胎土は緻密。焼成良好。色調は橙色。 |
| 16 | 堆 | 1 (D.0) | 体部上半 + 残存 | 2層~1層 床+ 8~24 20×80 | ゆるやかに内湾し、平縁を呈す。内外ともナデ調整。 | 胎土はやや粗く、砂粒を含む。焼成良好。色調は橙色。 |
| 17 | 堆 | 1 (D.0) d b (4.4) h 5.4 | 底部+と 体部+残存 | 2層~1層 床+ 3~35 160×280 | 小さな底部からゆるやかに内湾しつつ大きく開く体部。口縁部がわずかに外反し、内側に隙を持つ。外側荒磨き。内面は硬質の朱色のもので磨かれる。 | 胎土は緻密。焼成良好。色調は明黄褐色。 |
| 18 | 堆 | 1 (D.0) | 口縁部+ 残存 | 2層 床 + 3~12 100×280 | やや内側肥厚し、内面に隙を持つ口縁部。内外面朱彩。 | 胎土は緻密。焼成良好。 |
| 19 | 高環 | d b 17.0 | 脚部+残存 | 1層主体 床+16~24 20×360 | 直線的に大きく開く脚部で、5孔を有する。内外面ともていねいなナデが施される。 | 胎土は緻密。焼成良好。色調は黄橙色。 |
| 20 | 高環 | d b 7.8 | 脚部+残存 | 1層主体 床+16~24 200×320 | 幅の大きく開く脚部で3孔を有する。外側朱彩。 | 胎土は緻密。砂粒含む。焼成良好。 |
| 21 | 高環 | d b (4.2) | 脚部+残存 | 1層床+ 20~25 100×240 | 大きく直線的に開く脚部で、外側崩毛調整の後ナデ、朱彩。 | 胎土は緻密。砂粒含む。焼成良好。 |
| 22 | 堆 | 1 142 d b 58 h 72 | 口縁部+ 欠損 | 1層床+ 20~32 120×200 | 平底からゆるやかに内湾しつつ立ちあがり口縁は直立し平縁を呈する。外側口縁部は横ナデ。体部下半は横方向内面は横方向の荒磨き。 | 胎土は緻密で少量の石粒を含む。焼成良好。色調は黄橙。 |
| 23 | 堆 | 1 (7.0) d b (4.0) h 73 | 1 残存 | 1層床+ 20~31 100×120 | 小形の土器で、頭部がわずかに収縮し、内面に隙を持つ内外面ともナデ調整。内面底部に指頭痕を残す。 | 胎土はやや緻密でスコリアを含む。焼成良好。色調は黄橙色。 |

第5号住居址(第38~41図)

第4号住居址から南西へ31m、B 2~45グリッドを主たる範囲として位置する。西方の第7号住居址とも17mの距離を置き、遺構分布の上ではやや孤立的な位置を占める。軸長3.7×3.5m、面積10.7m²のややゆがんだ隅丸方形を呈する小形の住居址である。主軸方向はN-10°-Wである。竹根および椎木根により破壊を受けており、壁の一部については床面の立ち上がりから推定した。壁高は北壁中央で44cmを測るが、南壁側は、土器の検出をみるまで重機での削土が及んだため10cm程度の壁高を測るのみである。ロームへの掘り込みは10~15cm程である。床面は中央部が壁際より5cm程低く軟らかい。壁溝および柱穴は認められなかった。

炉（径76×28cm）は、床面がわずかに焼土化しているのみで、掘り込みは認められなかった。

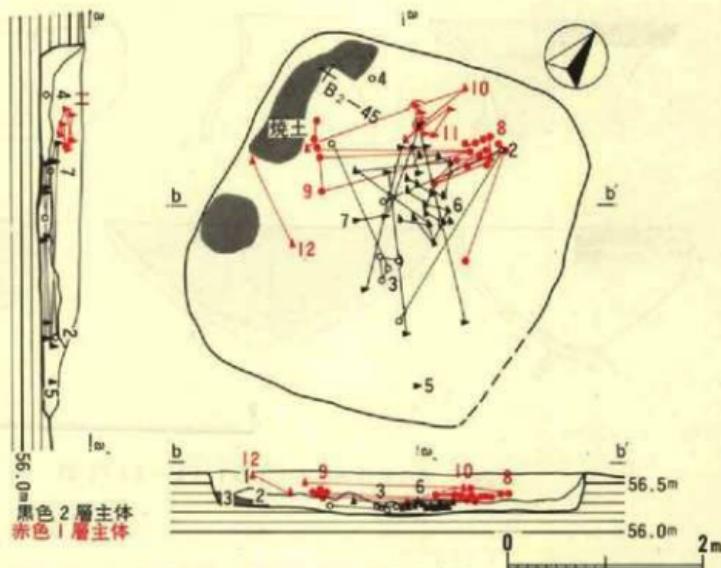


第38図 第5号住居址実測図(1/60)

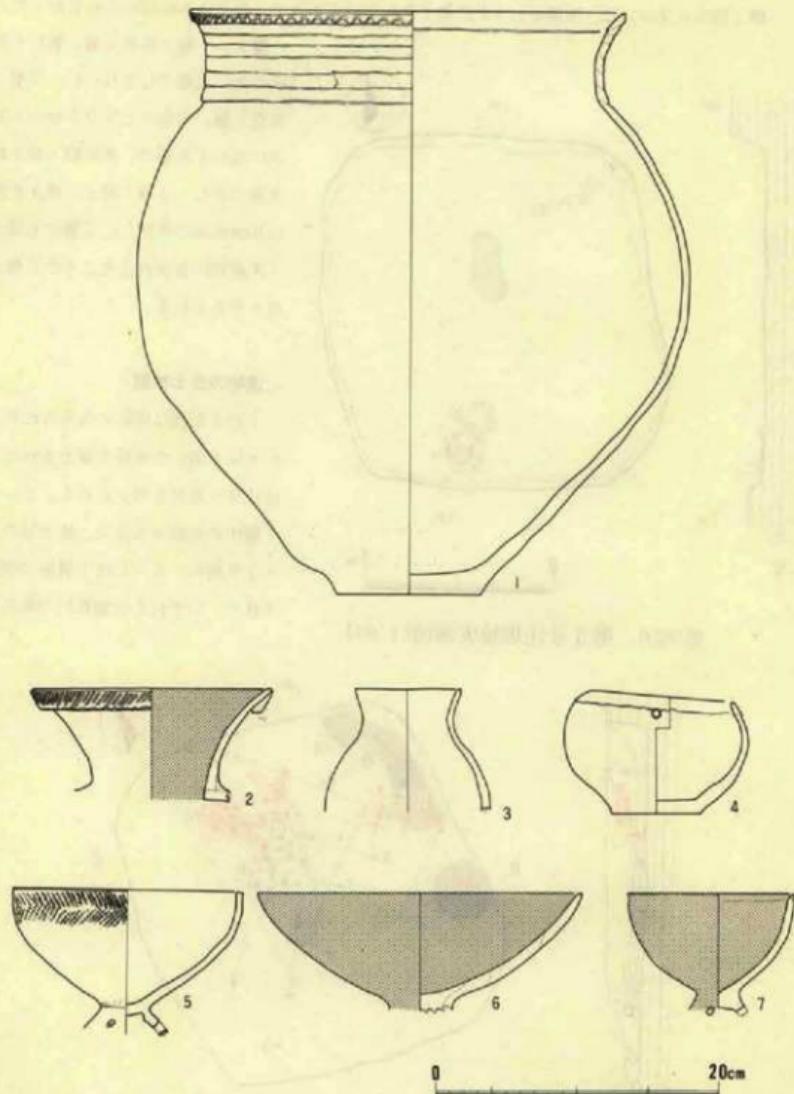
覆土 1層：黒色土層。著しく黒味の強い土層でしまりなし。2層：黒褐色土層。黒色土とソフトロームが斑状に混在する層で、木炭粒・焼土粒を多量に含む。3層：焼土。焼土が西側に10cm前後の堆積し、2層にも焼土粒・木炭粒が含まれるところから焼失家屋と考えられる。

遺物の出土状態

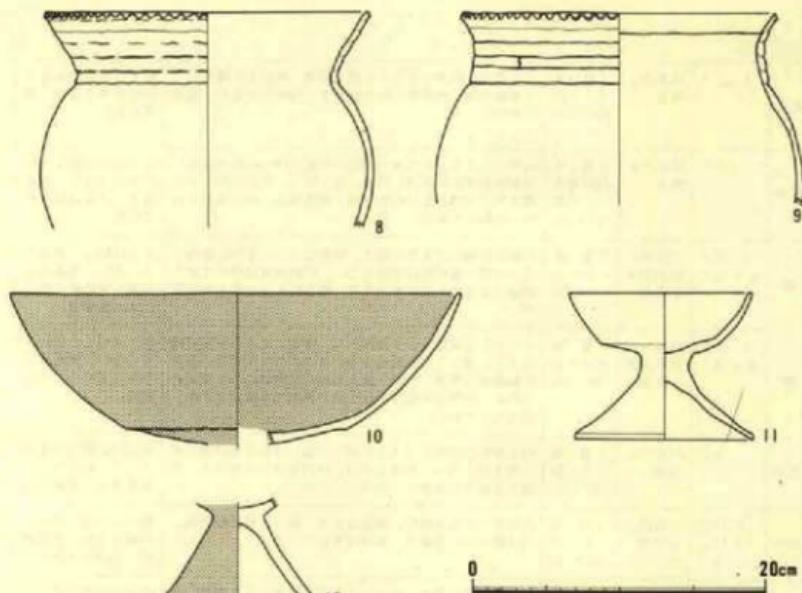
1の大形甕は床面に伏せられたものが土圧で潰れた状態で検出された。本址に伴う資料と考えられる。2～7は2層中の資料が主体で、焼土層のレベルより高い。8～12は1層中の資料が主体で、いずれも投棄資料であろう。



第39図 第5号住居址遺物の出土状態(1/60)



第40図 第5号住居址出土土器1 (1~7) (1/4)



第41図 第5号住居址出土遺物2(8~11)(1/4)

第5号住居址出土土器

| 番号 | 器形 | 法量 | 造有度 | 出土状況 | 形態・文様・調整等 | 胎土・焼成・色調 |
|----|-----|--|-------------|--------------------------|--|-----------------------------------|
| 1 | 壺 | I 30.8 m b 38.8 d b 10.1 h 40.4 | 復元完形 | 床面倒置 | 球形の胴部と突出する底部を持つ大形壺。口縁部は7帯の輪積によって形成。内側にも一帯の輪積痕を残す。口部外端は、棒状工具による、上下からの押抜によって小波状を呈す。内外ともナデ調整。 | 胎土はやや荒く、石粒・砂粒を若干含む。焼成は良好。色調は黄褐色。 |
| 2 | 壺 | I 27.0 | 頭部から口縁部のみ残存 | 2層中床 + 5~12 80×200 | 二重口縁を呈し、胴部への継ぎは直角に近い。二重口縁は貼り付け。頭部には粘土帶を貼って補強。二重口縁外側にL.R.繩文を施し下端を棒状工具の押抜によって小波状形成。頭部にRのS繩文の結節文、その下にL.R.繩文を施す。外面縦方向荒磨き。内面横方向荒磨き朱彩。 | 胎土は緻密であるがスコリア粒・石粒を含む。焼成良好。色調は浅褐色。 |
| 3 | 壺 | I 7.6 m b [11.8] | 頭部から口縁部のみ残存 | 2層中床 + 7~16 30×140 | 口縁が短く聞く。内外ともナデ整形。器面は荒れてい る。 | 胎土はスコリア粒を含むが緻密。焼成良好。色調は淡黄褐色。 |
| 4 | 無縁壺 | I 10.0 m b 13.0 d b 13~16 h 13~18 | ほぼ完形 | 2層中床 + 5 | 著しく内凹する口縁とやや突出する底部。全体にやや歪む。口縁に内外とも一段の輪積痕を残す。対面する2孔が施される。内外とも横方向のナデ調整。 | 胎土粗く、石粒・砂粒を含む。焼成良好。色調は橙色、一部黒変。 |
| 5 | 高環 | I [16.2] | 環部とのみ残存 | 2層中床 + 8 | ゆるやかに内凹して立ち上がる壠状の环部を持つ。口唇部L.R.・口縁外側にR.L., L.R., RのS繩文の結節文の順序で繩文を施す。脚部に4孔。外面縦・内面横の荒磨き。 | 胎土少量の石粒を含むが緻密。焼成良好。色調は橙色。 |

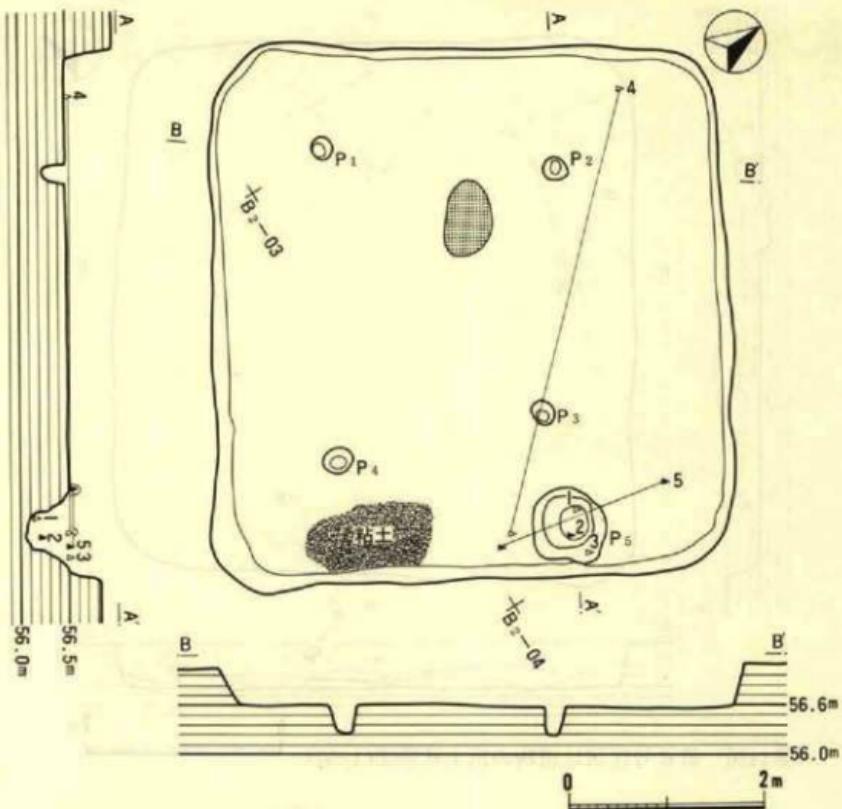
| | | | | | | |
|----|----|-----------------------------|----------------------------------|---------------------------------|--|--|
| 6 | 高環 | 1-23.2 | 環部の $\frac{1}{2}$ 残存 | 2層中床 +4~15 100×200 | ゆるやかに内溝して大きく開く環部。外面上半横方向。 下半縱方向、内面横方向の施磨き。内外両面朱彩。器面 は荒れている。 | 粘土は緻密であるが 砂粒を多く含む。焼成良好。 |
| 7 | 高環 | II-II.9 | 環部の $\frac{1}{2}$ 残存 | 2層主体 1部中床 +3~30 50×200 | 内溝して立ち上がる深い壇状の環部を持つ小形の高環。 口羽はわずかに外反し内側に隙を持つ。外面上半は 横ナデ、下半および内面は縱方向施磨き。脚に4孔を持 つ。内外とも朱彩。 | 粘土はやや粗く、砂 粒を若干含む。焼成良 好。色調は脚内部 で橙色。 |
| 8 | 甕 | 1 (2.2) m b (2.4) | 口縁から 脚部上半 $\frac{1}{2}$ 残存 | 1層 床 +12~20 60×200 | 口縁が直線的に大きく開き、頭部は「く」字状に屈曲す る。6帯の輪積痕は明瞭でない。口唇外端は棒状工具の 押捺によって小波状を呈する。横方向を主とするナデ整 形。 | 粘土は粗く、砂粒を 多く含む。焼成良好 色調は黄褐色。色一 にぶい黄褐色。 |
| 9 | 甕 | 1 (2.2) m b (2.5) | 口縁から 脚部上半 $\frac{1}{2}$ 残存 | 1層 床 +10~14 80×160 | ゆるやかな取縮を示す頭部から、垂直に立ち上がる口縁 部下半に達なり。口縁部上半のみがやや外反する。5帯 の輪積痕は明瞭で、織ぎ目も認められ内側にも1帯認め られる。口唇部外端は棒状工具の押捺で小波状を呈す。 横方向ナデ整形。 | 粘土は粗く、砂粒を 多く含む。焼成良好 色調は黄褐色で一部 黒変。 |
| 10 | 高環 | 1 (3.0) | 環部の $\frac{1}{2}$ 残存 | 1層 床 +7~28 40×80 | ゆるやかに内溝して大きく開く環部。環部下端に接合痕 を残す隙を持つ。外面上半および内面横方向施磨き。外 面下半縱方向施磨き。内外とも朱彩。 | 粘土は緻密であるが スコリア粒を含む。 焼成良好。色調は浅 |
| 11 | 高環 | 1 12.5 d b 12.2 h 9.9 | 口縁部 $\frac{1}{2}$ を欠損 | 1層 床 +17~37 30×60 | 環部下半に隙を持ち、脚部は大きく開く。外は縱方向。 内は横方向の施磨き。器面は荒れている。 | 粘土は緻密であるが 石粒を含む。焼成良 好。色調は赤褐色。 |
| 12 | 高環 | d b 9.6 | 脚部 $\frac{1}{2}$ 残 存 | 1層 床 +15~30 92 | ほぼ直線的に開き、裾部のみわずかに外反する脚部。外 面縱方向施磨き。脚内面施磨ケズリの後ナデ。赤彩。 | 粘土は緻密であるが スコリア粒を含む。焼 成良好。 |

第6号住居址（第42~45図）

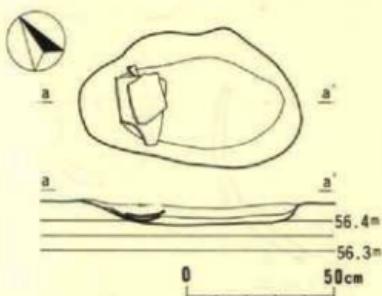
調査範囲のはば中央、B 1-93グリッドを主たる範囲として位置する。軸長 5.4×5.4 m を測り、面積 25.2 m² の隅丸正方形を呈する住居址である。主軸方向は N-58°-W である。壁の遺存状況は良好で、北西壁中央で 48cm、南東壁中央で 35cm の壁高を測り、傾斜は $75^{\circ} \sim 80^{\circ}$ を測る。床面は水平ではあるが、全体として軟らかい。壁溝は認められない。柱穴は 4 本検出された。P 1 (径 24×20 cm・深さ 33cm)、P 2 (径 22×24 cm・深さ 25cm)、P 3 (径 24×24 cm・深さ 30cm)、P 4 (径 26×32 cm・深さ 29cm) のうち、P 2・P 3 は中央に寄りすぎる感があるものの、他に柱穴の痕跡を認められず主柱穴と考えたい。P 5 (径 74×74 cm・深さ 47cm) は南東や北寄りに接して穿たれる。南東壁下の南よりの床面に、範囲 130×45 cm、厚さ 5~12cm の少量の焼土を含む青灰色粘土の堆積が認められた。

炉 (径 76×46 cm・深さ 9 cm) は、主軸線上中央よりやや北西に偏して、主柱穴 (P 1・P 2) を結ぶ線より内側に位置する。底には菱形土器片が敷かれていた。

覆土 1 層：黑色土層。粘性しまりなし。2 層：暗褐色土層。下半にやや粘性あり。3 層：暗褐色土層、ローム粒が混ざる。



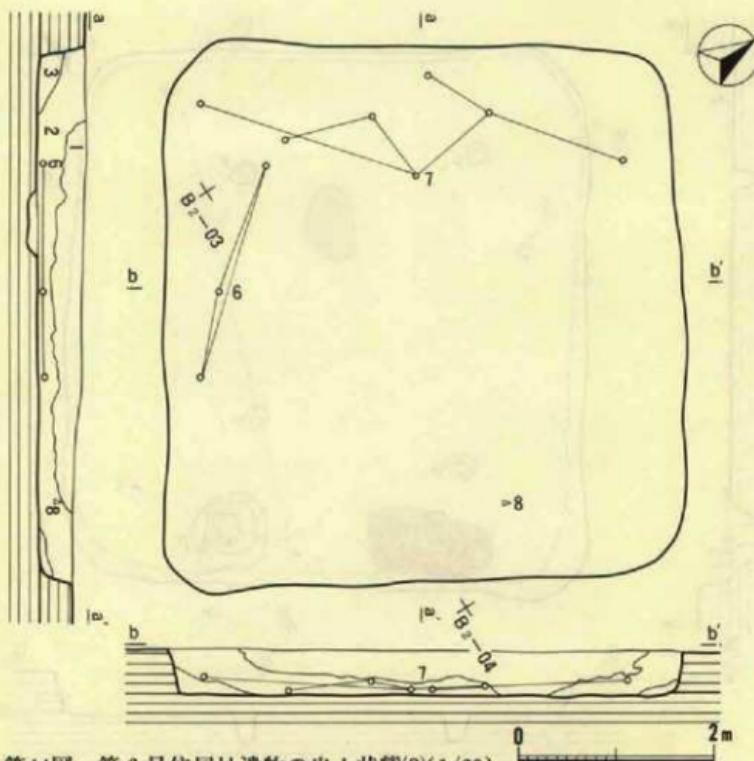
第42図 第6号住居址実測図および遺物の出土状態(1/60)



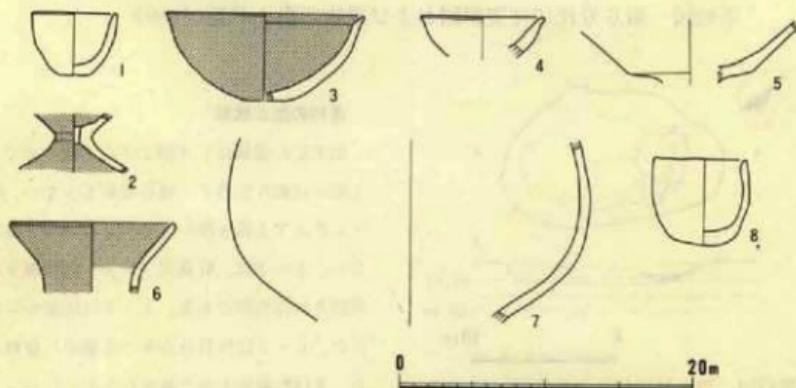
第43図 第6号住居址炉址実測図(1/20)

遺物の出土状態

出土した遺物は、土器277点・礫3点である。土器片は細片が多く、接合資料も少ない。また、ミニチュア土器を除いて全形を窺い得る資料がない。1-3は、貯蔵穴(P5)内の覆土から検出された資料である。4-5は床面から出土した。6-7は住居址南半の2層中の資料である。8は貯蔵穴上の2層中から出土した。



第44図 第6号住居址遺物の出土状態(2)(1/60)



第45図 第6号住居址出土遺物(1~8)(1/4)

第6号住居址出土遺物

| 番号 | 器形 | 法量 | 遺存度 | 出土状況 | 形態・文様・調整等 | 胎土・焼成・色調 |
|----|-----------|-----------------------------------|--------------|-----------------------------|--|----------------------------|
| 1 | ミニ トマト | 1 5.6 h 4.2 | ほぼ完形 | 貯藏穴内 | 指頭で押えた底部から内溝しつつ立ち上がる体部。ぐい飲み大の小形品。荒削りの後ナデ。 | 胎土は緻密。焼成良好。色調は黄褐色。 |
| 2 | 器台 | | 半残存 | 貯藏穴内 | 貫通孔を持ち、脚部は大きく開く。板方向の荒磨き。全面朱彩。 | 胎土は緻密。焼成良好。 |
| 3 | 壺 | 1 (11.0) d b (15.0) h (5.8) | 半残存 | 貯藏穴内 | 小さな底部から内溝しつつ立ちあがる体部。口縁内側に陵を持つ。外面口縁はナデ、下辺は板方向荒磨き。全面ナデ。全面朱彩。 | 胎土は緻密。焼成良好。 |
| 4 | ミニ トマト | 1 (4.4) | 体部半周 残存 | 床面 460 | 小形品で器厚が大きく、口縁部が引き出され薄い。外面ナデ。全面荒磨き。 | 胎土はやや緻密、砂粒を含む。焼成良好。色調は明褐色。 |
| 5 | 高环 | | 环部下半 の半残存 | 床面 180 | 环部下半に明瞭な陵を持ち、环部は直線的に大きく開く内外とも板方向の荒磨き。 | 胎土は緻密。焼成良好。色調は黄褐色。 |
| 6 | 壺 | 1 (11.0) | 口縁部半周 残存 | 2層中床 + 6 ~ 8 10×230 | 直立ぎみの頂部から外傾する口縁部。外面口縁ナデ。脚部板方向へラ磨き。外面、口縁全面朱彩。 | 胎土は緻密。焼成良好。色調は洪褐色。 |
| 7 | 壺 | m b (25.0) | 脚部半周 残存 | 2層中床 + 5 ~ 20 110×440 | 脚部下半に最大径を持ち、底部へは急に収縮する。外面下部板方向の荒削りの後荒磨き、上部横方向荒磨き。器面が荒れている。 | 胎土は緻密。焼成良好。色調は淡黄色。 |
| 8 | ミニ トマト | 1 (6.3) d b 4.0 h 5.8 | 口縁部半周 欠損 | 2層中床 + 16 | 丸底で、体部のはば直立する小形品。器面が荒れている | 胎土は粗く、砂粒を多く含む。焼成良好。色調は明褐色。 |

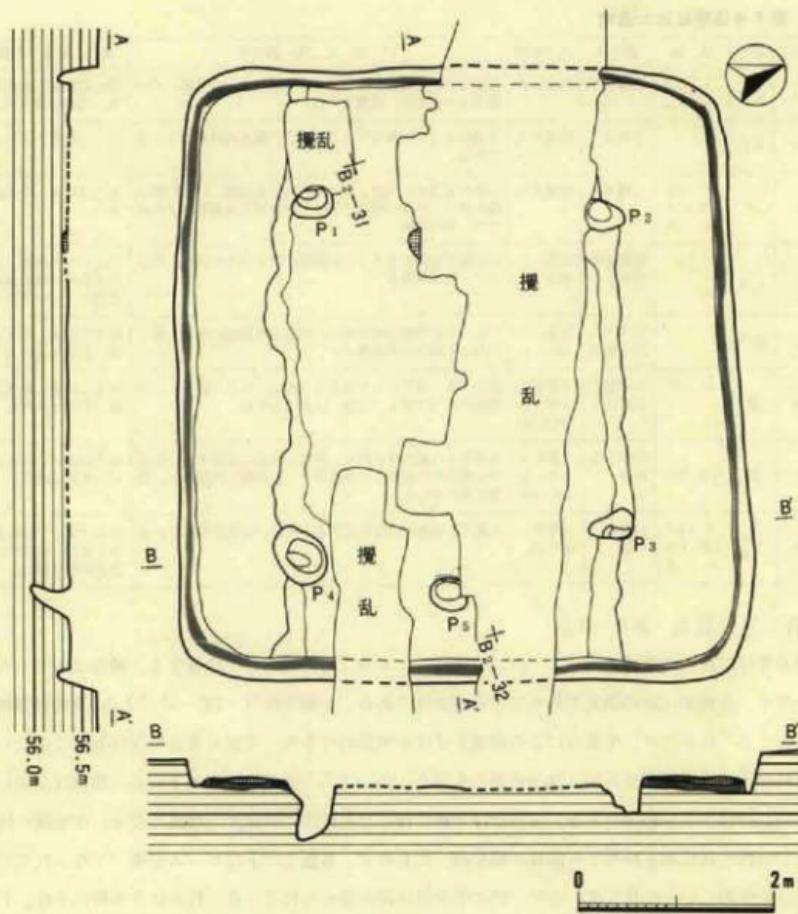
第7号住居址（第46~50図）

第6号住居址の南東8m、B 2-21、31グリッドを中心とする範囲として位置する。軸長は6.2×5.8mを測り、面積30.6m²の隅丸方形を呈する住居址である。主軸方向N-73°-Wである。本址は畠地であったところにあたり、生麦穴による破壊を受け中央部約1/4を失っており遺存状況は良好ではない。壁は耕作土下の確認面から30~35cmの高さを測り、70°~80°で直線的に立ち上がる。壁溝は全周し、幅平均15cm深さ5~10cmである。床面には主軸に沿った主柱穴の外側が一段高くなる。中央部の床面とは10cm程の高低差を持ち1m前後の幅を持ったもので、黒色土の上にロームを張って作られている。床面は全体的にしっかりとしているが、特に中央部は踏み固められている。柱穴は5本検出され、P 1(径32×40cm・深さ35cm)、P 2(径33×45cm・深さ26cm) P 3(径42×30cm・深さ55cm)、P 4(径54×48cm・深さ29cm)は主柱穴で、四隅の対角線上に位置する。いずれもやや中央に向いての傾斜を持つ。P 5(径34×40cm・深さ33cm)は主軸線上東壁に近く位置し、東壁に向って約50°の傾斜を示す。

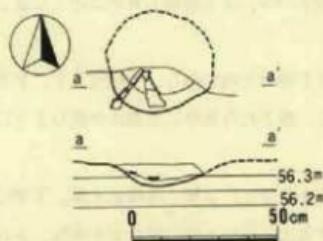
炉(径30×cm・深さ8cm)は主軸線上西に偏し、主柱穴P 1、P 2を結ぶ線よりやや中央寄りに位置し、北側を搅乱によって欠く。残された部分に土器片が埋めよう認められたことからして土器囲い炉であったと思われる。

覆土 1層：黒色土層。粘性しまりなし。2層：暗褐色土層。下半にやや粘性あり。

貼床部分は、掘り方面の上に黒色土とローム粘の混合土5cm程、さらにローム土を5cm程度叩き固めて構築されている。



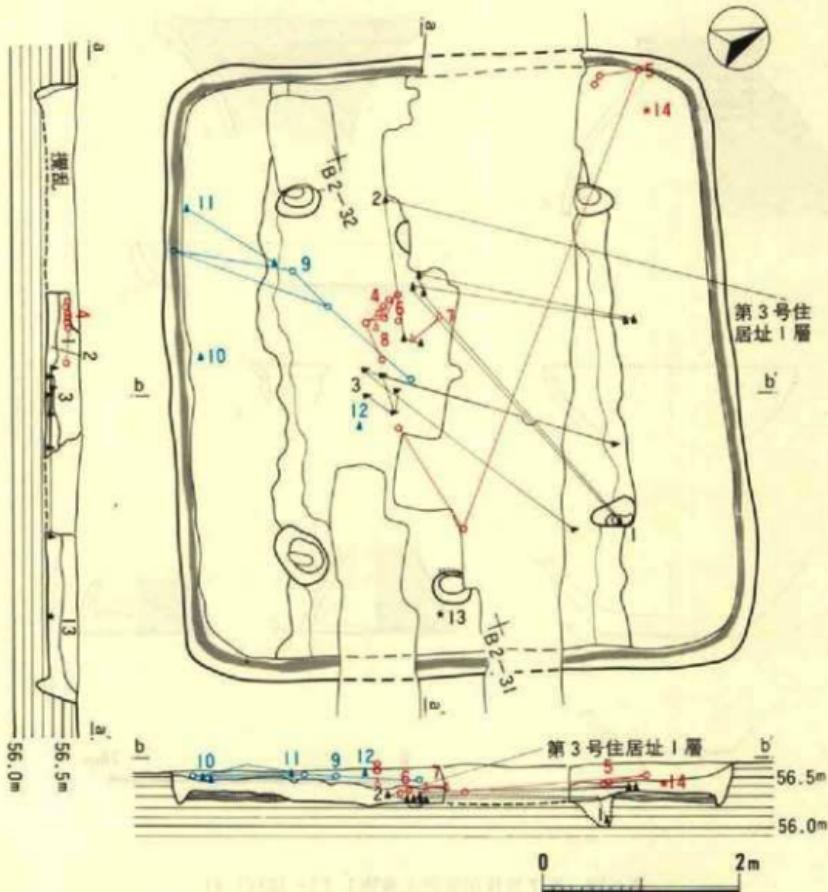
第46図 第7号住居址実測図(1/60)



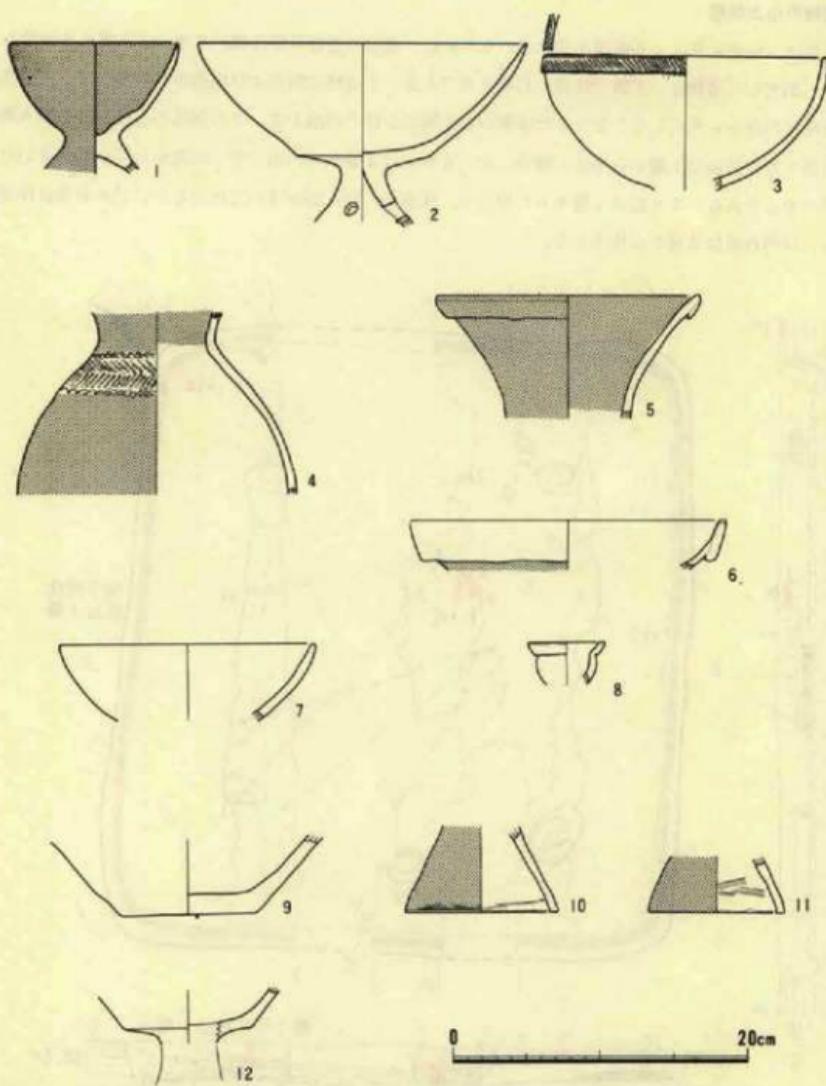
第47図 第7号住居址炉址実測図(1/20)

遺物の出土状態

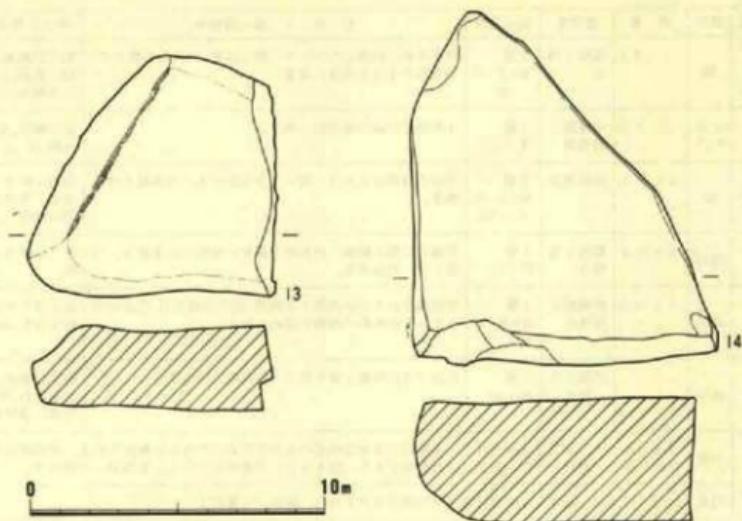
本址は、生姜穴等による破壊を受けていたために、遺物の遺存状態は極めて悪く、土器も小破片が多い。出土した遺物は、土器 363 点、石皿 2 点である。1 は柱穴内および床面からの出土で、主要部分は柱穴の底から出土した。2・3 は床面から 2 層にかけての出土で、2 の高環の小破片は約 45m 離れた第 3 号住居址の 1 層から出土し接合した。4~8 は 2 層からの出土で、床面から 5~10cm 浮いたものが中心である。9~12 は 1 層からの出土で、床面から 15~25cm 浮いて出土した。13 の石皿は床面から、14 の石皿は 2 層から出土した。



第48図 第7号住居址遺物の出土状態(1/60)



第49圖 第7號住居址出土遺物1 (1~12) (1/4)



第50図 第7号住居址出土遺物2(13、14)(1/2)

第7号住居址出土遺物

| 番号 | 器形 | 法量 | 遺存度 | 出土状況 | 形・態・文様・調整等 | 胎土・焼成・色調 |
|----|----|------------|----------|----------------------------------|---|---------------------------------|
| 1 | 高環 | 1 11.5 | 脚部下半欠損 | 柱穴内・床面 160×320 | 下半で弱く屈曲し、ゆるやかに内湾しつつ立ち上がる椀状の环部。环部内部および外面上半は横方向。下半から脚部は縱方向を基本とする施磨き。脚内部を除き朱彩。 | 胎土は緻密。焼成良好。 |
| 2 | 高環 | 1 (22.0) | 环部上半残存 | 床～2層 床+1層 床+0～10 20×160 | 环部は大きく開き、下半に弱い棱を持つ。口唇は九縁を呈す。脚部は3孔を有し大きく開く。器面が荒れており観察不能。二次焼成を受けている。 | 胎土は緻密で黒雲母片を含む。色調は褐色。 |
| 3 | 高環 | 1 (19.5) | 环部上半残存 | 床～2層 床+0～10 100×280 | ゆるやかに内湾しつつ大きく開く环部。二重口縁部および口唇上端にR.L.の模文が施される。外面上半横ナナ。下半縱方向施磨き。内面縦方向施磨き。 | 胎土は緻密。黒雲母を含む。焼成良好。色調は浅黄褐色。一部赤変。 |
| 4 | 壺 | m b (19.0) | 脚部上半の半残存 | 2層 床+5～8 30×70 | 脚部からゆるやかに颈部へと移行する。颈部から脚部にかけて、且のS彫り・L.R.・R.L.・RのS彫りの順で地文される。外面と口縁内面朱彩。 | 胎土は緻密。焼成良好。 |
| 5 | 壺 | 1 (18.0) | 口縁部半残存 | 2層 床+5～10 | 二重口縁を呈し、口縁部の外反は弱い。器面は荒れてい。画面朱彩。 | 胎土は緻密。焼成良好。 |
| 6 | 壺 | 1 (21.4) | 口縁部半残存 | 2層 床+5 | 幅が2.5cmと広い二重口縁を呈し、擬口縁端に一部粘土帶を重ねる。口縁端は直立に近くなる。横ナナ。外面上半朱彩。 | 胎土は緻密。黒雲母片を含む。焼成良好。内面の色調は黄褐色。 |

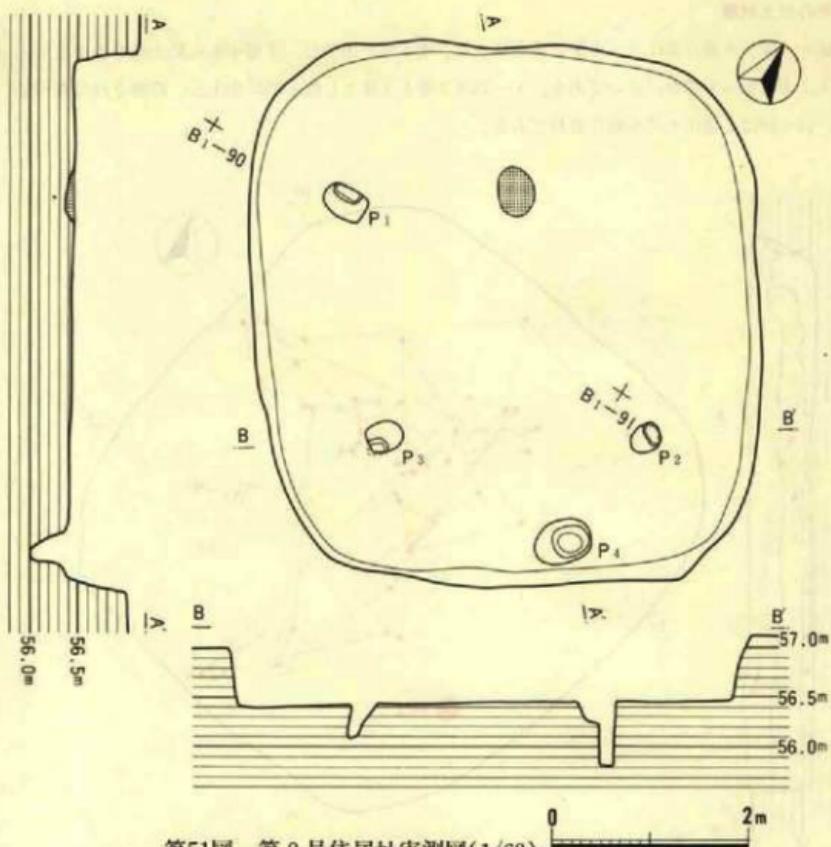
| 番号 | 器形 | 法量 | 遺存度 | 出土状況 | 形態・文様・調整等 | 胎土・焼成・色調 |
|----|-----------|-----------|-------------|-------------------------|--|-------------------------------------|
| 7 | 椀 | I (37.2) | 体部半残 底 | 2層 床+8~10 40 | ゆるやかに内側しつづ大きく開く体部。内外とも横ナナ。残存部の1/2は欠損後に黒室。 | 胎土は緻密。焼成良好。色調は淡黄褐色と墨褐色。 |
| 8 | ミニ チムア | I (5.0) | 口縁部半 周残存 | 2層 床+13 | 小形品で口縁の接合痕を残す。 | 胎土緻密。焼成良好。色調は淡黄褐色。 |
| 9 | 盞 | d b 9.0 | 底部残存 | 1層 床+20~25 40×280 | 平底の底部から大きく開いて立ち上がる。外面縦方向範 囲。 | 胎土は緻密、砂粒を含む。焼成良好。色 調は黄褐色。 |
| 10 | 高环 | d b 10.4 | 脚部半周 残存 | 1層 床+15 | 直線的に開く脚部。外面刷毛調整の後縦方向範磨き。内 面ナナ。外面朱彩。 | 胎土は緻密。焼成良好。 |
| 11 | 高环 | d b (9.8) | 脚部半 周残存 | 1層 床+18~20 100 | 脚部端がわずかに内側する脚部。脚内面刷毛目。器面が荒 れているが朱彩の痕跡が認められる。 | 胎土はやや荒く、砂 粒を含む。焼成良好。 |
| 12 | 高环 | | 环部下半 半残存 | 1層 床+28 | 环部下半に明瞭な棱を持つ。环部縦方向範磨き。 | 胎土は緻密。黒雲母 片を含む。焼成良好。色 調は淡黄褐色。 |
| 13 | 石皿 | | | | 8.5×8.1cm、厚さ2.8cmを計る。欠損品で本来信程度の大きさがあったものと推測される。使用面はわずかに 凹面を呈し、光沢を持つ。側面には打裏模があり、敲き石として使用している。安山岩。床面出土。 | |
| 14 | 石皿 | | | | 10.5×11.8cm、厚さ4.1cmを計る。使用面は光沢を持つ。砂岩。2層出土。 | |

第8号住居址（第51~56図）

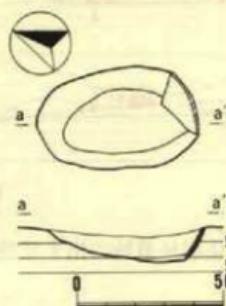
第6号住居址の北西11m、B 1~80、90グリッドを主たる範囲として位置する。軸長5.5×5.2m、面積25.2m²の隅丸方形を呈する住居址である。主軸方向はN-31°-Wである。南西部に径60cm程の木があり根が床面まで達していた。壁高は60~65cmを測り、70°~80°の傾斜で直線的に立ち上がる。床面から40cm前後の壁面はしっかりとしているが、上部20cm程の壁は崩壊が進んでいる。床面は、水平かつ堅緻であり踏み固められていた。壁溝は認められない。主柱穴は、P 1（径46×34cm・深さ34cm）・P 2（径30×28cm・深さ66cm）・P 3（径37×30cm・深さ35cm）の3本が検出された。3本はいずれもその掘り方は住居址中央に向って傾斜を持つ。なお、3本の位置から想定される北東部の柱穴は、精査したにもかかわらず認めることができなかった。貯藏穴P 4（径60×38cm・深さ40cm）は、南東壁下中央よりやや北に偏して位置する。

炉（径50×36cm・深さ8cm）は、主軸線上北西に偏して位置する。底の中央部寄りには壺形土器の大形破片が埋め込まれていた。

覆土 1層：褐色土層。住居址中央部に分布するソフトロームを主体としてわずかに黑色土を混ずる土で、他の遺構の掘り土であろう。2層：黒褐色土層。黒褐色の細粒土を主体とし少量の木炭粒と焼土粒を含む。しまりなし。3層：黒色土層。黒色の著しく強い層で2層より大粒の木炭粒・焼土粒を含む。4層：黒褐色土層。黒色土とロームブロックが斑状に混在する。4層：4層に類似するがロームブロック主体の層。



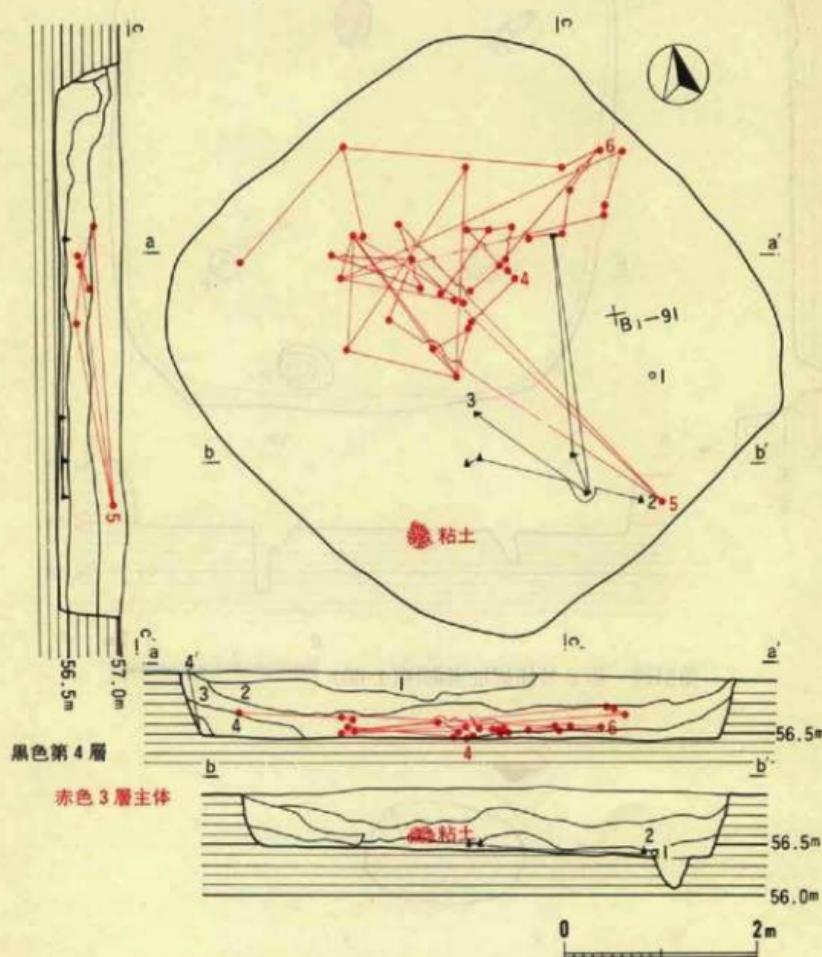
第51図 第8号住居址実測図(1/60)



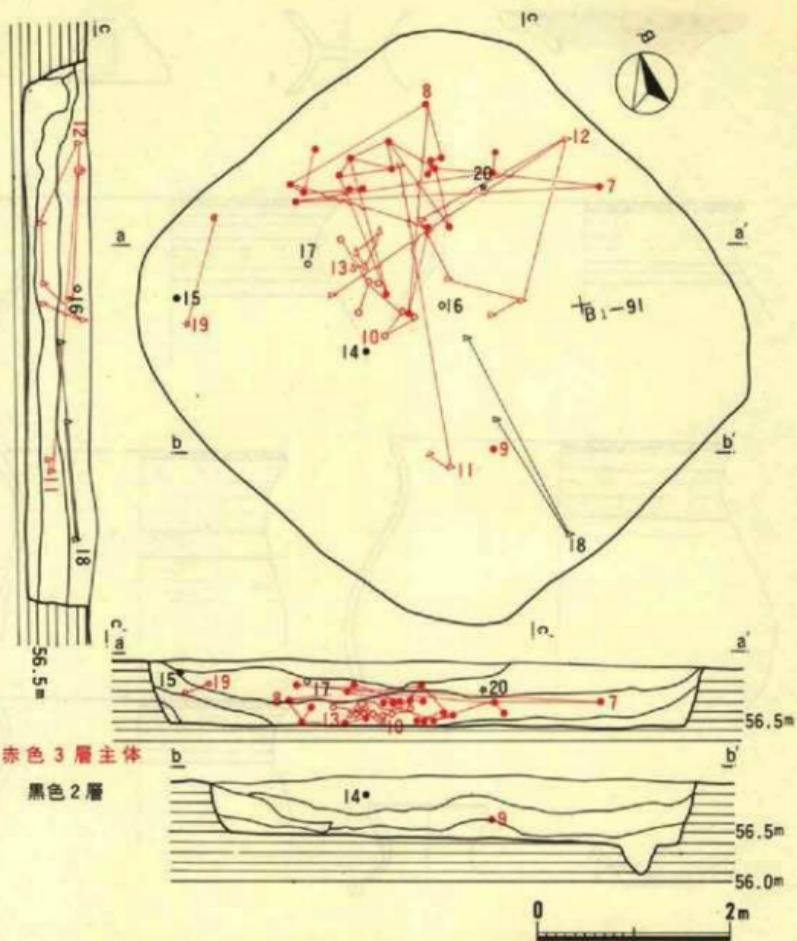
第52図 第8号住居址炉址実測図(1/20)

遺物の出土状態

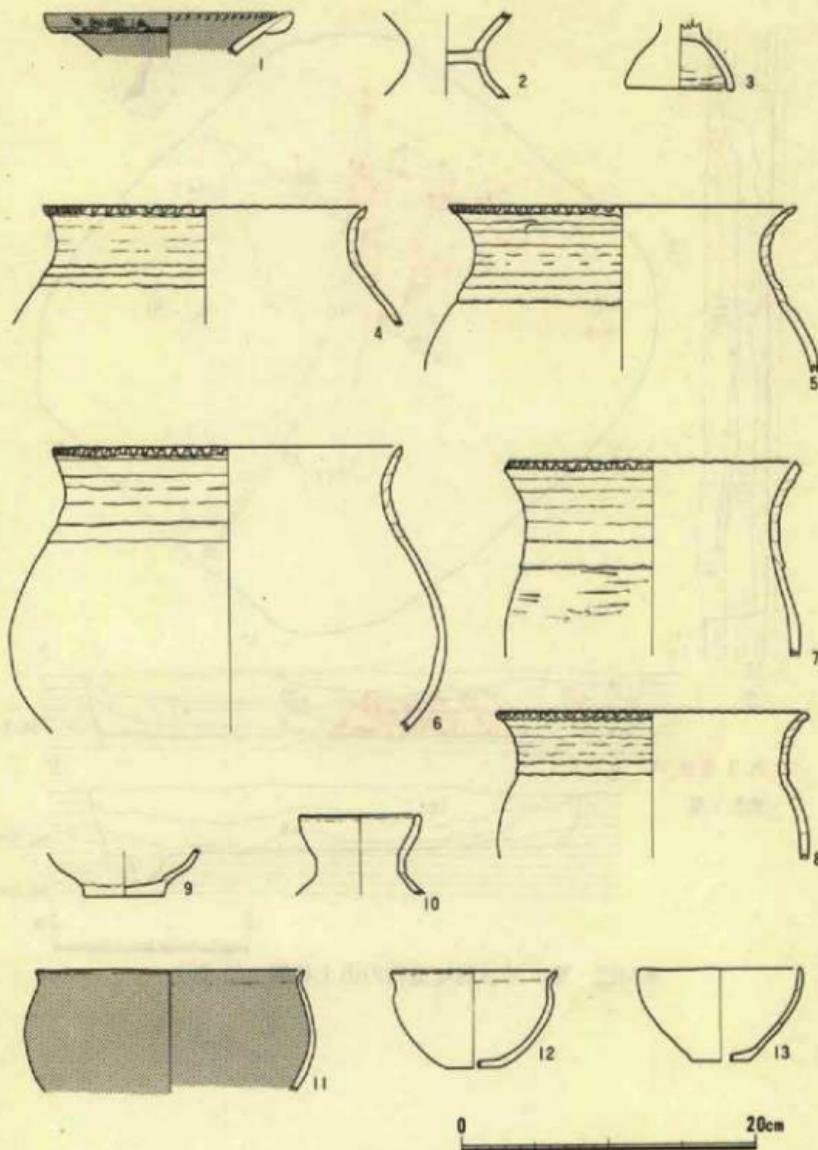
本址からは、土器片231点、土製紡錘車片3点、礫4点が出土し、3層中から粘土塊も出土した。1～3は床面からわずかに浮いて出土。4～13は3層を主体とし散乱的に出土し、投棄された資料である。14～18は2層出土で小破片資料である。



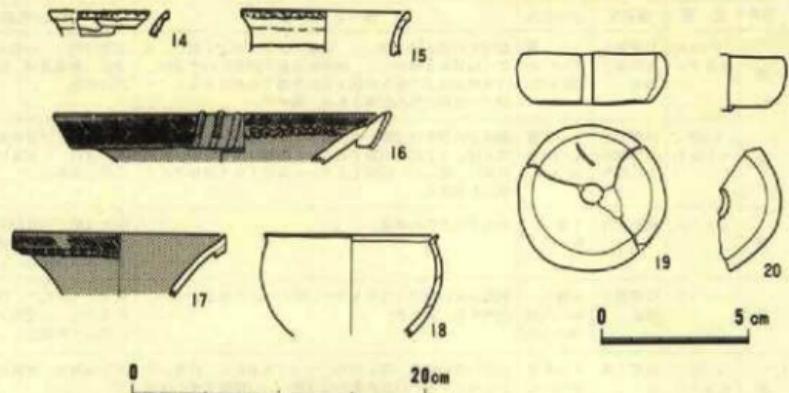
第53図 第8号住居址遺物の出土状態1(1/60)



第54図 第8号住居址遺物の出土状態2(1/60)



第55図 第8号住居址出土遺物1 (1~13) (1/4)



第56図 第8号住居址出土遺物(2)(14~18:1/4・19~20:1/2)

第8号住居址出土遺物

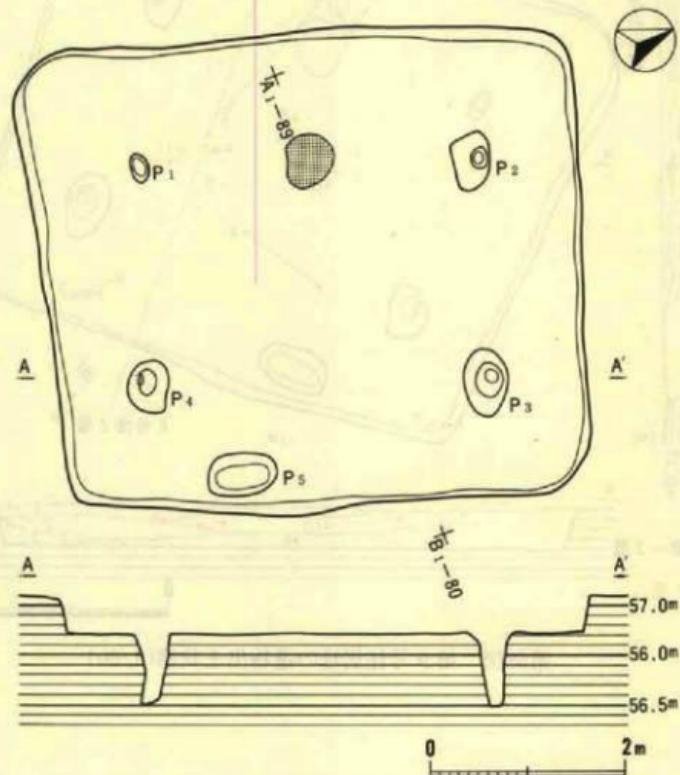
| 番号 | 器形 | 法量 | 遺存度 | 出土状況 | 形態・文様・調整等 | 胎土・焼成・色調 |
|----|----|------------------------|---------------|----------------------------|--|---------------------------|
| 1 | 壺 | 1 (17.0) | 口縁部+残存 | 底面 | 強く外反し、貼り付けによる二重口縁を呈する口縁部。外側はR.Lの彫文と瓶位の沈線、L.Rの彫文が施され、外端は細い棒状工具で左から右へ移動しながら刻みが施される。内面には左から右へ移動しながら削突が施される。画面彩。 | 胎土は緻密。焼成良好。 |
| 2 | 高环 | | 环部下半から脚部上半 | 3層 床+3~5 10×200 | 环部底面は平底になり、环部・脚部とも大きく開く。外表面は概方向磨き、内面横ナデ。 | 胎土は緻密。焼成良好。色調は淡黄褐色。 |
| 3 | 高环 | d b (4.5) | 脚部+残存 | 3層 床+2~5 100×280 | 脚部の内溝する小形の高环脚。外面は概方向磨き、脚部横ナデ、内面磨削の後磨き。 | 胎土は緻密。焼成良好。色調は濃い黄褐色。 |
| 4 | 甕 | 1 (23.8) m b (27.0) | 口縁部から脚部上半の+残存 | 3層主体 床+5~42 180×360 | 強った脚部からゆるやかに颈部に移行し、口縁部は強く外反する。9帯の輪積みは下3帯が明瞭で中程は漬される。口唇外縁は柔らかい段階で左上方から抜くように押捺され小波状を呈す。横ナデ。 | 胎土はやや粗く、砂粒を含む。焼成良好。色調は褐色。 |
| 5 | 甕 | 1 (22.0) | 口縁部+残存 | 3層主体 床+12~52 80×400 | 最大径が脚部にあり、直立気味の口縁から上端がわずかに外反する。7帯の輪積みは下3段は明瞭。他は漬され不明瞭。口唇外縁は、棒状工具で上下より押捺され小波状を呈す。外表面ナデ、内面横方向磨き。 | 胎土はやや粗く、砂粒を含む。焼成良好。色調は褐色。 |
| 6 | 甕 | 1 (23.8) m b (29.6) | 口縁部から脚部の+残存 | 3層主体 床+10~28 220×400 | 最大径が脚部にあり、やや下部膨らむ。口縁部は弱く外反する。6帯の輪積みは押捺され、下から二段目が深い他は浅い。口唇外縁は、棒状工具で左下方より押捺され小波状を呈す。外表面ナデ、内面上半は横方向磨き。 | 胎土はやや粗く、砂粒を含む。焼成良好。色調は褐色。 |

| 番号 | 器形 | 法量 | 遺存度 | 出土状況 | 形・態・文・様・調整等 | 胎土・焼成・色調 |
|----|---------------|-----------------------------------|----------------------|----------------------------|--|------------------------------------|
| 7 | 甕 | 1 (9.4) m b 25.0 | 口縁部半 と胴部半 残存 | 3~2層 床+8~45 160×320 | 胴径と口径がほぼ等しく、頸部の取締が著しく弱い。6 帯の輪積みは幅が広く、接合痕は最も下段を除いて浅い。 口唇外端は上方から棒状工具の押捺で小波状を呈し、一部その波頭に刻みが施される。横ナデ。 | 胎土は粗く、砂粒を含む。焼成良好。色調は橙色。 |
| 8 | 甕 | 1 (21.0) m b (21.2) | 口縁部か ら胴部上 半+残存 | 3~2層 床+4~45 160×220 | 胴径と口径がほぼ等しく、頸部の取締が弱い。7帯の輪 積みは、下2段は明瞭であるが、中程は浅い。口径 外端は、柔らかい段階で上方から棒状工具で押捺され小 波状を呈する。 | 胎土は粗く、砂粒を多く含む。焼成良好。色調は黒褐色。 |
| 9 | 甕 | d b 5.4 | 底部残存 | 3層 床+23 | 突出する小形の平底。 | 胎土は粗く、砂粒を多く含む。焼成良好。色調は淡黃褐色。 |
| 10 | 壺 | 1 8.5 | 口縁部半 残存 | 3層 床+12~24 40×120 | 頸部から口縁部へはゆるやかに移行し、口縁はわずかに 内湾する。横ナデ。 | 胎土はやや粗く、砂 粒を含む。焼成良好 色調は明黄褐色。 |
| 11 | 壺 | 1 (18.2) m b (18.6) | 体部半残 存 | 3~2層 床+21~56 20×320 | 大形の深い壺で、強く内湾しつつ立ち上がり。口縁は粗 かく外反する。口縁内側の隙は弱い。口縁横ナデ。体部 は横方向磨き。両面朱彩。 | 胎土は緻密。焼成良 好。 |
| 12 | 壺 | 1 11.8 d b 3.6 h 6.4 | 半残存 | 3~2層 床+14~60 130×300 | 平底の底部から内湾しつつ立ち上がり、口縁のみ外反し 口縁内側に隙を持つ。横ナデ。 | 胎土は緻密。焼成良 好。色調は明黄褐色 と黒褐色。 |
| 13 | 壺 | 1 11.2 d b 4.0 h 6.1 | 半残存 | 3層 床+5~23 20×50 | 平底の底部から内湾しつつ立ち上がり、口縁はほぼ直立 する。外面の口縁は内面横方向磨き、外面下半瓶方向 磨き。 | 胎土は緻密。砂粒を含む。焼成良好。色調は橙色。 |
| 14 | ミニ ナユ ア | 1 (8.2) | 口縁部半 残存 | 2層 床+45 | 小形の菱形土器で、輪積み痕が明瞭。口唇外端は刺突様 の刻みが施される。 | 胎土は緻密。焼成良 好。色調は淡黃褐色。 |
| 15 | 甕 | 1 (11.4) | 口縁部半 残存 | 2層 床+52 | 口縁外端は、棒状工具による左下方からの押捺で小波状 を呈す。輪積み痕は浅い。横ナデ。 | 胎土はやや粗く、砂 粒を含む。焼成良好 色調は淡黄色。 |
| 16 | 壺 | 1 (22.6) | 口縁部半 残存 | 2層 床+45 | 強く外反し、二重口縁を呈する口縁部。二重口縁は、複 数の輪積みで形成。3本以上の棒状工具が組みなって付く。 二重口縁部にR L・L Rの順で纏文が施され、下端はL R纏文の原体による押捺が施され る。外面縦方向磨き。両面朱彩。 | 胎土は緻密。砂粒、 黒雲母を含む。焼成 良好。 |
| 17 | 壺 | 1 (10.4) | 口縁部半 周残存 | 2層 床+42 | 外反は弱く、二重口縁部は直立する。外縁にはL Rの纏 文が施され、下端はL R纏文の原体による押捺が施され る。外面縦方向磨き。両面朱彩。 | 胎土は緻密。焼成良 好。 |
| 18 | 壺 | 1 (11.0) m b (11.6) | 口縁部半 残存 | 2層床+ 32~48 15×220 | 口縁が強く内湾する。横ナデ。一部研磨後黒墨。 | 胎土は緻密。焼成良 好。色調は黄褐色と 黒褐色。 |
| 19 | 結縄 車 | 径4.8cm・厚さ1.8cm・孔径0.7cmを計る。土製。 | | | .7cm | |
| 20 | 結縄 車 | 円を欠く。推定径4.4cm・厚さ1.8cmを計る。土製。2層出土。 | | | | |

第9号住居址（第57-59図）

第8号住居址の西30cm、A 1-79、89グリットに位置する。軸長 4.9×5.6 mを測り、面積25.0m²のややゆがんだ隅丸方形を呈する。主軸方向はN-71°-Wである。住居址を確認した段階で径60cm前後の木根が8本もあり、遺存状態は良くない。壁高は30cm前後で、ロームへの掘り込みは15cm程にすぎず、75°～80°の傾斜で直線的に立ち上がる。床面は水平であるが、軟らかい。柱穴は、P 1（径34×18cm・深さ68cm）、P 2（径60×36cm・深さ72cm）、P 3（径70×44cm・深さ76cm）、P 4（径54×40cm・深さ74cm）の4本の主柱穴で、床面からの深さもほぼ等しく、ハードロームに掘られた径はいずれも15cm前後を測る。P 5（径68×44cm・深さ16cm）は貯藏穴で東壁下の中央よりやや南に偏して穿たれる。

炉（径55×52cm）は、主軸線上南に偏し、主柱穴を結ぶ線上に位置する。床面がわずかに焼土化しているのみで掘り込みは認められない。

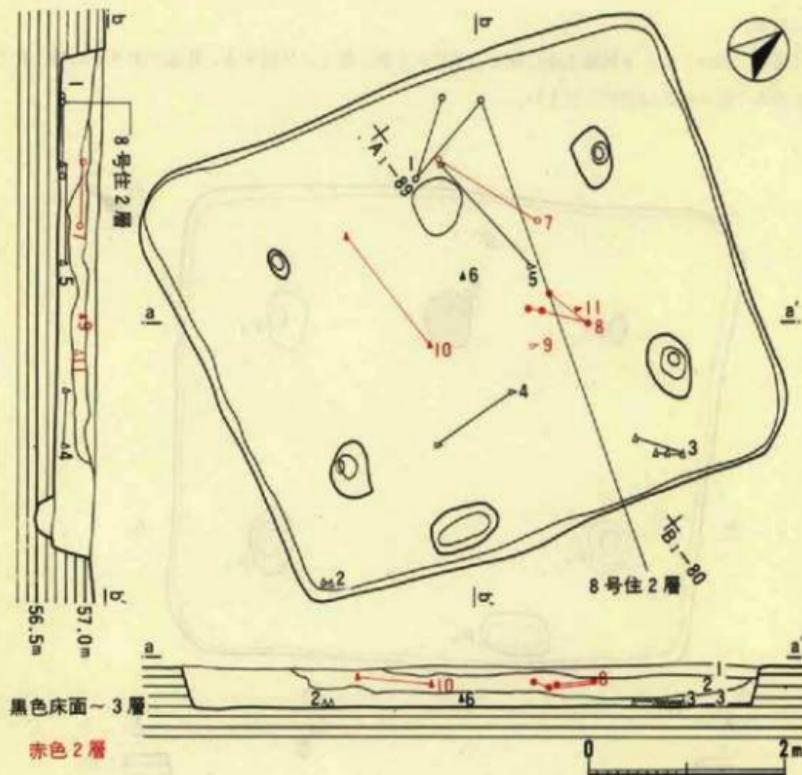


第57図 第9号住居址実測図(1/60)

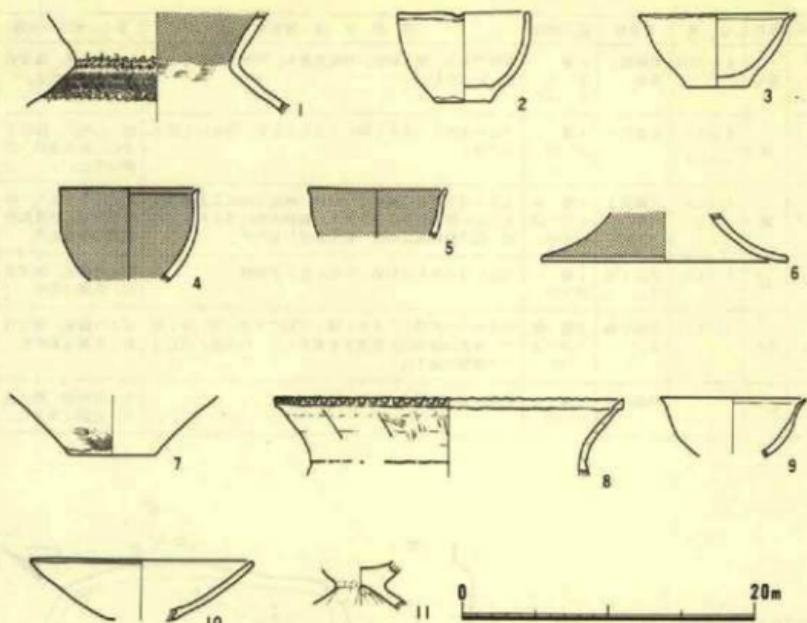
覆土 1層：黒褐色土層。基本層II b層に近い色調でしまりなし。2層：黒色土層。著しく黒い土層で、しまっており粘性あり。3層：黒褐色土層。2層にローム粒、焼土粒の混在する土層。

遺物の出土状態

本址からは、土器片114点、礫13点が出土した。1は床面に密着して出土し、第8号住居址の2層出土の土器片が接合した。2・3床面出土の遺棄的資料である。4・5は床面よりわずかに浮き、7～11は覆土中の資料である。



第58図 第9号住居址の遺物出土状態(1/60)



第59図 第9号住居址出土遺物(1~11)(1/4)

第9号住居址出土遺物

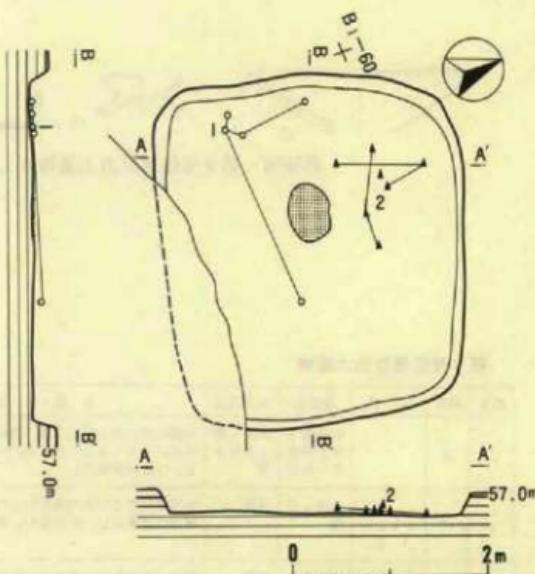
| 番号 | 器形 | 法量 | 遺存度 | 出土状況 | 形態・文様・調整等 | 粘土・焼成・色調 |
|----|----|-----------------------------|--------------|------------------|---|------------------------------|
| 1 | 壺 | | 口縁部下半と瓶部の半残存 | 床面・第8号住2層 | 瓶部収縮の強い壺形土器。瓶部にし字体のS縊り二回、肩部にL.R・R.L・L字体のS縊り二回の繩文が施される。口縁内側朱彩。 | 粘土は緻密。焼成良好。色調は橙色。 |
| 2 | 壺 | 1.9.1 d.b.3.8 h.6.1 | 口縁十欠損 | 床面 | やや突出する平底の底部から内湾しつつ立ちあがり。口縁はほぼ直立し、やや垂る。器面は荒れている。 | 粘土は砂粒を含む。焼成やや不良。色調は橙色。 |
| 3 | 壺 | 1(10.8) d.b.4.0 h.5.0 | 体部半と底部残存 | 床面 8×50 | 平底の底部からゆるやかに内湾して立ち上がり、口縁部が外反し、内面に腹を持つ。外面は横方向荒磨き、口縁部と内面はナデ調整。 | 粘土はや粗く、砂粒を含む。焼成やや不良。色調は明黄褐色。 |
| 4 | 壺 | 1(9.5) | 体部半残存 | 3層 床+8~10 100 | 内湾しつつ立ち上がり口縁はほぼ直立する深さのある形態。口縁内側に腹を持つ。内外面横方向荒磨き、口唇横ナデ。両面朱彩。 | 粘土は緻密。焼成良好。 |
| 5 | 壺 | 1(10.0) | 体部半残存 | 3層 床+3~10 | 体部はゆるやかに内湾して立ち上がり口縁部は外反し、内側に弱い腹を持つ。内外面とも横方向の荒磨き。両面朱彩。 | 粘土は緻密。焼成良好。 |

| 番号 | 器形 | 法量 | 遺存度 | 出土状況 | 器形・文様・調整等 | 胎土・焼成・色調 |
|----|----|------------|------------|------------------------|---|------------------------------------|
| 6 | 高环 | d b (16.8) | 脚部少 残存 | 3層 床+4- 8 140 | 脚部で大きく開く脚部。外面亂磨き。内面施削りの後ナ ダ。外面朱彩。 | 胎土は緻密。焼成良好。色調は橙色。 |
| 7 | 壺 | d b 5.5 | 底部のみ | 3層 床+10 | 平底の底部から大きく開いて立ち上がる。残痕的な刷毛 目が残る。 | 胎土は粗く、砂粒を含む。焼成良好。色 調は橙色。 |
| 8 | 甕 | 1 (23.8) | 口縁部少 残存 | 2層 床+15-25 20×60 | 大きく外反する口縁部で、口唇の棒状工具による押捺は 上下から施され小波状を呈す。輪積み底は後退される。内 面一段の輪積底は明瞭。刷毛調整の後ナダ。 | 胎土はやや粗く、砂 粒を含む。焼成良好 色調は明黄褐色。 |
| 9 | 椀 | 1 (9.6) | 体部少残 存 | 2層 床+20 | 内面に残のある小形品。内外ともナダ調整。 | 胎土は緻密。焼成良 好。色調は橙色。 |
| 10 | 高环 | 1 (14.8) | 環部少残 存 | 2層 床+18-28 140 | ゆるやかに内湾して大きく開く環部で下牛に弱い隙を持つ。 外面は縱方向の亂磨きを基本とし、口唇部と内面は ナダ調整が施される。 | 胎土は緻密。焼成良 好。色調は黄褐色。 |
| 11 | 高环 | | 脚部のみ | 2層 床+23 | 脚部が大きく開く。縱方向亂磨き。 | 胎土は緻密。焼成良 好。色調は黄褐色。 |

第10号住居址（第60・61図）

第8号住居址の北5m、北側
の谷にやや突き出た平坦面先端
部に位置する。南側に地境の道
跡があり、これにより一部を破
壊されている。軸長3.5×3.0
mを測り、推定面積11.9m²の隅
丸方形を呈する住居址である。
主軸方向はN-70°-Wである。
壁高は20cm前後と浅く、壁面も
しっかりしていない。床面は水
平であるが軟らかい。壁溝およ
び柱穴は認められない。

炉（径54×40cm）は主軸上中
央よりやや西に偏して位置する
が、床面がわずかに焼土化して
いるのみで掘り込みは認められ



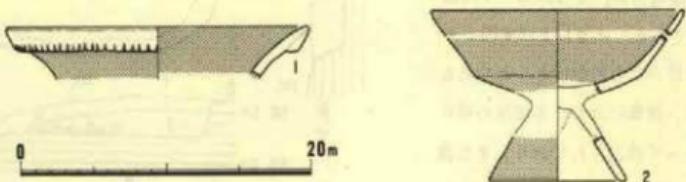
第60図 第10号住居址実測図および遺物の出土状態(1/60)

なかった。

覆土 黄褐色土層。IIIa層とほとんど変化なく、わずかに軟質であるだけであった。

遺物の出土状態

出土した遺物は、土器37点のみでいずれも小破片のみである。1・2いずれも床面に密着したもののが主体であるが、全形をうかがい得るような資料ではない。



第61図 第10号住居址出土遺物(1~2)

第10号住居址出土遺物

| 番号 | 器形 | 法量 | 遺存度 | 出土状況 | 形・態・文様・調整等 | 胎土・焼成・色調 |
|----|----|--------------------------------|------------|-------------------------|---|------------------------------|
| 1 | 壺 | 1(20.6) | 口縁部半残存 | 床面主体 床0~8 100×200 | 貼り付けによる二重口縁を呈し、二重部下端に範状工具による下方からの刻み目が施される。器面が荒れていますが内外とも朱彩が認められる。 | 胎土は緻密で、砂粒を少量含む。焼成良好。色調は浅黄褐色。 |
| 2 | 高環 | 1(17.2) d b(9.2) h(11.6) | 环部半 脚部半 | 床面主体 床0~8 100×110 | 环部下半に隙を持ち、脚部に比して环部が大きく開く。 环部外表面、脚部外表面は瓶方向施磨きおよび朱彩。 | 胎土は緻密で、砂粒を少量含む。焼成良好。 |

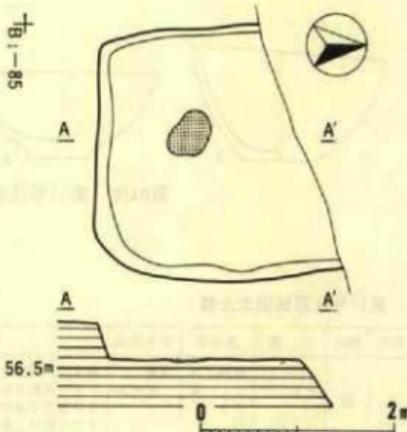
第11号住居址 (第62~64図)

第6号住居址の北東10m、B 1-75グリ

ッドに位置する。北側の谷の侵食が進んでいる部分にあたり、北壁から1/6程を欠く。

軸長2.6m、推測面積5m²程の隅丸方形を呈する小形の住居址と思われる。主軸方向はN-88°-Wである。遺存部分の壁は、しっかりしており南壁では30~35cmを測る。床面は水平であるが軟らかい。壁溝および柱穴は認められなかった。

炉 (径46×20cm・深さ3cm) は、中央よ



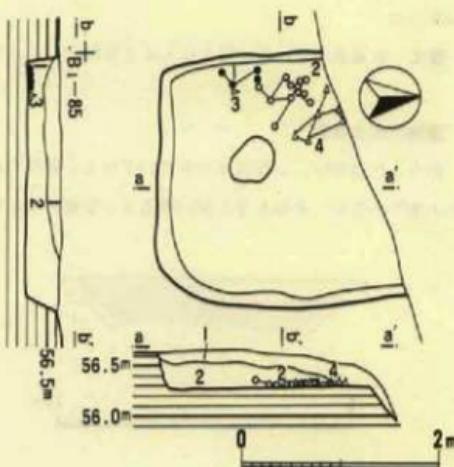
第62図 第11号住居址実測図(1/60)

りやや南西に寄る。

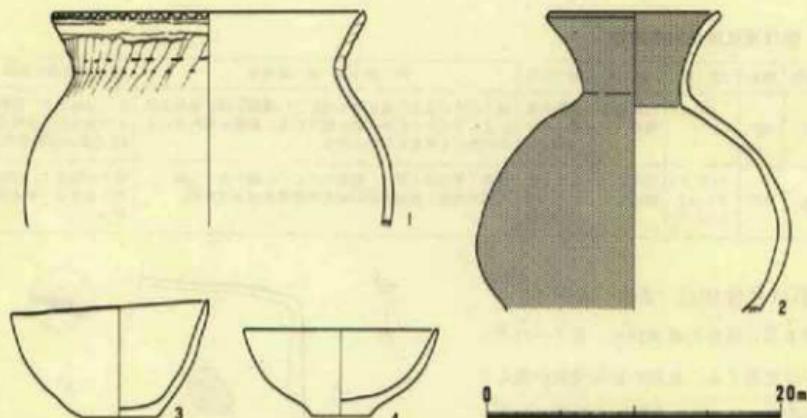
覆土 1層：黒色土層。谷側への流れ出しが認められる。2層：褐色土層。焼土粒・木炭粒を含みしまっていない。

遺物の出土状態

出土した遺物は、土器66点・小円礫4点のみである。床面および床面よりわずかに浮いたものがほとんどである。1～4は、西壁に近く、各個体の破片もまとまって検出されており、また復元性も高いので、本址に伴う遺棄された資料と考えられる。



第63図 第11号住居址遺物の出土状態(1/60)



第64図 第11号住居址出土遺物(1～4)

第11号住居址出土土器

| 番号 | 器形 | 法量 | 遺存度 | 出土状況 | 形態・文様・調整等 | 粘土・焼成・色調 |
|----|----|------------------------|----------------------|-------------|--|-----------------------------------|
| 1 | 甕 | 1 (21.2) m b (15.0) | 胴部上半 から口縁 の1/4 | 床面 30×30 | 最大径が胴部にあり、ゆるく収縮する頸部と、よく外反する口縁部をもつ。口唇外端は上方からの棒状工具による押捺で小波状を呈す。5帯の輪積み底は全体に浅く、下半は斜状工具による斜左方ヘナゲによって削される。 | 粘土は粗く、石粒を 多く含む、焼成良好、 色調は褐色。 |

| 番号 | 鉢形 | 法量 | 遺存度 | 出土状況 | 形態・文様・調査等 | 胎土・焼成・色調 |
|----|----|--------------------------------------|--------------|------------------------|--|---|
| 2 | 壺 | 11.8 m b 21.0 | 側部+と 底部欠損 | 床面全体 床+0~8 40×40 | 球形の側部、強く収縮する頭部。直立気味から外反へと 移行する口縁部をもつ。口縁部は瓶方向、側部は瓶方向 の施割り。外面および口縁内部は朱色。 | 胎土は緻密。石粒少 量含む。焼成良好。 |
| 3 | 壺 | 113.4~ 13.8 d b 5.0 h 7~7.8 | 口は完形 | 床面正直 | 平底の底部からゆるやかに内湾して立ち上がり重む。口 縁内側は指頭によるナデでわずかに外反する。ナテ調整。 | 胎土はやや粗く、ス コリア粒を含む。焼 成良好。色調は黄褐色へ青緑色。 |
| 4 | 壺 | 1(13.2) d b 4.0 h 5.8 | 体部+欠 損 | 床面 30×40 | 突出した底部から内湾する体部が立ち上がる。 | 胎土は緻密。焼成良 好。色調は赤褐色。 |

第12号住居址（第65~73図）

第7号住居址の南西8m、A2-28、29グリッドを主たる範囲として位置する。北壁はその大部分を生糞穴によって破壊されている。軸長5.4×5.4mを測り、推定面積22.9m²の隅丸方形を呈する住居址である。主軸方向はN-60°-Wである。住居址の構造は第7号住居址に類似するが、四隅がより曲線的である。壁高は、確認面のレベルが住居址の東側より西側の方が10cm程低いことにより、西壁では45cm程、東壁では35cm程になる。床面から80°前後の傾斜で直線的に立ち上がる。ロームへの掘り込みは10~15cm程で上半の壁面はしっかりとしていない。壁溝は西壁から南壁を廻って東壁の中程のP₇までは認められるが、北壁部分には認められない。また、南壁部分の壁溝は、貼り床が及んでいないということであって掘り方面では認められない。幅は平均12cm深さ5cm前後である。床面には、第7号住居址と同様に主軸に沿った主柱穴の外側にベット状施設が設けられている。中央部の床面とは10cm程の高低差を持ち、1m前後の幅を持ったもので、6cm程の黒色土の上に4cm程のロームを貼って作られている。床面は全体的に堅緻であり、貼り床面も柱穴間は踏み面められている。柱穴は5本検出され、P₁（径36×28cm・深さ90cm）、P₂（径40×34cm・深さ91cm）、P₃（径30×28cm・深さ87cm）、P₄（径38×34cm・深さ85cm）の主柱穴は径、深さとともに揃ったしっかりした柱穴である。P₅（径36×26cm・深さ22cm）は主軸線上東壁に近く位置する柱穴で、東壁方向へ45°の傾斜を持つ。貯蔵穴として、P₆（径74×62cm・深さ16cm）とP₇（径60×38cm・深さ10cm）の2つがある。P₆は東壁よりわずかに離れ北に寄って位置し、住居址中央部側に幅15cm前後、高さ6~7cmのロームを貼り付けた土手が廻る。P₇は東壁に接して中央よりやや南に穿たれる。

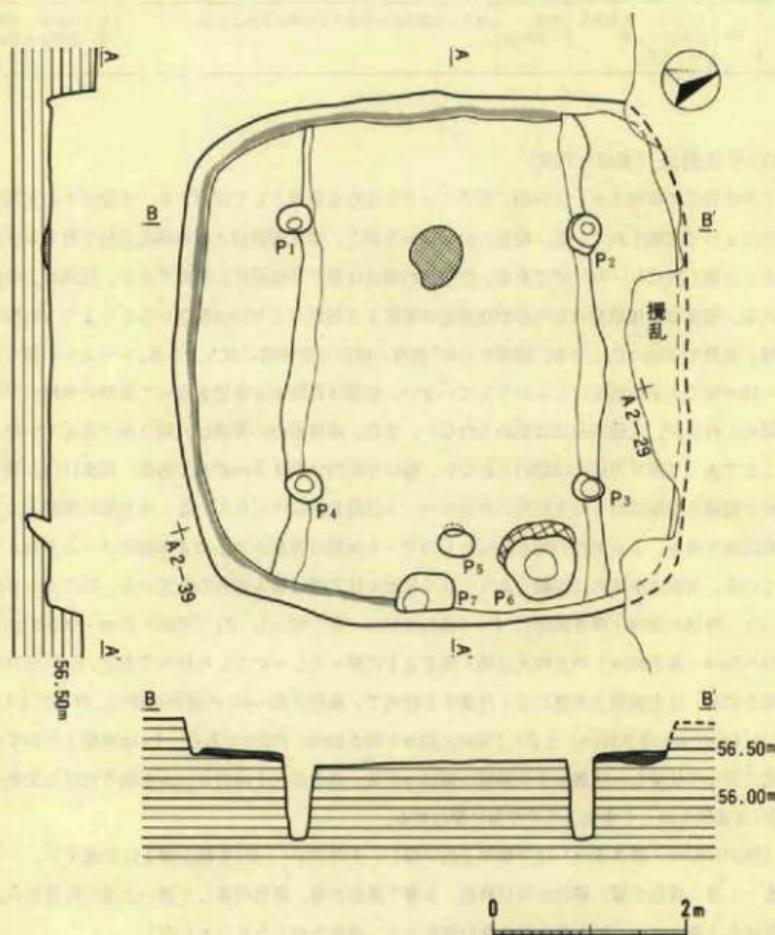
炉（径60×50cm・深さ5cm）は主軸線上西に偏し、主柱穴P₁・P₂を結ぶ線上に位置する。

覆土 1層：褐色土層。耕作が及び軟質。2層：黒色土層。黒色の著しく強い土層で粘性強い。3層：黒褐色土層。ローム粒と焼土粒を含む褐色土と、黒色土からなりしまりなし。

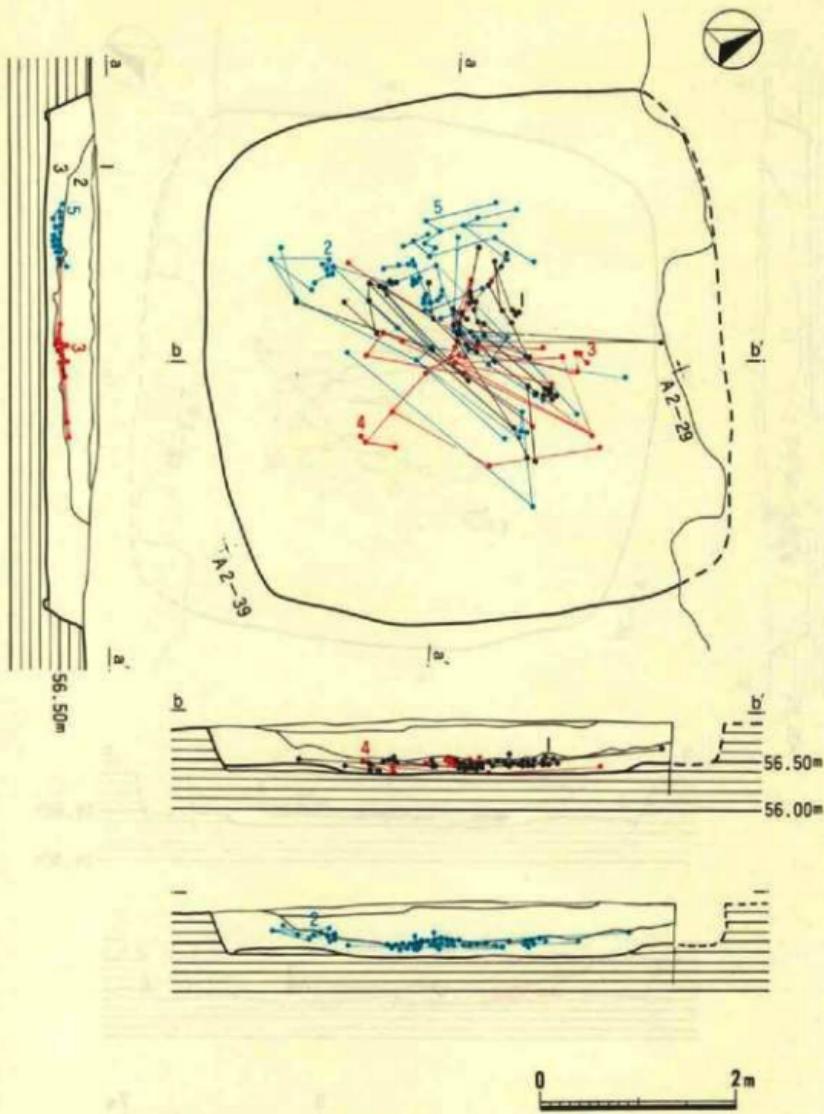
遺物の出土状態

出土した遺物は、土器1932点・礫13点であり、本遺跡の住居址の中では最も多く、復元によりその全形を知り得るものも多い。しかし、床面からの遺物は少なくまた細片のみであった。遺物の多くは

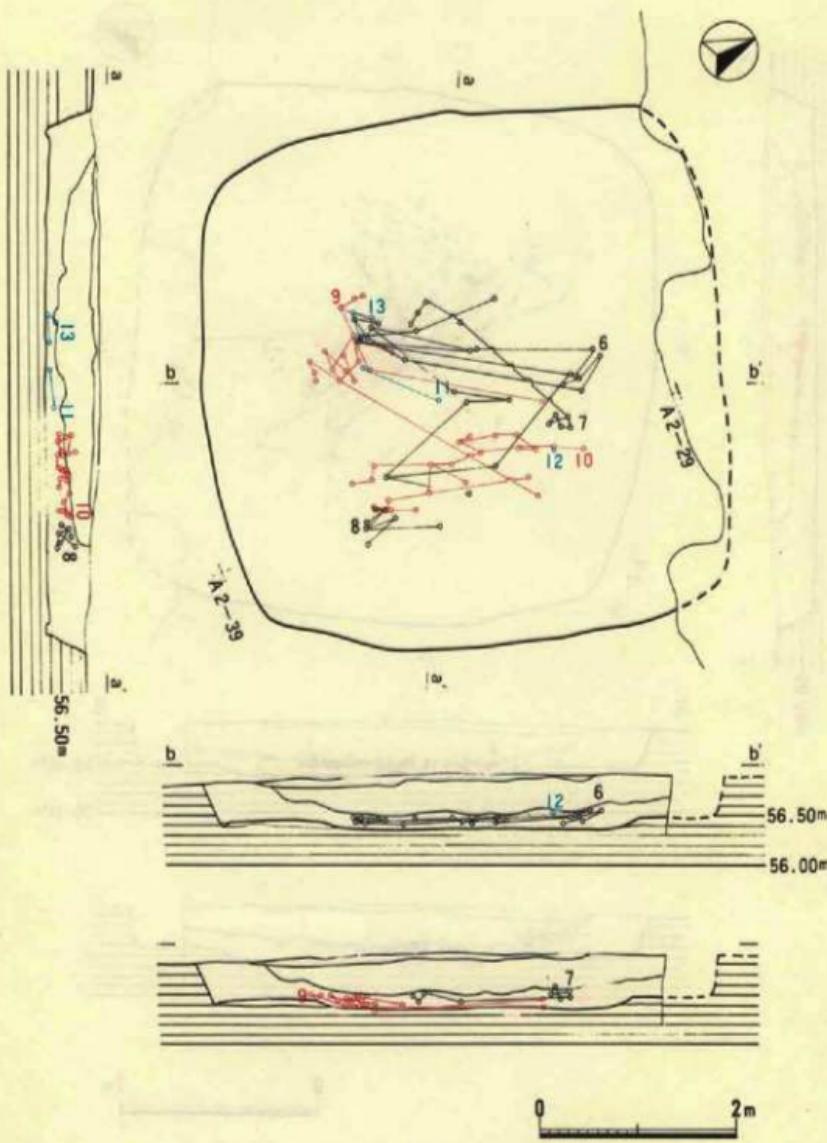
2層下半から3層上半のものが主体である。1~21が3層を主体とする遺物で、22~32が2層を主体とする遺物である。本址の2層と3層の間には明瞭な差違があり、また遺物もその接合作業の結果、層を異って接合するものは少ない。いずれも投棄された資料であると思われるが、若干の時間差が認められるものと考える。



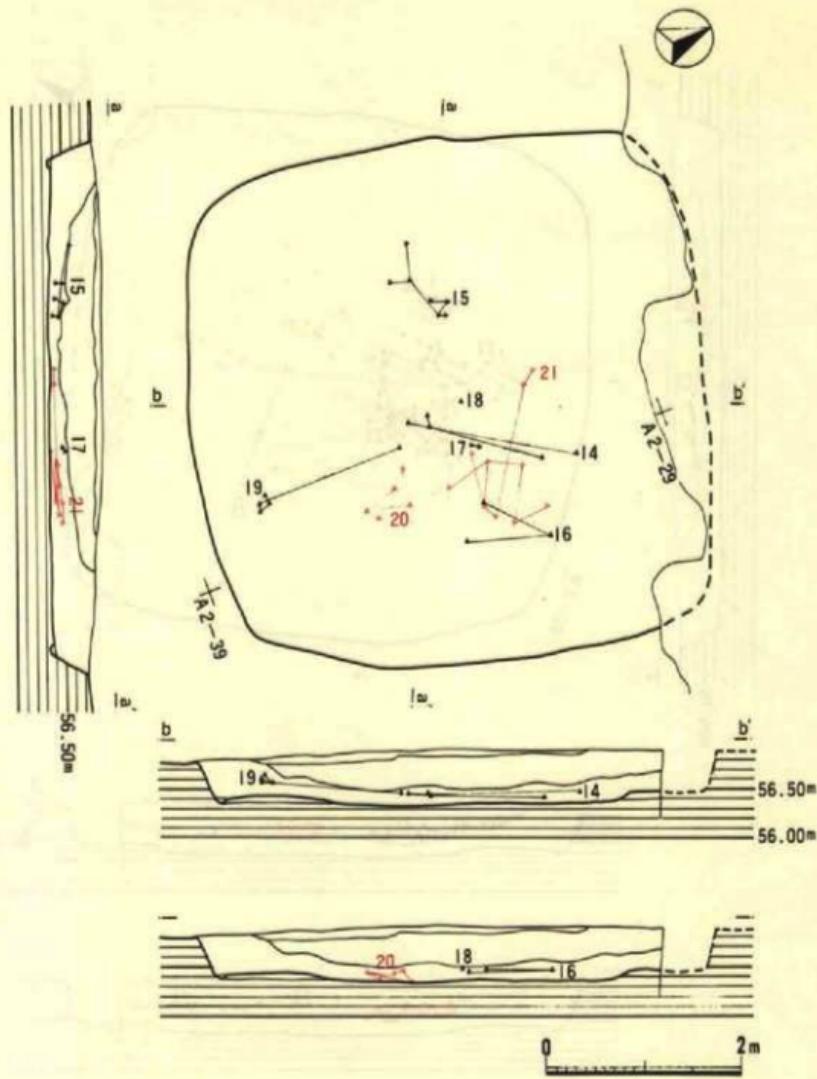
第65図 第12号住居址実測図 (1/60)



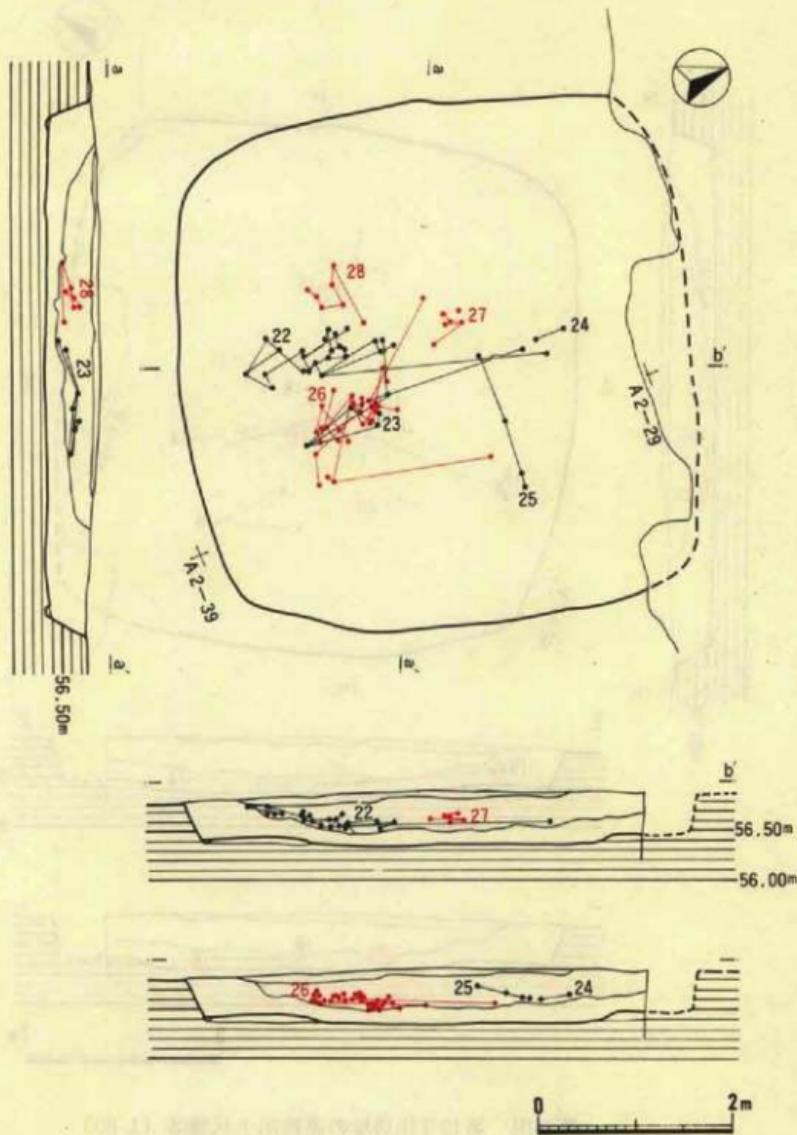
第66図 第12号住居址遺物の出土状態(1) (1/60)



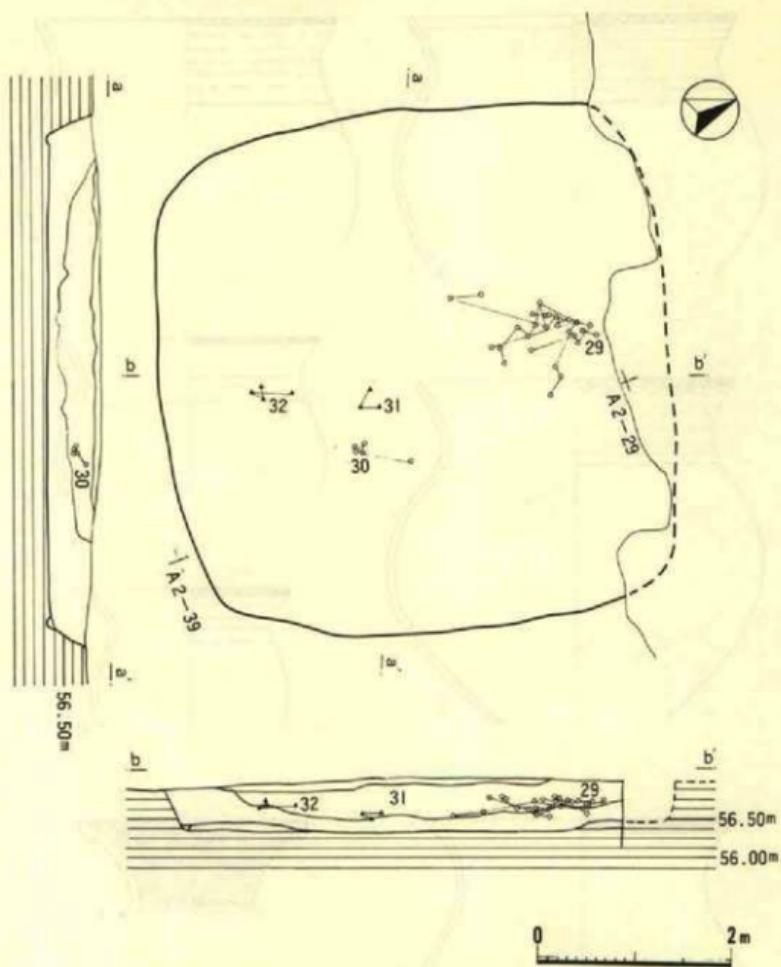
第67図 第12号住居址の遺物出土状態(2) (1/60)



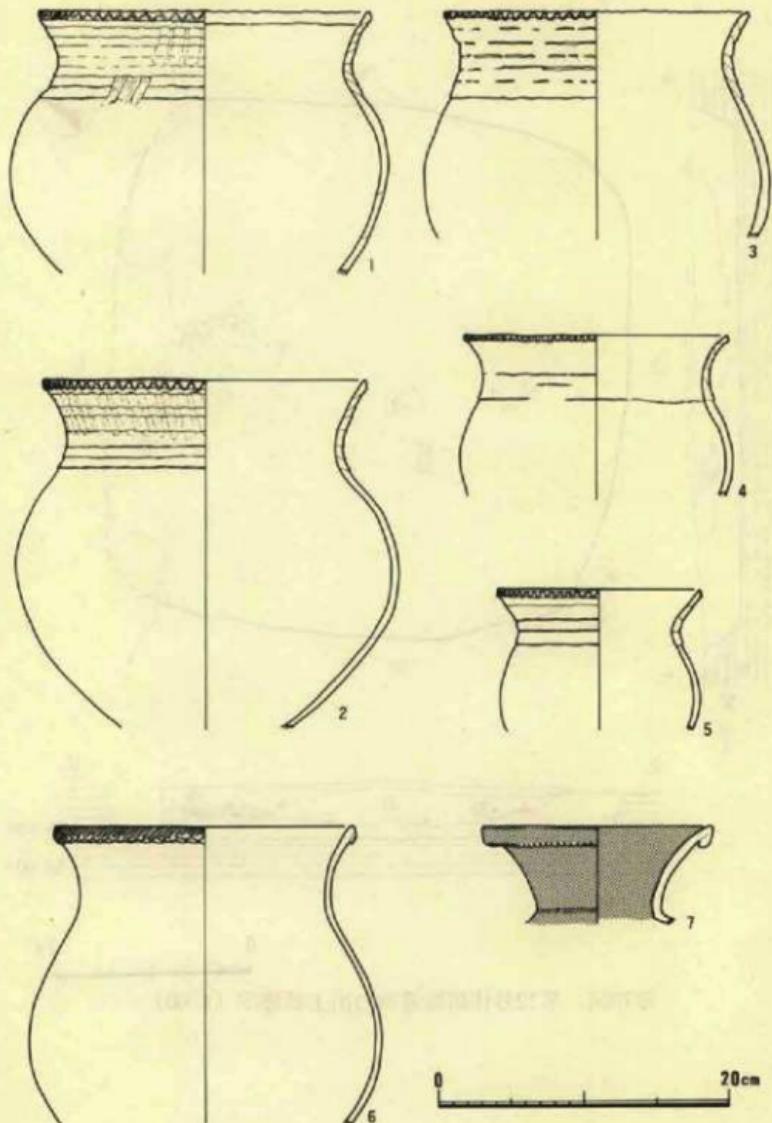
第68図 第12号住居址の遺物出土状態(3) (1/60)



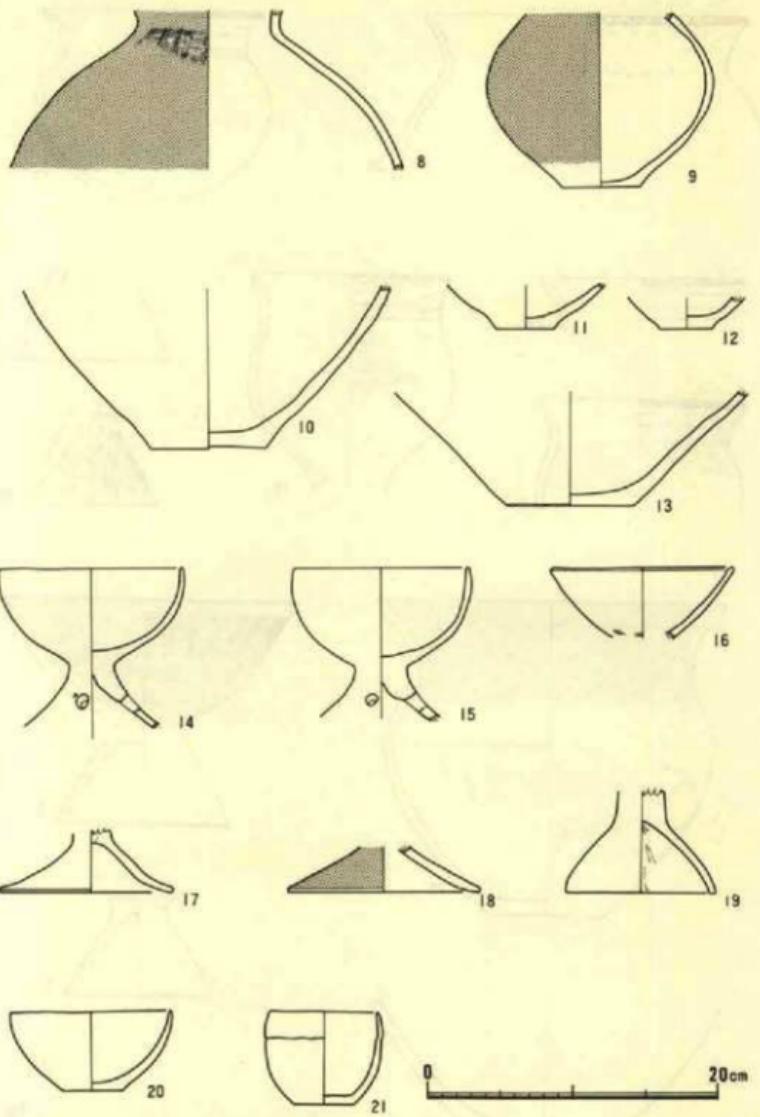
第69図 第12号住居址の遺物出土状態(4) (1/60)



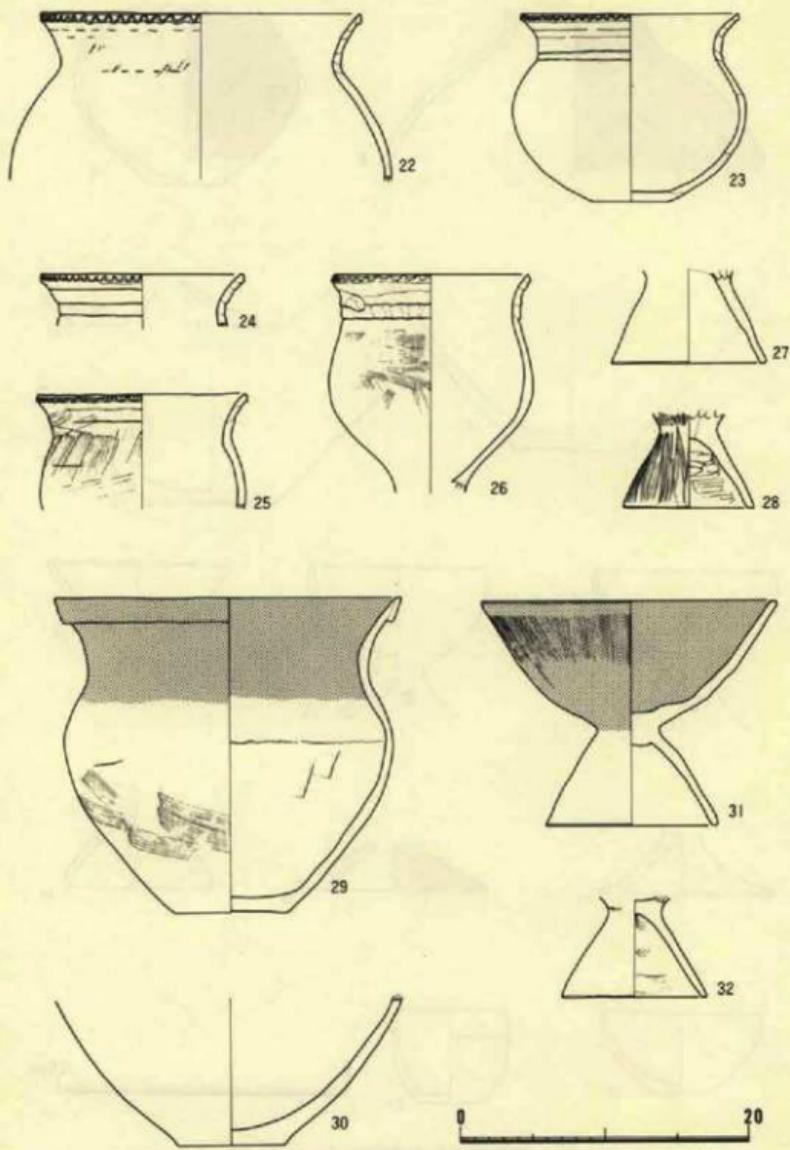
第70図 第12号住居址遺物の出土状態(5) (1/60)



第71図 第12号住居址出土遺物(1) (1~7) (1/4)



第72図 第12号住居址出土遺物(2) (8~21) (1/4)



第73図 第12号住居址出土遺物(3) (22~32) (1/4)

第12号住居址出土遺物

| 番号 | 器形 | 法 量 | 遺存度 | 出土状況 | 形・態・文様・調整等 | 胎土・焼成・色調 |
|----|----|------------------------------------|---------------------|---------------------------|--|---------------------------------|
| 1 | 甕 | 1 22.6 m b 26.4 | 底部欠損 | 3層主体 底+2~20 240×380 | 胴部中央に最大径を持ち、口頭部は8帯の輪積みからなる。輪積みは下2帯は明瞭であるが、上6帯は浅い。内面にも一段の輪積み痕を残す。口唇外端は棒状工具による上下からの押捺によって小波状を呈す。外面はナデ調整。内面は荒磨き。 | 胎土はやや粗く、砂粒を含む。焼成良好。色調は明黄褐色。 |
| 2 | 甕 | 1 22.0 m b 26.0 | 胴部と 底部欠損 | 3層主体 底+5~24 200×420 | 胴部中央に最大径を持ち下半は削られる。7帯の輪積みのうち下3帯は段差があり明瞭、上4帯は明瞭ではあるが段差がなく、指頭による溝し痕が残る。口唇の小波状は上下からの押捺による。外面は刷毛調整の後ナデ、下半には削り痕が残る。 | 胎土はやや粗く、砂粒を含む。焼成良好。色調は明褐色から黒褐色。 |
| 3 | 甕 | 1 (20.8) m b (23.6) | 口縁から 胴部上半 分残存 | 3層 底+4~20 120×300 | 最大径は胴部中央に持ち、頭部の収縮に弱く、口縁はわずかに外反する。口唇外端は上方から棒状工具による押捺で小波状を呈す。輪積み帯の境は明瞭であるが、6帯の輪積み痕は消されている。横ナデ。 | 胎土は粗く、3mm程度の砂粒を多く含む。焼成良好。色調は褐色。 |
| 4 | 甕 | 1 (18.0) m b (18.6) | 口縁部か ら胴部半 分残存 | 3層主体 底+2~18 200×240 | 頭部と口縁のはほ等しい蝶形土器。輪積み帯は消され最後2段以外は不明瞭。口唇外端は上方からの棒状工具による押捺で小波状を呈す。横ナデ。 | 胎土は粗く、砂粒を多く含む。焼成良好。色調は黄褐色。 |
| 5 | 甕 | 1 (13.8) m b (13.6) | 口縁から 胴部のう ろ残存 | 3層主体 底+8~24 60×140 | 頭部と口縁のはほ等しい小形の甕。4帯の輪積み痕は、深く明瞭。口唇外端は上方からの棒状工具による押捺で小波状を呈す。外面横ナデ、内面磨き。 | 胎土はやや粗く、砂粒を含む。焼成良好。色調は浅褐色。 |
| 6 | 甕 | 1 20.4 m b 24.2 | 胴部と 底部欠損 | 3層 底+4~22 160×240 | 頭部の収縮が弱く、二重口縁を呈し、LRの範文が施される。二重口縁の下端部は範文原体の下方から押捺によって小波状を呈す。外面および内面口縁部朱彩。 | 胎土はやや緻密であるが砂粒を含む。焼成良好。 |
| 7 | 甕 | 1 15.8 | 口縁から 頭部まで 残存 | 3層 底+6~22 30×200 | 弱く外反する口縁部、二重口縁を呈し、二重部下端に尖るどい割み目が施される。二重口縁部は横ナデ、頭部までは範方向荒磨き。内面横方向荒磨き。内面朱彩。 | 胎土は緻密。焼成良好。 |
| 8 | 甕 | | 頭部と 胴部上半 分残存 | 3層 底+10~28 35×80 | 頭部が張り、頭部の収縮する壺形土器。頭部にわずかに刷毛目を残す荒磨き。外面朱彩。 | 胎土は緻密。焼成良好。 |
| 9 | 甕 | m b (15.6) d b (5.4) | 底部・胴 部残存 | 3層主体 底+5~20 90×280 | 球形の頭部を持つ小形甕。頭部横方向荒磨き。底部に近く範方向荒磨き。外面朱彩。 | 胎土は緻密。焼成良好。色調は黄褐色。 |
| 10 | 甕 | d b (7.8) | 底部・胴 部下半分 残存 | 3層主体 底+10~28 80×240 | わずかにあげ底の底部から、別く内溝しつつ立ち上がる頭部。外表面横方向荒磨き。内面ナデ。 | 胎土は緻密。焼成良好。色調は褐色。 |
| 11 | 甕 | d b 4.0 | 底部半 分残存 | 3層底+3 ~10 80 | やや突出する平底の底部から、やや内溝しつつ立ち上がる頭部。外表面横方向荒磨き。内面ナデ。 | 胎土は緻密。焼成良好。色調は浅黄褐色。 |
| 12 | 甕 | d b 3.6 | 底部 | 3層 底+15 | やや突出する平底の底部からやや内溝しつつ頭部が立ち上がる。内外表面横方向荒磨き。 | 胎土は緻密。焼成良好。色調は赤褐色。 |
| 13 | 甕 | d b (8.6) | 底部から 胴部下半 分残存 | 3層 底+3~10 25×25 | 平底から、やや外側気味に立ち上がる。外表面横方向荒磨き。内面横ナデ。 | 胎土は緻密。焼成良好。色調は浅黄褐色。 |
| 14 | 高环 | 1 12.6 d b (10.0) h (11.0) | ほぼ完形 胴部欠損 | 3層 底+4~15 20×180 | 3孔を有する頭部と内溝しつつ立ち上がる柄状の环部。外面および环部内面は横方向、頭部内面は横方向の荒磨き。环部口縁外端のみ横ナデ。 | 胎土は緻密。焼成良好。色調は橙色。 |
| 15 | 高环 | 1 (12.3) d b (10.0) h (11.0) | 环部と 胴部欠 損 | 3層 底+3~22 70×80 | 14の高环と著しく類似する。 | 胎土は緻密。焼成良好。色調は橙色。 |

| 番号 | 器形 | 法量 | 遺存度 | 出土状況 | 形態・文様・調整等 | 胎土・焼成・色調 |
|----|-----|---|----------------------------|----------------------------|--|-------------------------------|
| 16 | 高环 | l 12.4 | 环部+残存 | 3層床+10 -14 40×80 | 直線的に大きく開き、口縁内面に弱い隙を持つ。外面縱方向、内面横方向の削磨き。外面縁部に近く横ナデ。 | 胎土は緻密。焼成良好。色調は黄色。 |
| 17 | 高环 | d b 12.0 | 脚部+残存 | 3層床+12 -16 10 | 大きく開く脚部で、中心位置がすれあみが著しい。外面縱方向削磨き。内面ナデ。 | 胎土は緻密。焼成良好。色調は淡黄褐色。 |
| 18 | 高环 | d b (13.2) | 脚部+残存 | 3層床+12 | 大きく開く脚部で底面に隙を持つ。外面削磨き朱彩。内面ナデ。 | 胎土は緻密。焼成良好。 |
| 19 | 高环 | | 脚部完存 | 3層床+10-34 20×160 | 脚部がやや内湾し、縫部は内階形を呈する。脚部上端は平坦で、縫邊のみで接合。外面縦方向の削磨き。内面横ナデ。 | 胎土はやや緻密。焼成良好。色調は淡黄褐色。 |
| 20 | 椀 | | 手欠損 | 3層床+3-20 40×50 | 平底からゆるく内湾しつつ立ち上がり開く体部。口唇は薄く引き出される。口縁は横ナデ。体部下半は縦方向の削磨き。 | 胎土はやや粗く、焼成良好。色調は黄褐色。 |
| 21 | 椀 | | 口縁+欠損 | 3層床+3-20 100×160 | 平底から内湾しつつ立ち上がる。口縁部に接合痕を残す。口縁は横ナデ。体部斜方向削磨き。器面は荒れているが朱彩の痕跡を認める。 | 胎土は緻密で黒雲母を含む。焼成良好。色調は淡黄褐色。 |
| 22 | 甕 | l (22.0) m b (36.3) | 口縁から 脚部上半 の+残存 | 2層主体 床+18~32 60×300 | 脚部が張り、縫部が広がり口縁が弱く外反する。輪積み痕は消され跡跡的である。口唇外端は上下からの棒状工具による押捺で小波状を呈する。横ナデ。 | 胎土はやや粗く、砂粒を含む。焼成良好。色調は橙色。 |
| 23 | 甕 | l (15.0) m b 16.0 d b 5.0 h 13.0 | 口縁部+ と脚部+ 欠損 | 2層 床+15-35 80×250 | 小形の整った甕形土器。口縁は5倍の輪積板を残す。口唇は棒状工具の上方からの押捺により小波状を呈す。ナデ調整。 | 胎土はやや粗く、砂粒を含む。焼成良好。色調は橙色。 |
| 24 | 甕 | l (13.8) | 口縁部+ 周残存 | 2層床+ 25-34 30 | 小形の甕形土器。輪積み痕は明瞭。口唇外端は上方からの棒状工具による押捺により小波状を呈す。 | 胎土緻密。焼成良好。色調は淡黄褐色。 |
| 25 | 甕 | l 14.4 m b 14.2 | 口縁から 脚部上半 +残存 | 2層 床+23-38 140 | 脚部と口径がほぼ等しく、脚部収縮が弱く、口縁はゆるやかに外反する。輪積み痕は2本が明瞭に残る。口唇外端には二本の棒状工具を1組にして上下から押捺し、小波状を形成する。脚部上半には縦方向を基調とする薄い刷毛目痕が残る。 | 胎土は緻密。焼成良好。色調は淡黄褐色。 |
| 26 | 台付甕 | l 13.6 m b 14.2 | 口縁部から 脚部の+ と脚部 欠損 | 2層主体 床+15-35 180×200 | 口縁と脚部がほぼ等しく、脚部の収縮は弱い。4倍の輪積み痕は、明瞭で複数の接合であり、指捺痕や横の接合板を残す。口唇外端は、上下からの棒状工具の押捺で小波状を呈す。外面は乱れた刷毛調整。内面は横ナデ。 | 胎土は粗く、砂粒を多く含む。焼成やや不良。色調は明黄褐色。 |
| 27 | 台付甕 | | 台部+残存 | 2層 床+25-30 25×40 | ほぼ直線的に開く脚台部。器がわざかに外反する。刷毛調整の後削磨。 | 胎土は粗く、砂粒を含む。焼成良好。色調は黄色。 |
| 28 | 台付甕 | | 台部+残存 | 2層主体 床+10-30 40×70 | ほぼ直線的に開く脚台部。縦方向の刷毛目。 | 胎土は粗く、砂粒を含む。焼成良好。色調は橙色。 |
| 29 | 甕 | l (24.0) m b 23.0 d b 7.8 h 14.3 | 口縁部+ と脚部+ 欠損 | 2層主体 床+10-35 100×160 | 平底の底部から内湾しつつ立ち上がる脚部。収縮の弱い脚部、二重口縁を呈する広口甕。外面は荒れているが、脚部下半に刷毛目を残す。口縁から脚部まで、内面朱彩。 | 胎土はやや粗く、砂粒を含む。焼成良好。色調は淡黄褐色。 |
| 30 | 甕 | d b 7.2 | 底部+脚 部下半+ 残存 | 2層 床+25-40 35×60 | 平底の底部から内湾しつつ立ち上がる脚部。器面は著しく荒れている。 | 胎土は緻密。砂粒を含む。焼成良好。色調は淡黄褐色。 |
| 31 | 高环 | l 20.6 d b 11.8 h 15.3 | ほぼ完形 | 2層主体 床+12-20 20×20 | 平底は下半に隙を持ち、わずかに内湾しつつ大きく開き。环部中央は一段落ちる。脚部は直線的に大きく開く。环部外縁は刷毛調整の後削磨き。脚部内面には削り痕を残す。环部内外面朱彩。 | 胎土は緻密でスコリア粒を含む。焼成良好。色調は黄色。 |
| 32 | 高环 | d b (10.0) | 脚部+残存 | 2層床+12 -25 20×60 | 直線的に開き、取締が平面に面取りされる脚部。外面削磨き。内面削りの後ナデ。 | 胎土は緻密。焼成良好。色調は淡黄色。 |

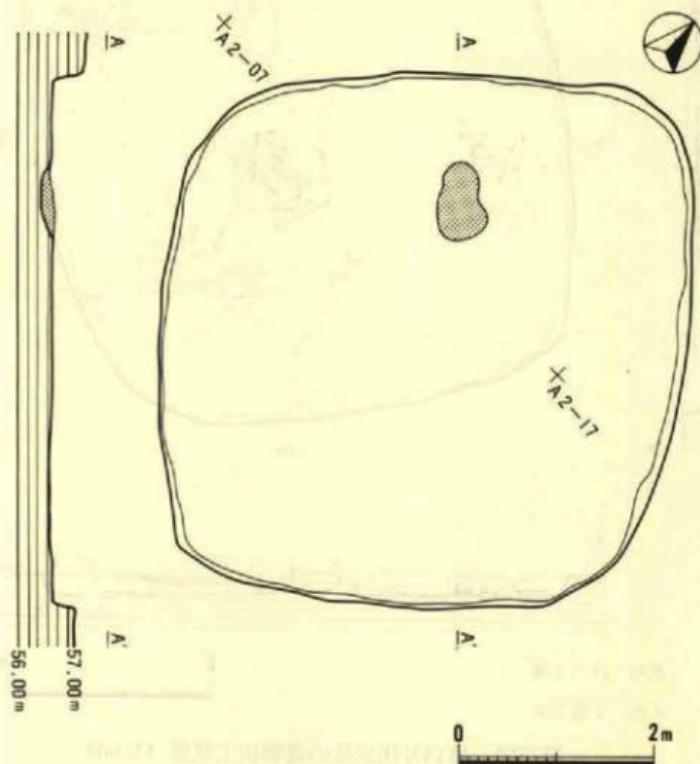
第13号住居址（第74～76図）

（略）

第12号住居址の北西12m、A 1-97、A 2-07グリッドを主たる範囲として位置する。軸長5.5×5.5mを測り、面積25.6m²の隅丸方形を呈する住居址である。主軸方向はN-43°-Wである。壁高は25～30cmで、床面からの立ち上がりは曲線的である。床面は軟らかく、若干の凹凸がある。壁溝柱穴は認められない。

炉（径96×58cm・深さ13cm）は主軸上北西に偏して位置する。

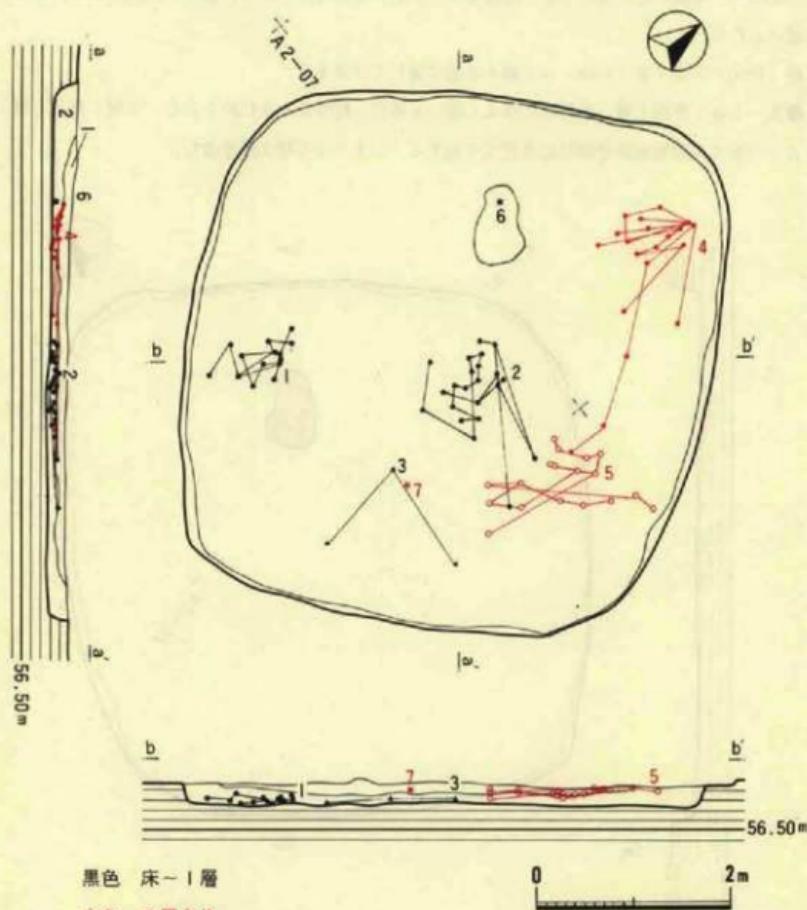
覆土 1層：黒色土層。黒色味の著しく強い土層で、粘性強く炭化粒を含む。2層：褐色土層。ロームと一層の中間的色調で斑状に黑色土を混ずる。しまりなく焼土粒を含む。



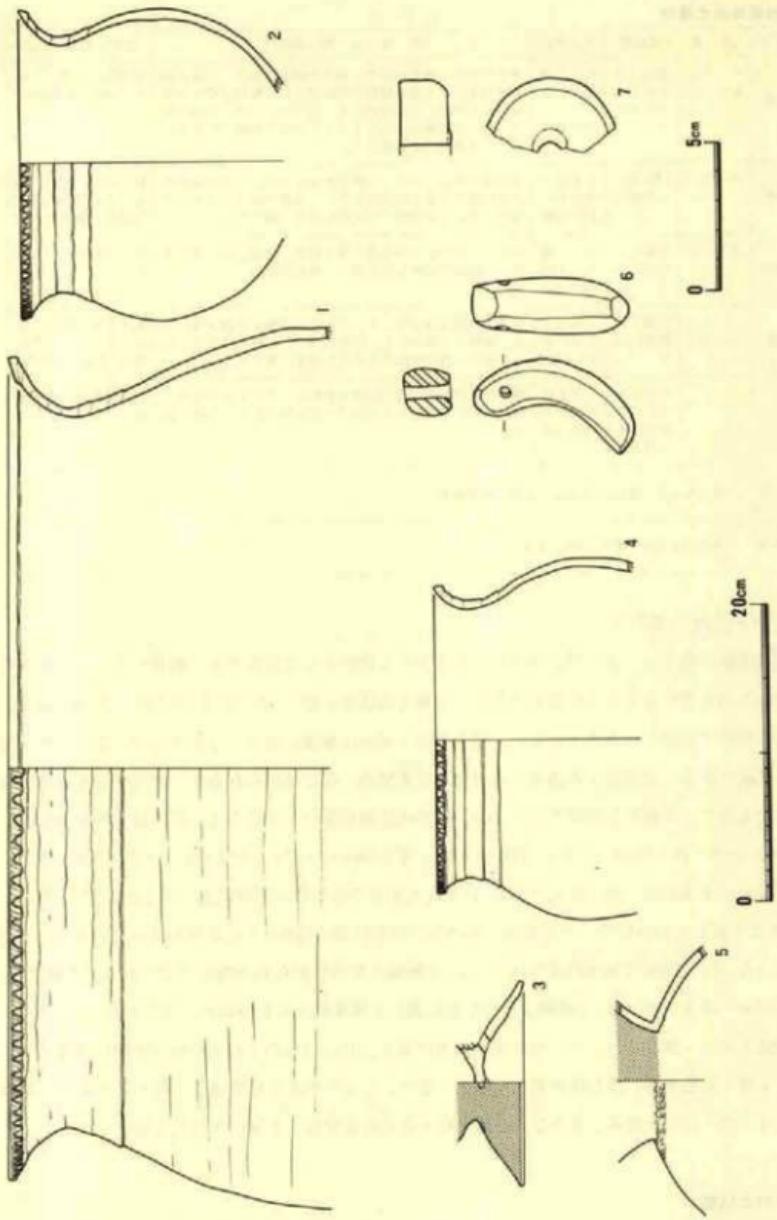
第74図 第13号住居址実測図 (1/60)

遺物の出土状態

本址からは、231点の土器片と土製紡錘車1点・土製勾玉1点が出土した。1～3は床面を主体とし、4・5は覆土中。6の土製勾玉は炉中より出土した。



第75図 第13号住居址の遺物出土状態 (1/60)



第76图 第13号住居址出土遗物 (1~5:1/4) (6·7:1/2)

第13号住居址出土遺物

| 番号 | 器形 | 法量 | 道存度 | 出土状況 | 形態・文様・調整等 | 胎土・焼成・色調 |
|----|-----|------------------------|-------------------------------|----------------------------|---|------------------------------|
| 1 | 甕 | t (35.2) m b (39.2) | 胴部上半 から口縁 の1/6残存 | 床～2層 床+0～5 60×100 | 極めて大形の甕形土器で、頸部の収縮は弱く、口縁は強く外反する。9帯の輪積み底は須され、輪積み帯との境以外は不明瞭。口縁内側にも一段明瞭に残る。口唇外端は2本1組の棒状工具による上方からの押捺で小波状を呈す。外面窓による横ナデ。 | 胎土はやや粗く、砂粒を含む。焼成良好。色調は黄褐色。 |
| 2 | 甕 | t (39.6) | 口縁部か ら胴部1/4 | 2層床+ 3～15 120×180 | 最大径が胴部にあり、口縁部外反は弱い。5帯の輪積み底は明瞭であるが段差は小さい。口唇外端は上下からの棒状工具による押捺で小波状を呈す。横ナデ。 | 胎土はやや粗く、砂粒を含む。焼成良好。色調は淡黄褐色。 |
| 3 | 高环 | d b (13.8) | 頸部1/4・ 腹部1/2残 存 | 床～2層 床+0～5 80×120 | 短く、内溝しつつ大きく聞く胴部。頸部に近く4孔を持つ。底端に明瞭な波を持つ。外面朱彩。 | 胎土は緻密、焼成良好。 |
| 4 | 甕 | t (30.8) m b (21.0) | 口縁部1/6 胴部1/4残 存 | 1層主体 床+15～25 100×260 | 胴径と口径はほぼ等しく、頸部収縮は弱く口縁は外反する。輪積みは幅が広く、段差は浅い。口唇外端は上下からの棒状工具による押捺で小波状を呈す。横ナデ。 | 胎土はやや粗く、砂粒を多く含む。焼成良好。色調は黄褐色。 |
| 5 | 甕 | | 口縁部下 半から胴 部上半の 1/6残存 | 1層主体 床+15～23 100×180 | 甕形の胴部から、強く収縮する頸部、外反する口縁部。頸部から肩上半にEのS継ぎが2段施される。口縁内面朱彩。 | 胎土は緻密、焼成良好。 |
| 6 | 勺 玉 | | | | 長さ5.4cm、径1.8×1.6cm。土製。明黄褐色。 | |
| 7 | 劫鉢車 | | | | | |

第14号住居址（第77図）

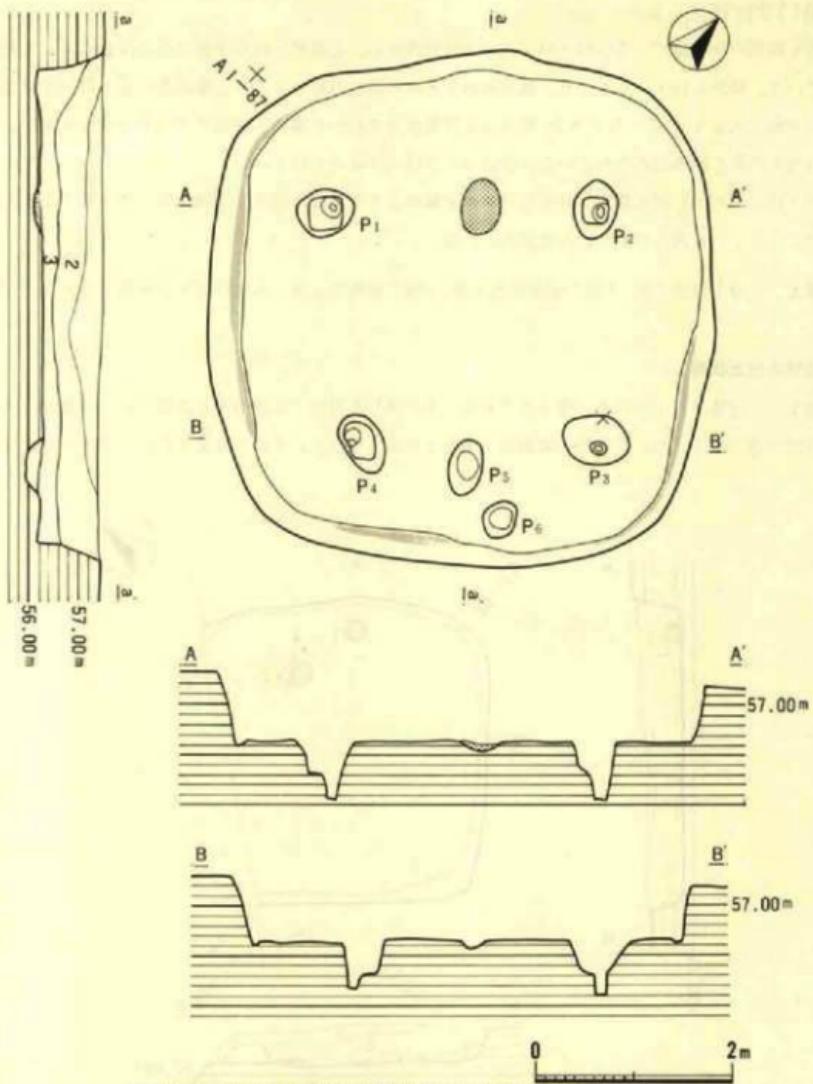
第13号住居址の北5m、A1-77、78グリッドを主たる範囲として位置する。軸長5.2×5.2mを測り面積19.7m²の隅丸方形を呈する住居址である。主軸方向はN-42°-Wである。壁高60×70cmを測り、80°～85°の傾斜で直線的に立ち上がるが、壁上半20～30cmは崩壊が進みしっかりしていない。床面は水平かつ堅緻である。壁溝は、南西壁・南東壁・北東壁の一部に認められるが、連続するものではなく部分的なもので、床面からの深さ3～5cm、幅10cmに満たないものである。柱穴は5本検出され、P₁（径60×50cm・深さ55cm）・P₂（径63×47cm・深さ59cm）・P₃（径67×53cm・深さ58cm）・P₄（径66×40cm・深さ63cm）は主柱穴である。いずれも床面での形態は不整円形であるが、P₁・P₂・P₄の3本は床面から30cm程で、一辺が25～30cm程の方形に整えられ、さらに径20cm前後の掘り込みが施されている。P₅（径54×34cm・深さ18cm）は、主軸線上南東壁から48cm離れて穿たれる。貯藏穴P₆（径35×33cm・深さ10cm）は、主軸線よりやや北に偏して南東壁から10cm離れて穿たれる。

炉（径55×37cm・深さ5cm）は、主軸線上北西に偏し、P₁・P₂の主柱穴を結ぶ間に位置する。

覆土 1層：黒色土層。黒色味の著しく強い土層で、しまりがあり粘性強く、焼土粒を含む。2層：褐色土層。ローム粒を含みしまりなく、焼土粒・炭化粒を含む。3層：黒褐色土層。

遺物の出土状態

出土した遺物は、土器 113点、磚15点であるが、土器はすべて細片で図示できる資料はない。



第77図 第14号住居址実測図 (1/60)

第15号住居址（第78・79図）

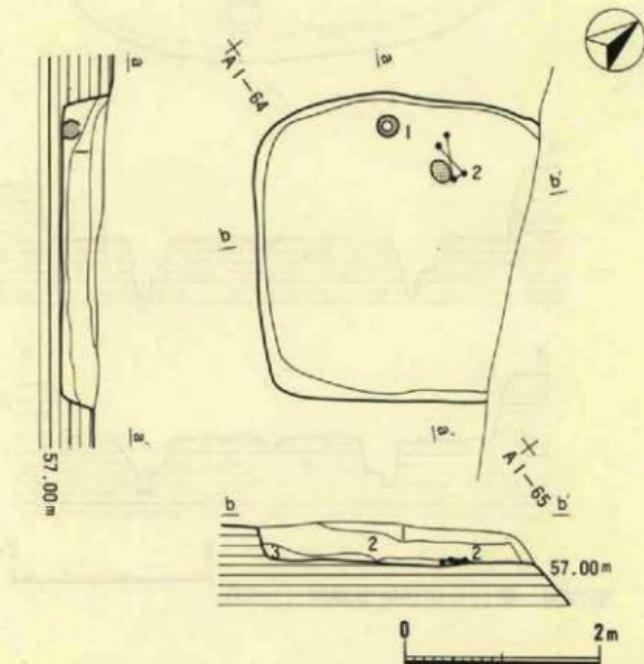
最も西側の住居址で、A1-54・64グリッドに位置する。北東部 $\frac{1}{5}$ 程を北側の谷の侵食によって失なっている。軸長3.1× mを測り、推定面積7.8 m²の溝丸方形を呈すると推測される小形住居址である。主軸方向はN-50°-Wである。壁高は北西壁中央で42cmを南西・南東壁では30cm前後を測る。床面は水平で固く踏み固められていた。壁溝および柱穴は認められない。

炉（径22×20cm）復元想定されるプランの主軸線よりやや北に寄り、北西に偏して位置する。床面が焼土化しているのみで掘り込みは認められない。

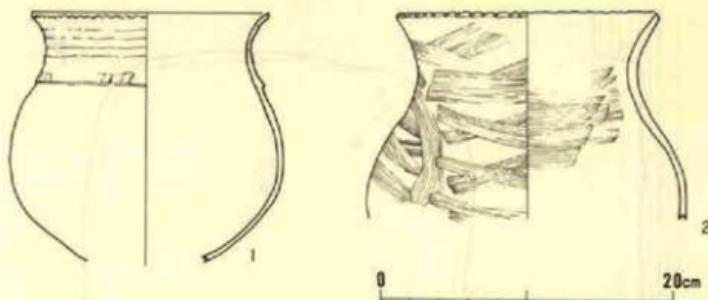
覆土 1層：褐色土層。2層：暗黄褐色土層。3層：暗褐色土層。木炭粒および黑色土を斑状に含む。

遺物の出土状態

出土した遺物は、土器10点、礫1点である。1の夔形土器は、北西壁中央に壁から20cm離れて伏せられた状態で出土した。2は炉の北東側の床面より出土した。いずれも遺棄されたものと考えられる。



第78図 第15号住居址実測図および遺物の出土状態 (1/60)



第79図 第15号住居址出土遺物（1・2）(1/4)

第15号住居址出土遺物

| 番号 | 器形 | 法量 | 遺存度 | 出土状況 | 形態・文様・調整等 | 胎土・焼成・色調 |
|----|----|------------------------|-------------------|------------------------|---|-------------------------------------|
| 1 | 甕 | 1 16.6 m b 18.6 | 口縁部と 底部を欠 損 | 床面倒置 | 最大径を胴部に持ち、球形の胴部、ゆるやかに収縮する 頸部、強く外反する口縁部を持つ。口唇部外端の小波状 は、箆状工具を下方から押し付け右へ開くようにして形成。 5帯の輪積みは最下段のみ明瞭で他は浅い。指頭痕 を残す。ナテ調整。 | 胎土はやや粗く、砂 粒を含む。焼成良好。 色調は明赤褐色。 |
| 2 | 甕 | 1 (18.0) m b (21.8) | 口縁部～ 胴部三分 | 床～3層 床+0～5 10×40 | 胴径に比して口縁部がやや長く、弱く外反する。口縁部 は棒状工具による内側からの押捺で小波状を呈す。糊毛 目調整。 | 胎土粗く、砂粒含む。 焼成良好。色調は淡 黄褐色。 |

第16号住居址（第80～82図）

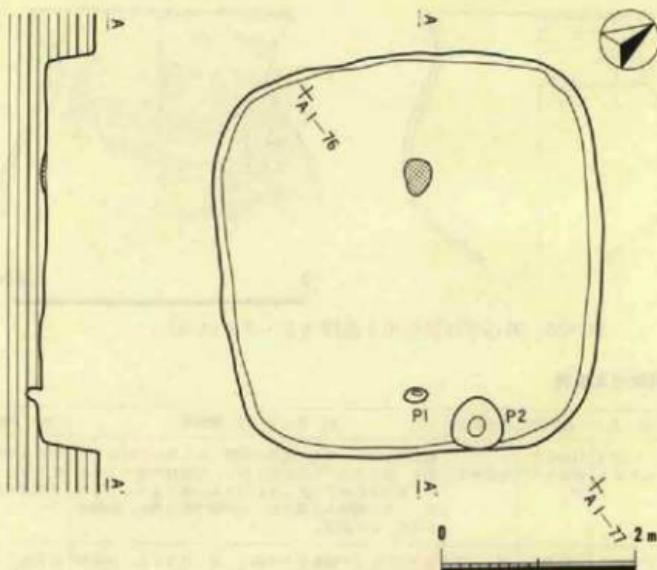
第14号住居址の北西3m、A1-66・67グリッドに位置する。住居址の北側1mまで北側の谷が迫る
軸長4.1×4.0mを測り、面積14.8m²の隅丸方形を呈する住居址である。主軸方向はN-52°-Wである
壁高は谷に近い北西隅で46cmを測るが、他の部分では60cm前後を測る。壁面はしっかりとおり床面
から80°から垂直に近く直線的に立ち上がる。床面は4cm前後の凹凸があり、堅く踏み固められている
壁構および主柱穴は認められなかった。P₁（径24×14cm・深さ14cm）は、主軸線上南東壁下から45cm
離れて位置し、南東壁へ向って45°ほどの傾斜を持つ。貯蔵穴P₂（径50×40cm・深さ26cm）は、中央か
らやや北に寄った南東壁下に穿たれる。

炉（径38×18cm・深さ4cm）は、主軸線上中央より北西に寄って位置し、小さく掘り込みもほとんど認められないものである。

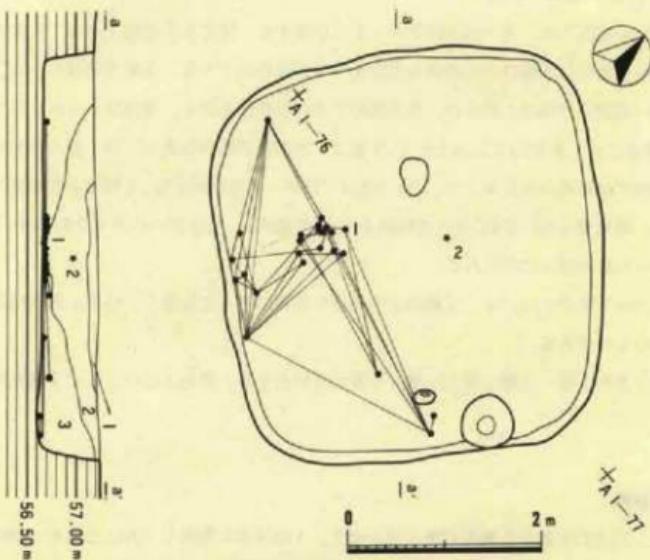
覆土 1層：黒色土層。2層：褐色土層。3層：黒褐色土層。黒色土にローム土、褐色土の混ざる
土層。

遺物の出土状態

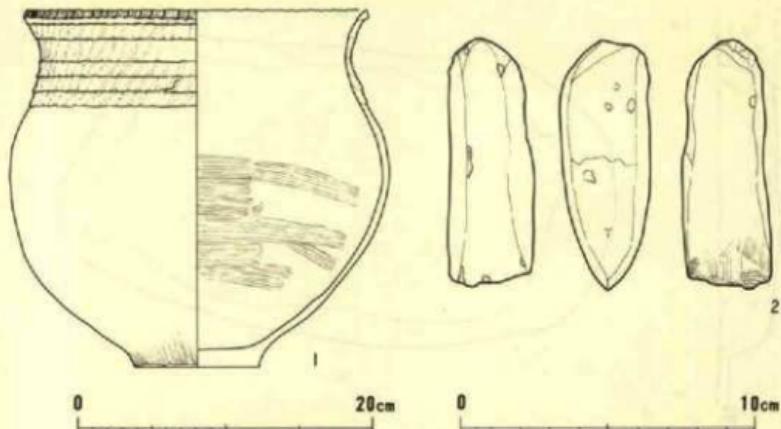
本址からは、73点の土器片を磨製石斧1点が出土。1は床面に散乱して出土したが、26点が検査した。2は2層中より出土。



第80図 第16号住居址実測図 (1/60)



第81図 第16号住居址の遺物出土状態 (1/60)



第83図 第16号住居址出土遺物 (1:1/4) (2:1/)

第16号住居址出土遺物

| 番号 | 器形 | 法量 | 遺存度 | 出土状況 | 形態・文様・調整等 | 粘土・地成・色調 |
|----|-----|---|--------------------|-------------------------|--|---------------------|
| 1 | 甕 | l 23.2 m b 26.0 d b 8.4 h 24.0 | 口縁部半 胸部半を 欠損 | 床面 180×350 | 底部は平底でやや突出する。最大径は胴部にあり、胴部 径の収縮は弱く、やや外反する口縁部へ向るやかに移行 する。口唇部外端の押捺は、棒状工具で押捺の後、谷の 部分に半月状の割みを入れている。6帯の輪積筋は、接 合の際の指掌による押え痕を残す。網毛調整後ナテ調整。 | 粘土は緻密、地成良好。色調は浅黄褐色。 |
| 2 | 磨石斧 | | | 長さ8.3cm、幅2.8cm、厚さ2.9cm。 | 部厚い整わない片刃石斧。石英斑岩製。 | |

1号土壤 (第83図)

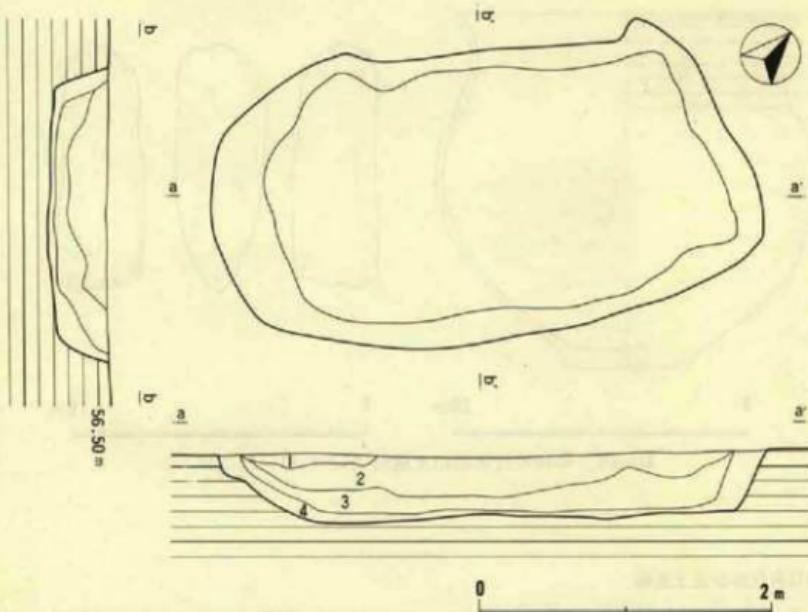
第7号住居址の南約3.5m、B2-41グリッドに位置する。軸長3.6×2.0mの不整長方形を呈し、深さは40-45cmを測る。遺物は、土器片16点、礫1点を得ることができたが、いずれも覆土中の細片である。遺構の性格・時期ともに明らかではないが、覆土の状態等から弥生時代の遺構と思われる。

覆土 1層：黒褐色土層。2層：黒色土層。3層：黒色土層。黒色味の著しく強い土層で、第12号住居址の2層等にみられる住居址覆土に類似する。4層：黄褐色土層。ソフトロームを多く含む。

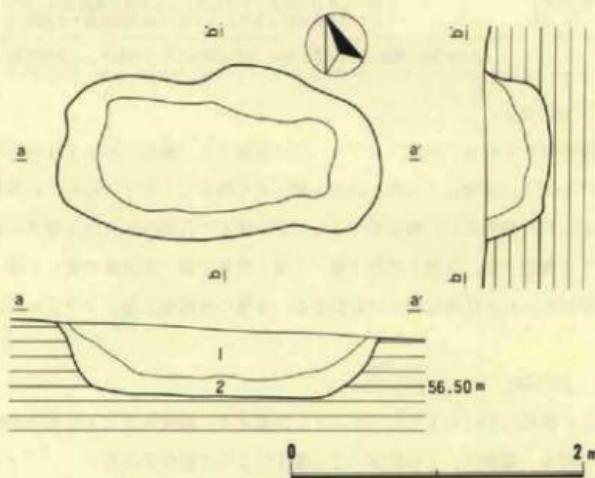
2号土壤 (第84図)

第4号住居址の西約6.5m、B1-87グリッドに位置する。軸長2.2×1.2mの不整長方を呈し、深さは40-48cmを測る。遺物は、土器片28点で、覆土中よりの細片である。

覆土 1層：黒褐色土層。しまりなく、軟質である。2層：黒色土層。ローム粒を少量含むが黒色の強い土層で、しまりあり粘性強い。



第83図 1号土塙実測図 (1/40)

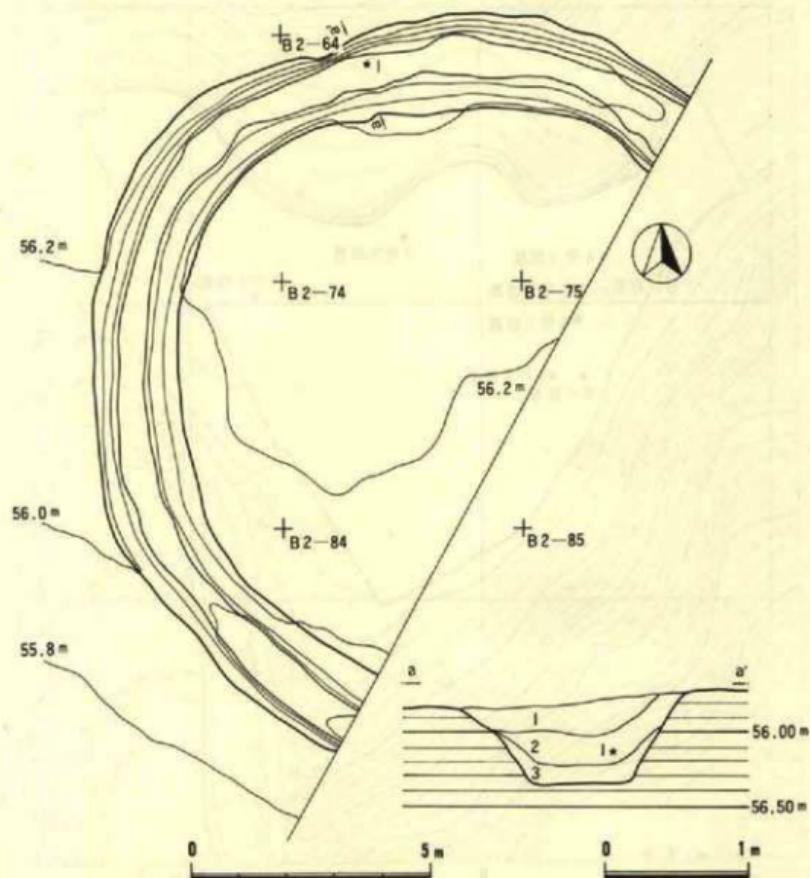
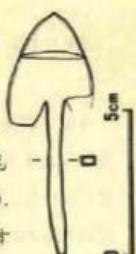


第84図 2号土塙実測図 (1/40)

第4節 大台一号墳

調査範囲の南東部で、周溝のみを検出した。南斜面への傾斜が始まる地点に位置し、確認面から地表面までは20cm程度であり、墳丘・主体部は認められず、周溝についても事業地内にあたる $\frac{2}{3}$ の部分にとどまった。周溝は、外径15.5m・幅1.5~2m・深さ0.6m前後を測る。出土遺物は鐵鎌1点のみで、周溝覆土中より検出された。逆刺を有する三角形式の平根鎌で、刃長3.8cm・刃幅2.9cm・厚さ0.3cmを計る。

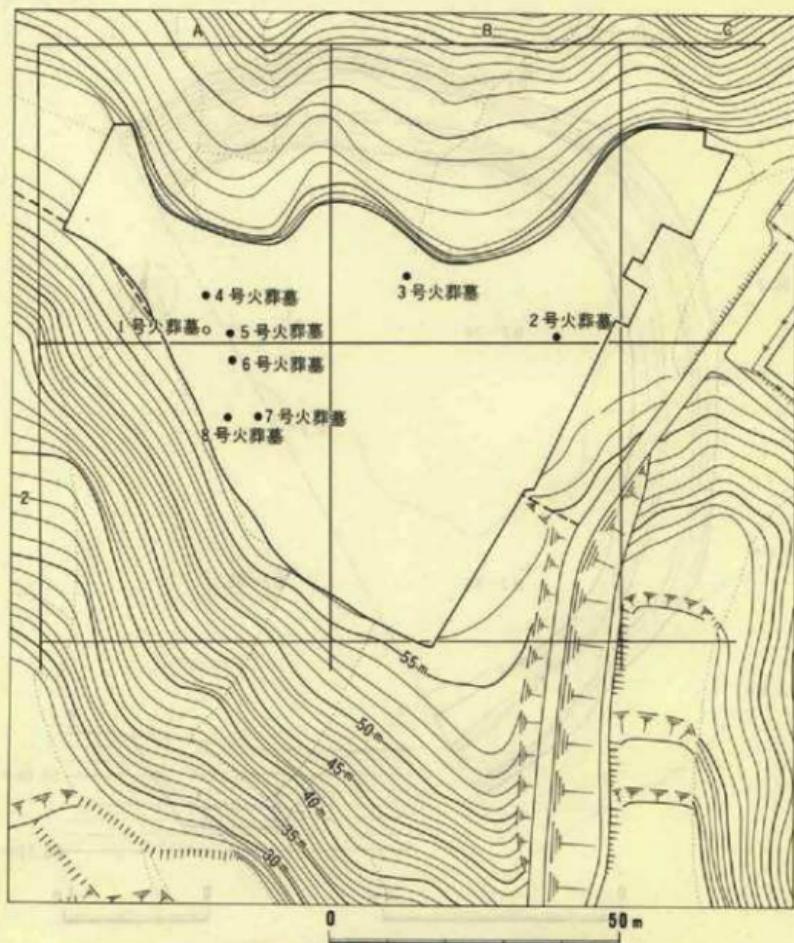
第85図 鐵鎌(1/2)



第86図 大台1号墳周溝実測図（平面図：1/120・断面図：1/20）

第5節 歴史時代の遺構と遺物

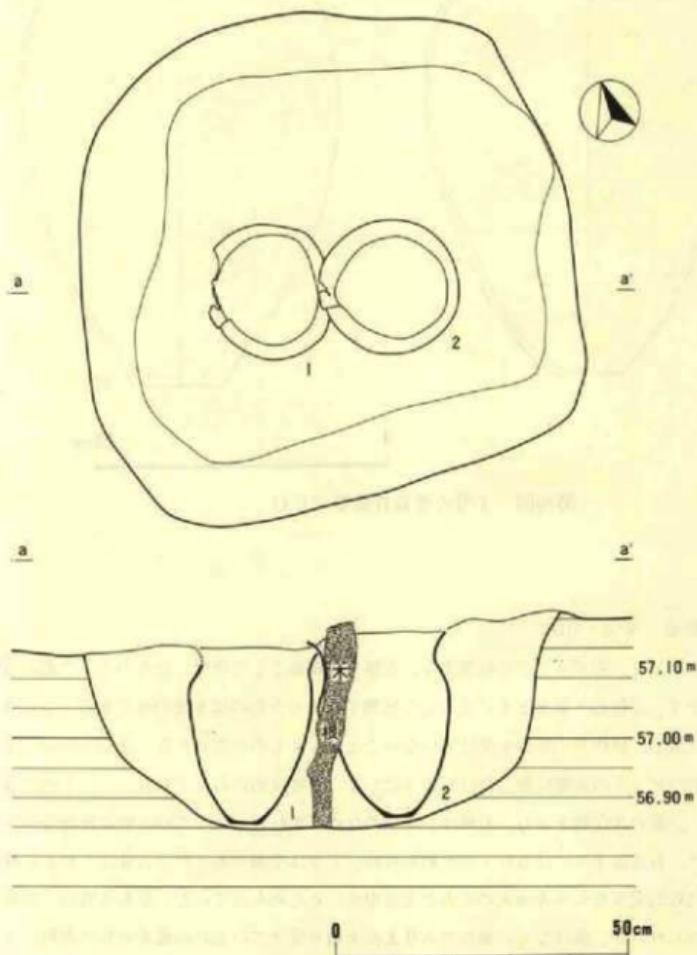
今回の調査によって検出された歴史時代の遺構としては、8基の火葬墓がある。2個の彫形土器を使用した1号火葬墓および、軟砂岩の石櫃を使用した2~8号火葬墓である。遺跡東部に6基の火葬墓が集中し、北部に2基分布する。全体としての規則性等はうかがえない。また、東部の5基の石櫃使用のものは、この部分が畠地であったためか遺存状況は極めて悪い。



第87図 火葬墓分布図 (1/1000)

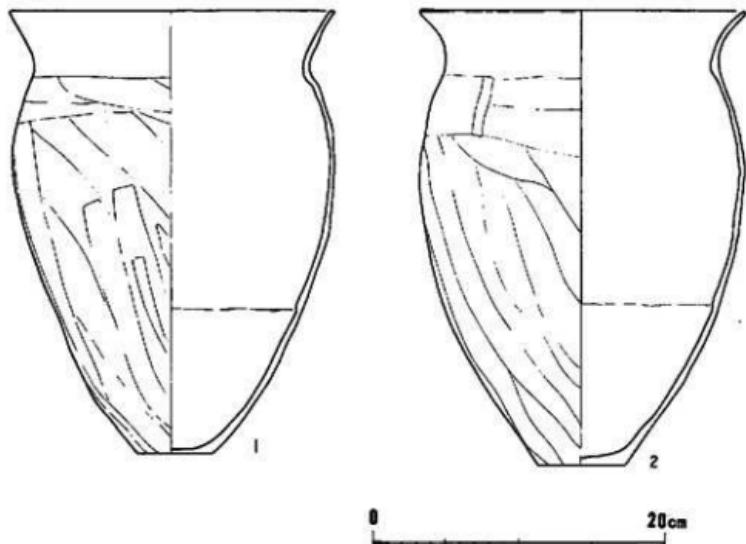
1号火葬墓（第88・89図）

遺跡西部、A 1-95ブリッドに位置する。一边が約75cm、深さ35cm程の方形のピット内に2個の甕形土器が正立並置されていた。ピット内の覆土は、黒褐色を呈し、木炭を多量に含む。特に下半から壁際には木炭が多く、一部には粘土も認められた。土器内部には骨粉が認められたが、その他の遺物は認められなかった。土器は木根により壊されているものの、ほぼ欠けることなく埋置されたものであることがうかがえた。



第88図 1号火葬墓実測図 (1/10)

骨蔵器として使用された2個体の變形土器は著しく相似した土器で、1は口径22.0cm・胴部最大径22.0cm・底径5.0cm・器高29.8cm・器厚0.3~0.5cm、2は口径22.4cm・胴部最大径22.2cm・底径5.8cm・器高30.5cm・器厚0.3~0.5cmで、いずれも肩部から下はヘラケズリにより器厚が著しく薄く作られている。また底部から $\frac{1}{3}$ 程の内面に明瞭な接合痕を残す。

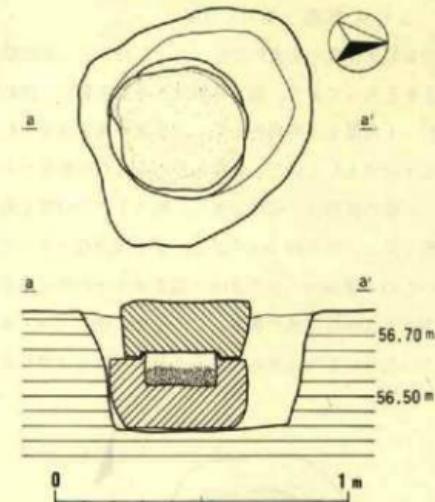


第89図 1号火葬墓骨蔵器 (1/4)

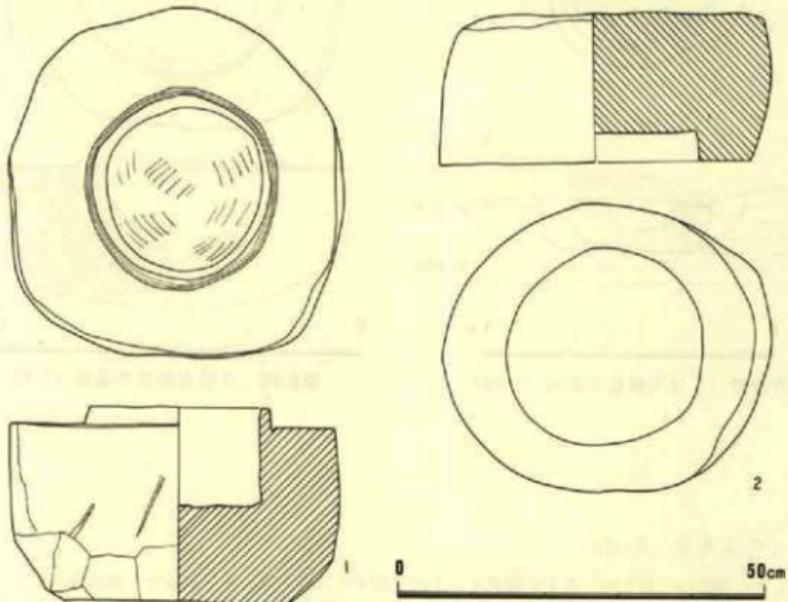
2号火葬墓 (第90・91図)

遺跡の北東部B 1-97グリッドに位置する。石櫃を骨蔵器として使用したもので、7基の石櫃を使用の火葬墓の中で、容器部・蓋部とともに完存した状態で検出できたのは本址のみである。これは、本址が山林部に位置し、耕作等の影響を受けていないことによるものと思われる。径80~90cm・深さ40cm程の不整円形のピットの南側に押し付けるようにして、石櫃は納められており、ピット内の覆土は黒褐色を呈し、少量の炭化物を含む。石櫃は、木根のために割れ目が入っている他はほぼ完全な状態で出土しており、容器部下半には骨片・炭が納められ、上半は空洞であった。人骨は、細かい粉状のものが下半に比較的大きな3~4cm大のものが上面中央にまとめられていた。なお人骨は、頭骨・四肢骨などが認められたが、歯はなく、細片でありまた火熱を受けているため鑑定分析の資料にはなり得なかった。

骨蔵器として使用された石櫃は、容器部が径約44cm、厚さ23cmの不整円形の円筒状の下口はどが面取りされたものである。上面中央に、蓋受けのための径24.5cm、厚さ1.6cm、高さ2cmの縁が廻る。この中央に径22.3cm・深さ13cmの容器部が彫り込まれている。蓋受けの縁の回りには幅0.6cm・深さ0.5cmの溝が廻る。全体の調整は、蓋部と接する上面は丁寧に削られているが、外面および下面是粗い切り出しの面を残す。重量57kg。蓋部は、径38~42cm、厚さ20cmのややゆがんだ円筒状のものに、容器部の蓋受けの縁に対応する径26cm・深さ4cmの掘り込みが施される。重量34kg。いずれも、基盤層である岩坂層の軟質砂岩を切り出したものと思われる。



第90図 2号火葬墓実測図 (1/20)

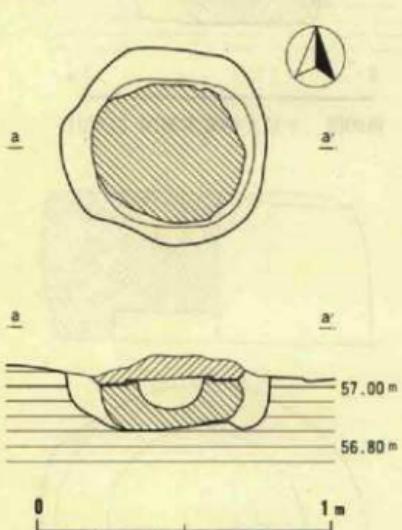


第91図 2号火葬墓骨蔵器 (1/8)

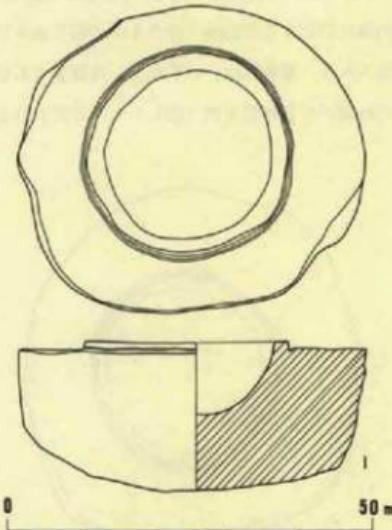
3号火葬墓（第92・93図）

2号火葬墓の北東約27m、B 1-72グリッドに位置する。2号火葬墓と同じく孤立的である。蓋部上半を失っており、遺存状態は2号より悪い。径約70cm・深さ約20cmのピット内に納められており、ピット内覆土は黒褐色を呈し、少量の炭化物を含む。石櫃は、木根により割れ目が入っており内部にも土が流入していた。骨片も認められたが微量であった。

石櫃の蓋部は、破損が著しく取り上げる段階で崩壊してしまった。容器部は、40×48cmの不整格円形を呈し、厚さ18.5cmを計る。下半は面取りされて椀状の丸底に近い形態を取る。上面中央に蓋受けのための径28cm・厚さ2cm・高さ1.2cmの縁が廻る。この縁の回りには2号の容器部と同様幅0.5cm、深さ0.5cm程の溝が廻る。この中央に径22.4cm・深さ9.6cmの容器部が彫り込まれている。本号のものは椀状に彫り込まれており2号のものとは異なるところである。重量28kg。軟質砂岩製。



第92図 3号火葬墓実測図 (1/20)



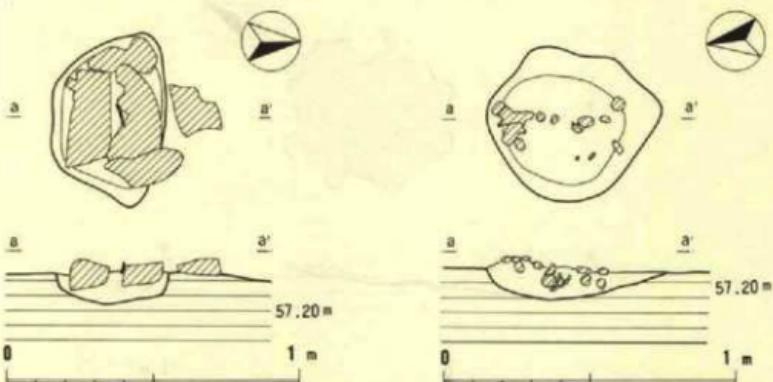
第93図 3号火葬墓骨藏器 (1/8)

4号火葬墓（第94図）

1号火葬墓の北約5m、A 1-85グリッドに位置する。最下部の残欠のみで、原形はうかがえない。ピットは径38×45cm・深さ13cm程が確認できたのみで、本来の姿とは思われない。ピット内覆土は、黒褐色で少量の木炭が認められた。

5号火葬墓（第95図）

1号火葬墓の東約4m、A 1-96グリッドに位置する。遺存状態は極めて悪く、石櫃の破片も小さく原形をうかがえない。ピットは径50×60cm・深さ10cm程が確認できたのみである。ピット内覆土は、黒褐色を呈し木炭を含む。



第94図 4号火葬墓実測図 (1/20)

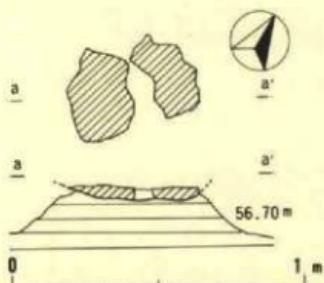
第95図 5号火葬墓実測図 (1/20)

6号火葬墓（第96図）

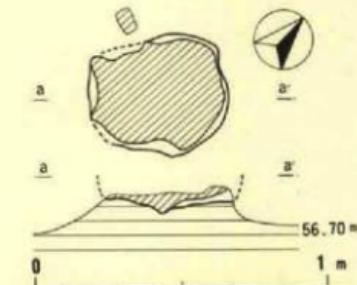
5号火葬墓の南約4m、A 2-06グリッドに位置する。残欠のみで、ピットも全形はうかがえず、残欠下の黒褐色土中に木炭が認められた。

7号火葬墓（第97図）

6号火葬墓の南東約10m、A 2-27グリッドに位置する。下部の残欠のみ確認でき、耕作によりほとんどが削平されており、容器部の底部と、残欠下の黒褐色土中の木炭が検出できた。



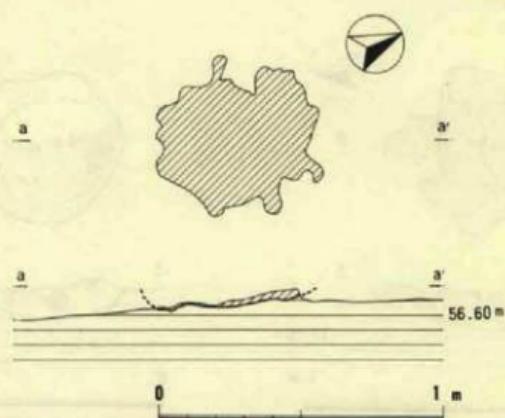
第96図 6号火葬墓実測図 (1/20)



第97図 7号火葬墓実測図 (1/20)

8号火葬墓（第98図）

7号火葬墓の西約5m、A2-26グリッドに位置する。残欠のみで、崩壊も著しく砂状を呈する部分も多い。掘り方や木炭も確認できなかった。



第98図 8号火葬墓実測図 (1/20)

IV章 自然科学的調査

はじめに

本遺跡における調査の主たる成果は、先土器時代の礫群・弥生時代後期の集落址・歴史時代の火葬墓群であるが、そのうちの先土器時代の礫群の年代については、II章第4節層序と直接的に対応させることができ難であった。このことから、本遺跡における層序を下総台地・武藏野台地における層序と対応させ、またその環境を復元把握することを目的として、土壤鉱物分析および花粉分析をパリノ・サーヴェイ株式会社に依頼して実施した。試料採取地点は、遺跡のほぼ中央B 2-00グリッドの西壁で、鉱物分析については、II a 層から5 cm単位で、花粉分析については層を基本として5~15cmの単位で採取した。

第1節 鉱物分析

1. 試 料

試料は合計43点、試料番号と色調は第6表の通りである。

2. 分析方法

原試料60 g 精量——超音波装置を用い傾斜法にて粘土分を除去—— $\frac{1}{4}$ ~ $\frac{1}{2}$ mm粒子を篩別——重液分離（テトラブロモエタン）——重・軽鉱物をそれぞれ約300個体同定

表6を基に図99を作成、（図99-2~4は個体数%、図99-1は重鉱物の割合=（重量%）を基にして全鉱物組成を算出した。）

3. 分析結果および考察

試料は褐色を基調としたローム質土であり、下部の試料は粘性が強い。それぞれの色調については表6に示す。

最上部のA 1~7では暗褐色~黒褐色と黒い色調を呈する。

粘土質分を除去した後の砂分は優白色で、長石、石英の粒子が目立つ。スコリア状の粒子がどの試料からも見られたが、新鮮なスコリアの含有は極めて少ない。岩石片も量的には少ないが、普遍的に産出する。岩石片の最大粒径は粗粒砂~細礫サイズに及び、種類はチャートが一般的であり、その他、砂岩、礫岩、酸性火山岩類が見られる。

$\frac{1}{4}$ ~ $\frac{1}{2}$ mmの粒度の砂分量は、10%未満の試料が多く、A 41~43、及びA 28~32の2ヶ所で10%を越えている。

$\frac{1}{4}$ ~ $\frac{1}{2}$ mmの砂分に於て、軽鉱物が圧倒的に多く、重鉱物量は最大でも15.7%（重量%）と少ない。特にA 21以下の下半部試料では、2%前後の低率だが、A 20より上部では10%を超える値を示し、A 9で最高となる。

第6表 岩坂大台遺跡鉱物分析結果

| No | 色調 | %-% | H.M 砂%W% | 重 級 物 | | | | | | | | | | 合計 | | | |
|----|---------------|-----|-------------|----------------|----------------|---------------|---------------|-------------|---------|-------------|-------------|--------------|--------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| | | | | O L | O P X | C P X | H O - G | H O - B | O X Y H | A M | B I | E P | Z I | G | | | |
| 1 | 黒褐色 7.5YR 5/6 | 5.6 | 12.1 | 107 (30.05) | 135 (37.92) | 44 (12.37) | 18 (5.06) | 2 (0.56) | | 2 | | | | 34 (9.55) | 14 (3.93) | 356 100.00 | |
| 2 | 黒褐色 7.5YR 5/6 | 5.3 | 12.0 | 71 (22.11) | 144 (44.86) | 25 (7.79) | 28 (8.72) | 2 (0.63) | | 5 (1.56) | | 5 (1.56) | | 27 (8.41) | 14 (4.36) | 321 100.00 | |
| 3 | 黒褐色 7.5YR 5/6 | 6.0 | 10.0 | 96 (30.48) | 123 (39.05) | 33 (10.47) | 17 (5.41) | 3 (0.95) | | 6 (1.90) | | 2 (0.63) | | 2 (0.63) | 21 (6.67) | 12 (3.81) | 315 100.00 |
| 4 | 黒褐色 7.5YR 5/6 | 5.4 | 11.0 | 90 (24.59) | 134 (36.61) | 39 (10.66) | 46 (12.57) | 4 (1.09) | | 6 (1.64) | | 5 (1.64) | | 31 (8.47) | 10 (2.73) | 366 100.00 | |
| 5 | 黒褐色 7.5YR 5/6 | 5.5 | 11.4 | 95 (29.78) | 128 (40.13) | 21 (6.58) | 25 (7.84) | 2 (0.63) | | 4 (1.25) | | 2 (0.63) | | 24 (7.52) | 18 (5.64) | 319 100.00 | |
| 6 | 暗褐色 7.5YR 5/6 | 5.1 | 12.9 | 124 (34.93) | 108 (30.41) | 30 (8.45) | 33 (9.30) | 3 (0.85) | | 5 (1.41) | | 5 (1.41) | | 33 (9.30) | 14 (3.94) | 355 100.00 | |
| 7 | 暗褐色 7.5YR 5/6 | 4.6 | 14.1 | 125 (37.31) | 108 (32.24) | 20 (5.97) | 20 (5.97) | 1 (0.30) | | 1 (0.30) | | 6 (1.75) | | 32 (9.55) | 17 (5.07) | 335 100.00 | |
| 8 | 褐色 7.5YR 5/6 | 4.1 | 15.5 | 135 (40.79) | 108 (32.63) | 22 (6.64) | 22 (6.65) | 1 (0.30) | | | | 3 (0.90) | | 22 (6.65) | 18 (5.44) | 331 100.00 | |
| 9 | 褐色 7.5YR 5/6 | 3.7 | 15.7 | 147 (44.14) | 100 (30.05) | 22 (6.62) | 16 (4.81) | 2 (0.60) | | 4 (1.20) | | 2 (0.60) | | 33 (9.91) | 7 (2.10) | 333 100.00 | |
| 10 | 褐色 7.5YR 5/6 | 3.4 | 15.3 | 116 (34.32) | 105 (31.07) | 23 (6.80) | 17 (5.03) | 1 (0.30) | | | | 3 (0.88) | | 32 (9.47) | 41 (12.13) | 338 100.00 | |
| 11 | 褐色 7.5YR 5/6 | 3.7 | 15.4 | 118 (34.30) | 110 (31.98) | 17 (4.94) | 16 (4.85) | 3 (0.87) | | 6 (1.74) | | 2 (0.58) | | 35 (10.17) | 37 (10.75) | 344 100.00 | |
| 12 | 褐色 7.7YR 5/6 | 3.9 | 13.9 | 81 (23.55) | 124 (36.05) | 18 (5.23) | 18 (5.23) | 2 (0.58) | | 6 (1.74) | | 6 (1.74) | | 49 (14.25) | 40 (11.64) | 344 100.00 | |
| 13 | 褐色 7.5YR 5/6 | 4.4 | 13.9 | 64 (19.05) | 142 (45.26) | 24 (7.14) | 27 (8.04) | 2 (0.60) | | 4 (1.19) | | 5 (1.49) | | 29 (8.63) | 39 (11.60) | 336 100.00 | |
| 14 | 暗褐色 7.5YR 5/6 | 5.1 | 13.4 | 69 (19.83) | 139 (39.94) | 23 (6.62) | 29 (8.33) | 4 (1.15) | | 7 (2.01) | | 5 (1.72) | | 35 (10.05) | 36 (10.35) | 348 100.00 | |
| 15 | 褐色 7.5YR 5/6 | 5.5 | 12.6 | 50 (16.34) | 122 (39.87) | 23 (7.81) | 19 (6.21) | | | 8 (2.62) | 2 (0.65) | 4 (1.31) | | 32 (10.46) | 46 (15.08) | 306 100.00 | |
| 16 | 暗褐色 7.5YR 5/6 | 6.6 | 12.1 | 37 (11.97) | 141 (45.63) | 14 (4.53) | 21 (6.80) | 6 (1.94) | | 8 (2.59) | | 5 (1.62) | | 29 (9.39) | 48 (15.53) | 309 100.00 | |
| 17 | 褐色 7.5YR 5/6 | 7.1 | 12.1 | 54 (11.53) | 188 (47.12) | 34 (8.82) | 28 (7.02) | 2 (0.50) | | 3 (0.75) | | 11 (2.76) | | 35 (8.77) | 44 (11.03) | 399 100.00 | |
| 18 | 褐色 7.5YR 5/6 | 7.9 | 11.7 | 49 (15.51) | 162 (51.27) | 33 (10.44) | 34 (10.76) | 2 (0.63) | | 7 (2.22) | | 13 (4.11) | | 7 (2.22) | 8 (2.52) | 316 100.00 | |
| 19 | 褐色 7.5YR 5/6 | 8.5 | 11.4 | 29 (8.76) | 175 (52.87) | 31 (9.37) | 26 (7.86) | 4 (1.20) | | 5 (1.51) | | 5 (1.51) | | 29 (8.76) | 27 (8.16) | 331 100.00 | |
| 20 | 褐色 7.5YR 5/6 | 9.4 | 10.7 | 33 (8.77) | 200 (53.19) | 21 (5.59) | 36 (9.57) | 4 (1.06) | | 1 (0.27) | 1 (0.27) | 1 (0.27) | | 34 (9.04) | 32 (8.51) | 376 100.00 | |
| 21 | 褐色 7.5YR 5/6 | 9.3 | 8.1 | 26 (7.20) | 185 (51.25) | 21 (5.82) | 35 (9.70) | 7 (1.94) | | 1 (0.28) | 2 (0.55) | | 10 (2.77) | | 43 (11.90) | 31 (8.59) | 361 100.00 |
| 22 | 褐色 10 YR 5/6 | 9.4 | 4.5 | 33 (9.14) | 141 (39.06) | 8 (2.22) | 72 (19.94) | 8 (2.21) | | 3 (0.83) | | 21 (5.82) | 1 (0.28) | 56 (15.51) | 18 (4.99) | 361 100.00 | |

| 軽 鉱 物 | | | | | | | | | | | |
|-------------|----------------|---------------|--------------|-------------|-------------|--------------|-------------|-------------|----------------|----------------|---------------|
| Q Z | FELD | VG.1 | VG.2 | VG.3 | VG.4 | VG.5 | B I | S P | OTHER | 合計個 | |
| 40 | 109 (10.78) | 11 (29.38) | 9 (2.96) | 2 (2.43) | 4 (0.54) | 2 (1.08) | | | 194 (52.29) | 371 100.00 | |
| 77 | 116 (21.33) | 8 (32.14) | 16 (2.22) | | | 9 (2.49) | 2 (0.55) | | 133 (36.84) | 361 100.00 | |
| 45 | 88 (15.18) | 7 (29.04) | 7 (2.31) | | 2 (0.66) | 4 (1.32) | | | 149 (49.18) | 303 100.00 | |
| 61 | 116 (17.23) | 14 (32.77) | 9 (3.95) | | 7 (2.54) | 6 (1.99) | | | 141 (39.83) | 354 100.00 | |
| 48 | 99 (15.53) | 10 (32.04) | 7 (3.23) | | 2 (0.65) | 8 (2.58) | | | 125 (43.69) | 309 100.00 | |
| 43 | 103 (12.65) | 10 (30.00) | 13 (2.94) | 1 (3.83) | 3 (0.29) | 8 (0.88) | | | 1 (0.29) | 158 (46.47) | 340 100.00 |
| 66 | 125 (17.00) | 7 (32.21) | 10 (1.81) | | 4 (2.58) | 13 (1.03) | | | 1 (0.26) | 162 (41.75) | 388 100.00 |
| 72 | 106 (29.51) | 9 (30.21) | 3 (2.57) | | 7 (0.85) | 6 (1.99) | | | 148 (42.17) | 351 100.00 | |
| 66 | 91 (21.02) | 5 (28.98) | 6 (1.99) | | 2 (0.64) | | | | 144 (45.86) | 314 100.00 | |
| 67 | 97 (21.12) | 11 (30.60) | 1 (3.47) | | 1 (0.32) | 5 (1.57) | | | 1 (0.32) | 133 (41.95) | 317 100.00 |
| 68 | 119 (17.80) | 13 (31.15) | 3 (3.40) | 1 (0.79) | 1 (0.32) | 2 (0.26) | 1 (0.52) | 1 (0.26) | 174 (45.56) | 382 100.00 | |
| 56 | 95 (18.18) | 7 (30.85) | 3 (2.26) | | 2 (0.96) | 1 (0.65) | 1 (0.32) | | 1 (0.32) | 141 (45.78) | 308 100.00 |
| 64 | 90 (20.98) | 4 (29.51) | 2 (1.30) | | | 1 (0.66) | | | 1 (0.33) | 143 (46.89) | 305 100.00 |
| 45 | 92 (14.89) | 7 (29.77) | 1 (2.27) | | 2 (0.32) | | | | 1 (0.32) | 160 (51.78) | 309 100.00 |
| 43 | 113 (13.03) | 9 (34.24) | 1 (2.73) | | 1 (0.30) | 5 (1.52) | | | | 158 (47.88) | 330 100.00 |
| 54 | 103 (16.16) | 2 (30.84) | 2 (0.60) | | | | | | 1 (0.30) | 172 (51.50) | 334 100.00 |
| 49 | 119 (14.80) | 4 (35.95) | 2 (1.22) | | | | | | | 157 (47.43) | 331 100.00 |
| 50 | 92 (15.43) | 3 (28.40) | 1 (0.93) | | | | | | | 178 (54.93) | 334 100.00 |
| 71 | 93 (23.83) | 5 (31.21) | 1 (1.66) | | | | | | 2 (0.67) | 126 (42.27) | 298 100.00 |
| 43 | 96 (13.78) | 4 (30.77) | | | | | | | 1 (0.32) | 167 (53.53) | 312 100.00 |
| 50 | 81 (16.50) | 4 (26.73) | 3 (1.32) | | 1 (0.99) | 2 (0.33) | | | | 162 (53.47) | 303 100.00 |
| 57 | 96 (17.17) | 3 (28.92) | | | | 1 (0.30) | | | | 175 (52.71) | 332 100.00 |

H.M.W % : 重鉱物の割合

OL : カンラン石

OPX : 斜方輝石

CPX : 単斜輝石

HO-G : 緑色普通角閃石

HO-B : 褐色普通角閃石

OYYA : 酸化ホルンブレンド

AM : その他の角閃石

BI : 黒雲母

EP : 緑れん石

ZI : ジルコン

G : 石榴石

OPO : 不透明鉱物

OTHER : その他

QZ : 石英

FELD : 長石族

VG-1 : 火山ガラス - バルブ型

VG-2 : 火山ガラス - 中間型

VG-3 : 火山ガラス - 焼成

VG-4 : 火山ガラス - 織維状

YG-5 : 火山ガラス - 軽石型

第6表

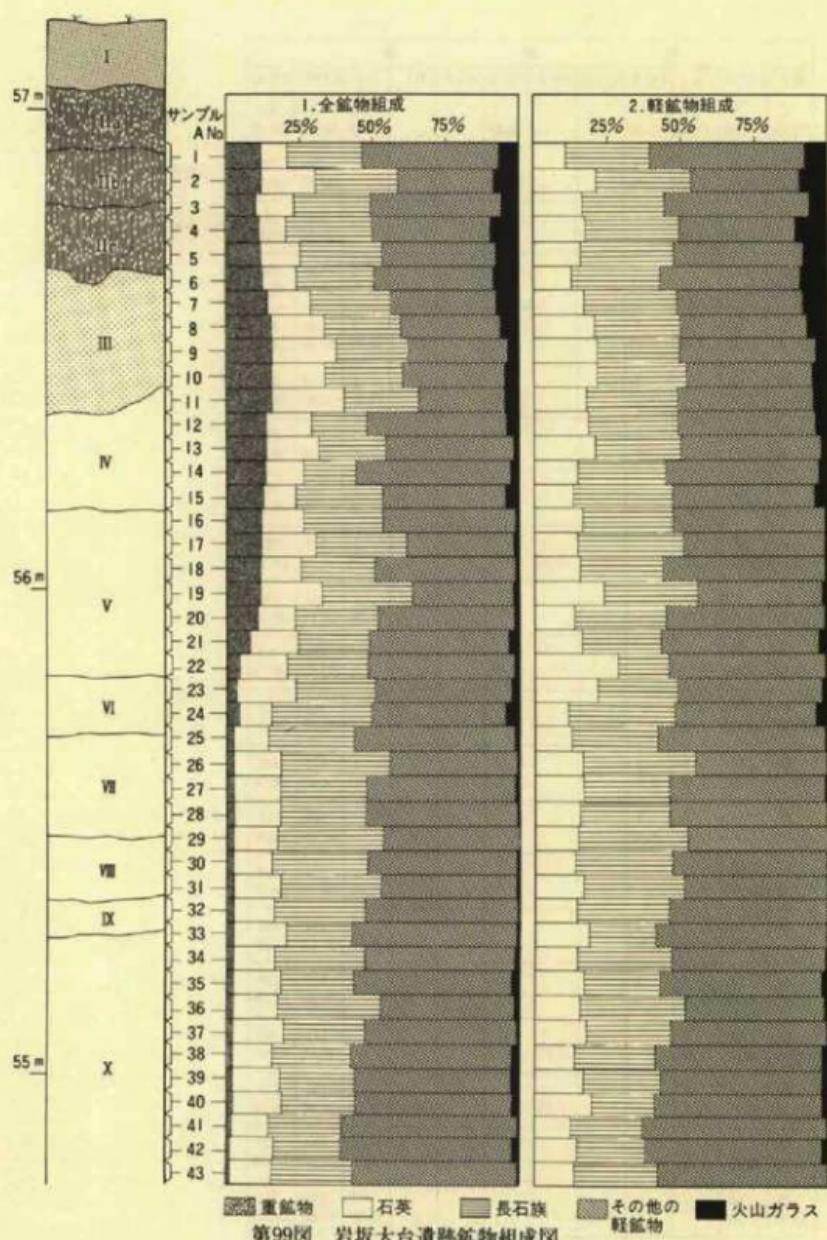
| No | 色調 | 4~1% PPW% | H.M W% | 重鉱物 | | | | | | | | | | | | 合計 | |
|----|-----------|--------------|-----------|---------------|---------------|--------------|----------------|--------------|-------------|--------------|-------------|--------------|-------------|-------------|---------------|---------------|---------------|
| | | | | O.L | OPX | Cpx | HO-G | HO-B | OxyH | A.M | B.I | E.P | Z.I | G | OPQ | OTHER | |
| 23 | 褐色10 YR5% | 9.1 | 3.3 | 11 (3.25) | 86 (25.44) | 6 (1.79) | 97 (28.70) | 5 (1.48) | 1 (0.30) | 3 (0.89) | 2 (0.99) | 4 (1.18) | | | 83 (24.56) | 40 (11.83) | 338 100.00 |
| 24 | 褐色10 YR5% | 7.1 | 4.1 | 49 (34.16) | 85 (24.56) | 14 (4.05) | 65 (18.78) | 5 (1.45) | 2 (0.58) | 5 (1.45) | 3 (0.87) | 14 (4.05) | | 1 (0.29) | 57 (16.47) | 46 (13.29) | 346 100.00 |
| 25 | 褐色10 YR5% | 7.2 | 2.3 | 18 (5.56) | 64 (19.75) | 6 (1.85) | 88 (27.16) | 10 (3.09) | | 4 (1.23) | 2 (0.62) | 13 (4.01) | | 2 (0.62) | 70 (21.60) | 47 (14.51) | 324 100.00 |
| 26 | 褐色10 YR5% | 8.5 | 2.5 | 16 (4.82) | 85 (25.60) | 6 (1.81) | 82 (24.70) | 8 (2.41) | 1 (0.32) | 7 (2.11) | 2 (0.60) | 14 (4.22) | | | 62 (18.67) | 49 (14.76) | 332 100.00 |
| 27 | 褐色10 YR5% | 9.1 | 2.7 | 20 (5.35) | 63 (20.00) | 2 (0.63) | 92 (29.31) | 6 (1.91) | 1 (0.32) | 6 (1.91) | 3 (0.95) | 13 (4.12) | | | 63 (20.00) | 46 (14.66) | 315 100.00 |
| 28 | 褐色10 YR5% | 10.0 | 2.8 | 9 (2.47) | 78 (21.43) | 5 (1.37) | 117 (32.14) | 15 (4.12) | | 4 (1.10) | | 13 (3.57) | | | 76 (20.88) | 47 (12.92) | 364 100.00 |
| 29 | 褐色10 YR5% | 10.6 | 2.7 | 10 (2.99) | 77 (23.05) | 7 (2.10) | 75 (22.46) | 12 (3.60) | 1 (0.32) | 11 (3.29) | | 23 (6.89) | | 1 (0.30) | 72 (21.56) | 45 (13.46) | 334 100.00 |
| 30 | 褐色10 YR5% | 12.3 | 2.5 | 16 (3.89) | 91 (22.14) | 12 (2.92) | 107 (26.63) | 16 (3.89) | | 7 (1.70) | 2 (0.47) | 17 (4.17) | 1 (0.24) | | 75 (18.25) | 67 (16.30) | 411 100.00 |
| 31 | 褐色10 YR5% | 11.1 | 2.6 | 24 (7.06) | 71 (20.86) | 3 (0.86) | 106 (31.18) | 8 (2.35) | | 7 (2.06) | 3 (0.86) | 26 (7.45) | | 1 (0.29) | 60 (17.65) | 31 (9.12) | 340 100.00 |
| 32 | 褐色10 YR5% | 10.8 | 2.7 | 30 (8.38) | 82 (22.91) | 8 (2.23) | 99 (37.45) | 2 (0.56) | 3 (0.84) | 3 (0.84) | | 13 (3.63) | | | 79 (22.07) | 39 (10.89) | 358 100.00 |
| 33 | 褐色10 YR5% | 8.9 | 2.5 | 19 (5.46) | 64 (18.39) | 2 (0.57) | 126 (36.21) | 4 (1.15) | 2 (0.57) | 5 (1.44) | 1 (0.29) | 14 (4.02) | | | 66 (18.97) | 45 (12.93) | 348 100.00 |
| 34 | 褐色10 YR5% | 9.5 | 2.4 | 19 (6.13) | 66 (21.29) | 4 (1.29) | 96 (30.97) | 3 (0.37) | 1 (0.32) | 4 (1.29) | 1 (0.32) | 19 (6.13) | | 1 (0.32) | 65 (20.97) | 31 (10.00) | 310 100.00 |
| 35 | 褐色10 YR5% | 7.2 | 2.5 | 46 (14.70) | 70 (22.36) | 3 (0.96) | 84 (26.84) | 2 (0.64) | | 5 (1.60) | | 10 (3.19) | | | 40 (12.78) | 53 (16.93) | 313 100.00 |
| 36 | 褐色10 YR5% | 7.7 | 2.6 | 41 (13.02) | 50 (15.87) | 8 (2.54) | 92 (29.21) | 6 (1.90) | | 7 (2.22) | 1 (0.32) | 14 (4.44) | | | 59 (18.73) | 37 (11.75) | 315 100.00 |
| 37 | 褐色10 YR5% | 6.5 | 2.4 | 51 (16.19) | 49 (15.56) | 9 (2.86) | 95 (30.48) | 4 (1.27) | 3 (0.95) | 3 (0.95) | 1 (0.32) | 14 (4.44) | | | 47 (14.92) | 38 (12.06) | 315 100.00 |
| 38 | 褐色10 YR5% | 8.0 | 2.3 | 79 (22.83) | 46 (13.29) | 4 (1.16) | 77 (22.25) | 4 (1.16) | 2 (0.58) | 7 (2.02) | 1 (0.29) | 11 (3.18) | | | 42 (12.14) | 73 (21.16) | 346 100.00 |
| 39 | 褐色10 YR5% | 7.6 | 2.3 | 91 (29.35) | 36 (11.61) | 4 (1.29) | 78 (25.16) | 4 (1.29) | | 6 (1.94) | | 12 (3.87) | | | 30 (9.68) | 49 (15.81) | 310 100.00 |
| 40 | 褐色10 YR5% | 8.5 | 2.3 | 87 (25.51) | 32 (9.38) | 5 (1.47) | 81 (23.75) | 2 (0.59) | 2 (0.59) | 7 (2.05) | | 13 (3.82) | | | 34 (9.97) | 78 (22.87) | 341 100.00 |
| 41 | 褐色10 YR5% | 11.1 | 2.0 | 87 (25.00) | 44 (12.64) | 4 (1.15) | 119 (34.20) | 4 (1.15) | | 7 (2.01) | 1 (0.29) | 7 (2.01) | | | 27 (7.76) | 48 (13.79) | 348 100.00 |
| 42 | 褐色10 YR5% | 15.3 | 1.9 | 93 (29.71) | 30 (9.58) | | 92 (29.39) | 3 (0.96) | 1 (0.32) | 2 (0.64) | 3 (0.96) | 7 (2.34) | | 1 (0.32) | 41 (12.46) | 41 (13.10) | 313 100.00 |
| 43 | 褐色10 YR5% | 17.3 | 1.9 | 96 (31.89) | 29 (9.63) | 2 (0.66) | 102 (33.89) | 3 (1.00) | | 4 (1.33) | | 5 (1.66) | | | 25 (8.31) | 35 (11.60) | 301 100.00 |

| 鉱物 | | | | | | | | | | | | | |
|---------|---------|--------|--------|------|------|--------|--------|------|----|---------|---------|---------|--------|
| Q | Z | FELD | VG.1 | VG.2 | VG.3 | VG.4 | VG.5 | VG.6 | B1 | S P | OTHER | 合計 | |
| 73 | 94 | 4 | 3 | | | 1 | (0.29) | | | 3 | 164 | 342 | |
| (21.35) | (27.45) | (1.17) | (0.86) | | | | | | | (0.86) | (47.95) | 100.00 | |
| 37 | 116 | 9 | 4 | | | 2 | (0.62) | | | 154 | 322 | | |
| (11.49) | (36.02) | (2.80) | (1.34) | | | | | | | (47.83) | 100.00 | | |
| 37 | 87 | 3 | | | | 1 | (0.34) | | | 166 | 294 | | |
| (12.59) | (29.59) | (1.02) | | | | | | | | (56.46) | 100.00 | | |
| 48 | 112 | | 1 | | | | | | | 2 | 130 | 293 | |
| (16.38) | (38.23) | | (0.34) | | | | | | | (0.68) | (44.37) | 100.00 | |
| 51 | 90 | 3 | 1 | | | 1 | (0.33) | | | 1 | 156 | 303 | |
| (16.83) | (29.70) | (0.99) | (0.33) | | | | | | | (0.33) | (51.49) | 100.00 | |
| 48 | 93 | | 1 | | | 1 | (0.33) | | | 1 | 160 | 304 | |
| (15.79) | (30.59) | | (0.33) | | | | | | | (0.33) | (52.43) | 100.00 | |
| 53 | 132 | | | | | | | | | 2 | 168 | 355 | |
| (14.93) | (37.19) | | | | | | | | | (0.56) | (47.32) | 100.00 | |
| 42 | 105 | 2 | | | | | | | | 2 | 162 | 314 | |
| (13.37) | (33.44) | (0.64) | | | | | | | | (0.64) | (0.32) | (51.59) | 100.00 |
| 45 | 95 | 1 | | | 1 | (0.37) | | | | 1 | 128 | 271 | |
| (16.81) | (35.05) | (0.37) | | | | | | | | (0.37) | (47.23) | 100.00 | |
| 43 | 97 | 1 | | | | | | | | 1 | 164 | 306 | |
| (14.05) | (31.70) | (0.33) | | | | | | | | (0.33) | (53.59) | 100.00 | |
| 58 | 71 | 1 | | | | 1 | (0.32) | | | 181 | 313 | | |
| (18.53) | (22.68) | (0.32) | | | | | | | | (57.83) | 100.00 | | |
| 46 | 103 | 4 | | | | | | | | 168 | 321 | | |
| (14.33) | (32.09) | (1.25) | | | | | | | | (52.33) | 100.00 | | |
| 55 | 83 | 6 | 1 | | | 2 | (0.61) | | | 1 | 178 | 326 | |
| (16.87) | (25.46) | (1.84) | (0.31) | | | | | | | (0.31) | (54.60) | 100.00 | |
| 48 | 114 | 5 | 1 | | | | | | | 149 | 317 | | |
| (15.14) | (35.96) | (1.58) | (0.32) | | | | | | | (47.00) | 100.00 | | |
| 57 | 94 | 1 | | | | 1 | (0.30) | | | 1 | 174 | 328 | |
| (17.38) | (28.67) | (0.30) | | | | | | | | (0.30) | (53.05) | 100.00 | |
| 45 | 93 | 5 | 3 | | | | | | | 2 | 184 | 332 | |
| (13.56) | (28.01) | (1.51) | (0.90) | | | | | | | (0.60) | (55.42) | 100.00 | |
| 49 | 78 | 7 | 1 | | | | | | | 163 | 298 | | |
| (16.44) | (26.18) | (2.34) | (0.34) | | | | | | | (54.70) | 100.00 | | |
| 53 | 69 | 5 | | | 1 | (0.37) | | | | 141 | 269 | | |
| (19.70) | (25.15) | (1.86) | | | | | | | | (52.42) | 100.00 | | |
| 40 | 83 | 1 | | | 2 | (0.62) | | | | 1 | 191 | 319 | |
| (12.54) | (26.02) | (0.31) | | | | | | | | (0.31) | (59.88) | 100.00 | |
| 48 | 77 | 4 | 2 | | | | | | | 1 | 193 | 327 | |
| (14.68) | (23.55) | (1.22) | (0.61) | | | | | | | (0.31) | (59.02) | 100.00 | |
| 48 | 96 | | | | 1 | (0.29) | | | | 3 | 195 | 343 | |
| (13.99) | (27.99) | | | | | | | | | (0.88) | (56.85) | 100.00 | |

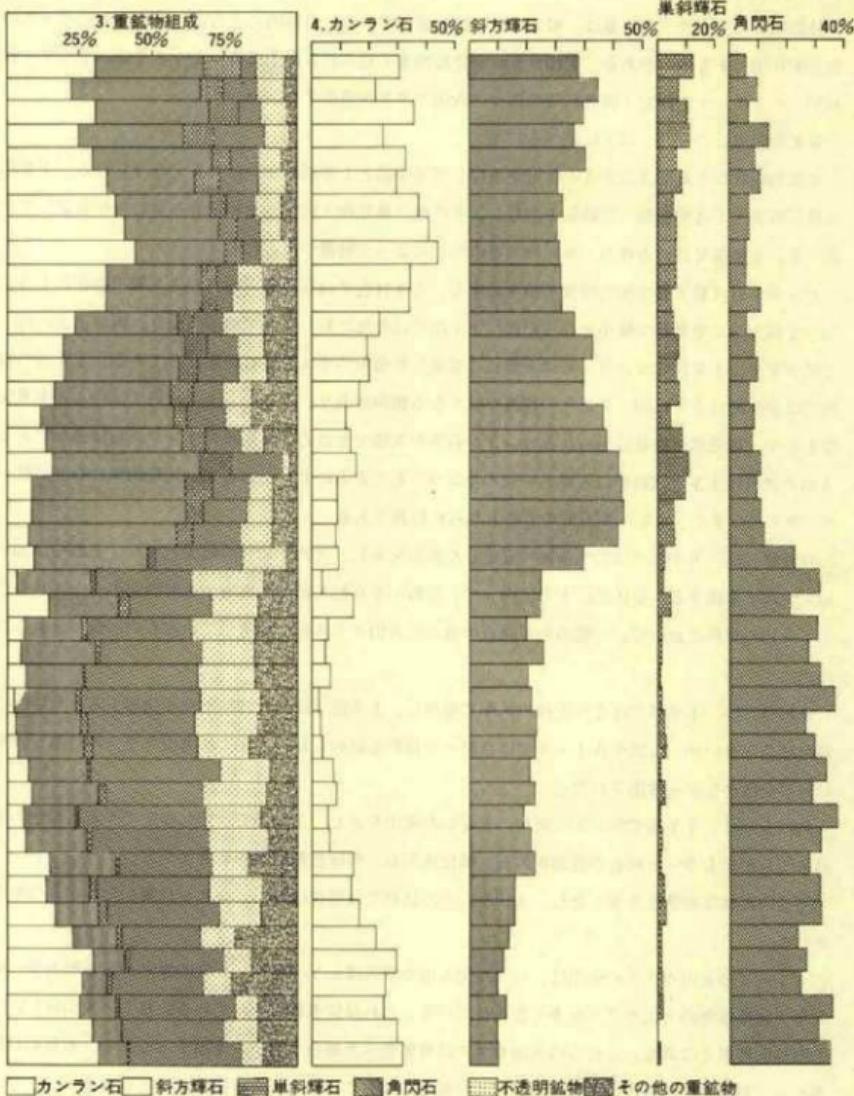
VG-6 : 火山ガラス - その他

B1 : 黒雲母

SP : 海綿コッシン



第99回 岩坂大台遺跡鉱物組成図



軽鉱物では石英、長石、その他の軽鉱物（風化物・同定不能鉱物を含む）の割合が殆んど変化しない。長石族は斜長石が圧倒的に多い。

重鉱物中の火山ガラスの量は、最大でも10%と低率である。全体的に上方に向って、火山ガラスの含有率が増加する傾向がある。火山ガラスが比較的多く見られる最上部のA 1～8ではバブル型・軽石型（バミス）・中間型・繊維状等の様々な火山ガラスが産出する。

重鉱物組成について、以下に述べる。

重鉱物組成から見てA 22とA 23付近を境にして下半部と上半部の2つに大きく分けられる。下半部は角閃石族・不透明鉱物（磁鉄鉱を含む）。その他（風化物・同定不能鉱物等を含む）が安定して多産する。上半部では斜方輝石・單斜輝石等の増加によって特徴づけられる。

カンラン石は最下部で30%前後の値を示すも、A 9付近で44%の最大値をとる。最下部から上方に向って減少して中央部で極小となった後、上半部では増加に転じA 9で最大に至り、再び上方に向って減少する。下半部のカンラン石は赤褐色に変質した他形のカンラン石が殆んどである。上半部の試料では全体的に上方に向って風化の程度が低くなる傾向があり、A 9から上の試料では殆んど未風化なものや、褐色部が斑状に見られるカンラン石等が大部分を占め、赤褐色のカンラン石は僅かである。A 24の試料は上下の試料中に赤褐色の他形カンラン石であるにもかかわらず、比較的風化程度の低いカンラン石が多く、自形～半自形のものも見られ特異である。

斜方輝石は、下半部では20%前後で安定した産出を示し、A 20で53%の最大となり、上部では30～40%前後で産出する。全体的に上方に向って、自形～半自形の結晶が増加する傾向がある。A 24及びA 1～10の試料において、一部の斜方輝石の周辺に火山ガラス片が付着しているものが幾つか見られた。

单斜輝石は、下半部では2%前後の低率で産出し、上半部では5～12%とやや増加する。全体的に他形結晶が多いが、A 24やA 1～3では自形～半自形も認められ、A 3では火山ガラスの付着した单斜輝石が僅かながら検出された。

角閃石族は、下半部で20～30%前後の安定した産出を示し、上半部では10%程度である。緑色の普通角閃石が最も多いが褐色の普通角閃石、酸化角閃石、青緑色角閃石等も含まれる。

不透明鉱物は磁鉄鉱を多く含む。A 10から上の試料では周縁に火山ガラスが付着した粒が幾つか含まれる。

A 1～8の火山ガラスの産出は、バブル型火山ガラスばかりではなく、比較的厚みのある軽石型・中間型・繊維状等の火山ガラスが多く含まれている。これは従来報告されている姶良Tn火山灰（AT）の形態的特徴とは異なる。これらの火山ガラスは暗褐色～黒褐色土層から産出することや、形態的特徴等から、安房ガラス質火山灰層（AG）（杉原他1978）に対比される可能性が考えられる。

A 24は試料中にスコリア粒を含む他、重鉱物組成においても上下の試料とやや性質を異にする。量

的には、カンラン石・单斜輝石の産出がわずかに多い程度で顕著でないが、カンラン石・斜方輝石・单斜輝石の形態上の特徴が前述した様に差がある。野外の観察で「隣接する露頭面で、VI層の位置に A S - 3 あるいは A S - 4 と思われるスコリアが確認できて」いることから、これらの鉱物組成の特徴は VI 層中のスコリア層によるものと考えられる。もし、A24のスコリアが A S スコリア群（杉原他 1978）のうちのどれかであるとするならば、重鉱物組成の類似性や火山ガラスの産出層準との層位関係等から A24が A S - 4 に対比される可能性を考えられる。A S スコリア群以外の全く別のテフラである可能性も残っており、今後の検討が必要である。

本地域の近くでは苗見作遺跡・飯富遺跡（森脇1980）の報告があり、また、富浦町大房岬における分析結果（杉原他 1978）もある。今回の結果をこれらのものと比較すると、重鉱物量が少ないとこと、角閃石の産出が高いこと、青緑色角閃石・緑レン石が連続して産出すること等が本地点の特徴として考えられる。また、赤褐色に風化したカンラン石が多いことや、異質岩片を含むことなども特徴的である。

これらのことから、本地点の堆積物は火山噴出物のみに由来するのではなく周囲の下位の地層から堆積物が供給されたことが予想される。供給された堆積物には石英・長石・角閃石・緑レン石等が含有されていたであろう。特に、鉱物組成に大きな変化が見られない下半部の堆積物に於ては、これらの傾向が強かったようだ。

鉱物の産出状態から、本地域の堆積物が風化されやすい環境下に於かれていたことが推定される。上述の異質堆積物の供給と考え合せると、何らかの水の影響が考えられる。火山ガラス産出層準直下のカンラン石の極太が本遺跡に於て顕著であるのに対し、苗見作遺跡では異っている。カンラン石の含有率が風化作用によって、大きく変化した可能性もある。然し、給源火山との地理的関係でカンラン石の含有率が堆積時点で異っている可能性もあるので、今後のデータの蓄積に期待したい。

今回の分析では、姶良 T n 火山灰（A T）は検出されなかった。若し、本地点の分布しているものとすると、その層準は X 層より下位に期待される。

第2節 花粉分析

1. 試 料

鉱物分析と同一の土層断面において、B-1～17の17点を試料とする。その内容は表7の試料表に記載する。

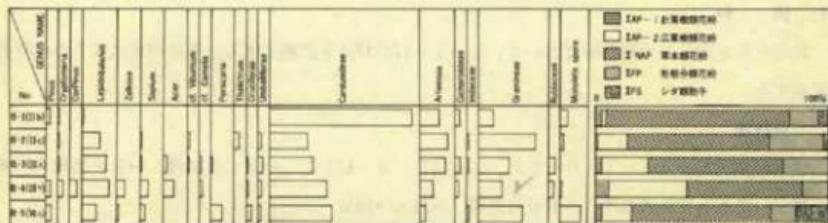
2. 分析法

試料秤量 [20 g (B-1, B-2), 50 g (B-3～17)] → HCl処理 → HF処理 → 重液分離 → アセトトリル処理 → KOH処理 → 封入→同定

第7表 花粉分析試料の層位と花粉・胞子化石の産出傾向

| サンプル番 | 層位 | 岩質 | 花粉・胞子化石の 産出傾向 |
|-------|------|-------|------------------|
| B-1 | II b | 黒褐色土 | R |
| B-2 | II c | " | " |
| B-3 | III上 | 暗褐色土 | " |
| B-4 | III下 | 褐色ローム | " |
| B-5 | IV上 | " | " |
| B-6 | IV下 | " | RR |
| B-7 | V上 | " | " |
| B-8 | V中 | " | " |
| B-9 | V下 | " | " |
| B-10 | VI | " | " |
| B-11 | VI上 | " | " |
| B-12 | VI下 | " | " |
| B-13 | VII | " | " |
| B-14 | IX | " | " |
| B-15 | X上 | " | " |
| B-16 | X中 | " | " |
| B-17 | X下 | " | " |

第100図 花粉分析サンプル採取位置



第101図 岩坂大台遺跡花粉ダイアグラム

3. 分析結果及び考察

分析結果は、検出された花粉・胞子化石の総数を基数とする百分率で各検出花粉・胞子の割合を表わし、表8として後掲した。なお検出化石数が少ない試料では割合でなく個体数で表わした。

検出された化石の中で主要なものについてはダイアグラムを作成し、図第101として後掲した。

今回の分析で検出された花粉・胞子化石は下記のものである。

《AP-1 (針葉樹花粉)》

Abies (モミ属)、Pinus (マツ属) Cryptomeria (スギ属)、T.C.T. (Taxaceae・イチイ科、Cupressaceae・ヒノキ科、Taxodiaceae・スギ科の3つの中の何らかであるが、分別鑑定の困難なもの)

《AP-2 (広葉樹花粉)》

Pterocarya (サワグルミ属)、Salix (ヤナギ属)、Alnus (ハンノキ属)、Betula (カバノキ属)、Carpinus (クマシデ属)、Castanea (クリ属)、Fagus (ブナ属)、Cyclobalanopsis (アカガシ亞属)、Lepidobalanus (コナラ亞属)、Celtis (エノキ属)、Aphananthe (ムクノキ属)、Zelkova (ケヤキ属) Moraceae (クワ科)、Leguminosae (マメ科)、Sapium (シラキ属)、Gleditschia ()、Rhus (ウルシ属)、Acer (カエデ属)、Aesculus (トチノキ属)、Ilex (モチノキ属)、Tilia (シナノキ属)、Styrax (エゴノキ属)、Viburnum (ガマズミ属)、Camellia (ツバキ属)。

《NAP (草本花粉)》

Persicaria (サナエタデ属)、Polygonum (タデ属)、Chenopodiaceae (アカザ科)、Thalictrum (カラマツソウ属)、Cruciferae (アブラナ科)、Geranium (フウロソウ属)、Haloritis (アリノトウグサ属) Umbelliferae (セリ科)、Carduoideae (キク亞科)、Artemisia (ヨモギ属)、Cichorioideae (タンポポ亞科)、Iridaceae (アヤメ科)、Gramineae (イネ科)、Fagopyrum (ツバ属)、Rumex (スイバ属)、Cuscuta (ネナシカズラ属)、Macleaya (タケニグサ)、Rubiaceae (アカネ科)、Leguminosae (マメ科)、Commelinaceae (ツユクサ属)、Gentianaceae (リンドウ科)、Euphorbia (トウダイグサ属)、Elatago (オオバコ属)、Cyperaceae (カヤツリグサ科)。

《FP (形態分類花粉)》

Tricolporate pollen (三溝型花粉)。

Tricolporate pollen (三溝孔型花粉)

《FS (羊齒類胞子)》

Lycopodiaceae (ヒカゲノカズラ科)、Osmundaceae (ゼンマイ科)、Polypodiaceae (ウラボシ科) Ophioglossum (ハナヤスリ属)、Pteris (イノモトソウ属)、Monolete spore (單条溝型胞子)、Trilete spore (三条溝型胞子)。

次にこれらについて考察する。

B-6-17の試料は検出花粉・胞子化石が極めて少なかった。Pinus, Cryptomeria, Lepidobalanus,

Gramineae 等が比較的連続して検出された。従って花粉タイアグラムは作成できなかった。

上部のB-1～5では花粉・胞子化石が比較的保存されていた。第101図に示されたように、Carduoideae、Artemisia、Gramineae、等を主体とする草本花粉が多産する。B-1で Carduoideae が増加するほかは花粉組成に大きな変化はみられない。

樹木花粉では広葉樹花粉が比較的多く、Lepidobalanus、Zelkova、Acer、Sapium、Carpinus、Castanea、Cyclobalanopsis 等が検出される。針葉樹花粉では Abies、Pinus、Cryptomeria 等が低率で検出される。

今回の分析では、上方の試料において花粉・胞子化石が比較的多く含有されている傾向が見られた。

一般的に花粉や胞子は微生物あるいは化学的な酸化作用によって破壊されると言われている（参考…中村 純 1967）。台地上に堆積した風成ローム層は常に大気と密接な関係にあり、酸化作用を被むりやすい条件下にあったと思われる。重鉱物の中で、風化されやすいカンロン石の風化程度が上方に向って減少することとも関連がありそうである。

B-1～5の樹木花粉では落葉広葉樹花粉が多いことから、コナラ等を主体とする落葉広葉樹が分布していたことが推定される。これは、現在この周辺に分布するとされるコナラ～クリ林、あるいはコナラ～クリ常緑広葉樹林と共通性があると考えられる。

また当時は現在ほど広範なマツの分布はなかったであろう。

草木類では、キク科、イネ科等が多かったと思われる。

B-6以下の試料では検出花粉が極めて少なく、V層以下の堆積環境等についての推定は困難である。

第8表

岩坂大台遺跡花粉分析結果

| | Sample No Pollen and Spores | | B 1 | B 2 | B 3 | B 4 | B 5 | B 6 | B 7 | B 8 | B 9 | B 10 | B 11 | B 12 | B 13 | B 14 | B 15 | B 16 | B 17 |
|-----|--------------------------------------|------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| A P | Abies | | | | 1.2 | 0.8 | | | | | | 1 | | | | | | | 1 |
| | Pinus | 2.0 | | | | 2.4 | 2.6 | | | 3 | 3 | 1 | 1 | | | | | 1 | 4 |
| | Cryptomeria | 0.5 | 0.8 | 0.6 | 2.4 | | | 1 | 1 | 5 | 1 | 1 | | | 1 | | 2 | 1 | 1 |
| | T . C . T . | | | | 0.6 | | | | | | | | | | | | | | |
| A P | Pterocarya | | | | 0.8 | | | | | | | | | | | | | | |
| | Salix | | | | | 1.3 | | | | | | | | | | | | | |
| | Alnus | 0.5 | 1.6 | | | | | | | 1 | | 1 | | | | | 2 | | |
| | Betula | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | Carpinus | | | | 3.2 | | | 2 | | 4 | | 1 | | | | | 1 | | 1 |
| | Castanea | 0.5 | | 1.2 | | | | | | | 1 | | | | | | | | |
| | Fagus | | 0.8 | | | | | | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| | Cyclobalanopsis | | | | 1.6 | | | | 1 | | 1 | 2 | 1 | | | | | | |
| | Lepidobalanus | 0.5 | 8.0 | 10.6 | 12.0 | 6.5 | 4 | 1 | 4 | 1 | | | | | | | 2 | | 1 |
| | Celtis-Aphananthe | | | | 0.8 | | | | | | 2 | | | | | | | | 1 |
| | Zelkova | | | | | 4.0 | 1.3 | 2 | | 3 | | | | | | 1 | 3 | | 1 |
| | Moraceae | 0.5 | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | |
| | Leguminosae | | | 1.8 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | Sapium | | 0.8 | 0.6 | 4.0 | 2.6 | | | | | | | | | | | | | |
| | cf. Gleditschia | | | 0.6 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | Rhus | | | 1.2 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | Acer | | 1.8 | 4.8 | | | | | | | 2 | | | | | | | | |
| | Aesculus | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | Ilex | | | | 0.8 | | | | | | | | | | | | | | |
| | Tilia | | | | | 1.3 | | | | | | | | | | | | | |
| | Styrax | | | 0.6 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | cf. Viburnum | | 1.6 | 0.6 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | cf. Camellia | | | | 1.2 | 1.6 | | | | | | | | | | | | | |
| C | Persicaria | | | 0.6 | | 5.2 | | | | | | | | | | | | | |
| | Polygonum | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | |
| | Chenopodiaceae | | | 0.6 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | Thalictrum | | 2.4 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | Cruciferace | | | 0.6 | 0.8 | 2.6 | 3 | | | | | | | | | | | | |
| | Geranium | | | 0.6 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | Haloragis | | | | 0.8 | | | | | | | | | | | | | | |
| | Umbelliferae | | 1.6 | 2.4 | 1.6 | 1.3 | | | | | | | | | | | | | |
| | Carduoideae | 61.5 | 16.8 | 18.9 | 24.8 | 27.2 | 1 | | | 1 | | | | | | | | | |
| | Artemisia | 8.0 | 12.6 | 11.0 | 5.6 | 2.6 | | | | | | | | | | | 1 | | |
| | Chichorioideae | 2.0 | | 2.4 | 1.6 | | | | | | | | | | | | | | |

第8表

| | Sample No Pollen and Spores | B 1 | B 2 | B 3 | B 4 | B 5 | B 6 | B 7 | B 8 | B 9 | B 10 | B 11 | B 12 | B 13 | B 14 | B 15 | B 16 | B 17 |
|-----------------------------|--------------------------------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| NAP | Iridaceae | | 0.8 | 0.6 | | 1.3 | | | | | | | | | | | | |
| | Gramineae | 6.5 | 24.8 | 13.4 | 10.4 | 19.5 | 13 | 2 | 7 | 2 | 1 | 1 | | 1 | 4 | 2 | | |
| | Fagopyrum | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | |
| | Rumex | | | | 0.8 | | | | | 1 | | | | | | | | |
| | cf. Casearia | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | |
| | Macleaya | | | | 1.8 | 0.8 | | | | | | | | | | | | |
| | Rubiaceae | | | | 3.0 | 2.4 | | | | | | | | | | | | |
| | Leguminosae | | 0.8 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | Commelinaceae | | | | 1.2 | | | | | | | | | | | | | |
| | ef. Gentianaceae | | | | 0.6 | | | | | | | | | | | | | |
| FP | Euphorbia | | 0.8 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | Plantago | | 0.8 | | | | | | | | | | | | | | | |
| FS | Cyperaceae | | 0.5 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | Tricolporate pollen | 2.0 | 9.6 | 9.8 | 1.6 | 5.2 | 1 | | | 1 | | | | | | | | |
| | Tricolporate pollen | 10.5 | 13.6 | 9.7 | 8.8 | 5.2 | 3 | | | 3 | | | | | | | | 1 |
| | Lycopodiaceae | | | | | | 1.3 | | | | | | | | | | | |
| | Osmundaceae | | 0.5 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | Polypodiaceae | | | | | | 1.3 | | | | | | | | | | | |
| | Ophioglossum | | | | | | 1.3 | | | | | | | | | | | |
| | Pteris | | 0.5 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | Monoletite spore | 3.5 | 1.6 | | 0.8 | 9.1 | | | | | | | | | | | | |
| | Trilete spore | | 0.8 | | | 1.3 | | | | | | | | | | | | |
| ΣAP_4 | | 2.5 | 0.8 | 2.4 | 5.6 | 2.6 | 1 | 4 | 8 | 3 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 | 2 | 6 |
| ΣAP_2 | | 2.0 | 12.8 | 20.2 | 33.6 | 13.0 | 11 | 1 | 15 | 6 | 2 | 1 | 0 | 0 | 3 | 6 | 0 | 6 |
| ΣAP | | 4.5 | 13.6 | 22.6 | 39.2 | 15.6 | 12 | 5 | 23 | 9 | 4 | 1 | 1 | 0 | 3 | 8 | 2 | 12 |
| ΣNAP | | 78.5 | 60.8 | 57.9 | 49.6 | 59.7 | 19 | 3 | 7 | 5 | 1 | 1 | 0 | 1 | 5 | 2 | 0 | 0 |
| ΣFP | | 12.5 | 23.2 | 19.5 | 10.4 | 10.4 | 4 | 0 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| ΣFS | | 4.5 | 2.4 | 0.0 | 0.8 | 14.3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| Σ Pollen & Spores(M) | | 200 | 125 | 164 | 125 | 77 | 35 | 8 | 34 | 14 | 5 | 2 | 1 | 1 | 8 | 10 | 2 | 13 |
| Pseudoschizaea (N) | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | |

*..... $\Sigma AP = \Sigma AP - 1 + \Sigma AP - 2$

V章 結章

第1節 先土器時代に関して

本遺跡出土の石器群は、总数27点と非常に僅少であり、そのうちほぼ同時期の所産と考えられるものは、2つのブロックから出土した24点のみである。しかし、この24点の石器群が、該期の先土器時代人が保有していた石器群の一般的な姿であるとはいはず、その一部が発見されたに過ぎないともいえる。このことを踏まえて、若干の考察をしたい。

(1) ブロック出土石器群の編年的位置

剥片剝離技術 A・B 2つのブロックからは、ナイフ型石器、角錐状石器、スクレイバー、ハンマーストーンの4種の石器が各1点出土したが、ハンマーストーンを除いた残りの3つの石器の剥片剝離技術の特徴を述べれば、どれもが非調整打面から剝離された、部厚い幅広の剥片を素材にしていることである。いわば、こういった剥片が目的的剥片になっているのである。

次に石核においては、既設の剝離面あるいは、それらの棱を打面として、表裏交互に幅広の剥片を剝離しており、これから剝離された剥片はやはり非調整打面を持った幅広の剥片である。そして、これは剥片の大半に共通していえることでもある。

のことから、特に打面調整を施すことなく、自然面あるいは既設の剝離面等を打面として、厚みのある幅広の剥片を目的的剥片として剝離するのが、この石器群の技術基盤となっている剥片剝離技術といえる。

また、剥片の多くには末端あるいは一端に自然面を持ったものがあるが、これも、こういった剥片剝離技術との関連の中で生じてくる現象と理解出来るであろう。

調整加工技術 これもナイフ形石器、角錐状石器、スクレイバーの3つの石器において共通したもののがみられる。それは、急斜で、やや粗雑な調整加工であり、角錐状石器やスクレイバーのは、やや鋸歯状の調整加工ともいえる。また、ナイフ形石器においては、折断技法が急斜なプランティングと同様な役割を持っていたと考えられる。

石器組成 2つのブロック出土の石器群は总数24点と、まことに僅少であるが、器種としては、ナイフ形石器、角錐状石器、スクレイバー、ハンマーストーンと4種出土しており、一応のものは出そろっているといえる。

石器群の編年的位置 剥片剝離技術、調整加工技術、石器組成でみてきたことをまとめてみると、特に打面調整を施すことなく、自然面や既設の剝離面等を打面として、厚みのある幅広の剥片を剝離

する剥片剥離技術を石器群の基盤として、急斜で粗雑な鋸歯状ともいえる調整加工を施して、ナイフ形石器、角錐状石器、スクレイパー等を作出する石器製作技術を持つのがブロック出土の石器群といえそうである。

このような、内容を持つ石器群は、相模野第Ⅲ期に特徴的なものといわれており（小野1972、矢島1980）、層位的にはB2L～B2Lである。また、武藏野台地先土器時代第Ⅱの文化期とされ（小田1980）、Ⅳ層上部～Ⅳ層中部である。そして、下総台地ではPhase IIaとされ（鈴木1978）層位的には武藏野台地にならって、ほぼ同様でよいと思うが、概して層厚が薄く、暗色帶の発達も悪いため、こまかい目盛での把握を難しくしている。

また、該期の剥片剥離技術には2種あって一方は本遺跡の石器群に見られるものであって、もう一方は形状逆三角形の石刀を目的的剥片として、基部調整のナイフ形石器を製作する、いわゆる「礪山技法」（芹沢1962）のような剥片剥離技術のことである。しかし、この両者がみられるのが本来の姿であり、本遺跡の石器群がごく一面のみでしかないとしても、本遺跡のような、小規模な遺跡では、これが普通なのかもしれない。

該期の石器組成としては、いわゆる切出形ナイフ形石器、角錐状石器、スクレイパー等は普通的に存在し、彫器、錐器等はまれな存在である。

のことから、本遺跡の石器群が僅少ではあるが、該期の石器組成としては一般的な内容を持つものであることがわかる。また、層位的には、遺跡付近において良好な地層のところでは下総台地と同様なものであり、本遺跡出土石器群もⅣ層下部あたりに位置付られるものと考える。

(2) 磺群の性格

武藏野台地や相模野台地では該期の石器群に伴って多量の示群が出土することが知られている（矢島他1976、中津他1977）。しかし下総台地をはじめとする千葉県では、今までに規模の大きい示群はほとんど出土してなく、たいがいは小規模のものか、ほとんどない状況であった。その中で、本遺跡でやや規模の大きい示群が出土したことは貴重である。

また、示群については、近年いろいろと論議されているが、なかなか解明が進まないようである（金山1976、1977、金山他1978、安孫子他1980）。そのため、少しでも役立ててはと思い、若干の分析を試みた。次に項目別に記すが、個体別による分析が中心となり、個々の示にもふれることにする。

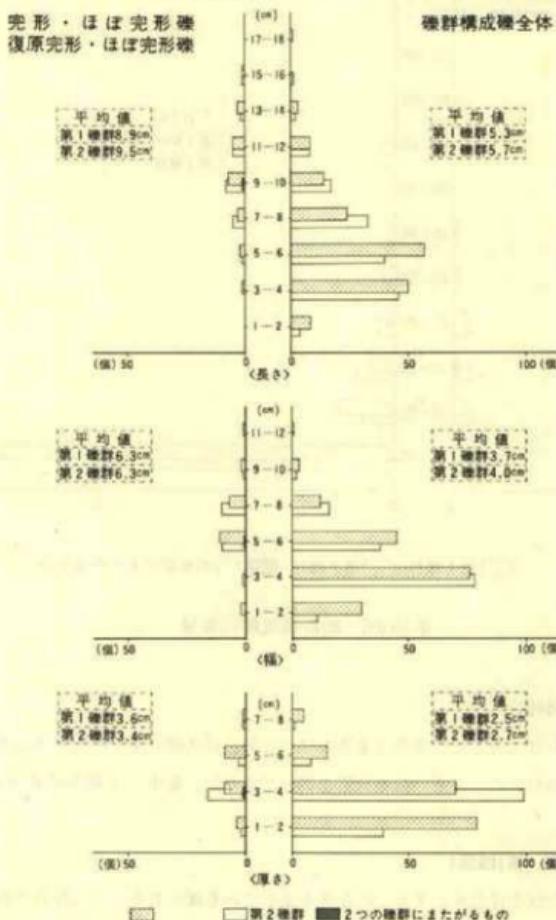
① 個体別資料

示群構成示の总数は、第1示群（以下1示と略す）172点、第2示群（以下2示と略す）152点の324点である。これを個体別に分けると、1示は、48個体、145点、その他不明1点2示は、43個体107点、その他不明4点、1示と2示の両方にまたがるもの、8個体67点、計99個体319点その他不明5点である。石材は砂岩が一番多く、凝灰岩、チャートがこれにつぐが、この3つで大半を占める。

これらの供給地は、遺跡近くに所在すると思われるが未確認である。

②大きさ(第102図)

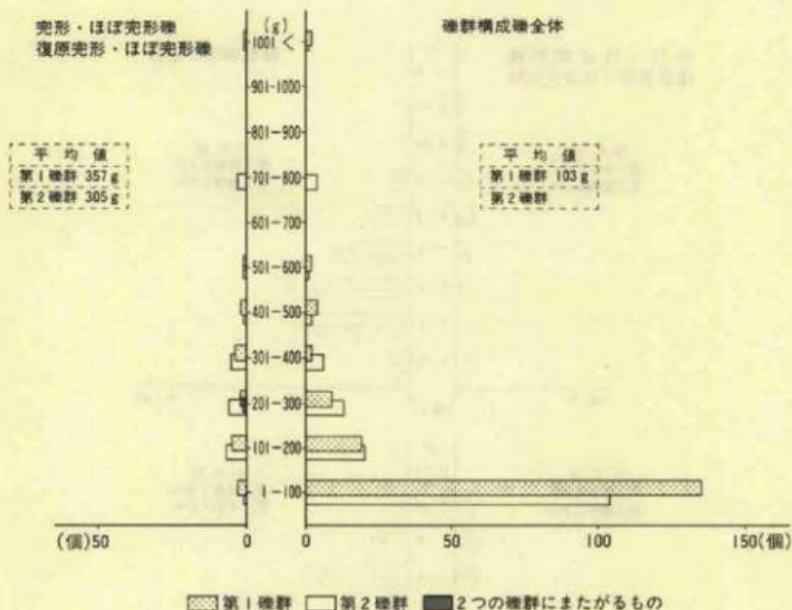
1種、2種にはほとんど差はなく、出土状態の礎が平均すると、長さ5.5cm、幅3.9cm、厚さ2.5cmで、完形・ほぼ完形・復原完形・ほぼ完形は、平均すると、長さ10.6cm、幅6.2cm、厚さ3.4cmである。これがこの礎群を残して行った人々が必要とした礎の大きさに近いものと思われる。



第102図 磂群構成礎の大きさ

③重量（第103図）

出土状態の碟は、1碟・2碟とも同様であり、平均すると101 gである。そして、完形・ほぼ完形・復原完形・ほぼ完形では、1碟の方が少し重いが、平均すると330 gである。また、重量では出土状態の碟において、100 g以下の軽いものが多いことに注意される。

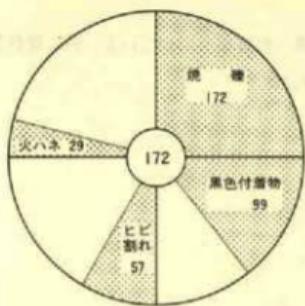


④碟面状態（第104図）

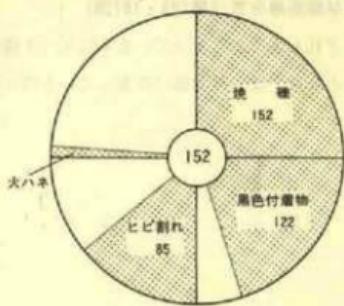
焼碟はともに100%であるが、黒色は着物及びヒビ割れは2碟に多く、火ハネは1碟に多い。また、これについては各項目についてその分布状態を調べてみたが、集中・片寄等の傾向はみられなかった。

⑤個体別遺存状態（第105図）

1碟、2碟とも同様な傾向を示すが、かなり不足している碟があることに注意される。

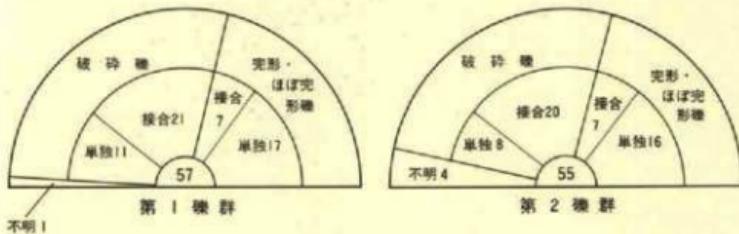


第1種群



第2種群

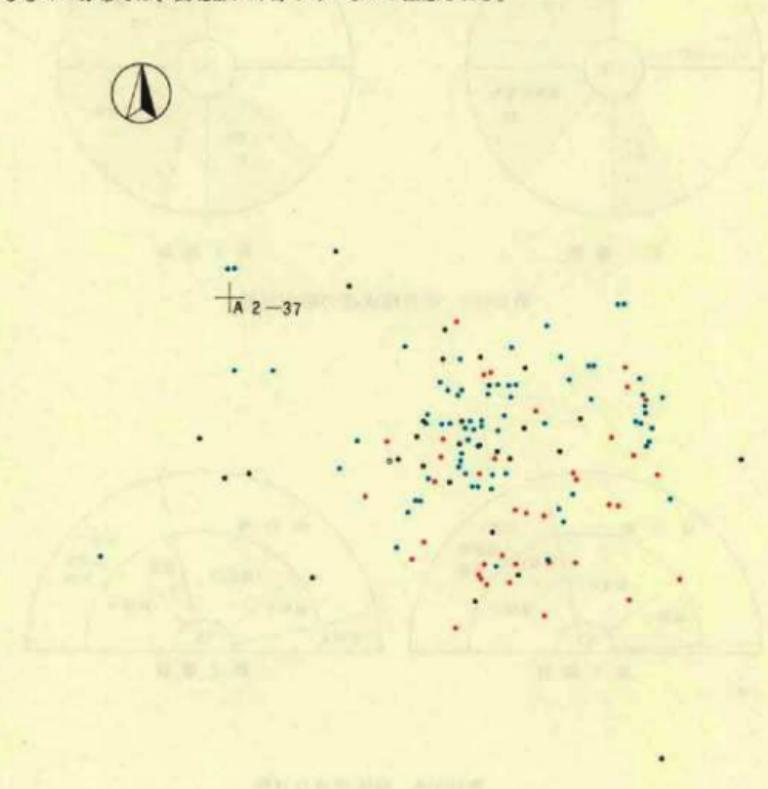
第104図 碟群構成碟の碟面状態



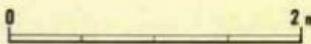
第105図 個体別遺存状態

(6) 遺存状態別礫分布 (第106・107図)

2種はどれもよくまとまっているのに比べ1種は各々異った様相を示している。特に礫群間で接合するものの分布では、西北部に片寄っているのが注意される。



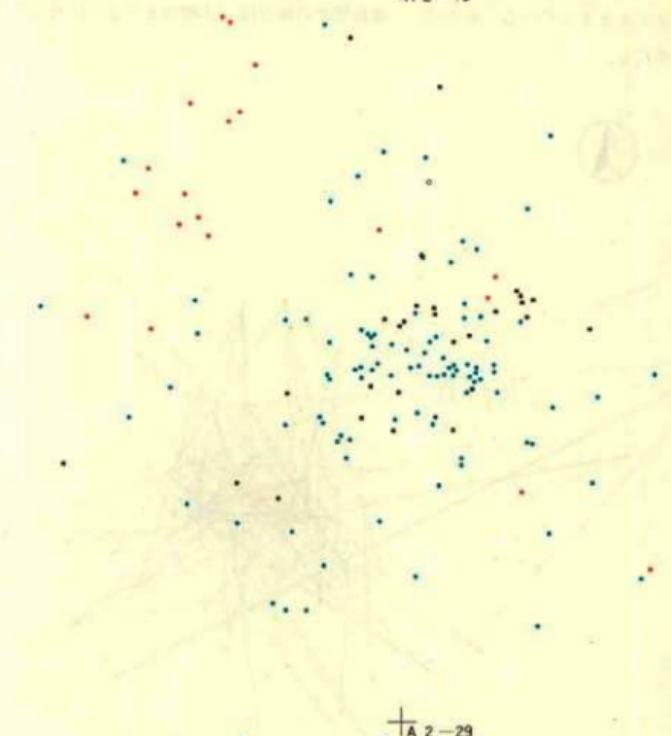
- 2つの礫群で完結するもの
- 1つの礫群で完結するもの
- 完結しないが2つの礫群に存在するもの
- 完結しないで1つの礫群にのみ存在するもの



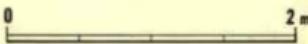
第106図 第1礫群構成礫の遺存状態別分布図 (1/40)



A 2-19



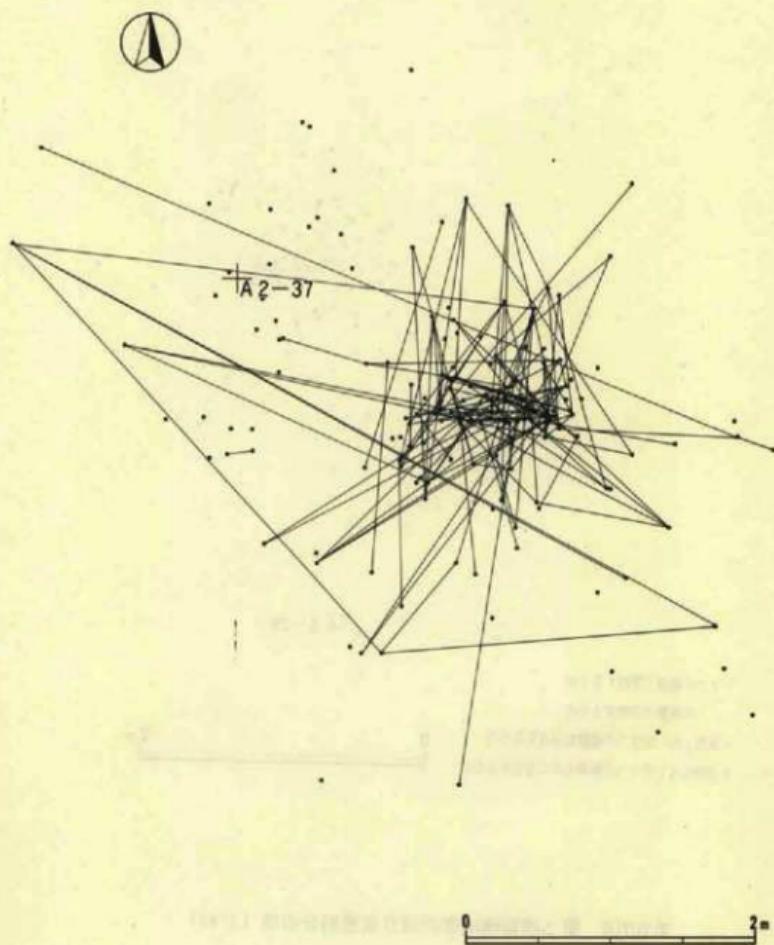
- ・ 2つの種群で完結するもの
- ・ 1つの種群で完結するもの
- ・ 完結しないが2つの種群に存在するもの
- ・ 完結しないで1つの種群のみに存在するもの



第107図 第2種群構成種の遺存状態別分布図 (1/40)

⑦接合関係

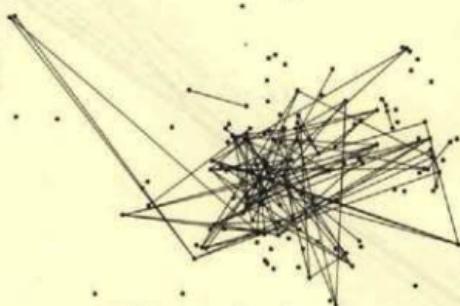
1 環内での接合は20個体 115 点で、広範囲に散って接合している（第108図）。2 環内での接合は17 個体73点で、よくまとまっている（第109図）。環群間での接合は、2 環のまとまりに対して、1 環の散漫さが注意される。



第108図 第1環群内接合環分布図



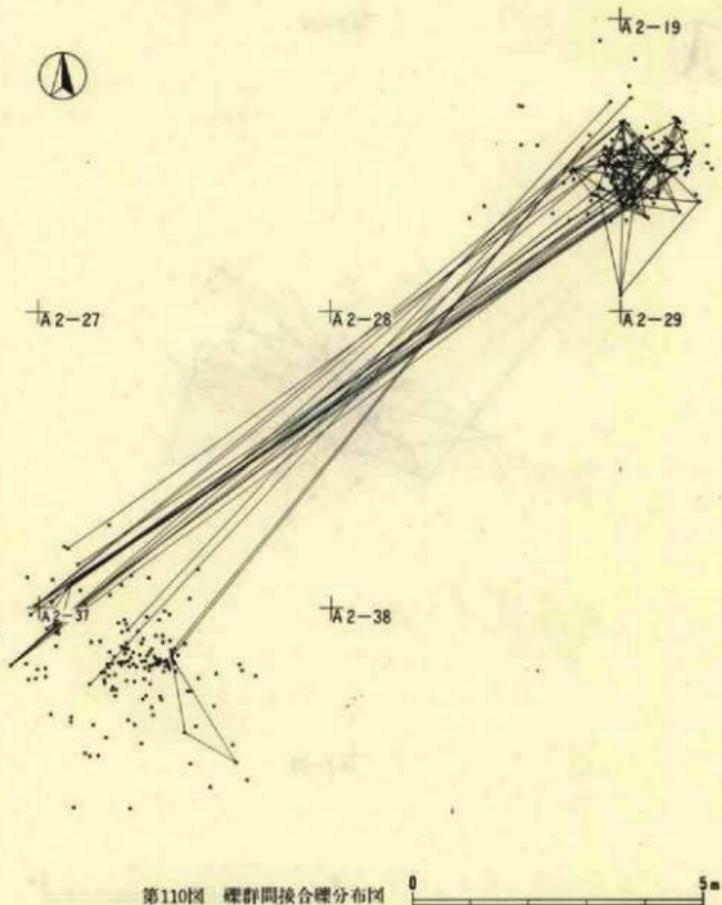
A 2-19



A 2-29



第109图 第2裸群内接合裸分布图

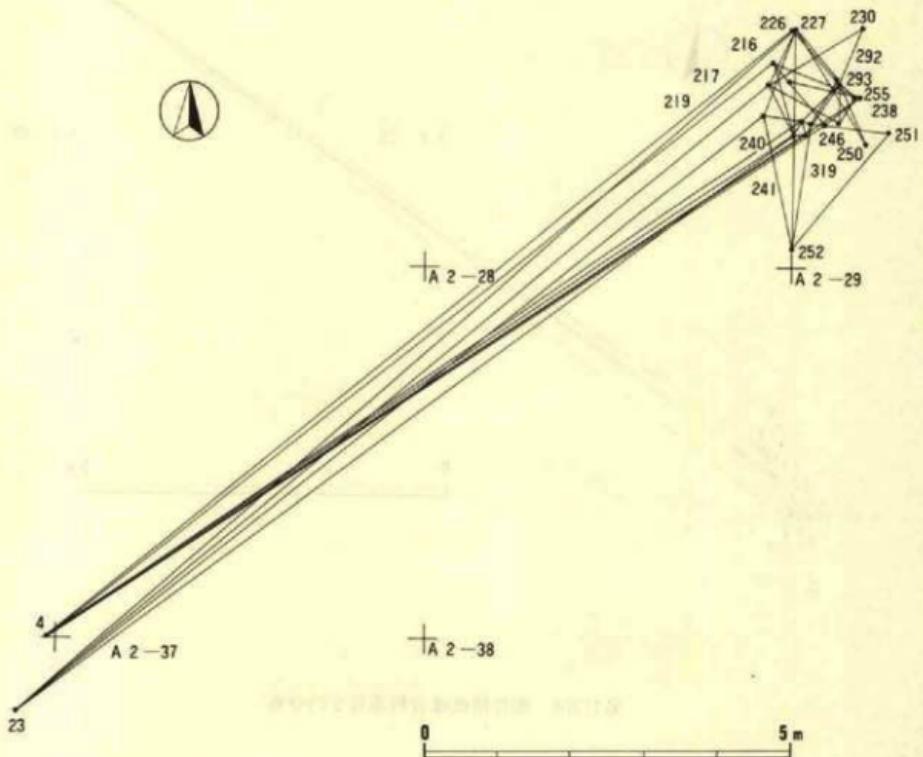


第110図 碼群間接合縫分布図

岩手県北西部地質調査報告書 第14回

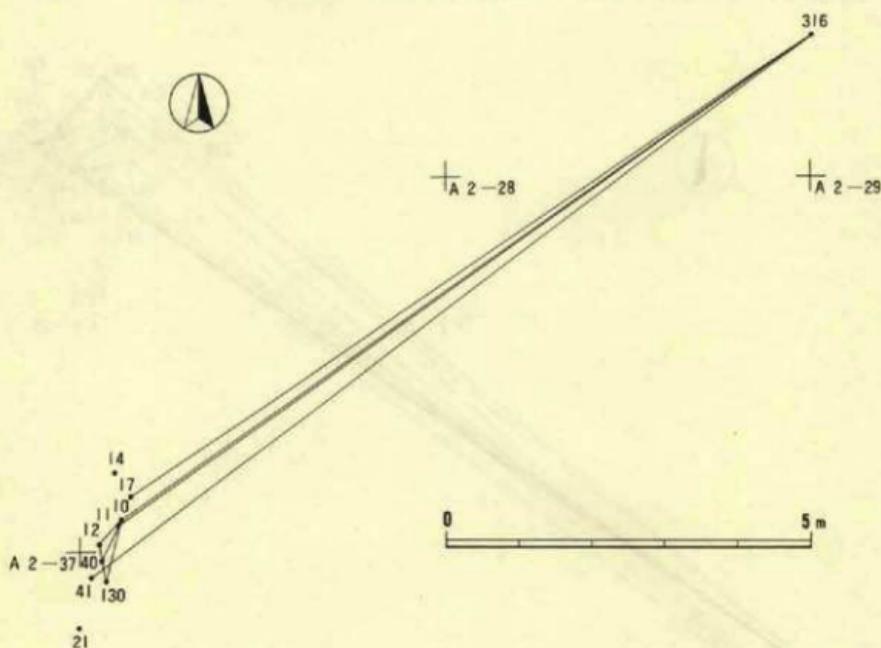
⑧ 碓群間の接合関係

個体別資料1(第111図)2点のみ1種で、あとは全て2種である。1種で使用後2種へ運んだとも考えられるが、この場合、1種の2つだけが割れることはないとと思う。



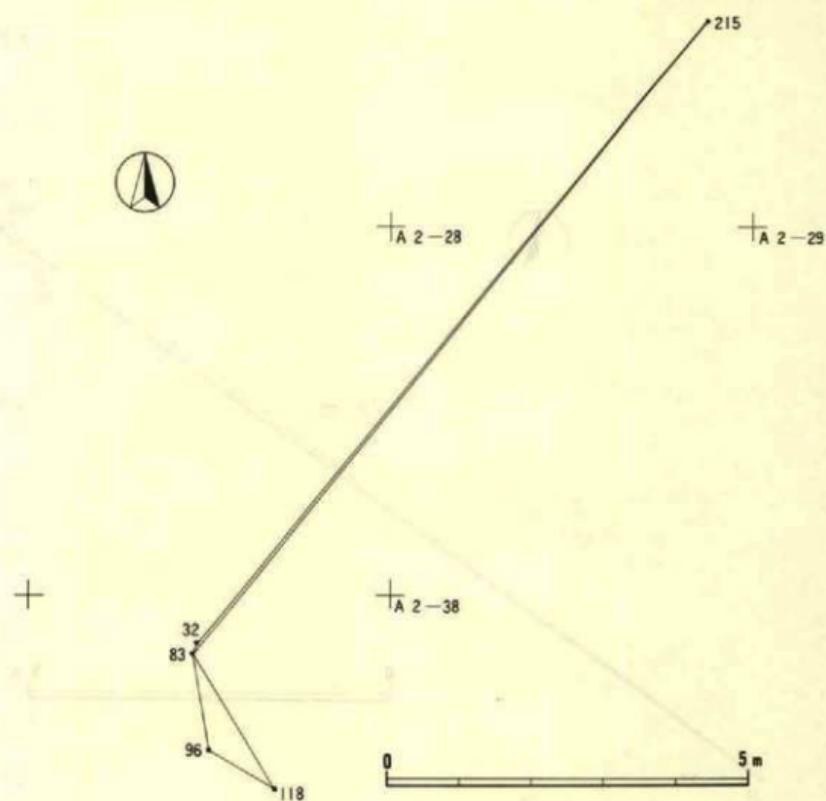
第111図 碓群構成礫資料番号1の分布

個体別資料2(第112図)2種のみ1点で、その他全ては1種である。これは2種の316が1番大きく、資料の内部に位置することから、これのみが1種から運ばれたことが考えられる。



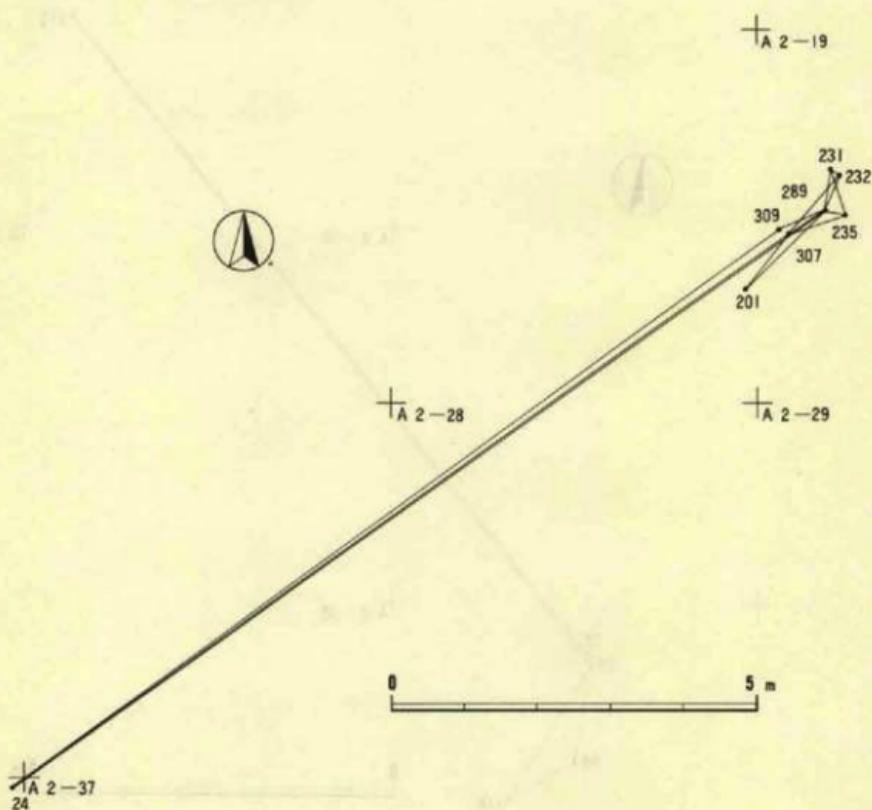
第112図 種群構成種資料番号2の分布

個体別資料3(第113図)これも大半は2礫で、1礫はわずかである。1礫から2礫へという動きが考えられる。2礫の186が1番大きい。



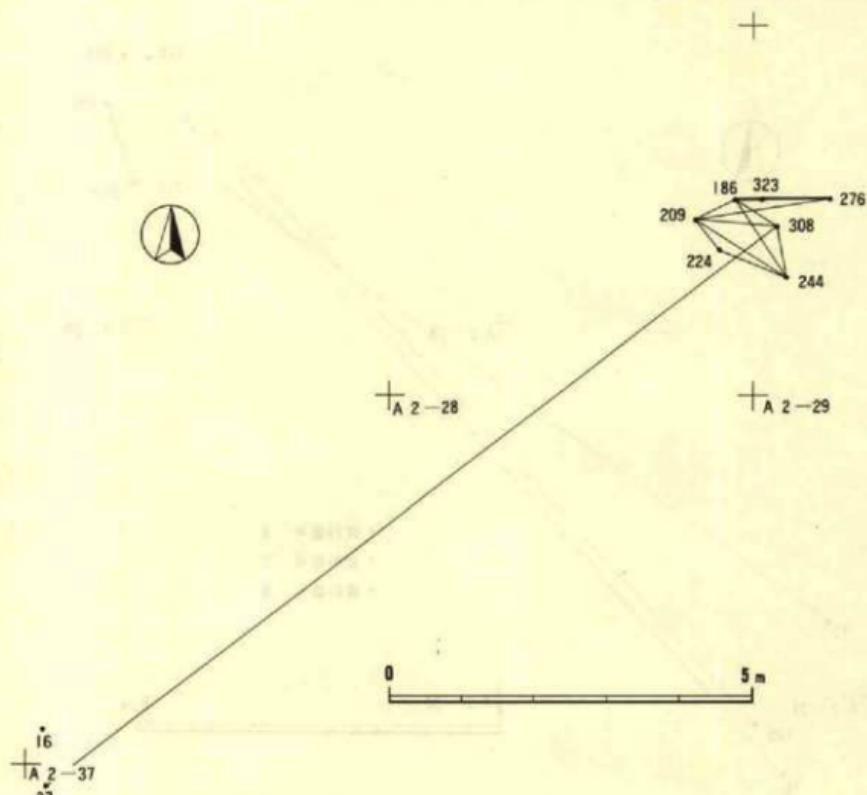
第113図 磯群構成礫資料番号3の分布

個体別資料4(第114図)これも1点を除いて、他は全て2種である。1種から2種という動きが考えられる。2種の289が1番大きい。



第114図 砂群構成砂資料番号4の分布

個別資料5(第115図) 2疊の1点は資料内部に位置して小さいものだが、何か使用しようと思ったものかもしれないし、あるいはこれ以外のものを、2疊から1疊へ動かしたのだろうか。1疊32が1番大きい。



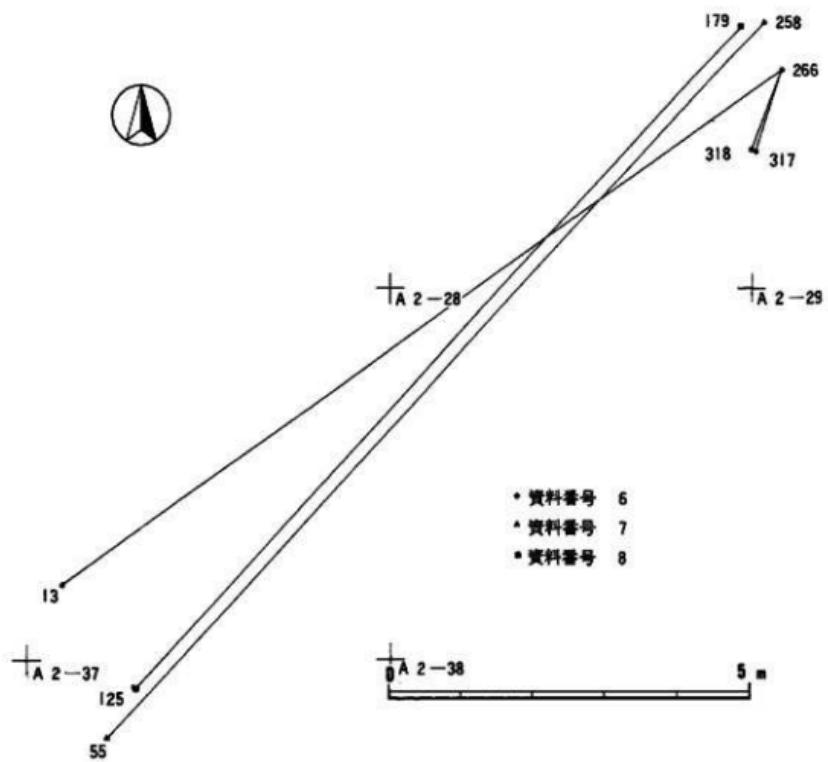
第115図 碰群構成疊資料番号5の分布

個体別資料6(第116図)2疊の266が1番大きく、1疊から2疊という動きが考えられる。

個体別資料7(第116図)これも2疊の258が1番大きく、1疊から2疊という動きが考えられる。

疊群間接合のうちこれのみ完形となる。

個体別資料8(第116図)これは1疊の125が1番大きく2疊から1疊という動きが考えられる。



第116図 疊群構成疊資料番号6～8の分布

以上みてきたように、1疊と2疊は疊群の規模、疊の大きさ等非常に似ているものであるが、疊の分布という点では、2疊はよくまとまっているが、1疊はやや散漫である。

また、疊群間の接合関係からは、各個体によりかなりの違いのあることがわかり、なかでも各個体の疊が均等に存在するのではなくどちらかの疊群に片寄って存在するところは注目すべきである。このことは、さらに疊の疊群の移動まで考えられはしないだろうか。たとえば、1疊を新旧2つに分けて、旧1疊→2疊→新1疊というような動きが何か感じられるのだが、もちろん、この2つの疊だけで完結するものではなく、足りない分の疊がどこかにあるはずだし、それは約3分の1ぐらいだから、あるいはもう一つの同規模の疊群が近くにあるかもしれない。たとえば掘り残しの部分とか、さらには谷をはさんだ隣接の台地なども考えてよいだろう。今後は疊群も石器群に準じて、個体別資料の分析を通して、その動態を把握することに努めなければならないと考える。

第2節 弥生時代に関して

本遺跡の弥生時代の遺構は、住居址16軒、土塹2基である。出土した遺物は、接合復元作業の結果図示し得た土器116点、磨製石斧1点、砥石1点、輕石1点、石皿2点、土製紡錘車3点、土製勾玉1点である。これらの遺構・遺物について若干の検討を加えてみたい。

(1) 住居址について

住居址16軒は、調査範囲の北側2/3ほどの東西約100m、南北約60mの範囲に分布し、第1号住居址と第3号住居址のように壁と壁の間が30cmという至近距離に位置するものはあるが重複するものはない。また、調査範囲の西は狹小な尾根となっており、南は急斜面となり住居址の分布は想定されない。東は南側からの谷が迫るもの幅30mほどの平坦面があり、第1号住居址と第4号住居址を結ぶ線の東側に住居址の存在が予測される。北は、第3号住居址・第11号住居址・第15号住居址に見るよう、住居址が営まれて以降も侵食作用が激しいことが窺えるが、崖線に沿って小規模な住居址が位置することから、検出した以上の住居址は存在しなかったものと思われる。以上のことから当遺跡の住居址群は、検出された16軒の住居址と、調査範囲の東側に予測される住居址によって構成されるものと思われる。また、岩坂配水池の南東に広がる約70×70mの平坦面は大台2号遺跡で、ここにも異なる住居址群の存在する可能性は高い。

検出された住居址をその規模・形態によって分類すると、

小形の住居址…第2・5・10・11・15号住居址（軸長4m以下で、炉址のみ認められる。）

やや脛張りの隅丸方形の住居址…第4・8・14・16号住居址（掘り込みも深く、第16号住居址を除き柱穴等もしっかりとしている。）

隅丸方形で主軸に沿う主柱穴の外側にベッド状施設を有する住居址…第7・12号住居址

隅丸正方形の住居址…第1・3・6・13号住居址

横長の隅丸方形の住居址…第9号住居址であり、規模と形態と掘り込みの深さ、柱穴等の内部施設、主軸方向には相關性が認められる。

小形の住居址は、面積にしても5~12m²という小さなもので、第5号住居址を除いて遺物量も極めて少なく、占地位置も周辺的である。また、第2号住居址のように埋め戻していると思われる住居址もある。炉跡も認められ、第5号住居址・第15号住居址のように変形土器が床面に伏せられた状態で出土していることから、住居址として営まれていたことは確かであるが、付属的な機能を果していたものと思われる。

(2) 土器出土状態について

住居址の土器出土状況としては、第12号住居址のように1932点もの多量の土器片を出土したものから、第2号住居址・第14号住居址のようにごく僅かな遺物しか出土しない住居址まである。各遺構から出土した土器についてはかなり入念な接合作業を行ない、遺構間の遺物についても接合作業を行ない検討を試みた。住居址間の接合作業については、特徴的な遺物にとどまりすべてのものについて検討できたわけではない。記載した例の他に小破片が接合した5例がある。これらの作業の結果に基づき、遺物の出土状態とその原因を想定し、本遺跡における代表的例を挙げると、

1a. 土器囲い炉に使用されるもの—住居址構築時、あるいは使用時に伴う。（第2号住居址1…以下2-1のように示す。）

1b. 床面あるいは貯蔵穴等から破片あるいは破損片として出土するもの—破損品として廃棄されたもので使用時に伴う。（4-1～5・6-1～4・7-1～3・8-1～3・10-1）

1c. 床面あるいは貯蔵穴等から、完形に近い形で出土するもの—住居址廃絶時に直接するもので、廃棄された。（1-1～2・5-1・11-3・15-1）

1d. 床面から散乱して出土するが、復元すると完形あるいはほぼ完形まで復するもの—住居址廃絶に伴い使用土器が「送る」というような行為のもとに廃棄された。（16-1）

2a. 覆土中から完形あるいは、ある程度まとまった土器が出土するもの—他の住居などで使用されていた土器を投棄した。（12号住居址など多数）

2b. 覆土中から出土し、他の住居址の土器と接合する土器片—清掃作業などにより投棄された。（7-2・9-1など住居址間接合の例）

3. 住居址外周に廃棄、あるいは散乱していた土器が自然營力で流入したもの、のようになる。もちろん第3号住居址のように廃絶後の人為的行為の感ぜられるものや自然營力による影響も考慮しなければならないが、本遺跡の土器の出土状態としては、2つ他の住居址からの投棄資料と判断できるものが多いことが注意される。

(3) 出土土器について

出土土器で量的に多いのは壺形土器である。台付壺は全形を知り得るものはなく、また量的にも4個体が確認できたのみである。壺形土器の特徴は輪積み装飾にある。いわゆる久ヶ原式の特徴とされるものであるが、本遺跡出土の壺形土器をもって久ヶ原式とするには、久ヶ原式を後期前葉に置き、久ヶ原式・弥生町式・前野町式という編年觀を維持しようとする限り、出土状態から伴うものと判断される壺形土器、高环形土器からして無理がある。また、輪積み装飾の変化を持って時間的変遷に置き変えようすることにも、困難が伴う。第12号住居址の1～5のようにすこぶる明瞭な輪積み痕を残すものから、指頭で潰されたもの、さらにわずかに輪積み痕跡を認めるのものもまたが投棄された資料ではあるものの、破片が入り混って出土しているのである。

当遺跡の土器の編年的位置は、壺形土器や、客体的存在である第4号住居址6の壺形土器、第12号住居址31の高环形土器などからして弥生時代後期後半に置くことができるであろう。当地域における当該期の土器群についての検討が必要とされよう。

(4) 住居址群の前後関係について

住居址の規模・形態・配置と遺物の出土状態の検討、およびその出土遺物からして、本遺跡の住居址群は、第1号住居址・第4号住居址・第5号住居址・第8号住居址・第14号住居址・第16号住居址⇒第3号住居址・第7号住居址・第12号住居址⇒第6号住居址・第9号住居址・第13号住居址、が考えられる。

第3節 古墳・歴史時代について

古墳時代の遺構・遺物については、わずかに大台一号墳の周溝 $\frac{3}{4}$ 程が調査できただけであり、遺物も周溝内覆土中より鉄鎌1点の検出をみただけであった。年代・性格ともに明らかではなく、古墳の

周溝と断するには若干の疑惑もある。しかし湊川流域に多数所在する横穴群の中には、大溝横穴群、高山横穴群などのように横穴群の形成される斜面の山頂に古墳が所在する例が指摘されており（樋山1982）、本例もその1つとして水神横穴群と対応するものと考えたい。

歴史時代の遺構・遺物としては、8基の火葬墓がある。8基のうち7基は石櫃を使用したものであり、内5例は残欠的でその形態までは窺えない。しかし、いずれも炭化物を伴っており、調査地内に7基以上の石櫃使用の火葬墓が所在したことは確かである。千葉県内におけるこうした石櫃使用の火葬墓は、市原市鮎ヶ崎町天羽田の3例（平野元三郎1958）、同鮎ヶ崎町立野金山台、木更津市江川熊野神社境内（保坂三郎1957）、木更津市島田小谷、香取郡多古町土持台遺跡（千葉県文化財センター1981年調査）などがあり、岩坂地区にあっても谷を隔てた山田において確認されている。天羽田の例を除いては単独の例が多い。金山台と熊野神社境内の例はマウンドが認められている。

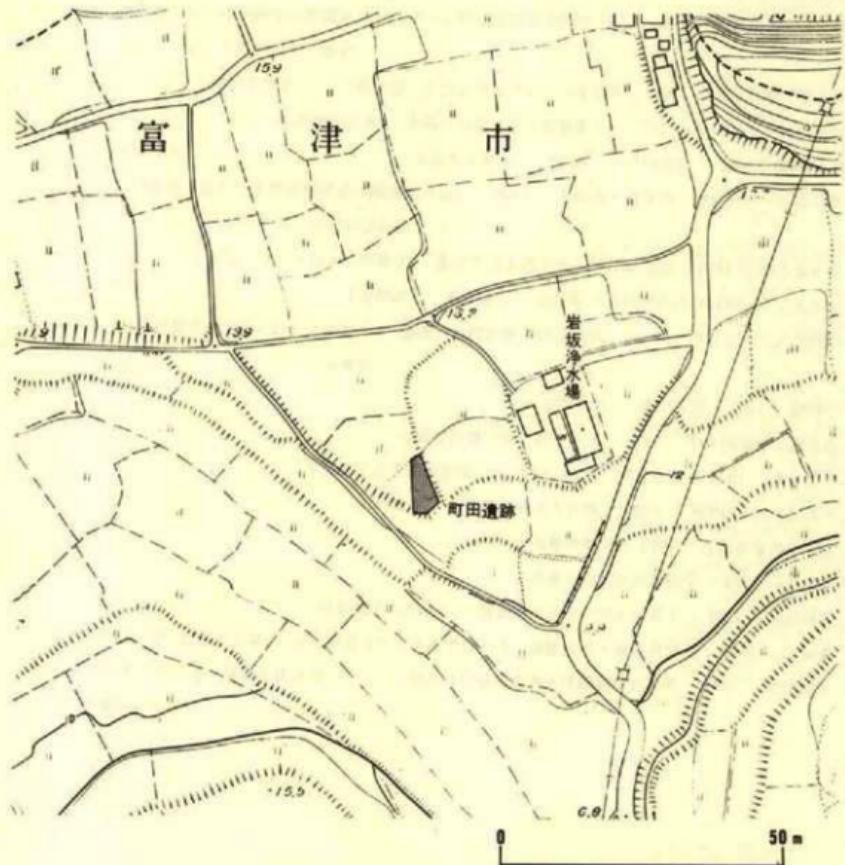
次に年代であるが、石櫃使用の火葬墓には副葬品などは伴っておらず、それ自体で年代を知ることは困難である。しかし、遺跡の南西部に集中する火葬墓群の中に、変形土器2個を骨蔵器とした1号火葬墓があり、その配置に規則性は認められないものの、その集中性から推して関連性を認めることができよう。この変形土器は、武藏型の8世紀後半に比定される土器であり、本遺跡の火葬墓群の年代をその前後として捉えることができよう。

当地域における古墳時代後半から、7、8世紀に至る墳墓の主体は横穴であり、これに變る埋葬法として採用されたものであろうか。また、大溝寺が所在したと伝承される大溝寺横穴群北側の山頂とは尾根の連なる丘頂に位置することも注意される。

付 町田遺跡の調査

（本文参照）

町田遺跡は、漆川の旧河道に面した河岸段丘上に位置する遺跡で、弥生時代の遺跡として認識されていた（富津市教育委員会1975）。調査地は標高16.5mの河岸段丘上であるが、東側は侵食を受け小谷を形成するため、南東へ張り出した突出部150 m²がその対象地となった。調査は、昭和56年9月10日から同16日までの期間で実施した。調査の結果、遺構・遺物は検出されず、地形的に突端部にあたるため遺跡の外縁部にあたり、遺構・遺物を検出できなかったものと判断するに至った。



第117図 町田遺跡の位置 (1/2500)

参考文献

- 安孫子昭二他 1980 多摩蘭坂遺跡 国分寺市教育委員会
- 伊藤和夫 1959 千葉県石器時代遺跡地名表 千葉県教育委員会
- 岩板大溝横穴調査団 1973 大溝横穴群調査報告 富津市文化財調査報告 I
- 小田静夫 1980 武藏野台地における先土器文化 神奈川考古 8
- 柿沼修平他 1979 土字 日本文化財研究所
- 金山喜昭他 1978 鈴木遺跡 I 鈴木遺跡調査団
- 菊池義次他 1954 安房勝山田子台遺跡 千葉県教育委員会
- 建設省国土地理院 1982 国土地理院技術資料D.1-No216 南関東沿岸域における完新世段丘の分布と年代に関する資料
- 斎木勝・深沢克友 1978 考古学からみた房総文化3 弥生時代 千葉県文化財センター紀要3
- 相山林雄・金子裕之 1972 千葉県富士見台遺跡の調査 考古学雑誌58-3
- 相山林雄 1982 奈良時代・古墳時代 富津市史通史 哨唱唱唱
- 杉原重夫・吉村光敏・細野衛・森脇宏 1978 房総半島南部の後期更新世テフラ層と海岸段丘について 第四紀研究16 P 255~262
- 鈴木道之助 1976 房総における先土器文化の変遷 千葉県文化財センター紀要1
- 芹沢長介 1982 6 旧石器時代の諸問題 岩波講座 日本歴史 1
- 高橋佐久・渡辺智信 1972 渋川流域の横穴群調査概要 一富津市(旧天羽町)加藤横穴群 千葉文華 6
- 中村純 1967 花粉分析 古今書院
- 西山横穴発掘調査団 1977 富津市西山横穴群調査報告
- 野村幸希 1975 日本各地の墳墓一開一 新版仏教考古学講座7
- 平野元三郎 1958 上総祐ヶ崎町の火葬骨壺 古代29・30
- 富津市教育委員会 1975 富津市遺跡等分布図
- 文化庁 1974 全国遺跡地図一千葉県一
- 保坂三郎 1957 千葉県木更津市江川火葬墓 日本考古学年報10
- 森脇宏 1980 苗見作遺跡・飯富遺跡における土壤サンプル鉱物分析 苗見作遺跡・飯富遺跡
- 矢島国雄 1980 神奈川県綾瀬市天神森遺跡の石器群について一相模野第Ⅲ期の石器群とその問題
点をめぐって一 考古学基礎編 2

Iwasakaōdai Site

The Introloction

The route 127 of national road, which is a main principal road fram the manufacturing district between Tokyo and chiba to the area of South Bōsō, is delayed with the increase of traffic in thcse days. For the purpose of easing it up and increasing the transportation capacity, the construction of Uchibō road as by-path is planned by the Public Works Division of Chiba prefecture. The research in Iwasakaōdai site which stand on this planning road is intended by the Cultural Properties Center is chiba Prefecture. The field research during the period from April 1 to Oectorber 31 in 1981 and the rearrangement during the period frnm November 1 in 1981 to June 30 in 1982 were carsed ont. This publication the research repart on it.

Situation

That remains stand in Iwasakaōdai, Futsu city chiba (lat. 35° 13' 30" N. and long. 139° 53' 10" E.). Bōsō peninsula is nearly located at the center of the Japan Islands and runs out into the Pacific. The uorthern part is the plateau of Shimofusa and the southern part is the hill of Bōsō. That site stand at the east end of the hill of Bōsō and lie in a small flat site on the hill which lies next to an alluvium of Minatogawa and is 58 meters alone sea lovel.

Reseach result

As the research result, it became clear that the remains were formed during the period from the Prepottery peiod to the historical period.

The pre-pottery period :

As the remains of the Pre-pottery period, two blocks, most part of which are a cluster of conglomerate, were detected in the southwest part of the site. Perhaps two blocks coexisted at the same period, judging from the joint relation of flakes of conglomerate. They took with 25 stone tools ; a knife grond, a hammerstone, a scraper, a core tool, a flake tool and so on, and were fowrol out from the fifth stratum.

The yayoi period.

As the remains of the yayoi period, 16 dwelling sites and two pit wcrc detected. Each of them were formed at the and of the Yoyoi period and the detected earthenware fron there has obviously the regional aspects of the south part of chiba Prefecture at that period.

The period of ancient burial mounds.

As the remains of period of ancient burial mounds, the existence of the circular drain in the old mound was only affirmed. An iron-arrowhead was excavated in the circular drain.

The historical period

8 crematory tombs were detected. One of them is made use of two jars and the rest are stone coffins made of hollow soft-sandstone. Those were formed at the second half of eighth century and are interesting data so that we can infer the transformation from the lateral hole-style of old mounds which are frequently found in this area.

写 真 図 版



岩坂大古墳群と周辺の航空写真

千葉日報社提供

図版二
遺跡



A 岩坂大台遺跡周辺の航空写真

千葉日報社提供



B 遺跡遠景(南方より)

図版三 遺跡

A 層序
B 2-00西壁断面



B 調査風景

図版四
先土器時代の遺構
(I)



A Aブロック(第1砾群)出土状態



B Aブロック(第1砾群)出土状態(南より)



C Aブロック(第1砾群)出土状態(部分)

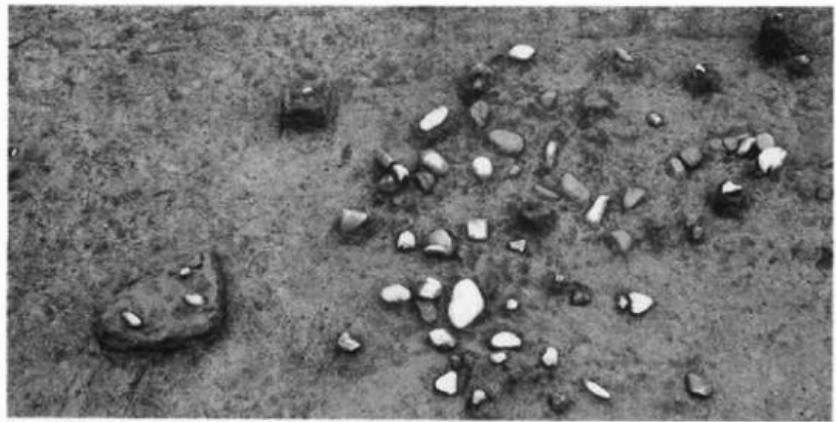
図版五 先土器時代の遺構(2)



A Bブロック(第2砾群)出土状態



B Bブロック(第2砾群)出土状態(南より)



C Bブロック(第2砾群)出土状態(部分)

図版六 先土器時代の石器



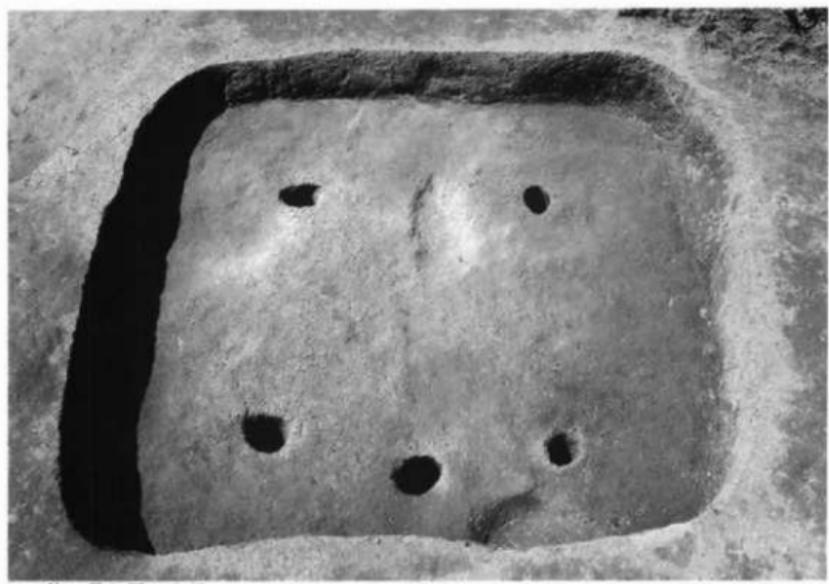
9

10

図版七 弥生時代の遺構(1)

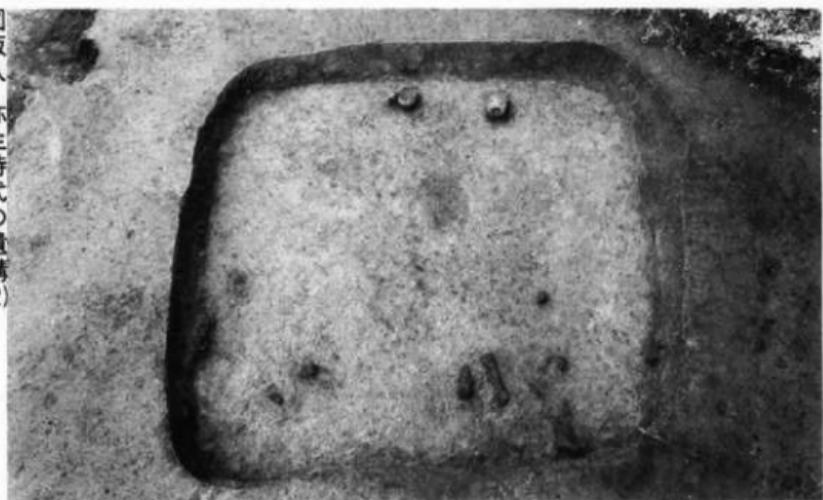


A 第1・2・3号住居址



B 第1号住居址全景

図版八
弥生時代の遺構(2)



A 第1号住居址遺物出土状態

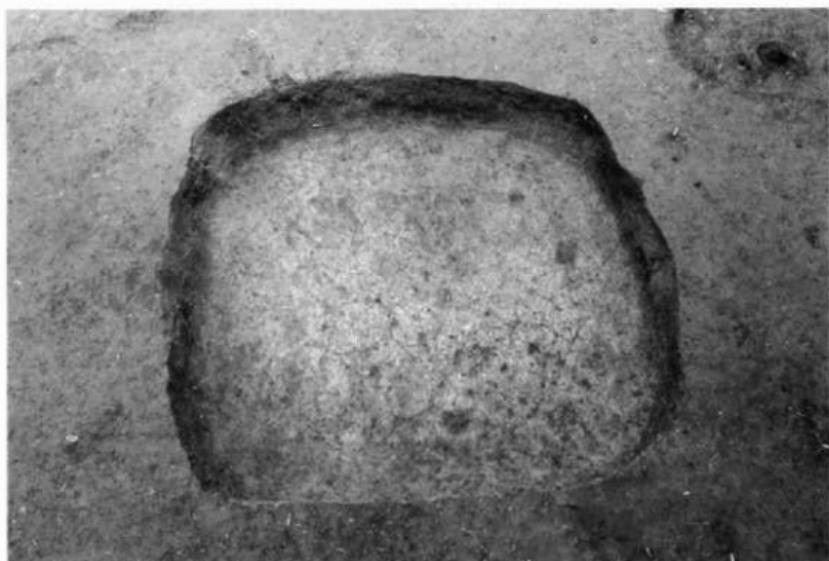


B 第1号住居址遺物出土状態



C 第1号住居址遺物出土状態

図版九
弥生時代の遺構
(3)



A 第2号住居址全景

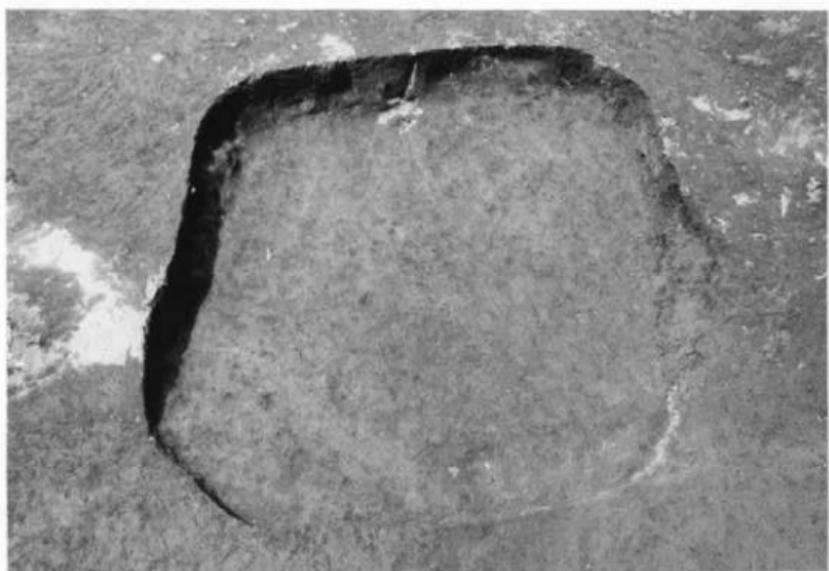


B 第3号住居址全景

図版十
弥生時代の遺構(4)



A 第4号住居址全景



B 第5号住居址全景

図版十一 弥生時代の遺構(5)

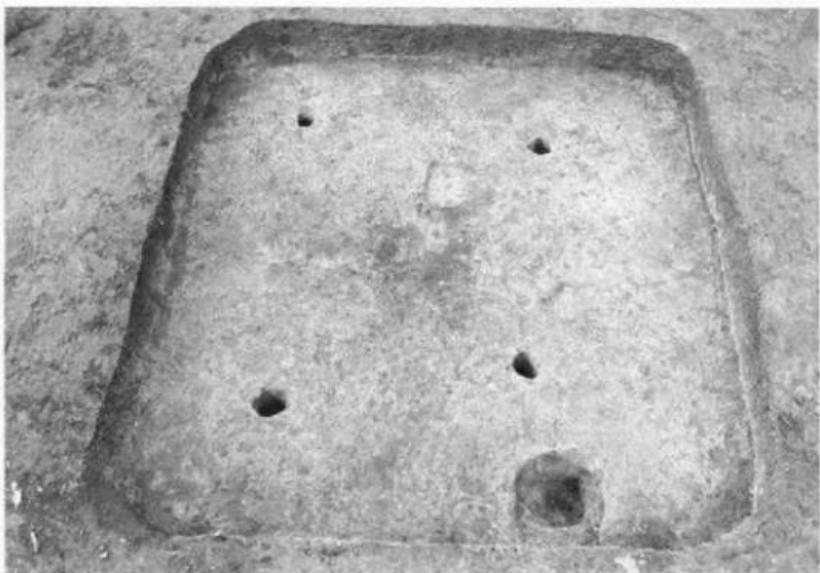


A 第5号住居址遺物出土状況



B 第5号住居址遺物出土状況

図版十二 弥生時代の遺構(6)

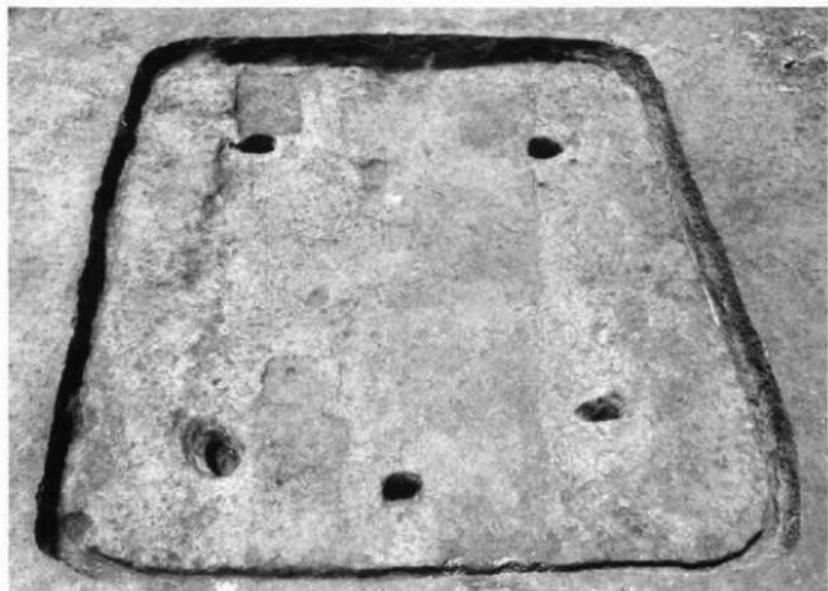


A 第6号住居址全景

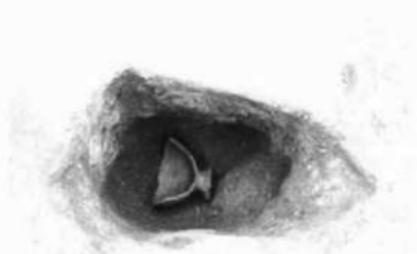


B 第6号住居址炉址土器埋設状況

図版十三 弥生時代の遺構(7)



A 第7号住居址全景

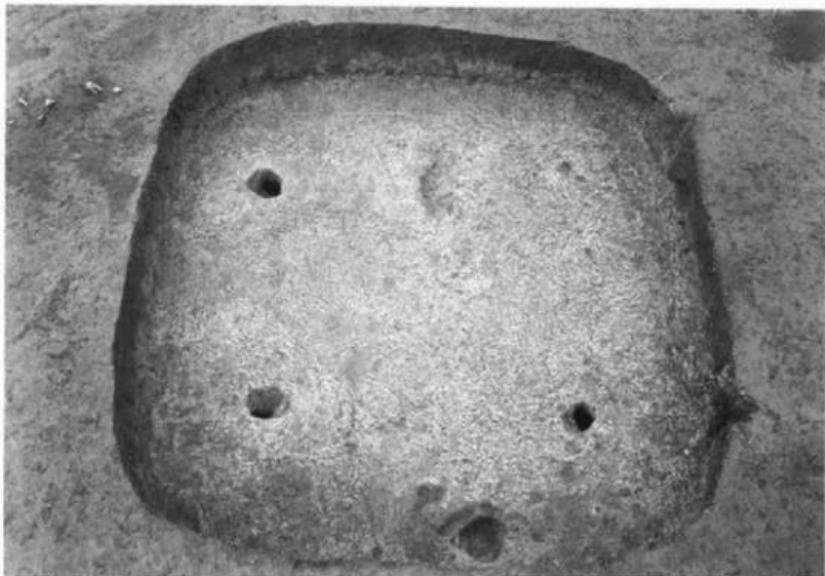


B 柱穴内遺物出土状況

図版十四
弥生時代の遺構
(8)

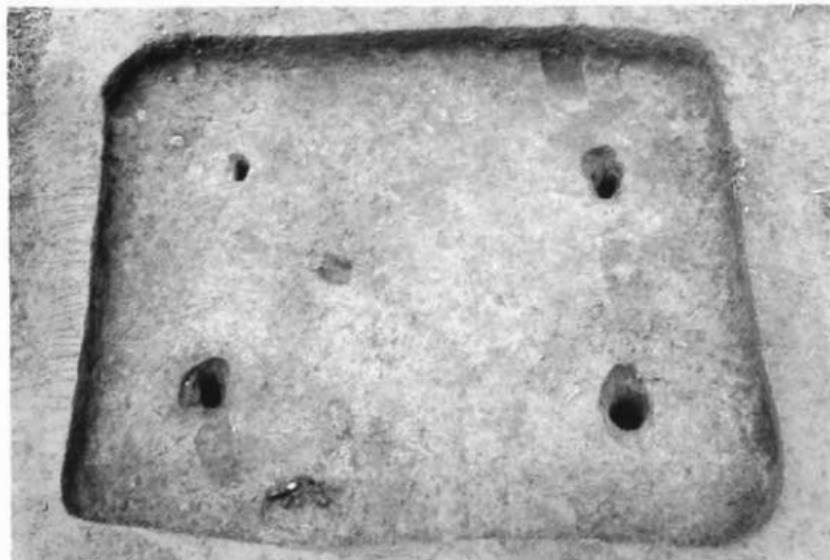


A 第8・9号住居址

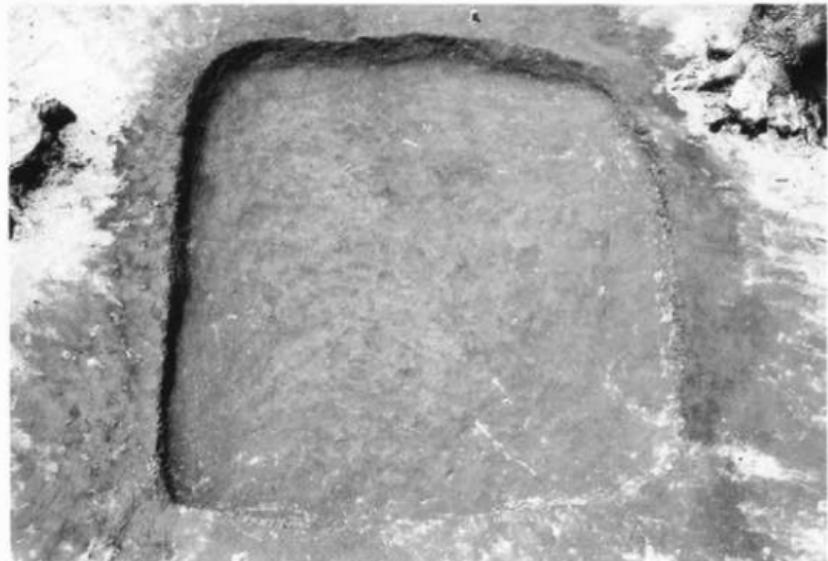


B 第8号住居址全景

図版十五 弥生時代の遺構(9)



A 第9号住居址全景

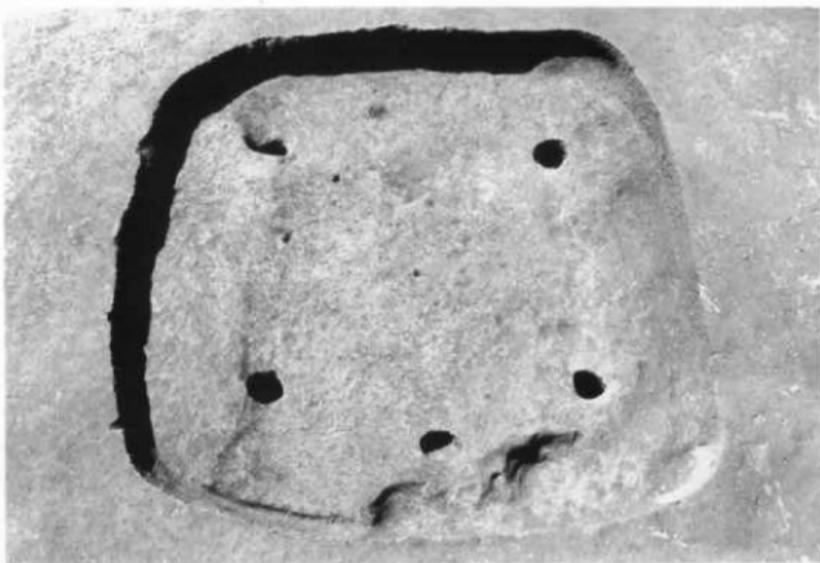


B 第10号住居址全景

図版十六
弥生時代の遺構
(10)

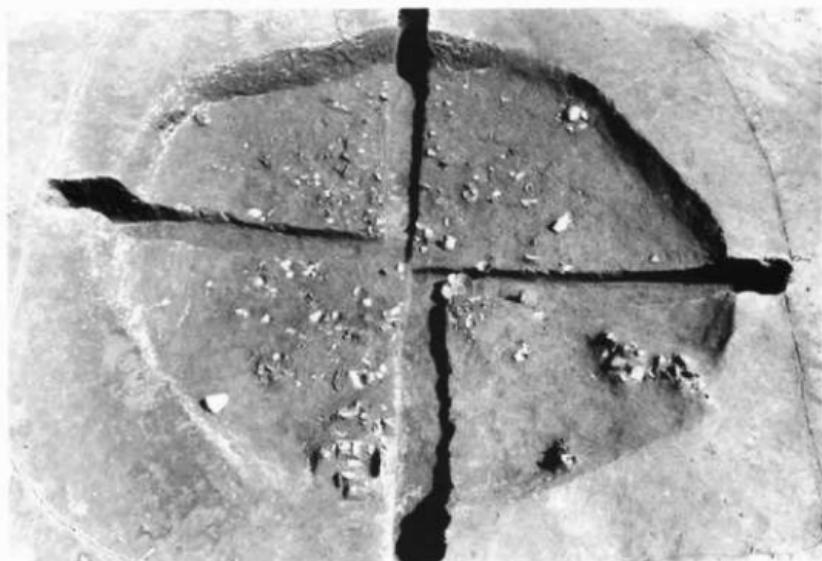


A 第11号住居址全景



B 第12号住居址全景

図版十七 弥生時代の遺構(II)



A 第12号住居址遺物出土状況

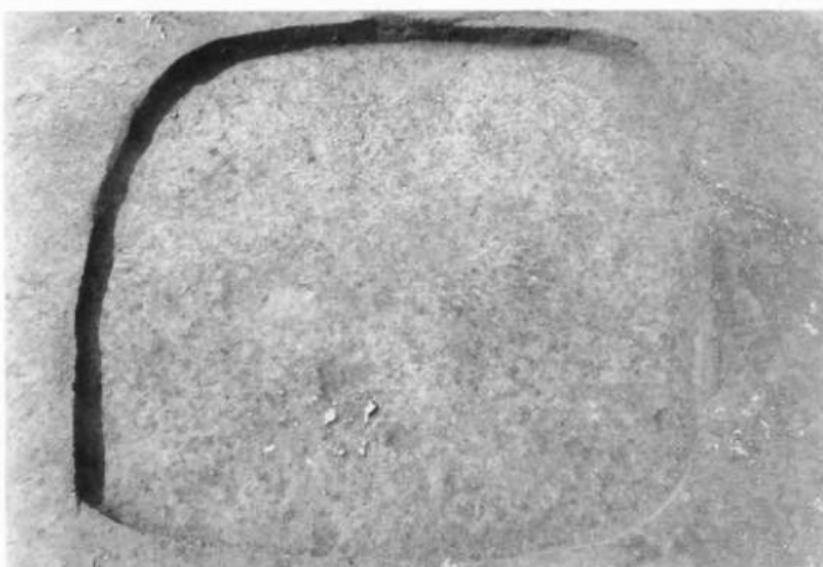


B 第12号住居址遺物出土状況

図版十八 弥生時代の遺構(12)



A 第9・13・14・16号住居址

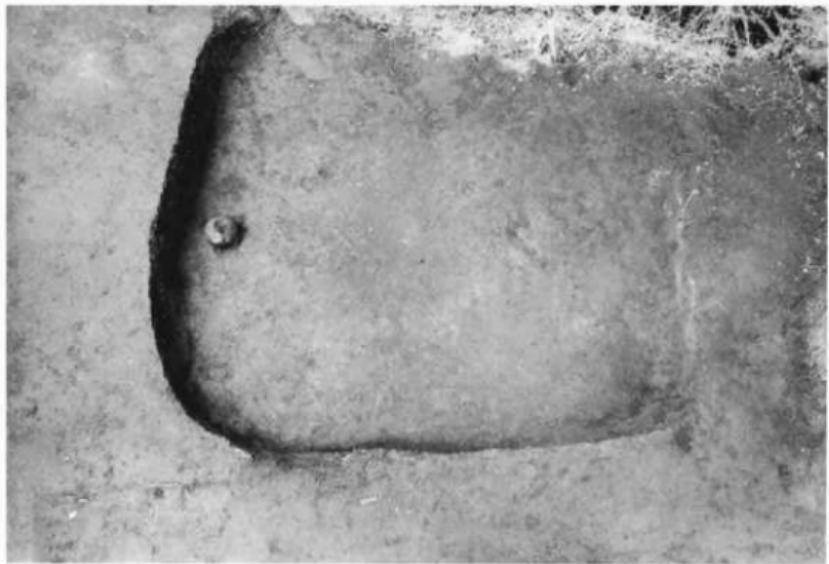


B 第13号住居址全景

図版十九 弥生時代の遺構(13)



A 第14号住居址全景

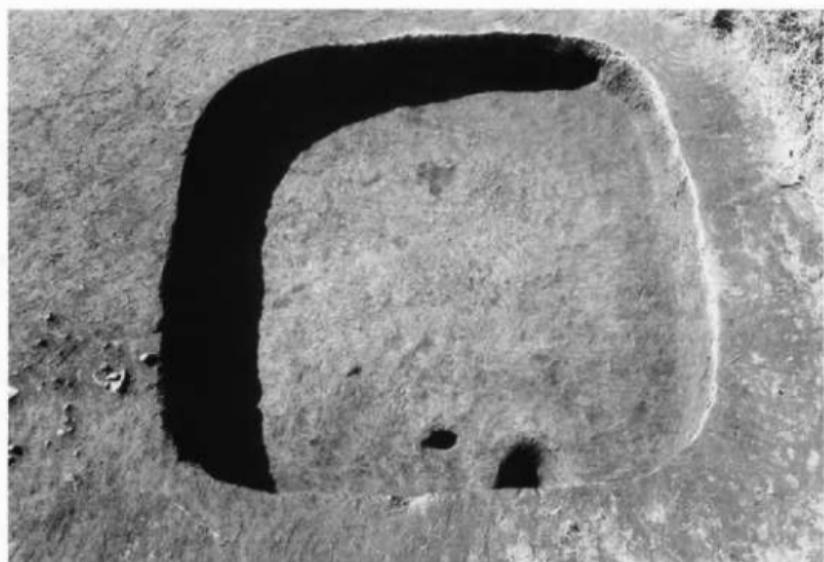


B 第15号住居址全景

図版二十 弥生時代の遺構(14)

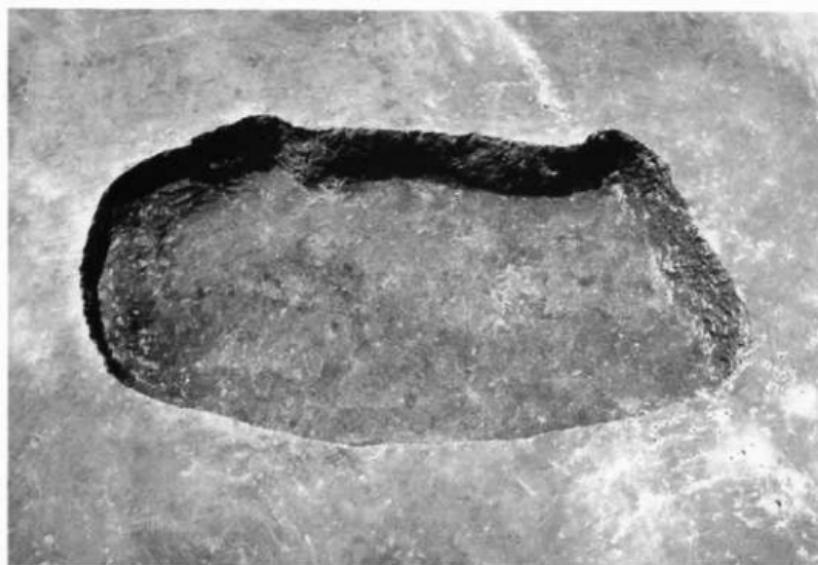


A 第15号住居址遺物出土状況

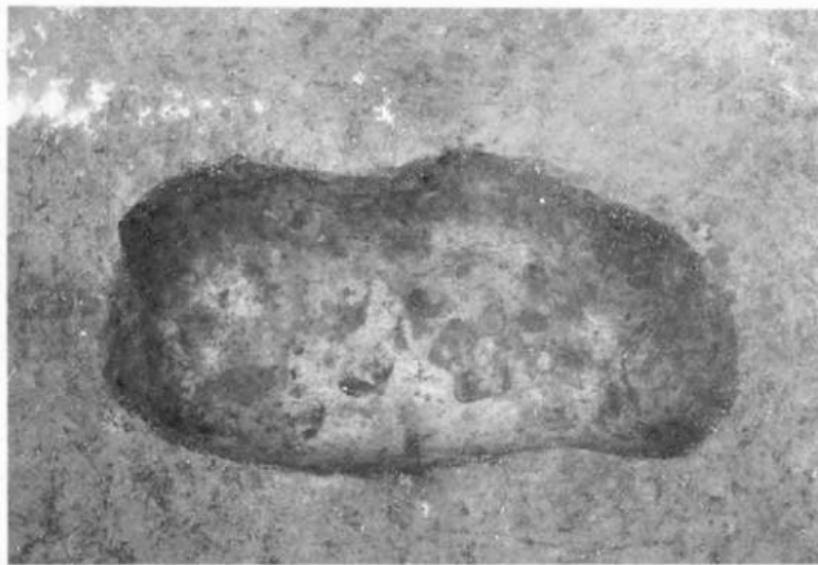


B 第16号住居址全景

図版二十一 弥生時代の遺構(15)



A 1号土塚



B 2号土塚

図版二十二 弥生時代の遺物(1)



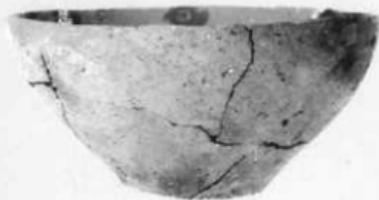
図版二十三 弥生時代の遺物(2)



4-17



4-19



4-22



5-1



5-2



5-3

図版二十四 弥生時代の遺物(3)



5-4



5-5



5-6



5-7



5-10



5-11

図版二十五 弥生時代の遺物(4)



6-8



7-1



7-2



7-5



8-3



8-9

図版二十六 弥生時代の遺物(5)



8-12

8-13

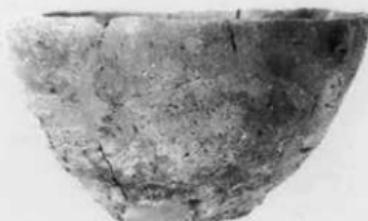


9-2

9-3



11-2



11-3

図版二十七 弥生時代の遺物(6)



12- 1



12- 2



12- 6



12- 7



12- 14



12- 15

図版二十八 弥生時代の遺物(7)



12-17



12-19



12-20



12-21



12-23



12-26

図版二十九 弥生時代の遺物(8)



12-27



12-28



12-29



12-30



15-1

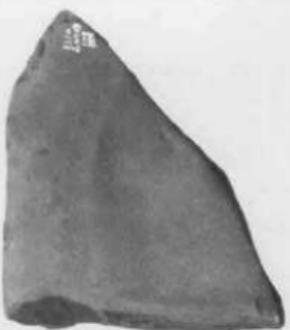


16-1

図版三十 弥生時代の遺物(9)



1-5



7-14



1-6



7-13



8-19



13-6



8-20



13-7



16-2

図版三十一 大台一号墳



A 大台1号墳全景



B 周溝断面および遺物出土状況



C 遺物出土状況

図版三十二 歴史時代の遺構(1)



A 1号火葬墓



B 1号火葬墓



A 2号火葬墓



B 3号火葬墓

図版三十四 歴史時代の遺構(3)

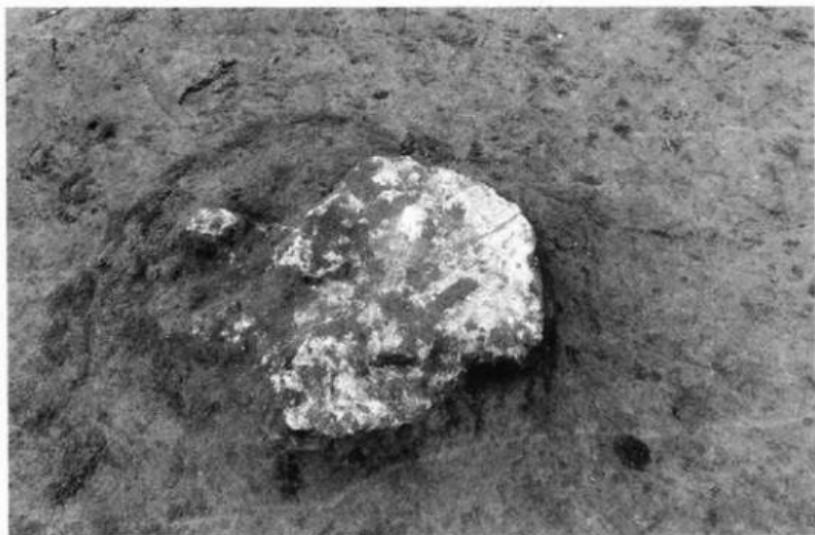


A 4号火葬墓

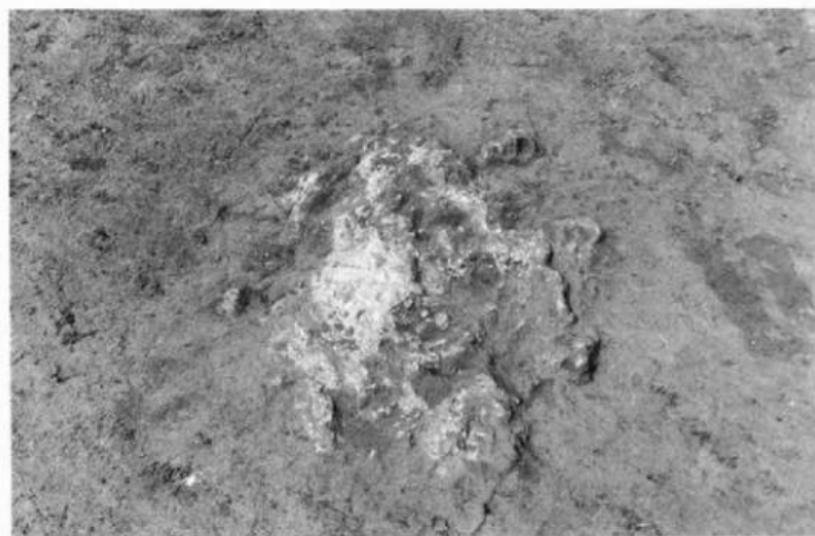


B 5号火葬墓

図版三十五 歴史時代の遺構(4)



A 7号火葬墓



B 8号火葬墓

図版三十六 歴史時代の遺物（骨蔵器）



図版三十七 町田遺跡



B 町田遺跡近景

昭和58年3月20日 印刷

昭和58年3月31日 発行

富津市岩坂大台遺跡

発行 千葉県土木部
千葉県千葉市市場町1-1

財團法人 千葉県文化財センター
千葉県千葉市亥鼻1-3-13

印刷 株式会社 ヤカ東京工場
千葉県松戸市田中新田5-5
